



第1回岡山オルガノン連携評価委員会

- 1 日 時 平成22年3月15日(月) 15:00~17:00
- 2 場 所 岡山理科大学 第9号館 3階 大会議室
- 3 参 加 者 岡山オルガノン連携評価委員会委員
- 4 議 題 案
 - (1) 委員長の選出
 - (2) 本連携取組事業について(大学教育連携センター長 木村 宏)
 - ・全体概要について
 - ・連携取組事業評価について
 - (3) 平成21年度連携取組の内容や成果について
 - ・全体共通の取組およびインフラ整備について(①②③④⑤⑥⑦⑧関係)
(大学教育連携センターコーディネーター 佐藤 大介)
 - ・学士力育成のための取組について(⑨⑩⑪⑫関係)
(岡山大学オフィスコーディネーター 遠山 和大)
 - ・社会人基礎力育成のための取組について(⑬⑭関係)
(中国学園大学オフィス代表 飯田 哲司)
 - ・地域発信力育成のための取組について(⑮⑯関係)
(岡山商科大学オフィス室長 大崎 紘一)
 - (4) 事業評価に関する意見交換
 - (5) 平成22年度連携取組の計画について(大学教育連携センター長 木村 宏)
 - (6) その他必要な事項

5 岡山オルガノン連携評価委員会委員および出席者一覧

(1) 有識者（産学官の外部委員）

所 属・職 名	氏 名	出欠	代理出席	随行者
岡山県・副知事	古矢 博通	出		企画振興部企画振興課総括参事 水田 健一
岡山県教育委員会・教育長	門野八洲雄	欠	岡山県教育庁生涯学習課課長 石田 善顕	
岡山経済同友会・代表幹事	中島 基善	欠	ナカシマプロペラ株式会社管理本部付顧問 下山 俊一	
山陽新聞社・代表取締役	越宗 孝昌	出		
立命館大学共通教育推進機構・教授	木野 茂	出		

(2) 構成大学代表者（学長等）

所 属・職 名	氏 名	出欠	代理出席	随行者
岡山大学・学長	千葉 喬三	欠	理事（教育・学生担当）・副学長 佐藤 豊信	学務部長 能勢 修
岡山県立大学・学長	三宮 信夫	出		
岡山学院大学・学長	原田 博史	出		
岡山商科大学・学長	井尻 昭夫	出		
岡山理科大学・学長	波田 善夫	出		
川崎医科大学・学長	福永 仁夫	欠	学長補佐 大槻 剛巳	
川崎医療福祉大学・学長	岡田 喜篤	欠	副学長 安藤 正人	
環太平洋大学・学長	大橋 博	出		事務局長 福住 一彦
吉備国際大学・学長	藤田 和弘	出		
倉敷芸術科学大学・学長	添田 喬	欠	副学長 川上 雅之	事務局次長 片岡 良平
くらしき作陽大学・学長	松田 英毅	出		
山陽学園大学・学長	赤木 忠厚	欠	副学長 實成 文彦	
就実大学・学長	押谷善一郎	欠	人文科学部長 櫻田 美津夫	事務部長 青木 芳文
中国学園大学・学長	松畑 熙一	出		学長補佐 飯田 哲司
ノートルダム清心女子大学・学長	高木 孝子	欠	人間生活学研究科長 加藤 正春	

平成 2 1 年度
大学改革推進等補助金
(大学改革推進事業)
調書関連資料

【資料】平成 2 1 年度大学改革推進等補助金 (大学改革推進事業) 調書

平成 21 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書

本調書は、平成 21 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

<様式>

1. 大学等名／設置者名	岡山理科大学 / 学校法人加計学園
2. プログラム名	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
3. 取組名称	「岡山オルガノン」の構築 —学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—
4. 選定年度	平成 21 年度
5. 取組代表者／ 取組担当者	（所属部局・職名・氏名） 取組代表者 学 長 波田 善夫 取組担当者 学外連携推進室 副室長 木村 宏
6. 事務担当者 主担当、副担当を必ず 2名記載して下さい。	主担当 （所属部局・職名・氏名） 学外連携推進室 次長 金子 典正 T E L 0 8 6 - 2 5 2 - 3 1 6 1（代表） 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 1（直通） F A X 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 2 E-mail renkei@office.ous.ac.jp 副担当 学外連携推進室 課長 御倉 賀恵 T E L 0 8 6 - 2 5 2 - 3 1 6 1（代表） 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 1（直通） F A X 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 2 E-mail renkei@office.ous.ac.jp
7. 選定取組の概要	<p>平成 21 年度大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで選定された『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—は、過去 3 年間の大学コンソーシアム岡山での連携を強化し、岡山県下の各大学が個別に実施している優れた取組を互いに連携することで各取組を発展・充実させ、地域活性化の担い手となる人材育成に資する総合的教育充実事業である。</p> <p>本事業の目標は、学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上であり、これらを融合させることで地域創生型の人材を育成する。具体的には、e-Learning 方式による教育共有の実現、FD・SD 活動の共同実施、学生個々のコンピテンシー向上を目指すキャリア形成教育の共同実施と教育指導者の育成、地域創生・環境教育に関わる教養教育の創出、地域経済界との連携による人材育成教育などである。全大学が特色を生かしつつ、積極的に本事業に取り組み、新たな地域貢献を実現させる。</p>
8. 補助事業の目的・必要性 (1) 全体	<p>本補助事業の全体の目的は、連携校間における（A）教養教育の充実・共同 FD・SD 活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる 3 つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることである。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけでなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたい。</p>

(2) 本年度

本補助事業の本年度の目的は、上記3つの力の育成を図るため、まずは大学連携を円滑に進めるための組織体制を整え、シンポジウム開催、専門家チーム編成、単位認定制度確立等により、関係機関に対して事業内容の周知徹底を図ることである。また本事業推進に不可欠であるインフラ整備、テレビ会議システムの試行運用、ICT活用教材作成講習会実施を繰り返し実施し、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備を行う。

9. 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（組織基盤）

- ① 10月初旬 代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ② 11月下旬 大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」の開催
- ③ 12月 「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④ 1月 平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

■インフラ整備計画

- ⑤ 9月以降 次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）
- ⑥ 10月以降 ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降に e-Learning 用パソコンの設置調整
- ⑦ 12月 ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始
- ⑧ 1月 ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

■学士力育成のための計画

- ⑨ 9月下旬 FD研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩ 10月 「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討
- ⑪ 11月 各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫ 1月下旬 共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 11月 実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭ 2月 キャリア形成講座の発展型事業の委託

■地域発信力育成のための計画

- ⑮ 10月以降 ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成
- ⑯ 2月 セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

10. 補助事業の内容（上記9. の実施計画と対応）

本補助事業は、選定された大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムにおける『岡山オルガノン』の構築— 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育— について、3つの力の育成に大学が連携して取り組むことで、地域創生型人材の育成だけでなく、高大連携や産学官民連携により地方大学の活性化と再生にもつなげられ、県内全体の総合的な高等教育の一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下の通りである。

■共通計画（組織基盤）

- ① 本取組を円滑に行うため、「大学教育連携センター」を岡山理科大学に設置し、全体を統括すると共に、ICT環境の整備、定期的な現状把握視察、ホームページ作成、広報宣伝活動を行う。また、サテライトオフィスを岡山大学（学士力担当）、中国学園大学（社会人基礎力担当）、岡山商科大学（地域発信力担当）に設置し、学生支援や事業管理等を担当し連携校の役割分担を決定し、大学連携推進を図る。各サテライトオフィスにコーディネーターを採用する。内部監査組織として基本計画の確認と具体的進行策を検討する「岡山オルガノン代表者委員会」を設置する。
- ② 学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」を開催し、本取組を広く認知してもらう。同時に、広報用パンフレットを作成し多方面への配布に取り組む。
- ③ 外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する「連携評価委員会」を組織する。そのため委員は広く県内外から有識者を選出し依頼する。
- ④ 文部科学省主催の平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び収集に努め、今後の戦略的大学連携支援に活用する。

■インフラ整備計画

- ⑤ 連携校の e-Learning 担当者会議を開催し、各大学の実施状況を把握し必要に応じて次年度以降本格導入する遠隔教育（ライブ方式・VOD方式の e-Learning）の単位認定の制度化と単位互換協定締結のための準備を進め、年内の締結を予定している。

- ⑥ 学生が自宅にしながら VOD 方式による e-Learning に取り組むためのコンテンツサーバーやそのネットワークの管理者、また各大学が導入する e-Learning 用パソコンの設置業者を決定し、年度末までに設置を終える。
- ⑦ 次年度以降のライブ方式の遠隔授業の本格運用に向けて、テレビ会議システムを各大学に導入する。多地点装置（全大学を同時に接続可能にする装置）は次年度導入予定となっているので、本年度は 5 大学単位のグループ間でのライブ方式による遠隔教育の試験的運用を繰り返し実施する。
- ⑧ 教職員に対して e-Learning 活用法や VOD 教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設ける。またコンテンツを作成するためのチーム編成、必要な機材の調達等、持続可能な体制を整備する。

■学士力育成のための計画

- ⑨ FD 研修事業として岡山大学主催の FD 活動である教育改善学生交流「i*See 2009」を共催する。連携校の教職員・学生に対してこれへの積極的参加を促し、「学生参画」による教育改善システムへの理解と展開を図る。
- ⑩ 共同 SD 活動の山陽新聞社と大学コンソーシアム岡山が共同で実施している「吉備創生カレッジ」の特別科目（SD に特化した科目）の成果を検証し、次年度以降の業務委託の準備を行う。
- ⑪ 教養教育科目を共有化するために ICT を活用した授業配信に向けて、各大学は独自の特色を出しながら教養教育科目を 1～2 科目提供のための準備に入る。本年度はそのうち全体で 2～3 科目の作成を行い、次年度の公開に備える。
- ⑫ 本取組における共同 FD・SD の活動内容についてのシンポジウムを開催、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。シンポジウムでは、各大学の取組事例を公開してもらい、連携校の現状把握を行い、改善に向けた議論を行う。また、連携校のそれぞれの担当者による会議を開催し、共同 FD 活動では学生参画型教育改善、教員同士が相互に公開授業参観・授業評価の導入、共同 SD 活動では次年度以降の SD 研修会の企画・立案にあたる。

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 地域におけるキャリア指導のプロフェッショナルを集結させたチームを組織化し、全県でキャリア形成教育体制を構築する。このキャリア指導チームの編成は産学官からの地域人材を積極的に活用・登用する。1 月には⑭に関する講座内容についての検討会議を開催する。
- ⑭ 次年度以降のキャリア形成講座に対して、⑬で組織化されたチームによる実践的体験型プログラムの強化を図り、各大学が現在取り組んでいるキャリア教育の支援を行う。

■地域発信力育成のための計画

- ⑮ 企業の経営者等を大学に講師として派遣する「ボランティアプロフェッサ科目」をライブおよび VOD 方式の遠隔授業として連携校へ提供するための準備会議を開催する。また岡山経済同友会等の県内産業界等と協力して専門的職業（例：弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士等）を持つ外部人材を活用したコーディネート科目の構築を進める。ボランティアプロフェッサ科目の次年度以降の本格運用に向けて、岡山商科大学で実施する授業の配信を試験的に行う。
- ⑯ 次年度以降の産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「七夕エコナイト」事業や地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」開催に向けた内容に関して地域発信へつなげるための戦略について検討する準備会議を開催する。

本年度は上記の諸事業を通じて、選定取組を更に充実・発展させ、本取組の目的である大学教育の基礎・原動力となる「岡山オルガノン」の構築を図ることが本補助事業の内容である。

1 1. 補助事業から得られる具体的な成果（上記 1 0. の補助事業の内容と対応）

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下の通りである。

■共通計画（組織基盤）

- ① 「大学教育連携センター」は、本取組の地域人材との交流および企画運営に優れたコーディネーターを配置することによって事業展開において中核的役割を果たしていくのに必要不可欠である。また、3 つの力それぞれを担当するサテライトオフィスは各連携校の担当者による委員会を設置し、実質的な実施方法や運営体制等の調整や検討を行う機関として重要な役割を果たす。「岡山オルガノン代表者委員会」は定期的な進捗状況の検証、全体の方針策定を行い、事業取組評価と地域貢献評価の 2 点を確実に実施するために重要な機関である。これら 3 つの組織を有機的に活用することで、本取組の事業推進の拡充を図ることができ、更には岡山県内全体の教育力向上につなげられる。
- ② 本取組の趣旨及び事業概要を広く一般（学生、地域住民、大学教職員も含む）に説明する場として活用され、連携校だけではなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。
- ③ 本取組の成果が当初の目標に適ったものであるかを客観的・継続的に評価し、必要に応じて大学教職員やコーディネーター、学生からヒアリング調査も行いながら確認作業を進め、場合によってはセンターに対して改善要求や助言指導を行うための重要な機関であり、本取組の事業内容についての継続的評価を図ることができる。
- ④ 本取組について全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、本取組の改善や課題解決に活用することができる。

■インフラ整備計画

- ⑤ e-Learning 導入に向けた準備を図るため、単位認定・単位互換制度を各大学が導入・確立し、学生が受講できる環境と制度を実現させる。

⑥ コンテンツサーバーやネットワークを適切に管理運営可能な業者の選定を行い、学習管理システムを活用した学習環境の実現を図る。また e-Learning 用パソコンの導入により、連携校全体の e-Learning 環境のレベルアップを図ることができ、より多くの学生が遠隔授業に参加できるようになる。

⑦ テレビ会議システムの導入により、ライブ型の遠隔授業による教育支援は当然のこととし、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援ツールとしての役割も果たし、これにより大学間連携の充実が図れる。そのための準備期間として本年度は試験的運用を行い、次年度以降の確実な運用につなげる。

⑧ ICT 技術を用いた教育の実施は普及率が低いため、講習会を実施することで教職員が積極的に e-Learning 活用法や VOD 教材作成法について学習・習得し、多様な教育の提供が行える。

■学士力育成のための計画

⑨ 岡山大学の先進的な FD 活動を基盤として、県内の教職員が更に学生共同参画型の FD 活動についての見識を深め、本取組が実施する共同 FD 活動への積極的参加へとつながる。学生が本取組に参画することで自ら受ける教育への意識や意欲の向上が図られる。

⑩ 別の産学官連携組織である大学コンソーシアム岡山が「吉備創生カレッジ」事業において SD 活動を試行的に実施しているので、これへ一部業務委託を行うことで、本取組が次年度以降に予定している独自のテーマに沿った SD 活動の充実化を図ることができる。

⑪ 教養教育配信科目については、内容を吟味し担当教員との密な連携が必要であり、そのために各大学が独自の提供科目を検討する必要がある。これにより、教養教育科目の非常勤講師確保が困難になっている状況にも対応できる。

⑫ 連携校における FD・SD 活動に対する気運を醸成するために担当者会議を開催する。更に次年度以降の共同 FD・SD 活動の内容について、広く大学教職員に情報提供していくためのシンポジウムであり、このシンポジウム開催により次年度以降の共同 FD・SD 活動の円滑実施を図ることができる。これは地域一体型教育の実現・強化の根幹を担うものである。

■社会人基礎力育成のための計画

⑬ 地域の実践的キャリア指導チームの組織化により、各大学で現在不足しているキャリア形成教育担当教員の確保につながると共に、学生自身の専門科目とは別にキャリアアップのための講義・演習を受講できる体制を強化できる。

⑭ キャリア形成講座を大学での実施にまで拡大し、各大学が現在取り組んでいるキャリア教育の支援を行うと共に、より多くの学生がキャリア教育を受講できる環境を整えることができる。

■地域発信力育成のための計画

⑮ 次年度以降連携校が本格的に参加するボランティアプロフェッサ科目は、就職活動前に地元経済界が求める人材像や今後の展望について直接聞くことができる科目であり、地場産業と大学との連携が深まり、地域が求める人材育成に大きく貢献できるものである。また大学コンソーシアム岡山の既存のコーディネート科目とは別に新たにコーディネート科目の追加を目指し、教育面における地域社会との連携の充実化を図り、地域で生きる学生の育成につながる。

⑯ セタエコナイトは環境教育の実践的活動であり、また地域活性化シンポジウムは地域住民との交流を行うための企画であり、それぞれの事業目的を達成するためには戦略策定が重要であり、それにより県内に在学する学生間の交流活動のきっかけとなり、それを推進することができる。

12. 補助対象経費の明細

補助事業経費の総額		補助金の金額（申請予定額）		自己収入その他の金額	
①=②+③ (千円)		② (千円)		③ (千円)	
83,525		83,525		0	
補助金額					
	経費区分	金額 (千円)	積算内訳		
補助 対 象 経 費	【全体】				
	<設備備品費>	56,535			
	<旅費>	3,540			
	<人件費>	8,560			
	<事業推進費>	14,890			
	【うち岡山理科大学】	15,133			
	<設備備品費>	3,029	テレビ会議システム一式	2,029千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
			テレビ会議システム一式1台 (PCS-XG80)	1,351千円	
			HD データソリューションソフトウェア	200千円	
			据付料 (設置工事費)	450千円	
			接続回線導入費	28千円	
			コンテンツ作成用撮影編集機材一式	1,000千円	【⑦⑪⑮関係】
	<旅費>	2,140	国内旅費	2,140千円	
			外部会議出席旅費 (3人×10回)	1,500千円	【①関係】
			実地調査・視察旅費 (3人×14回)	420千円	【①関係】
			大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費 (2人)	120千円	【④関係】
			シンポジウム講師旅費 (1人×1回)	50千円	【②関係】
			講習会講師旅費 (1人×1回)	50千円	【⑧関係】
	<人件費>	2,682	謝金	534千円	
			資料整理作業補助 (10人×45時間)	324千円	【①関係】
			(9月～3月: 720円/1h)		
			外部講師謝金 (1人×2回)	110千円	【②⑧関係】
			外部委員出席謝金 (5名×1回)	100千円	【③関係】
		雇用等経費	2,148千円		
		コーディネーター (300千円×7か月×1人)	2,100千円	【①関係】	
		連携事業推進補助 (30回×2時間×1人)	48千円	【⑦⑮関係】	
		(12月～3月: 800円/1h)			
<事業推進費>	7,282	消耗品費	700千円		
		文房具等一式	500千円	【①関係】	
		連携事業推進等消耗品費	200千円	【①②関係】	
		借料・損料	370千円		
		センター用パソコン借料 (2台)	100千円	【①関係】	
		センター用プリンタ借料 (2台)	70千円	【①関係】	
		センター用コピー機借料	50千円	【①関係】	
		連携事業会場借料 (1回)	150千円	【②関係】	
		印刷製本費	980千円		
		シンポジウム用ちらし・資料 (200円×2000部)	400千円	【②関係】	
		連携校内広報用ポスター (100円×800枚)	80千円	【①②関係】	
		連携校内広報用リーフレット (200円×2500部)	500千円	【①②関係】	
		通信運搬費	980千円		

		資料等郵送料	840 千円	【①②③関係】
		電話料（7ヶ月）	140 千円	【①関係】
		雑役務費	2,280 千円	
		事務補佐派遣料（240 千円×7 か月×1 人）	1,680 千円	【①関係】
		ホームページ作成	600 千円	【①②⑨⑫関係】
		会議費	22 千円	
		外部講師等弁当代	15 千円	【②関係】
		会議用ペットボトル	7 千円	【③関係】
		委託費	1,950 千円	
		遠隔教育用コンテンツ作成	1,000 千円	【⑦⑪⑮関係】
		サーバー保守管理料	950 千円	【⑥関係】
【うち岡山大学】	9, 3 6 3			
<設備備品費>	4, 0 2 9	テレビ会議システム一式	1,829 千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
		テレビ会議システム一式 1 台（PCS-XG80）	1,351 千円	
		据付料（設置工事費）	450 千円	
		接続回線導入費	28 千円	
		e-Learning 用パソコン一式（110 千円×20 台）	2,200 千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
<旅費>	6 0 0	国内旅費	600 千円	
		外部講師旅費（5 人）	200 千円	【⑨⑪関係】
		実地調査・視察旅費（2 人×14 回）	280 千円	【①関係】
		大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費（2 人）	120 千円	【④関係】
<人件費>	3, 4 6 6	謝金	316 千円	
		資料整理作業補助（10 人×30 時間）	216 千円	【①関係】
		（9 月～3 月：720 円/1h）		
		外部講師謝金（5 人）	100 千円	【⑨⑫関係】
		雇用等経費	3,150 千円	
		コーディネーター（300 千円×7 か月×1 人）	2,100 千円	【①関係】
		事務補佐員（150 千円×7 か月×1 人）	1,050 千円	【①関係】
<事業推進費>	1, 2 6 8	消耗品費	580 千円	
		文房具等一式	300 千円	【①関係】
		連携事業推進等消耗品費	200 千円	【①⑫関係】
		FD 研修事業推進消耗品費	80 千円	【⑨関係】
		借料・損料	220 千円	
		サテライト用パソコン借料（2 台）	100 千円	【①関係】
		サテライト用プリンタ借料（2 台）	70 千円	【①関係】
		サテライト用コピー機借料	50 千円	【①関係】
		印刷製本費	200 千円	
		シンポジウム用ちらし・資料（200 円×1000 部）	200 千円	【⑫関係】
		通信運搬費	238 千円	
		資料等郵送料	168 千円	【①⑨⑪⑫関係】
		電話料（7ヶ月）	70 千円	【①関係】
		会議費	30 千円	
		外部講師等弁当代	15 千円	【⑫関係】

		会議用ペットボトル	15千円	【⑨関係】
【うち岡山県立大学】	7, 3 2 9			
<設備備品費>	7, 3 2 9	テレビ会議システム一式	1,829千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
		テレビ会議システム一式1台(PCS-XG80)	1,351千円	
		据付料(設置工事費)	450千円	
		接続回線導入費	28千円	
		e-Learning用パソコン一式(110千円×50台)	5,500千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
【うち岡山学院大学】	1, 8 2 9			
<設備備品費>	1, 8 2 9	テレビ会議システム一式	1,829千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
		テレビ会議システム一式1台(PCS-XG80)	1,351千円	
		据付料(設置工事費)	450千円	
		接続回線導入費	28千円	
【うち岡山商科大学】	9, 0 0 4			
<設備備品費>	4, 2 2 9	テレビ会議システム一式	2,029千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
		テレビ会議システム一式1台(PCS-XG80)	1,351千円	
		HDデータソリューションソフトウェア	200千円	
		据付料(設置工事費)	450千円	
		接続回線導入費	28千円	
		e-Learning用パソコン一式(110千円×20台)	2,200千円	【⑥⑦⑪⑮関係】
<旅費>	4 0 0	国内旅費	400千円	
		実地調査・視察旅費(2人×14回)	280千円	【①関係】
		大学教育改革GP合同フォーラム参加旅費(2人)	120千円	【④関係】
<人件費>	2 6 4	謝金	216千円	
		資料整理作業補助(10人×30時間)	216千円	【①関係】
		(9月～3月:720円/1h)		
		雇用等経費	48千円	
		連携事業推進補助(30回×2時間×1人)	48千円	【⑦⑮関係】
		(12月～3月:800円/1h)		
<事業推進費>	4, 1 1 1	消耗品費	500千円	
		文房具等一式	300千円	【①関係】
		連携事業推進等消耗品費	200千円	【①⑮⑯関係】
		借料・損料	220千円	
		サテライト用パソコン借料(2台)	100千円	【①関係】
		サテライト用プリンタ借料(2台)	70千円	【①関係】
		サテライト用コピー機借料	50千円	【①関係】
		通信運搬費	238千円	
		資料等郵送料	168千円	【①⑮⑯関係】
		電話料(7ヶ月)	70千円	【①関係】
		雑役務費	3,150千円	
		コーディネーター派遣料(300千円×7か月×1人)	2,100千円	【①関係】
		事務補佐員派遣料(150千円×7か月×1人)	1,050千円	【①関係】
		会議費	3千円	
		会議用ペットボトル	3千円	【⑮関係】

【うち川崎医科大学】 ＜設備備品費＞	1, 8 2 9 1, 8 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
【うち川崎医療福祉大学】 ＜設備備品費＞	2, 0 7 7 2, 0 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) HD データソリューションソフトウェア 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	2,029 千円 1,351 千円 200 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
＜人件費＞	4 8	雇用等経費 連携事業推進補助 (30 回×2 時間×1 人) (12 月～3 月 : 800 円/1h)	48 千円 48 千円	【⑦⑮関係】
【うち環太平洋大学】 ＜設備備品費＞	7, 3 2 9 7, 3 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費 e-Learning 用パソコン一式 (110 千円×50 台)	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円 5,500 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】 【⑥⑦⑩⑮関係】
【うち吉備国際大学】 ＜設備備品費＞	1, 8 2 9 1, 8 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
【うち倉敷芸術科学大学】 ＜設備備品費＞	1, 8 2 9 1, 8 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
【うちくらしき作陽大学】 ＜設備備品費＞	1, 8 2 9 1, 8 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
【うち山陽学園大学】 ＜設備備品費＞	1, 8 2 9 1, 8 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
【うち就実大学】 ＜設備備品費＞	7, 3 2 9 7, 3 2 9	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式 1 台 (PCS-XG80) 据付料 (設置工事費) 接続回線導入費	1,829 千円 1,351 千円 450 千円 28 千円	【⑥⑦⑩⑮関係】

【うち中国学園大学】 ＜設備備品費＞	10,958	e-Learning用パソコン一式（110千円×50台）	5,500千円	【⑥⑦⑩⑮関係】		
	6,229	テレビ会議システム一式 テレビ会議システム一式1台（PCS-XG80） 据付料（設置工事費） 接続回線導入費	1,829千円 1,351千円 450千円 28千円	【⑥⑦⑩⑮関係】		
＜旅費＞	400	e-Learning用パソコン一式（110千円×40台）	4,400千円	【⑥⑦⑩⑮関係】		
		国内旅費 実地調査・視察旅費（2人×14回） 大学教育改革GP合同フォーラム参加旅費（2人）	400千円 280千円 120千円	【①関係】 【④関係】		
＜人件費＞	2,100	雇用等経費 コーディネーター（300千円×7か月×1人）	2,100千円 2,100千円	【①関係】		
＜事業推進費＞	2,229	消耗品費 文房具等一式 連携事業推進等消耗品費 実践的キャリア指導カリキュラム開発消耗品費	1,100千円 300千円 200千円 600千円	【①関係】 【①⑬関係】 【⑬⑭関係】		
		借料・損料 サテライト用コピー機借料	50千円 50千円	【①関係】		
		通信運搬費 資料等郵送料 電話料（7ヶ月）	238千円 168千円 70千円	【①⑬⑭関係】 【①関係】		
		雑役務費 事務補佐員派遣料	836千円 836千円	【①関係】		
		会議費 会議用ペットボトル	5千円 5千円	【⑬関係】		
		【うちノートルダム清心女子大学】 ＜設備備品費＞	4,029	テレビ会議システム一式	1,829千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
			4,029	テレビ会議システム一式1台（PCS-XG80） 据付料（設置工事費） 接続回線導入費	1,351千円 450千円 28千円	
				e-Learning用パソコン一式（110千円×20台）	2,200千円	【⑥⑦⑩⑮関係】
		合計	83,525			
		各年度の補助事業経費（①）の合計額				
年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	合計		
予定額（千円）	83,525	81,974	77,013	242,512		

13. 設備備品費補足表

品名	数量	金額	納入予定時期	目的・使途・利用頻度
テレビ会議システム	15 台	28,035 千円	平成 21 年 10 月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業、教職員や学生同士のコミュニケーションツールとして活用するものである。本年度は試行運用を繰り返し実施し、次年度以降の遠隔教育の本格的実施に向けた準備を行う。また本備品は 5 大学までの同時接続が可能のため、本年度は 5 大学単位での試験運用となる。全連携校を接続する装置は次年度導入予定である。本事業で配信する科目は、質疑や討論の声が鮮明に聞こえ、かつホワイトボード等の板書が鮮明に見える事が重要で、音声・映像の乱れや劣化が少ない仕様が必要である。この条件を満たすには昨年度から販売されたデジタルハイビジョン（HD）対応のシステムが必要であり、連携校に代替できる設備備品はない。なお、3 大学のみ PowerPoint® ファイルを配信するために必要な HD データソリューションソフトウェアを導入し、試験配信を実施する。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
コンテンツ作成用 撮影編集機材	一式	1,000 千円	平成 21 年 10 月	本設備備品は、選定事業における連携校間の VOD 方式の e-Learning による遠隔授業のためのコンテンツ作成のための機材である。本年度は次年度本格導入される 3 科目（各科目半期 15 時間分）程度の授業配信に向けた準備を行い、そのための機材調整や撮影編集等を行う。本備品のカメラやライト等の撮影機材は配信科目を作成する際に、該当する大学で一定期間撮影を行い、その後計画にあわせて他大学に持ち運び撮影する必要がある。この機材は連携校間を移動して共同で使用するため代替できる設備はない。また、撮影した教材ファイルは編集用ソフトを備えた機材により計画的に代表校が行うが、代表校には代替品はない。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
e-Learning 用 パソコン一式	250 台	27,500 千円	平成 22 年 2 月	本設備備品は、選定事業における VOD 方式の e-Learning による遠隔授業を実施するために学生の学習環境を強化・支援するものである。本年度は各大学の実態に応じてパソコンの設置調整を行い、次年度以降の VOD 方式の e-Learning 授業を学生が受講できる体制を整える。15 大学中 8 大学は各大学の既存分を利用する。その他の大学は、各大学の機器数や通常の授業での利用から、代替品がなく本事業の受講想定数に対応するため購入する予定である。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。

14. 大学改革推進等補助金の配分状況

(単位：千円)

	申請額	補助金額		自己負担額
			うち共通分	
岡山理科大学	15,133	15,133	5,012	0
岡山大学	9,363	9,363	610	0
岡山県立大学	7,329	7,329	0	0
岡山学院大学	1,829	1,829	0	0
岡山商科大学	9,004	9,004	0	0
川崎医科大学	1,829	1,829	0	0
川崎医療福祉大学	2,077	2,077	0	0
環太平洋大学	7,329	7,329	0	0
吉備国際大学	1,829	1,829	0	0
倉敷芸術科学大学	1,829	1,829	0	0
くらしき作陽大学	1,829	1,829	0	0
山陽学園大学	1,829	1,829	0	0
就実大学	7,329	7,329	0	0
中国学園大学	10,958	10,958	0	0
ノートルダム清心女子大学	4,029	4,029	0	0
計	83,525	83,525	5,622	0

15. 参考資料

【補助事業2年目：平成22年度】

■共通計画

- ① 5月&11月 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ② 10月 中間報告書の作成
- ③ 11月上旬 大学連携シンポジウムの開催
- ④ 1月 平成22年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加
- ⑤ 3月 「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

■インフラ整備計画

- ⑥ 4月 VOD方式によるe-Learningシステムの運用開始、9月以降にライブ方式によるe-Learningシステムの運用開始（連携校のうち数校）
- ⑦ 5月 多地点接続装置の設置調整
- ⑧ 7月以降 追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬にICT活用教材作成講習会の実施
- ⑨ 10月以降 岡山情報ハイウェイへの接続

■学士力育成のための計画

- ⑩ 4月 「岡山学」を教養教育科目としての提供準備（後期配信開始予定）、単位互換制度を活用した配信科目の提供開始、教養教育検討委員会の開催（次年度配信科目等検討のため）
- ⑪ 8月 「吉備創生カレッジ」と共同SD活動の実施
- ⑫ 9月下旬 FD研修事業「i*See 2010」の共催
- ⑬ 1月下旬 共同FD・SDシンポジウムの開催、4月以降に共同FD・SD担当者会議の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑭ 4月 実践的キャリア形成講座の開始
- ⑮ 8月 大学コンソーシアム岡山と連携した学生参加による社会活動の展開
- ⑯ 9月上旬 「実践的キャリア指導」に関する共同SDワークショップの開催

■地域発信力育成のための計画

- ⑰ 9月 ボランティアプロフェッサー科目の配信開始
- ⑱ 7月 セタエコナイトの開催
- ⑲ 10月 地域活性化シンポジウムの開催

【補助事業3年目：平成23年度】

■共通計画

- ① 5月&11月 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ② 10月 中間報告書の作成
- ③ 11月下旬 大学連携シンポジウムの開催
- ④ 1月 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加
- ⑤ 3月 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成
- ⑥ 3月 「岡山オルガノン事業報告会」（仮称）の開催

■インフラ整備計画

- ⑦ 4月 テレビ会議システムのためのHD出力装置の設置完了
- ⑧ 4月 e-Learningシステム（VOD方式、ライブ方式）の運用開始（連携校すべて）
- ⑨ 7月以降 追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬にICT活用教材作成講習会の実施

■学士力育成のための計画

- ⑩ 4月 全連携校の教養教育科目の配信（「岡山学」を含む）、教養教育検討委員会の開催（前年度までの配信科目内容の検討および次年度の単位互換配信科目の検討のため）
- ⑪ 8月 「吉備創生カレッジ」と共同SD活動の実施
- ⑫ 9月下旬 FD研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑬ 1月下旬 共同FD・SD実施報告会の開催、4月以降に共同FD・SD担当者会議の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑭ 4月 実践的キャリア形成講座の開始、8月に修了生による同期会組織（SNS活用）の立ち上げ
- ⑮ 4月 実践的キャリア指導チームによる連携校のキャリア支援の実施
- ⑯ 8月 学生主体での地域活動・交流事業の推進

■地域発信力育成のための計画

- ⑰ 4月 ボランティアプロフェッサー科目およびコーディネート科目の継続的配信
- ⑱ 7月 セタエコナイトの開催
- ⑲ 10月 地域活性化シンポジウムの開催

平成21年度
大学改革推進等補助金
(大学改革推進事業)
実績報告関連資料

【資料1】平成21年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)実績報告書
(様式9)

【資料2】平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助事業の実績

■共通計画（組織基盤）

①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置

平成21年9月に岡山理科大学（代表校）に「大学教育連携センター」を、岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学にそれぞれサテライトオフィスを設置した。センターおよび各オフィスには各取組推進のためのコーディネーターおよび事務補佐員を配置し、連携校との連絡調整・事業統括の中核を担うと共に、コーディネーター会議を定期的に開催（平成21年11月～平成22年3月に5回）し、事業全体の進捗状況の把握や情報・意見交換を行った。またセンターおよび各オフィスでは先進的な取組事例の調査（ライブ型遠隔授業および大学連携運営に関する内容）として、立命館大学（平成22年1月27日）、国公私立大学コンソーシアム・福岡（平成22年2月1日）、大学コンソーシアム石川（平成22年3月19日）、長岡技術科学大学（平成22年3月24日）への視察訪問を実施した。また全連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される「岡山オルガノン代表者委員会」を平成21年12月に設置し、平成22年1月22日と平成22年2月25日に委員会を開催し、今後の事業展開や事業経費等についての審議を行った。

②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」の開催

学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、平成21年11月29日に岡山県総合福祉会館において、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」を開催した。連携校だけではなく県内外様々な大学や地域から166名（学生14名、一般15名、教員74名、職員63名）の方が参加した。内容は連携取組の概要説明、連携校の優れた取組として岡山理科大学（e-Learning）・岡山大学（学生参画型授業改善）・岡山商科大学（ボランティアプロフェッサ科目）・中国学園大学（キャリア形成教育）の代表者がそれぞれ事例紹介、また立命館大学共通教育推進機構教授 木野 茂氏による「学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD」というテーマでの特別講演を行っていただいた。またパンフレットの作成が本シンポジウム開催までに完了しなかったが、平成22年3月に完成し、連携校全教職員および本取組事業関係機関・関係団体のほか、全国の大学コンソーシアム団体や戦略的連携GP選定大学等に配布をした。

③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成

産学官の有識者および連携校学長で組織される「連携評価委員会」の委員委嘱状を平成22年1月に送付し承諾してもらった。産学官の有識者の委嘱に当たっては、関係団体である岡山県・岡山県教育委員会・岡山経済同友会・山陽新聞社の代表者を選出し、また本取組事業に対する理解と専門的知識を持つ方をそれぞれ選出した。平成22年3月15日に「連携評価委員会」を岡山理科大学にて開催し、事業取組評価と地域貢献評価の2つの観点で評価をしてもらい、評価報告書を作成した。

④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

平成22年1月7日～8日に東京ビッグサイトで開催された「平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」に連携校の教職員が参加し、全国の多様な先進的取り組みについて情報収集をすることができた。また、情報交換室に本取組の資料を両日とも持参・設置し広く情報を発信することができた。

■インフラ整備計画

⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）

平成21年9月29日にネットワーク担当者会議を開催し、連携校に対する遠隔授業における単位認定制度の確立に向けて検討した。平成22年1月19日開催の「学士課程教育連携委員会」（⑩関係）において、各大学の単位認定制度の整備状況についての確認および連携校間の単位互換制度についての検討を行った。検討の結果、単位互換制度については、大学コンソーシアム岡山で既に締結している「参加大学相互間の単位互換に関する協定書」を活用することとした。そのため、平成22年3月に大学コンソーシアム岡山の協定書の利用同意書を作成し、連携校の同意を得た。

⑥ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降に e-Learning 用パソコンの設置調整

平成21年10月よりライブ型遠隔授業の安定供給を目的に帯域を確保するためIP-VPN環境（フレッツ・グループ）の整備を行った。また、VOD型e-Learningの構築に向けて、授業用コンテンツやシンポジウム等の配信用サーバーおよび学習管理システム（Momotaro）の設置調整を平成21年12月より行い、インフラ手配・システム構築・試験運用を平成22年3月に完了した。また、学生の学習環境の強化・支援のためのe-Learning用パソコンについては大学教育連携センタ

一で設定した仕様にに基づき大学ごとに競争入札を行い購入し、設置調整は平成 22 年 3 月に完了した。

⑦ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1 月以降に試行運用の開始

HD ビデオ会議システム (PCS-XG80) の導入に向けて、平成 21 年 10 月に大学教育連携センターで要求仕様書を作成し競争入札を実施した。その後 HD ビデオ会議システムは大学ごとに契約を取り交わし、購入および設置を平成 22 年 1 月までに完了した。平成 22 年 1 月 14 日に試験通信・音響調整を行い、平成 22 年 1 月 18 日に業者立ち会いのもと岡山商科大学より「経営学特殊講義Ⅱ」を連携校 (岡山県立大学、岡山学院大学、岡山理科大学、就実大学) に試験配信を実施した (⑮関係)。その後も平成 22 年 2 月 10 日・17 日・18 日に音響調整を含めた試験通信を連携校間で行った。その際、ビデオアノテーション用タブレット (MTE-450/K0) や HD データソリューションソフトウェア (PCSA-DSG80) の試用や、HD 多地点接続用ソフトウェア (PCSA-MCG80) を用いてカスケード接続の試験も実施した。平成 22 年 3 月 4 日・23 日の各種運営委員会でも HD ビデオ会議システムを活用しての会議を開催した。

⑧ICT 活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

平成 22 年 3 月にコンテンツ作成用撮影編集機材一式 (パソコン、ビデオカメラ、マイク等) を購入した。平成 22 年 1 月 13 日に e-Learning 運営委員会 (岡山理科大学教職員のみ) を開催し、次年度配信用コンテンツとして加計教育コンソーシアムで現在使用しているコンテンツを借用する形で次年度は実施することを決定した。また、平成 22 年 3 月 25 日に ICT 活用教材作成講習会を連携校教職員が出席する e-Learning 運営委員会内で実施し、学習管理システム Momotaro のシステムや機能、また加計教育コンソーシアムでの VOD 型 e-Learning の実際の運用手法についての講習会を行った。次年度配信用コンテンツについては、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン! 岡山オルガノン」(②関係) と第 1 回岡山オルガノン FD・SD シンポジウム (⑫関係) でそれぞれシンポジウムの内容を VOD コンテンツとして撮影・編集した。

■学士力育成のための計画

⑨FD 研修事業「i*See 2009」の共催

本取組と「学生・教職員教育改善委員会」(岡山大学) が連携して学生参画型 FD 研修事業「i*See 2009」を開催した。今回の研修事業は、「大学を変える 2 つのスパイス」をメインテーマとし平成 21 年 9 月 22 日・23 日の 2 日間にわたり、学生が日頃抱いている思いを川柳で表現する学生交流グループワーク、大分大学・札幌大学・立命館大学・岡山大学の学生による事例取組例の発表とその内容を踏まえた意見交換で構成された「学生主体の教育改善活動」をテーマとしたシンポジウム、立教大学・同志社大学の職員による「職員が参加する教育改善活動について」の講演、そして学生および教職員が混在する小グループに分かれて「職員による教育改善活動」に関するディスカッションを実施した。FD 研修事業には 34 大学から 94 名の参加があった。

⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同 SD 活動事業の委託内容の検討

共同 SD 活動として、山陽新聞社と大学コンソーシアム岡山が共同で実施している「吉備創生カレッジ」の特別科目「現代の労働問題」(SD に特化した科目) の成果を検証し、次年度以降の業務委託を行った。具体的には、本取組以前から試行的に実施されていた SD 科目を検証し、次年度の取組として SD 研修講座を本格実施するため、吉備創生カレッジへ提供することとした。内容は、メンタルヘルスを主とした内容で、主対象は大学職員であり、岡山大学保健管理センター教員を講師に招き講義とワークショップの形式とした。

⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12 月に教養教育配信科目の検討・協議・決定

教養教育配信科目の検討及び候補の決定に向けて、平成 22 年 1 月 19 日開催の「学士課程教育連携委員会」(⑤関係) において、岡山オルガノンの授業開講科目は大学コンソーシアム岡山で実践されているものとは異なる授業形態 (テレビ会議システムを活用したライブ型遠隔授業、VOD 型 e-Learning) である点を確認した。また各大学で受講上の技術的・事務的検討作業を行った。この点をふまえて配信科目の具体的検討を行い、次年度には「経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」(岡山商科大学) (⑮関係)、「倉敷まちづくり基礎論・実践論」(倉敷芸術科学大学)、「基礎環境医学」(川崎医科大学) の 5 つの教養教育科目の配信を決定した。

⑫共同 FD・SD シンポジウムの開催、11 月頃より共同 FD・SD 担当者会議の開催

平成 22 年 3 月 14 日に岡山県生涯学習センターにおいて「第 1 回岡山オルガノン FD・SD シンポジウム」を開催した。シンポジウムでは、まず基調講演として授業評価アンケート研究の第一人者である立命館大学教育開発推進機構教授 安岡 高志 氏に「授業評価の性質と今後の活用」というテーマで、本シンポジウム全体における論点と問題提起をいただいた。その後、連携校より授業評価アンケートに関する取組事例を公開してもらい、連携校の現状を把握し、改善に向けた幅広い議論を行った。さらに次年度以降の共同 FD・SD 活動の内容について、広く大学教職員に情報提供していき、共同 FD・SD 活動の円滑実施を図ることができるようにした。またクリッカーを利用しその場で参加者の意見を反映さ

せて議論等を進めていった。本シンポジウムの成果に基づき、次年度以降の共同 FD・SD 活動について検討する「共同 FD・SD 委員会」を連携校教職員で組織し、平成 22 年 3 月 30 日に当委員会を開催した。

■社会人基礎力育成のための計画

⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1 月に実践的キャリア指導チーム会議の開催

平成 21 年 9 月より実施可能な講義パターンを定め、「講座プログラム」及び「カリキュラム案」を作成した。このプランを基に、産学官から経験豊かな講師候補者をあたり企画の主旨説明から具体的な打ち合わせまでを実施した。平成 22 年 3 月末時点で、中小企業診断士および社会保険労務士等の資格を有する 4 名で第一次チームを形成した。チームで月に 2 回集合勉強会を実施した。また、プログラムのテスト実践として、企業 5 社・大学関係 3 箇所・高校 4 校で講義を行い、受講者の反応からプログラム内容の検証も行った。それら講義には他のメンバーがオブザーブ参加し、チームとしての結束を固めることができた。また各自が自主的に多方面のセミナーに参加し、専門分野・領域の深化・拡大にも努めた。

⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

大学コンソーシアム岡山中で 3 年間実施した「実践マナー&ビジネスマインド講座」を総括し、学生のアンケートを基に新たなコンテンツの構築と発展系プランを作成した。学生へのヒアリングもを行い、要望を踏まえて半日・一日・短期集中等の各パターンで実施可能なプログラム案を作成した。複数の講義案の中から、予算と優先順位を考え、実施可能な講座の絞り込みを行った。この事業は、大学コンソーシアム岡山中でのキャリア形成講座の指導実績や学生に対する周知も図られていることから、大学コンソーシアム岡山への委託の形態をとり、次年度早々に実施できるよう事業委託契約書を作成した。

■地域発信力育成のための計画

⑮ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1 月以降に配信コンテンツの作成

ライブ形式での遠隔授業を連携校に配信するため「双方向コンテンツ委員会」を連携校教職員で組織し、平成 21 年 12 月 8 日に当委員会を開催した。各大学からライブ形式で授業配信可能な科目の提供を依頼するとともに、岡山商科大学からボランティアプロフェッサ科目（⑩関係）をライブ型遠隔授業として配信することについて説明した。またボランティアプロフェッサ科目を実際に受講体験してもらうため、平成 22 年 1 月 18 日にテレビ会議システムを使用し、岡山経済同友会からの外部講師によるボランティアプロフェッサ科目「経営学特殊講義Ⅱ」を講師了解のもと、ライブ形式により連携校に試験配信した（⑦関係）。双方向ライブ講義の具体的な実施内容についての検討のため、平成 22 年 3 月 4 日に「双方向コンテンツ委員会」を開催した。コーディネート科目については、スポーツ健康科学関係の科目を業者とともに検討に入ったが、単位認定が困難であり、次年度は実施しないこととした。

⑯セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議を開催するため、エコナイト関連資料の収集を行い、また連携校各大学から「地域に関する研究」を行っている担当者を委員として募り、「地域活性化委員会」を組織した。平成 22 年 3 月 23 日に「地域活性化委員会」を開催し、次年度開催の地域活性化シンポジウムおよびエコナイト（平成 22 年 7 月 7 日予定）の開催に向けた検討を行い、双方向ライブ型遠隔授業による教育に関するシンポジウムの開催についても発議され、学生と地域住民が遠隔地で交流できる企画について今後検討することとした。

補助事業に係る具体的な成果

■共通計画（組織基盤）

①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置

「大学教育連携センター」は本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たし、また「サテライトオフィス」では、学士力・社会人基礎力・地域発信力それぞれの育成に向けて各種運営委員会を連携校教職員で組織し具体的な方針や内容を協議することで、次年度以降の本格実施に向けた連携校間の意思疎通を図り、本取組全体を通じた学生教育向上につなげるための礎を築くことができた。またセンターおよび各オフィスの担当者が先進事例の視察をすることにより、ライブ型遠隔授業時の対応や大学連携時の役割分担や運営体制等について本取組充実のための参考となった。「岡山オルガノン代表者委員会」では、本取組における連携校間の共通意識の強化および連携校間の相互協力の体制強化につながり、各大学が抱える課題を共有し共に解決する場となり、本取組が連携校の教育力向上につながるものであった。

②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」の開催

本連携取組は15大学という大規模連携であるため本シンポジウムを開催することにより、連携校の教職員に対して本取組の全体像について十分な理解と取組への協力要請をすることができ、同時に参加した学生にも本取組の意義・魅力について知ってもらう良い機会となり、本取組で導入されるe-Learning（ライブ型・VOD型）やキャリア形成教育の学生による積極的な活用へとつながるきっかけとなった。またパンフレットを作成し広く配布することで、関連団体や地元高校など広く地域に対して大学教育改革への取組を広報することができた。

③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成

連携評価委員会を設置し評価報告書を作成したことにより、連携取組事業の各々の取組を振り返り、今後の継続的事业展開だけでなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることができ、これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機となった。

④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

本フォーラムに参加したことにより、全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、また全国で開催されている大学教育改革推進事業関連のイベントについて情報を収集することができ、連携校で全国の取組の事業推進上の工夫、実施体制や運営形態・取組手法、苦勞している点などについて直接情報交換をすることができるようになった。これにより、本取組の改善だけではなく教職員の意識向上につながられた。

■インフラ整備計画

⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）

全連携校においてe-Learning（ライブ型・VOD型）を活用した単位認定制度が整備され、学生の学習環境の多様化へとつなげられた。また単位互換制度について、大学コンソーシアム岡山のものを共同利用することは、補助事業終了後の円滑な事業展開も視野に入れており、これにより学生は既存の制度と同様の方法で単位履修することができる体制を整えた。

⑥ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整

ライブ型遠隔授業においてIP-VPN環境を整備することにより、15大学間の同時接続における通信帯域を確保することができ、学生がシームレスな状態で離れた大学の授業を受講することができる環境が整備された。また、VOD型e-Learningコンテンツを活用したサーバーおよび学習管理システムを構築することで、個々の学生に学習管理システムログイン用のIDとパスワードが発行され、VOD型授業を受講可能な体制が整った。各大学で新たに購入したe-Learning用パソコンは各大学の学生の学習・受講環境の整備および拡充につながられた。

⑦ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始

ライブ型遠隔授業で活用するテレビ会議システムの整備により、これまで他大学の授業を履修する場合は直接受講する大学まで学生が移動する必要があったが、今後は所属大学内の教室において他大学の授業を受講できる環境が整備された。そのための試行運用・配信デモンストレーションにより、教職員が実際の操作や教室環境について理解する良い機会となり、また一部の運営委員会をテレビ会議システムを利用して開催したことにより、連携校関係者が一堂に会しテレビ会議システムについて理解・確認ができ、また岡山オルガノンの計画・趣旨に沿った最も教育効果の高い運用を行

うための情報交換・問題確認ができ、次年度前期から学生がライブ型遠隔授業を受講できる体制が整えられた。

⑨ICT 活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

VOD コンテンツ作成のための機器を導入したことにより、学生に提供される科目の撮影が可能となり、またシンポジウムの内容を VOD コンテンツとして作成したことにより、VOD コンテンツ作成の手法について確認でき、次年度以降 VOD 型 e-Learning として学生が受講する授業用コンテンツを作成できる体制が整った。また e-Learning 運営委員会を開催することにより、各大学の VOD 型 e-Learning 環境の整備だけではなく、最も学生に適した e-Learning の手法について協議する場となり、学生の多様な教育提供・充実した教育体制の強化へとつながった。

■学士力育成のための計画

⑨FD 研修事業「i*See 2009」の共催

FD 研修事業を開催することにより、学生目線による教育改善活動について考える機会を創出し、さらに大学教職員の教育改善活動への積極的関与の動機付けができた。学生と教職員も教育改善活動の補助的役割にとどまらず主体的に関与すべきであるという認識を、学生自身が持つことができるようになったという成果が認められた。また大学職員の講演とその内容をふまえたディスカッションを行い、教育改善活動における大学職員の重要性を参加者間で共有することができ、こうした意識改革は学生の主体的学びを促進することにつながり、大学教育力の向上に関する議論を活性化させた。

⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同 SD 活動事業の委託内容の検討

別の産学官連携組織である大学コンソーシアム岡山が、「吉備創生カレッジ」事業において SD 活動を試行的に実施していたが、今回の検証により、事務能力の向上という側面よりも学生に対する教育的観点を重視する方向性が打ち出され、当面、学生支援とりわけ学習面での学生支援を円滑に行うことができるための SD 活動を展開し、学生の主体的学習意欲向上に向けた取組へとつながられた。

⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定

本取組において積極的に展開されるテレビ会議システムを活用した他大学の科目のライブ型遠隔授業は、学生の広範な学習ニーズに応えるもので、学生の主体的学習を誘発することができる。すでに次年度に連携校の 5 科目が受講できるよう準備を進め、同時にその他の大学からも早期に教養教育科目を配信できるよう検討作業を開始しており、これにより、連携校間における教養教育科目の充実化に向けた準備を整えることができ、学生の主体的学びの促進だけではなく、地域で生きる学生の育成につなげることができた。さらに、連携校間で教養教育科目を共有化することにより、困難であった非常勤講師の確保にも一定の道筋を開くことができた。

⑫共同 FD・SD シンポジウムの開催、11月頃より共同 FD・SD 担当者会議の開催

本取組における共同 FD・SD 活動の内容についてシンポジウムを開催することにより、連携校全体の教育手法の改善に役立てることができた。FD の要素として各大学に取り入れられている授業評価アンケートであるが、各大学がそれぞれの事情に応じて行っているため他大学の優れた面があっても、また、自大学が問題を抱えていても、それらを問題として認識しない場合が多い。今回のシンポジウムは、特に学生の「生の声」をきちんと吸い上げているかどうかという観点から、連携校が実践知を共有し互いにブラッシュアップを目指そうという画期的なものであった。これを契機に各大学が授業評価アンケートをより有効なものにし、学生に対する教育効果を高めるツールとして利活用していくことが期待される点において大きな成果であったといえる。さらに双方向授業ツールであるクリッカーを今回のシンポジウムにおいても活用し、単に講義型の一方的な形式ではない、参加者との双方向性を重視したシンポジウムを通して、より多くの人々に本取組の目指す理念的枠組みを自身の問題として考える契機となった。また「共同 FD・SD 委員会」では、シンポジウムにおいて共有化された各大学の授業評価アンケートの優れた点や問題点を総括し、各大学での FD・SD 活動を活発化させる機運を高めることができた。

■社会人基礎力育成のための計画

⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催

各種プログラム案が完成し、その講義テストを、企業・大学関係・高校で実施した結果、講師メンバー間での検証・共有が図れ、授業力と大学での講義に対する意識を高めることができた。既存にない講義内容が、実施した企業・高校から一定の評価（次年度の継続依頼がある点等）が得られ、学生のキャリアアップのための大学での実践への展開が見えてきた。また、各講師の積極的なセミナー参加により協力者など新たな人脈の拡大を図ることができ、これにより、新たなキャリア形成教育担当教員の人材育成・人材確保にも一定の道筋を開くことができた。

⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

本講座は、学生の要望を踏まえ教育力向上の観点から絞り込んだ講義案であり、その具体的実行計画を作成することにより、継続実施が可能な事業化に向け、講師間の分担案も固まり、連携校の学生に対する将来的な指導力向上が図られ、これにより学生のキャリア形成の一助ができる体制が整った。

■地域発信力育成のための計画

⑮ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成

テレビ会議システムを使用した試験配信として、実際に岡山商科大学の学生が受講している講義を連携校 4 大学に同時双方向で受講体験のため配信したことにより、ボランティアプロフェッサ科目の活用が連携校の学生に対して地元経済・社会への理解を深めることにつながると確認できた。また実際のライブ型遠隔授業時と同一の環境を再現したことにより、連携校の学生と同じ授業を共有することができ、次年度本格導入への体制強化へとつながられた。連携校においてライブ型遠隔授業用配信科目の提供は学生・企業・地域・大学との連携が深まる科目であり、学生のための地域が求める人材育成に大きく貢献できるものであることが確認できた。

⑯セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

「地域活性化委員会」で連携校の行っている地域に関する研究テーマとその概要について情報収集を行ったことにより、各大学と情報共有の機会を持つことができ、またこの集約された地域研究の情報に基づき、県内の学生間の交流活動だけではなく、学生や地域住民が共に参画できる体制をとり、次年度のエコナイトやシンポジウムの開催に向けた検討を行い、学生が広く地域と協働できる取組のための準備を整えることができた。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
<p>①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置</p>	<p>①本取組を円滑に行うため「大学教育連携センター」を岡山理科大学に設置し、全体を統括すると共に、ICT環境の整備、定期的な現状把握視察、ホームページ作成、広報宣伝活動を行う。また、サテライトオフィスを岡山大学(学士力担当)、岡山理科大学(社会人基礎力担当)、岡山商科大学(地域発信力担当)に設置し、学生支援や事業管理等を担当し連携校の役割分担を決定し、大学連携推進を図る。各サテライトオフィスにコーディネーターを採用する。内部監査組織として基本計画の確認と具体的進捗策を検討する「岡山オルガノン代表者委員会」を設置する。</p>	<p>①「大学教育連携センター」は、本取組の地域人材との交流および企画運営に優れたコーディネーターを配置することに よって事業展開において中核的役割を果たしている。必要不可欠である。また、3つの力それぞれを担当するサテライトオフィスは各連携校の担当者による委員会を設置し、実質的な実施方法や運営体制等の調整や検討を行う機関として重要な役割を果たす。「岡山オルガノン代表者委員会」は定期的な進捗状況の検証、全体の方針策定を行い、事業取組評価と地域貢献評価の2点を確実に実施するため重要な機関である。これら3つの組織を有機的に活用することで、本取組の事業推進の拡充を図ることができ、更には岡山県内全体の教育力向上につながる。</p>	<p>平成21年9月に岡山理科大学(代表校)に「大学教育連携センター」を、岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学にそれぞれサテライトオフィスを設置した。センターおよび各オフィスには各取組推進のためのコーディネーターおよび事務補佐員を配置し、連携校との連絡調整・事業統括の中核を担うと共に、コーディネーター会議を定期的開催(平成21年11月～平成22年3月に5回)し、事業全体の進捗状況の把握や情報・意見交換を行った。またセンターおよび各オフィスでは先進的な取組事例の調査(ライブ型遠隔授業および大学連携運営に関する内容)として、立命館大学(平成22年1月27日)、国公私立大学コンソーシアム・福岡(平成22年2月1日)、大学コンソーシアム石川(平成22年3月19日)、長岡技術科学大学(平成22年3月24日)への視察訪問を実施した。また全連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される「岡山オルガノン代表者委員会」を平成21年12月に設置し、平成22年1月22日と平成22年2月25日に委員会を開催し、今後の事業展開や事業経費等についての審議を行った。</p>
			<p>補助事業に係る具体的な成果</p> <p>「大学教育連携センター」は本取組全体の統括を行い、連携校間の連絡調整や情報共有等の中心的な役割を果たし、また「サテライトオフィス」では、学士力・社会人基礎力・地域発信力それぞれの育成に向けて各種運営委員会を連携校教職員で組織し具体的な方針や内容を協議することで、次年度以降の本格実施に向けた連携校間の意思疎通を図り、本取組全体を通じた学生教育向上につなげるための礎を築くことができた。またセンターおよび各オフィスの担当者が先進事例の視察をすることにより、ライブ型遠隔授業時の対応や大学連携時の役割分担や運営体制等について本取組充実のための参考となった。「岡山オルガノン代表者委員会」では、本取組における連携校間の共通意識の強化および連携校間の相互協力の体制強化につながり、各大学が抱える課題を共有し共に解決する場となり、本取組が連携校の教育力向上につながるものであった。</p>

平成21年度補助金調査および実績報告書 対比表

補助金調査		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の成果	補助事業に係る具体的な成果
<p>②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッソン！岡山オルガノン(仮称)」の開催</p>	<p>② 学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッソン！岡山オルガノン(仮称)」を開催し、本取組を広く認知してもらった。同時に、広報用パンフレットを作成し多方面への配布に取り組み。</p>	<p>② 本取組の趣旨及び事業概要を広く一般(学生、地域住民、大学教職員も含む)に説明する場として活用され、連携校だけでなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。</p>	<p>学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、平成21年11月29日に岡山県総合福祉会館において、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッソン！岡山オルガノン」を開催した。連携校だけでなく県内外様々な大学や地域から166名(学生14名、一般15名、教員74名、職員63名)の方が参加した。内容は連携取組の概要説明、連携校の優れた取組として岡山理科大学(e-Learning)・岡山大学(学生参画型授業改善)・岡山商科大学(ボランティアプロフェッショナル)・中国学園大学(キャリア形成教育)の代表者がそれぞれ事例紹介、また立命館大学共通教育推進機構教授 木野 茂氏による「学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD」というテーマでの特別講演を行っていた。またパンフレットの作成が本シンポジウム開催までに完了しなかったが、平成22年3月に完成し、連携校全教職員および本取組事業関係機関・関係団体のほか、全国の大学コンソーシアム団体や戦略的連携GP選定大学等に配布をした。</p>
<p>③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成</p>	<p>③ 外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する「連携評価委員会」を組織する。そのため委員は広く県内外から有識者を選出し依頼する。</p>	<p>③ 本取組の成果が当初の目標に適ったものであるかを客観的・継続的に評価し、必要に応じて大学教職員やコーディネーター、学生からヒアリング調査も行いながら確認作業を進め、場合によってはセンターに対して改善要求や助言指導を行うための重要な機関であり、本取組の事業内容についての継続的評価を図ることが可能。</p>	<p>連携評価委員会を設置し評価報告書を作成したことにより、連携取組事業の各々の取組を振り返り、今後の継続的作業展開だけでなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることができ、これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けて改善を図る契機となった。</p>

平成21年度補助金調査および実績報告書 対比表

補助金調査		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム(仮称)」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び収集に努め、今後の戦略的大学の連携支援に活用する。	④ 文部科学省主催の平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム(仮称)」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び収集に努め、今後の戦略的大学の連携支援に活用する。	平成22年1月7日～8日に東京ビッグサイトで開催された「平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」に連携校の教職員が参加し、全国の多様な先進的取り組みについて情報収集することができた。また、情報交換室に本取組の資料を両日とも持参・設置し広く情報を発信することができた。	本フォーラムに参加したことにより、全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、また全国で開催されている大学教育改革推進事業関連のイベントについて情報を収集することができ、連携校で全国の取組の事業推進上の工夫、実施体制や運営形態・取組手法、苦勞している点などについて直接情報交換をすることができるようになった。これにより、本取組の改善だけではなく教職員の意識向上につなげられた。
⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備(年内に締結)	⑤ 連携校のe-Learning担当者会議を開催し、各大学の実施状況を把握し必要に応じて次年度以降本格導入する遠隔教育(ライブ方式・VOD方式)のe-Learningの単位認定の制度化と単位互換協定締結のための準備を進め、年内の締結を予定している。	平成21年9月29日にネットワーク担当者会議を開催し、連携校に対する遠隔授業における単位認定制度の確立に向けて検討した。平成22年1月19日開催の「学士課程教育連携委員会」(①関係)において、各大学の単位認定制度の整備状況についての確認および連携校間の単位互換制度についての検討を行った。検討の結果、単位互換制度については、大学コンソーシアム岡山で既に締結している「参加大学相互間の単位互換に関する協定書」を活用することとした。そのため、平成22年3月に大学コンソーシアム岡山の協定書の利用同意書を作成し、連携校の同意を得た。	全連携校においてe-Learning(ライブ型・VOD型)を活用した単位認定制度が整備され、学生の学習環境の多様化へとつなげられた。また単位互換制度について、大学コンソーシアム岡山のものを共同利用することは、補助事業終了後の円滑な事業展開も視野に入れており、これにより学生は既存の制度と同様の方法で単位履修することができている体制を整えた。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑥ ネットワーク、サーバー、コンテナ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整	⑥ 学生が自宅にいながらVOD方式によるe-Learningに取り組むためのコンテナサーバーやそのネットワークの管理者、また各大学が導入するe-Learning用パソコンの設置業者を決定し、年度末までに設置を終える。	⑥ コンテナサーバーやネットワークを適切に管理運営可能な業者の選定を行い、学習管理システムを活用した学習環境の実現を図る。またe-Learning用パソコンの導入により、連携校全体のe-Learning環境のレベルアップを図ることができ、より多くの学生が遠隔授業に参加できるようになる。	平成21年10月よりライブ型遠隔授業の安定供給を目的に帯域を確保するためIP-VPN環境(ワレット・グループ)の整備を行った。また、VOD型e-Learningの構築に向けて、授業用コンテナやシンボウム等の配信用サーバーおよび学習管理システム(Momotaro)の設置調整を平成21年12月より行い、インフラ手配・システム構築・試験運用を平成22年3月に完了した。また、学生の学習環境の強化・支援のためのe-Learning用パソコンについては大学教育連携センターで設定した仕様に基づき大学ごとに競争入札を行い購入し、設置調整は平成22年3月に完了した。
⑦ ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始	⑦ 次年度以降のライブ方式の遠隔授業の本格運用に向けて、テレビ会議システムを各大学に導入する。多地点装置(全大学を同時に接続可能にする装置)は次年度導入予定となっているので、本年度は5大学単位のグループ間でのライブ方式による遠隔教育の試験的運用を繰り返して実施する。	⑦ テレビ会議システムの導入により、ライブ型の遠隔授業による教育支援は当然のこととし、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援ツールとしての役割も果たし、これにより大学間連携の充実が図れる。そのため準備期間として本年度は試験的運用を行い、次年度以降の確実な運用につなげる。	ライブ型遠隔授業においてIP-VPN環境を整備することにより、15大学間の同時接続における通信帯域を確保することができ、学生がシームレスな状態で離れた大学の授業を受講することができる環境が整備された。また、VOD型e-Learningコンテナを活用したサーバーおよび学習管理システムを構築することで、個々の学生に学習管理システムログイン用のIDとパスワードが発行され、VOD型授業を受講可能な体制が整った。各大学で新たに購入したe-Learning用パソコンは各大学の学生の学習・受講環境の整備および拡充につなげられた。
		HDビデオ会議システム(PCS-XG80)の導入に向けて、平成21年10月に大学教育連携センターで要求仕様書を作成し競争入札を実施した。その後HDビデオ会議システムは大学ごとに契約を取り交わし、購入および設置を平成22年1月まで完了した。平成22年1月14日に試験通信・音響調整を行い、平成22年1月18日に業者立ち会いのもと岡山商科大学より「経営学特殊講義Ⅱ」を連携校(岡山県立大学、岡山学院大学、岡山理科大学、就実大学)に試験配信を実施した(⑤関係)。その後平成22年2月10日・17日・18日に音響調整を含めた試験通信を連携校間で行った。その際、ビデオアナライザー用タブレット(MTE-450/KO)やHDデータリデュクションソフトウェア(PCSA-DSG80)の試用や、HD多地点接続ソフトウェア(PCSA-MCG80)を用いてカスケード接続の試験も実施した。平成22年3月4日・23日の各種運営委員会でHDビデオ会議システムを活用しての会議を開催した。	ライブ型遠隔授業で活用するテレビ会議システムの整備により、これまで他大学の授業を履修する場合は直接受講する大学まで学生が移動する必要があったが、今後は所属大学内の教室において他大学の授業を受講できる環境が整備された。そのための試行運用・配信デバイストレーニングにより、教職員が実際の操作や教室環境について理解する良い機会となり、また一部の運営委員会をテレビ会議システムを利用して開催したことにより、連携校関係者が一堂に会しテレビ会議システムについて理解・確認ができ、また岡山オオルガノンの計画・趣旨に沿った最も教育効果の高い運用を行うための情報交換・問題確認ができ、次年度前期から学生がライブ型遠隔授業を受講できる体制が整えられた。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
<p>⑧ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信コンテンツの作成</p>	<p>⑧ 教職員に対してe-Learning活用法やVOD教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設ける。またコンテンツを作成するためのチーム編成、必要な機材の調達等、持続可能な体制を整備する。</p>	<p>平成22年3月にコンテンツ作成用撮影編集機材一式(パソコン、ビデオカメラ、マイク等)を購入した。平成22年1月13日にe-Learning運営委員会(岡山理科大学教職員のみ)を開催し、次年度配信用コンテンツとして加計教育コンテンツアムで現在使用しているコンテンツを借用する形で次年度は実施することを決定した。また、平成22年3月25日にICT活用教材作成講習会を連携校教職員が出席するe-Learning運営委員会内で実施し、学習管理システムMomotaroroのシステムや機能、また加計教育コンテンツアムでのVOD型e-Learningの実際の運用手法について講習会を行った。次年度配信用コンテンツについては、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッジン！岡山オルガノン」(②関係)と第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム(⑩関係)でそれぞれシンポジウムの内容をVODコンテンツとして撮影・編集した。</p>	<p>VODコンテンツ作成のための機器を導入したことにより、学生に提供される科目の撮影が可能となり、またシンポジウムの内容をVODコンテンツとして作成したことにより、VODコンテンツ作成の手法について確認でき、次年度以降VOD型e-Learningとして学生が受講する授業用コンテンツを作成できる体制が整った。またe-Learning運営委員会を開催することにより、各大学のVOD型e-Learning環境の整備だけでなく、最も学生に適したe-Learningの手法について協議する場となり、学生の多様な教育提供・充実した教育体制の強化へとつながった。</p>

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑨FD研修事業「*See 2009」の共催	⑨ FD研修事業として岡山大学主催のFD活動である教育改善学生交流「*See 2009」を共催する。連携校の教職員・学生に対してこれへの積極的参加を促し、「学生参画」による教育改善システムへの理解と展開を図る。	⑨ 岡山大学の先進的なFD活動を基盤として、県内の教職員が更に学生共同参画型のFD活動についての見識を深め、本取組が実施する共同FD活動への積極的参加へとつながる。学生が本取組に参画することで自ら受ける教育への意識や意欲の向上が図られる。	本取組と「学生・教職員教育改善委員会」(岡山大学)が連携して学生参画型FD研修事業「*See 2009」を開催した。今回の研修事業は、「大学を変える2つのステップ」をメインテーマとし平成21年9月22日・23日の2日間にわたり、学生が日頃抱いている思いを川柳で表現する学生交流グループワーク、大分大学・札幌大学・立命館大学・岡山大学の学生による事例取組例の発表とその内容を踏まえた意見交換で構成された「学生主体の教育改善活動」をテーマとしたシンポジウム、立教大学・同志社大学の職員による「職員が参加する教育改善活動について」の講演、そして学生および教職員が混在する小グループに分かれて「職員による教育改善活動」に関するディスカッションを実施した。FD研修事業には34大学から94名の参加があった。
⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討	⑩ 共同SD活動の山陽新聞社と大学コンソーシアム岡山が共同で実施している「吉備創生カレッジ」の特別科目(SDに特化した科目)の成果を検証し、次年度以降の業務委託の準備を行う。	⑩ 別の産学官連携組織である大学コンソーシアム岡山が「吉備創生カレッジ」事業においてSD活動を試行的に実施しているため、これへ一部業務委託を行うことと、本取組が次年度以降に予定している独自のテーマに沿ったSD活動の充実化を図ることができる。	別の産学官連携組織である大学コンソーシアム岡山が、「吉備創生カレッジ」事業においてSD活動を試行的に実施していたが、今回の検証により、事務能力の向上という側面よりも学生に対する教育的観点を中心とする方向性が打ち出され、当面、学生支援とより学習面での学生支援を円滑に行うことができるためのSD活動を展開し、学生の主体的学習意欲向上に向けた取組へとつながられた。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業から得られる具体的な成果	補助事業の実績
<p>①各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定</p>	<p>① 教養教育科目を共有化するためにICTを活用した授業配信に向けて、各大学は独自の特色を出しながら教養教育科目を1～2科目提供のための準備に入る。本年度はそのうち全体で2～3科目の作成を行い、次年度の公開に備える。</p>	<p>① 教養教育配信科目については、内容を吟味し担当教員との密な連携が必要であり、そのために各大学が独自の提供科目を検討する必要がある。これにより、教養教育科目の非常勤講師確保が困難になっっている状況にも対応できる。</p>	<p>教養教育配信科目の検討及び候補の決定に向けて、平成22年1月19日開催の「学士課程教育連携委員会」(⑤関係)において、岡山オカルガノンの授業開講科目は大学コンソーシアム岡山で実践されているものとは異なる授業形態(テレビ会議システムを活用したライブ型遠隔授業、VOD型e-Learning)である点を確認した。また各大学で受講上の技術的・事務的検討作業を行った。この点をふまえて配信科目の具体的な検討を行い、次年度には「経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ」(岡山商科大) (⑤関係)、「倉敷まちづくり基礎論・実践」(倉敷芸術科学大学)、「基礎環境医学」(川崎医科大学)の5つの教養教育科目の配信を決定した。</p>
		<p>補助事業に係る具体的な成果</p>	<p>本取組において積極的に展開されるテレビ会議システムを活用した他大学の科目のライブ型遠隔授業は、学生の広範な学習ニーズに応えるもので、学生の主体的学習を誘発することができる。すでに本年度に連携校の5科目が受講できるよう準備を進め、同時にその他の大学からも早期に教養教育科目を配信できるよう検討作業を開始しており、これにより、連携校間における教養教育科目の充実化に向けた準備を整えることができ、学生の主体的学びの促進だけではなく、地域で活きる学生の育成につながることもできた。さらに、連携校間で教養教育科目を共有化することにより、困難であった非常勤講師の確保にも一定の道筋を開くことができた。</p>

平成21年度補助金調査および実績報告書 対比表

補助金調査		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
①共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催	① 本取組における共同FD・SDの活動内容についてのシンポジウムを開催、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。シンポジウムでは、各大学の取組事例を公開してもらい、連携校の現状把握を行う。また、連携校のそれぞれに向けた議論を行う。また、連携校のそれぞれが担当する会議を開催し、共同FD活動では学生参画型教育改善、教員同士が相互に公開授業参観・授業評価の導入、共同SD活動では次年度以降のSD研修会の企画・立案にあたる。	平成22年3月14日に岡山県生涯学習センターにおいて「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」を開催した。シンポジウムでは、まず基調講演として授業評価アンケート研究の第一人者である立命館大学教育開発推進機構教授 安岡 高志氏に「授業評価の性質と今後の活用」というテーマで、本シンポジウム全体における連携校より授業評価アンケートに関する論点と問題提起をいただいた。その後、取組事例を公開してもらい、連携校の現状を把握し、改善に向けた幅広い議論を行った。さらに次年度以降の共同FD・SD活動の内容について、広く大学教職員に情報提供していくことができようとした。またクリッカーを利用しその場で参加者の意見を反映させて議論等を進めていった。本シンポジウムの成果に基づき、次年度以降の共同FD・SD活動について検討する「共同FD・SD委員会」を連携校教職員で組織し、平成22年3月30日に当委員会を開催した。	本取組における共同FD・SD活動の内容についてシンポジウムを開催することにより、連携校全体の教育手法の改善に役立てることができた。FDの要素として各大学に取り入れられている授業評価アンケートであるが、各大学がそれぞれの事情に応じて行っているため他大学の優れた面があっても、また、自大学が問題を抱えている場合も多い。今回のシンポジウムは、特に学生の「生の声」をきちんと吸い上げていくかという観点から、連携校が実践知を共有し互いにブラッシュアップを目指すという画期的なものであった。これを契機に各大学が授業評価アンケートをより有効なものにし、学生に対する教育効果を高めるツールとして活用していくことが期待される。さらに双方大きな成果であったといえる。さらに双方向授業ツールであるクリッカーを今回のシンポジウムにおいても活用し、単に講義型の一方的な形式ではない、参加者と義の双方向性を重視したシンポジウムを通して、より多くの人々に本取組の目指す理念的枠組みを自身の問題として考える契機となった。また「共同FD・SD委員会」では、シンポジウムにおいて共有化された各大学の授業評価アンケートの優れた点や問題点を総括し、各大学でのFD・SD活動を活性化させる機運を高めることができた。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催	⑬ 地域におけるキャリア指導のプロフェッショナルを集結させたチームを組織化し、全県でキャリア形成教育体制を構築する。このキャリア指導チームの編成は産学官からの地域人材を積極的に活用・登用する。1月には⑭に関する講座内容についての検討会議を開催する。	平成21年9月より実施可能な講義「パターンを定め、「講座プログラム」及び「カリキュラム案」を作成した。このプランを基に、産学官から経験豊かな講師候補者を選定し、産学官との共同で、学生自身の専門科目と別カリキュラムの構築を強化できる。また、平成22年3月末時点で、中小企業診断士および社会保険労務士等の資格を有する4名で第一回集合勉強会を実施した。また、プログラムのテスト実施として、企業5社・大学関係3箇所・高校4校で講義を行い、受講者の反応からプログラム内容の検証も行った。それら講義には他のメンバーがオブザーブ参加し、チームとしての結束を固めることができた。また各自が自主的に多方面のセミナーに参加し、専門分野・領域の深化・拡大にも努めた。	各種プログラム案が完成し、その講義リストを、企業・大学関係・高校で実施した結果、講師メンバー間での検証・共有が図れ、授業力と大学での講義に対する意識を高めることができた。既存にない講義内容が、実施した企業・高校から一定の評価(次年度の継続依頼がある点等)が得られ、学生のキャリアアップのため大学の実践への展開が見えてきた。また、各講師の積極的なセミナー参加により協力者など新たな人脈の拡大を図ることができ、これにより、新たなキャリア形成教育担当教員の人材育成・人材確保にも一定の道筋を開くことができた。
⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託	⑭ 次年度以降のキャリア形成講座に対して、⑬で組織化されたチームによる実践的体験型プログラムの強化を図り、各大学が現在取り組んでいるキャリア教育の支援を行う。	大学コンソーシアム岡山で3年間実施した「実践マナー&ビジネスマインド講座」を総括し、学生のアンケートを基に新たなコンテンツの構築と発展系プランを作成した。学生へのヒアリングもを行い、要望を踏まえて半日・一日・短期集中等の各パターンで実施可能なプログラム案を作成した。複数の講義案の中から、予算と優先順位を考え、実施可能な講座の絞り込みを行った。この事業は、大学コンソーシアム岡山でのキャリア形成講座の指導実績や学生に対する周知も図られていることから、大学コンソーシアム岡山への委託の形態をとり、次年度早々に実施できるよう事業委託契約書を作成した。	本講座は、学生の要望を踏まえ教育力向上の観点から絞り込んだ講義案であり、その具体的実行計画を作成することにより、継続実施が可能な事業化に向け、講師間の分担案も固まり、連携校の学生に対する将来的な指導力向上が図られ、これにより学生のキャリア形成の助けができる体制が整った。

平成21年度補助金調書および実績報告書 対比表

補助金調書		実績報告書	
補助事業実施計画	補助事業の内容	補助事業の実績	補助事業に係る具体的な成果
⑮ポランティアプロフェッサおよびコーディネット科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成	⑮ 企業の経営者等を大学に講師として派遣する「ポランティアプロフェッサ科目」をライブおよびVOD方式の遠隔授業として連携校へ提供するための準備会議を開催する。また岡山経済同友会等の県内産業界等と協力して専門的職業(例：弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士等)を持つ外部人材を活用したコーディネット科目の構築を進める。ポランティアプロフェッサ科目の次年度以降の本格運用に向けて、岡山商科大学で実施する授業の配信を試験的に行う。	ライブ形式での遠隔授業を連携校に配信するため「双方向コンテンツ委員会」を連携校教職員で組織し、平成21年12月8日に当委員会を開催した。各大学からライブ形式で授業配信可能な科目の提供を依頼するとともに、岡山商科大学からポランティアプロフェッサ科目(⑩関係)をライブ型遠隔授業として配信することについて説明した。またポランティアプロフェッサ科目を実際に受講体験してもらったため、平成22年1月18日にテレビ会議システムを使用し、岡山経済同友会からの外部講師によるポランティアプロフェッサ科目「経営学特殊講義Ⅱ」を講師了解のもと、ライブ形式により連携校に試験配信した(⑦関係)。双方向ライブ講義の具体的な実施内容についての検討のため、平成22年3月4日に「双方向コンテンツ委員会」を開催した。コーディネット科目については、スポーツ健康科学関係の科目を業者とともに検討に入ったが、単位認定が困難であり、次年度は実施しないこととした。	テレビ会議システムを使用した試験配信として、実際に岡山商科大学の学生が受講している講義を連携校4大学に同時双方向で受講体験のため配信したことにより、ポランティアプロフェッサ科目の活用が連携校の学生に対して地元経済・社会への理解を深めることにつながると確認できた。また実際のライブ型遠隔授業時校の学生と同じ授業を共有することができ、次年度本格導入への体制強化へつながられた。連携校においてライブ型遠隔授業用配信科目の提供は学生・企業・地域・大学との連携が深まる科目であり、学生のための地域が求める人材育成に大きく貢献できるものであることが確認できた。
⑯七タエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催	⑯ 次年度以降の産学連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「七タエコナイト」事業や地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」開催に向けた内容に関して地域発信へつなげるための戦略について検討する準備会議を開催する。	エコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議を開催するため、エコナイト関連資料の収集を行い、また連携校各大学から「地域に関する研究」を行っている担当者らを委員として募り、「地域活性化委員会」を組織した。平成22年3月23日に「地域活性化委員会」を開催し、次年度開催の地域活性化シンポジウムおよびエコナイト(平成22年7月7日予定)の開催に向けた検討を行い、双方向ライブ型遠隔授業による教育に関するシンポジウムの開催についても発議され、学生と地域住民が遠隔地で交流できる企画について今後検討することとした。	「地域活性化委員会」で連携校の行っている地域に関する研究テーマとその概要について情報収集を行ったことにより、各大学と情報共有の機会を持つことができ、またこの集約された地域研究の情報に基づき、県内の学生間の交流活動だけでなく、学生や地域住民が共に参加できる体制をとり、次年度のエコナイトやシンポジウムの開催に向けた検討を行うため、学生が広く地域と協働できる取組のための準備を整えることができた。

① 関連資料

①代表校に「大学教育連センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置

【資料1】 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議資料

【資料2】 コーディネーター会議資料

【資料3】 岡山オルガノン代表者委員会資料

【資料4】 視察報告資料

【資料5】 岡山オルガノン公式ホームページ資料

平成21年8月28日

第1回 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

日時 平成21年8月28日（金） 14:00～16:00

場所 岡山理科大学 大会議室（本部3階）

参加者 岡山理科大学： 木村 宏，大西 莊一，竹内 渉，岡田 章弘，金子 典正，
御倉 賀恵，佐藤 大介
岡山大学： 橋本 勝，中野 宏栄，簗島 素子
中国学園大学： 飯田 哲司，新谷 貴子
岡山商科大学： 大崎 紘一，中村 裕

1. 議案

(1) 「岡山オルガノン」の本年度計画について

(2) 組織について

- ① 各サテライトオフィスの立ち上げ
- ② 各種運営委員会の構成

(3) 本年度の各事業の進め方について

(4) その他

2. 報告事項

(1) 文部科学省関係 経過報告と今後の予定

- ① 7月27日（月） 平成21年度大学改革推進等補助金調書提出
- ② 8月5日（水） 平成21年度大学改革推進等補助金調書変更版提出
- ③ 8月7日（金） 平成21年度大学改革推進等補助金調書修正版提出
- ④ 8月13日（木） 補助金額（8350万円）の内定
- ⑤ 8月20日（木） 事業概念図提出
- ⑥ 8月27日（木） 平成21年度大学改革推進等補助金交付申請書提出
- ⑦ 9月18日（金） 文部科学省へ提出〆切日 協定書（15大学の学長が捺印したもの）
大学間の共同契約書（各理事長が捺印、文部科学省には提出なし）

(2) 交付金申請書

(3) その他

3. 添付資料

- (1) 平成21年度大学改革推進等補助金調書
- (2) 文部科学省へ提出した事業概念図

1. 「岡山オルガノン」の本年度計画について

本補助事業の本年度の目的は、上記3つの力の育成を図るため、まずは大学連携を円滑に進めるための組織体制を整え、シンポジウム開催、専門家チーム編成、単位認定制度確立等により、関係機関に対して事業内容の周知徹底を図ることである。また本事業推進に不可欠であるインフラ整備、テレビ会議システムの試行運用、ICT活用教材作成講習会実施を繰り返し実施し、次年度以降の本格的な事業展開に向けた準備を行う。

(1) 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画（組織基盤）

- ① 10月初旬 代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ② 11月29日（日）大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」の開催
- ③ 12月 「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④ 1月 平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

■インフラ整備計画

- ⑤ 9月以降 次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結（学則変更を伴う対応が求められる可能性があるため、早期に制度化を進める必要がある。）
- ⑥ 10月以降 ネットワーク、サーバ、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整
- ⑦ 12月 ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始（9月～10月初旬に業者選定を終え、まずネットワークインフラの構築に着手）
- ⑧ 1月 ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成（次年度前期に開講する科目は12月に決定、下記⑪）

■学士力育成のための計画

- ⑨ 9月22日（火）～23日（水）FD研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩ 10月 「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討
- ⑪ 11月 各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫ 1月下旬 共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 11月 実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭ 2月 キャリア形成講座の発展型事業の委託

■地域発信力育成のための計画

- ⑮ 10月以降 ボランティアプロフェッサーおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成
- ⑯ 2月 セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

(2) 補助事業の内容（上記の実施計画と対応）

■共通計画（組織基盤）

- ① 本取組を円滑に行うため、「大学教育連携センター」を岡山理科大学に設置し、全体を統括すると共に、ICT 環境の整備、定期的な現状把握視察、ホームページ作成、広報宣伝活動を行う。また、サテライトオフィスを岡山大学（学士力担当）、中国学園大学（社会人基礎力担当）、岡山商科大学（地域発信力担当）に設置し、学生支援や事業管理等を担当し連携校の役割分担を決定し、大学連携推進を図る。各サテライトオフィスにコーディネータを採用する。内部監査組織として基本計画の確認と具体的進行策を検討する「岡山オルガノン代表者委員会」を設置する。
- ② 学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン（仮称）」を開催し、本取組を広く認知してもらおう。同時に、**広報用パンフレットを作成**し多方面への配布に取り組む。
- ③ 外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する「連携評価委員会」を組織する。そのため委員は広く県内外から有識者を選出し依頼する。
- ④ 文部科学省主催の平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び収集に努め、今後の戦略的大学連携支援に活用する。

■インフラ整備計画

- ⑤ 連携校の e-Learning 担当者会議を開催し、各大学の実施状況を把握し必要に応じて次年度以降本格導入する遠隔教育（ライブ方式・VOD 方式の e-Learning）の単位認定の制度化と単位互換協定締結のための準備を進め、年内の締結を予定している。
- ⑥ 学生が自宅にいながら VOD 方式による e-Learning に取り組むためのコンテンツサーバやそのネットワークの管理者、また各大学が導入する e-Learning 用パソコンの設置業者を決定し、年度末までに設置を終える。
- ⑦ 次年度以降のライブ方式の遠隔授業の本格運用に向けて、テレビ会議システムを各大学に導入する。多地点装置（全大学を同時に接続可能にする装置）は次年度導入予定となっているので、本年度は 5 大学単位のグループ間でのライブ方式による遠隔教育の試験的運用を繰り返し実施する。
- ⑧ 教職員に対して e-Learning 活用法や VOD 教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する機会を設ける。またコンテンツを作成するためのチーム編成、必要な機材の調達等、持続可能な体制を整備する。

■学士力育成のための計画

- ⑨ FD 研修事業として岡山大学主催の FD 活動である教育改善学生交流「i*See 2009」を共催する。連携校の教職員・学生に対してこれへの積極的参加を促し、「学生参画」による教育改善システムへの理解と展開を図る。
- ⑩ 共同 SD 活動の山陽新聞社と大学コンソーシアム岡山が共同で実施している「吉備創生カレッジ」の特別科目（SD に特化した科目）の成果を検証し、次年度以降の業務委託の準備を行う。
- ⑪ 教養教育科目を共有化するために ICT を活用した授業配信に向けて、各大学は独自の特色を出しながら教養教育科目を 1～2 科目提供のための準備に入る。本年度はそのうち全体で 2～3 科

目の作成を行い、次年度の公開に備える。

- ⑫ 本取組における共同 FD・SD の活動内容についてのシンポジウムを開催、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。シンポジウムでは、各大学の取組事例を公開してもらい、連携校の現状把握を行い、改善に向けた議論を行う。また、連携校のそれぞれの担当者による会議を開催し、共同 FD 活動では学生参画型教育改善、教員同士が相互に公開授業参観・授業評価の導入、共同 SD 活動では次年度以降の SD 研修会の企画・立案にあたる。

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 地域におけるキャリア指導のプロフェッショナルを集結させたチームを組織化し、全県でキャリア形成教育体制を構築する。このキャリア指導チームの編成は産学官からの地域人材を積極的に活用・登用する。1月には⑭に関する講座内容についての検討会議を開催する。
- ⑭ 次年度以降のキャリア形成講座に対して、⑬で組織化されたチームによる実践的体験型プログラムの強化を図り、各大学が現在取り組んでいるキャリア教育の支援を行う。

■地域発信力育成のための計画

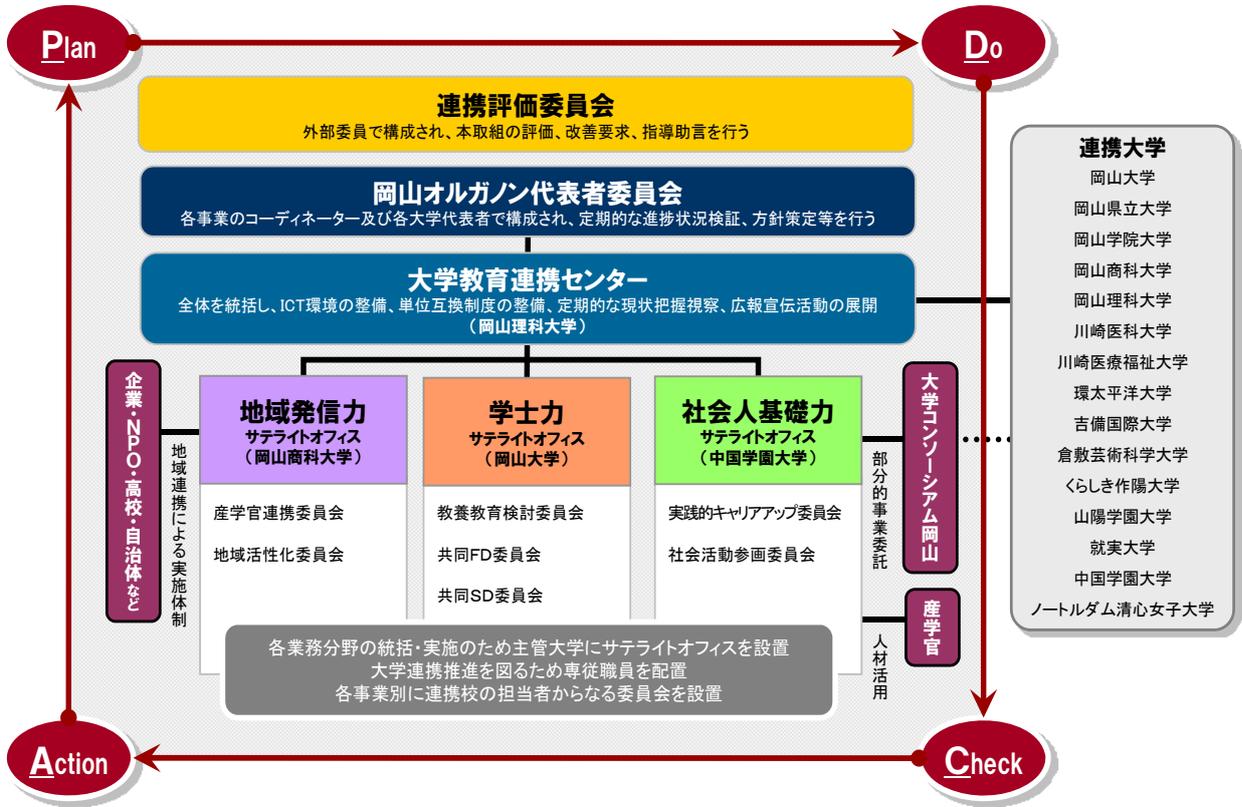
- ⑮ 企業の経営者等を大学に講師として派遣する「ボランティアプロフェッサ科目」をライブおよび VOD 方式の遠隔授業として連携校へ提供するための準備会議を開催する。また岡山経済同友会等の県内産業界等と協力して専門的職業（例：弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士等）を持つ外部人材を活用したコーディネート科目の構築を進める。ボランティアプロフェッサ科目の次年度以降の本格運用に向けて、岡山商科大学で実施する授業の配信を試験的に行う。
- ⑯ 次年度以降の産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「七夕エコナイト」事業や地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」開催に向けた内容に関して地域発信へつなげるための戦略について検討する準備会議を開催する。

(3) 補助事業から得られる具体的な成果（上記の補助事業の内容と対応）

詳細は、補助金調書の該当部分を参照してください。

2. 組織について

「岡山オルガノン」の組織は下図のように設定している。



(1) 大学教育連携センター

設置場所：岡山理科大学

目的： 事業全体の統括、経理事務処理の統括、ICT 環境の整備、定期的な現状把握視察、e-Learning 教育の実施、広報宣伝活動、事業報告書の作成

構成： センター長、副センター長、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： e-Learning 運営委員会

(2) 学士力サテライトオフィス

設置場所：岡山大学

目的： 共同 FD 活動、共同 SD 活動、教養教育の充実と共有化に関する活動、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 共同 FD 委員会、共同 SD 委員会、教養教育検討委員会

(3) 社会人基礎力サテライトオフィス

設置場所：中国学園大学

目的： 実践的キャリア教育指導者の育成、キャリア形成教育の共同実施、学生の社会活動参加支援、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネータ（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 実践的キャリア教育委員会、社会活動参画委員会

(4) 地域発信力サテライトオフィス

設置場所：岡山商科大学

目的： ボランティアプロフェッサー科目の提供、産学連携コーディネーター科目の構築、地域活性化・環境教育の創出、担当事業報告書の作成

構成： 代表者、コーディネーター（若干名）、事務補佐員（若干名）

運営委員会： 産学官連携委員会、地域活性化委員会

(5) 大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議（事業推進検討会議）

目的： 岡山オルガノン事業に関する企画・調整、年次計画の検討

開催： 必要に応じて開催（年3～4回）

構成： 大学教育連携センター構成員、各サテライトオフィス構成員、委員会が必要と認めた者

(6) 岡山オルガノン代表者委員会

目的： (5)の代表者会議から提出された議案の審議、事業の定期的な進捗状況の検証、事業全体の方針策定

開催： 年2回程度

構成： 各連携大学の代表者、各サテライトオフィスのコーディネーター、大学教育連携センター長、委員会が必要と認めた者

(7) 連携評価委員会

目的： 本事業の取組状況および成果の評価、必要に応じて関係者への実情調査、大学連携センターへの改善要求や助言指導

開催： 年1回程度（年度末）

構成： 有識者（産学官の外部委員）、各連携大学（学長など）、委員会が必要と認めた者

(8) コーディネーター連絡会議

目的： 事業進捗に必要な情報交換

開催： 1回／月

構成： 大学教育連携センターおよび各サテライトオフィスのコーディネーターと事務補佐員、その他の関係者

(9) 各種実務担当者会議

目的： 個別案件に関する臨時の関係者会議

開催： 必要に応じて大学教育連携センターが召集して開催

種類： 経理担当者会議、学務・教務担当者会議、ネットワーク担当者会議

3. 本年度の各事業の進め方

(1) 組織作り

前節の各組織および運営委員会の設置

- ・ 7月 24日 第1回大学連携準備会議
- ・ 8月 28日 第1回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議
- ・ 9月初旬 大学教育連携センター立ち上げ
- ・ 9月末 各サテライトオフィス立ち上げ
- ・ 10月初旬 岡山オルガノン代表者委員会開催
- ・ 10月末 各運営委員会の立ち上げ
- ・ 12月 連携評価委員会立ち上げ
- ・ 3月 連携評価委員会開催

(2) 大学教育連携センター設立記念シンポジウム（ハッシン！岡山オルガノン（仮称））の開催

- ・ 日時 11月 29日(日) 13:00～16:00
- ・ 場所 岡山県総合福祉会館大ホール（450名収容）
〒700-0813 岡山市北区石関町 2-1 TEL (086)226-3501
- ・ 内容
 - ・ 「岡山オルガノン」の概要説明（15分）
 - ・ 連携校の紹介（45分）
 - ・ 県内大学の優れた取組事例紹介（40分）
 - 加計グループ大学： 加計教育コンソーシアムによる遠隔授業
 - 岡山大学： 学生参画によるFD活動
 - 岡山商科大学： 産学官連携教育科目「ボランティアプロフェッサ」
 - 中国学園大学： 「キャリア形成講座」
 - ・ 特別講演（60分）
 - 前年度採択戦略GP（大学コンソーシアム石川）
 - 今年度採択戦略GP（岐阜県、福島県）
 - 今年度選定委員会（北原委員長）
 - 著名人（ ）

(3) 共同FD・SDシンポジウムの開催

- ・ 日時 平成22年1月23日（土）
- ・ 場所 未定
- ・ 内容
 - ・ 連携大学のFD活動の事例報告（岡山大学、 、 ）
 - ・ 連携大学のSD活動の事例報告（岡山理科大学、 ）
 - ・ 特別講演
前年度連携GP採択校（愛媛大学）

(4) 各運営委員会の立ち上げ

- ・ 10月中旬に各運営委員会のメンバを確定させる。

- ・各連携校は必ずどれかの運営委員会に参加し、事業推進に向けた取組に協力する。

(5) 各サテライトオフィスの立ち上げ

- ・9月中には各サテライトオフィスを立ち上げる。
- ・コーディネータおよび事務補佐員の採用については、各大学の判断に任せる。

(6) TV 会議システムの導入

- ・HD 対応のカメラとコントローラ (SONY PCS-XG80) を機種指定で認可されているので、導入は大学教育連携センターの主導で行う。また、Bフレッツを用いた VLAN による閉じたネットワーク環境を用いるシステム構成を想定しているため、業者選定は大学教育連携センターで行い、実契約は各連携校単位で行う方式を採用する予定である。
- ・別途、各大学は運用経費負担が発生することを了解していただきたい。
B フレッツ回線使用料+IP-VPN サービス利用料=9,200 円+3,740 円=12,940 円/月
- ・12月までに各連携校への導入を終え、1月にはライブ授業の配信実験を行う。

(7) e-Learning 教育の実施準備

- ・9月中に単位互換協定の締結準備と、遠隔授業による単位認定制度の導入を各連携校に依頼を出す。
- ・10月にコンテンツサーバおよびLMS 実行サーバの管理業者を決定する。
LMS は MOMOTARO (岡山理科大学開発システム) とする。
- ・10月中旬に次年度配信する VOD 教材を選定する。
加計教育コンソーシアムより1~2科目の提供を受ける。
新規に1~2科目の選定を行う。
- ・1月~3月に各連携校で e-Learning 受講講習会を実施する。

(8) 遠隔授業用のパソコンの導入

- ・共通の基本仕様を大学教育連携センターで決定する。その後、各連携校が導入可能業者に連絡し、提案書および見積書を提出させ、審査して導入業者を決定する。したがって、パソコンの導入業者は各連携校の判断に任せる。
- ・2月中には設置・導入を終え、3月中には遠隔授業の受信実験を行う。

(9) VOD コンテンツ作成

- ・10月中にコンテンツ作成方式を決定する。
外部委託方式
学生主体のコンテンツ作成グループを組織し、技術指導を行い、コンテンツ作成する方式
- ・11月には新規教材の作成を開始する。



第2回大学教育連携センター・サテライトオフィス担当者会議

- 1 日 時 平成21年10月20日(火) 15:30~17:30
- 2 場 所 岡山理科大学 第1会議室(9号館3階)
- 3 参 加 者 センターおよび各オフィス 代表者、コーディネーター、事務補佐(事務担当)
- 4 議 題 案
 - (1) 運営委員会について
 - ①各オフィス設置の委員会について
 - ②各大学からの委員募集について
 - (2) 大学教育連携センター設立記念シンポジウムの開催について
 - ①シンポジウム名称について
 - ②特別講演の講師について
 - ③連携校の優れた取組事例紹介について
※タイトルおよび発表者は10月30日までに連絡してください
 - ④業務内容・役割分担について
 - ⑤学長の出席および動員について
 - (3) 平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラムについて
 - ①出展について
 - ②各大学教職員の動員について
 - (4) その他
 - ①学生アルバイトの謝金・給与単価について

5 出席者一覧

大学名	職名	氏名
岡山大学	教授	橋本 勝
	主査	石井 利明
	専門職員	簗島 素子
岡山商科大学	産学官連携センター長	大崎 紘一
	コーディネーター	矢延 里織
	事務補佐	荒木 智子
中国学園大学		※都合により欠席
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村 宏
	総合情報学部教授	竹内 渉
	学外連携推進室次長	金子 典正
	コーディネーター	佐藤 大介
	事務補佐	大本 勝子



第1回コーディネーター会議

1 日 時 平成21年11月27日(金) 15:00~16:00

2 場 所 岡山理科大学 11号館 8階 会議室

3 参加者 代表者、コーディネーター、事務補佐員

4 議題案

- (1) コーディネーター・事務補佐員の自己紹介
- (2) 岡山大学オフィス コーディネーターによる小講演
- (3) 設立記念シンポジウムの打ち合わせ
 - ①当日の進行について
 - ②役割分担について
- (4) その他

5 出席者一覧

大 学 名	職 名	氏 名
岡山大学	専門職員	簗 島 素 子
	岡大オフィスコーディネーター	遠 山 和 大
	岡大オフィス事務担当	小 林 祐 也
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長/商大オフィス室長	大 崎 紘 一
	産学官連携センター/商大オフィス主任	中 村 裕
	商大オフィスコーディネーター	矢 延 里 織
	商大オフィス事務補佐員	荒 木 智 子
中国学園大学	地域連携センター長	飯 田 哲 司
	中国学園コーディネーター	桑 田 朋 美
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏
	センターコーディネーター	佐 藤 大 介
	センター事務補佐	大 本 勝 子



第2回コーディネーター会議

- 1 日 時 平成21年12月25日(金) 15:30~17:00
 - 2 場 所 岡山理科大学 第1学舎 1階 大学コンソーシアム岡山事務局内
 - 3 参 加 者 コーディネーター、事務補佐員、その他関係者
 - 4 議 題 案
 - (1) 各オフィスの進捗状況報告
 - ・岡山大学オフィス
 - ・岡山商科大学オフィス
 - ・中国学園大学オフィス
 - ・大学教育連携センター
 - (2) 今年度の事業(2010/01~03)について
 - [共通計画] 2010/01/07~01/08 「大学教育改革プログラム合同フォーラム」参加
 - 2010/01/18 テレビ会議システム試験配信
 - 2010/01 中~下 第1回岡山オルガノン代表者委員会の開催
 - 2010/02? 文部科学省「平成22年度補助金調書」作成・提出
 - 2010/03/08? 第1回連携評価委員会(大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催予定)
 - 2010/03/14 「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」開催
 - 2010/04/10 文部科学省「平成21年度補助金実績報告書」作成・提出
- [岡山大学オフィス]
- ・運営委員会の開催
 - ・単位互換制度、教養教育科目の検討
 - ・吉備創生カレッジへのSD活動事業の委託内容の検討

[岡山商科大学オフィス]

- ・テレビ会議システムの試験配信
- ・川崎医科大学様が提供予定のライブ配信科目の検討
- ・地域活性化委員会の開催

[中国学園大学オフィス]

- ・実践的キャリア指導チームの編成およびチーム会議の開催
- ・キャリア形成講座の発展型事業の検討
- ・運営委員会の検討

[大学教育連携センター]

- ・「岡山オルガノン代表者委員会」「連携評価委員会」の設置および開催
- ・大学教育連携センター運営委員会、e-Learning 運営委員会の開催
- ・LMS および VOD 等のサーバー等管理業者の選定および契約
(ランニングコストについて連携校に相談)
- ・ICT 活用教材作成講習会の開催、コンテンツの作成
- ・次年度導入予定の MCU (多地点接続装置) の検討
- ・連携校の予算執行状況の確認および方針提示
- ・ホームページの充実化 (<http://okayama-organon.jp>)

(3) 平成 22 年度の事業について

(4) その他の事項について

- ・コーディネーターの連絡先について

5 出席者一覧

大 学 名	職 名	氏 名
岡山大学	岡大オフィスコーディネーター	遠 山 和 大
岡山商科大学	商大オフィスコーディネーター	矢 延 里 織
	商大オフィス事務補佐員	荒 木 智 子
中国学園大学	中国学園大学オフィス代表	飯 田 哲 司
	中国学園大学オフィスコーディネーター	桑 田 朋 美
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木 村 宏
	センターコーディネーター	佐 藤 大 介
	センター事務補佐	大 本 勝 子



第3回コーディネーター会議

- 1 日 時 平成22年1月29日(金) 15:30~17:00
- 2 場 所 岡山大学 一般教育D棟1階 岡山オルガノン 岡大オフィス
- 3 参加者 コーディネーター、事務補佐員、その他関係者

4 議題案

(1) 各オフィスの進捗状況報告

- ・岡山大学オフィス

- ・岡山商科大学オフィス

- ・中国学園大学オフィス

- ・大学教育連携センター

(2) 今年度の事業(2010/02~03)について

- 2010/02 中旬 文部科学省「平成22年度補助金調書」作成・提出
- 2010/02 下旬? 「ICT教材作成活用講習会」実施 (e-Learning運営委員会において)
- 2010/03/14 「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」開催
- 2010/03/15 第1回連携評価委員会 (大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催予定)
- 2010/04/10 文部科学省「平成21年度補助金実績報告書」作成・提出

(3) その他の事項について

5 出席者一覧

大学名	職名	氏名
岡山大学	岡山大学オフィスコーディネーター	遠山和夫
岡山商科大学	岡山商科大学オフィスコーディネーター	矢延里織
	岡山商科大学オフィス事務補佐員	荒木智子
中国学園大学		
岡山理科大学	大学教育連携センターコーディネーター	佐藤大介



第4回コーディネーター会議

- 1 日 時 平成22年3月4日（金）10：00～12：00
- 2 場 所 岡山商科大学 附属図書館6階 社会総合研究所「多目的室」
- 3 参加者 コーディネーター、事務補佐員、その他関係者
- 4 議題案
 - (1) 連携評価委員会について
 - ・テレビ会議システムのプレスリリースについて
 - ・取組報告者について
 - ・報告書に関する資料提供について（提出締切：3月11日（木）17:00まで）
 - (2) 実績報告書に関する検討
 - ・記載事項の整合性について
 - ・費目別収支決算書および処分制限財産整理簿の提出について
 - (3) 単位互換制度に関する連携校における同意書について
 - (4) 業務委託契約に関する検討
 - ・業務委託契約書の内容について
 - (5) 今年度の事業（2010/03～）について
 - 2010/03/14 「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」開催
 - 2010/03/15 第1回連携評価委員会（大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催予定）
 - 2010/03/23 第1回地域活性化委員会
 - 2010/03 下旬? 「ICT教材作成活用講習会」実施（e-Learning運営委員会において）
 - 2010/03 下旬 文部科学省「補助金交付内定額」通知
 - 2010/04 中 文部科学省「補助金交付」決定通知
 - 2010/04/10? 文部科学省「平成21年度補助金実績報告書」作成・提出
 - 2010/04/30? 文部科学省「支出簿、対比表、各種調書」作成・提出
 - 2010/06 文部科学省「補助金の振込時期」

(6) その他の事項について

- ・「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」での役割分担について
- ・取組全体のパンフレットについて
- ・単位互換のちらしについて
- ・来年度事業の開催日程設定に関する注意
- ・次回のコーディネーター会議日程について

日時：平成22年 月 日（ ） ～

場所：

5 出席者一覧

大学名	職名	氏名
岡山大学	岡山大学オフィスコーディネーター	遠山和夫
岡山商科大学	岡山商科大学オフィスコーディネーター	矢延里織
	岡山商科大学オフィス事務補佐員	荒木智子
中国学園大学	中国学園大学オフィス代表	飯田哲司
	中国学園大学オフィスコーディネーター	桑田朋美
岡山理科大学	大学教育連携センターコーディネーター	佐藤大介
	大学教育連携センター事務補佐員	大本勝子



第1回岡山オルガノン代表者委員会

1 日 時 平成22年1月22日(金) 15:30~17:30

2 場 所 岡山理科大学 第27号館 2階 セミナー室

3 参加者 岡山オルガノン代表者委員会委員

4 議題案

(1) 議長の選出について

(2) 今年度の事業の進め方について

- ・連携評価委員会の委員委嘱および開催 【資料1】
- ・各種運営委員会における協議の継続 【資料2】
- ・今年度の実績報告書・事業報告書等の作成 【資料3】
- ・次年度導入予定のMCU(多地点接続装置)の検討
- ・ホームページおよび広報用パンフレットの作成

(3) 来年度の調書作成および事業内容について

- ・文部科学省からの補助金調書作成準備依頼 【資料4】

(4) 経費および今後のランニングコストについて

- ・回線使用および学習管理システムに関する費用 【資料5】

(5) その他の必要な事項について

5 報告事項

- (1) 大学教育連携センター
- (2) 岡山大学オフィス
- (3) 岡山商科大学オフィス
- (4) 中国学園大学オフィス

6 岡山オルガノンの共通計画（この他運営委員会等は随時開催）

2010/02 中旬 文部科学省「平成 22 年度補助金調書等」提出期限

2010/03/14 「第 1 回岡山オルガノン FD・SD シンポジウム」開催

2010/03/15 第 1 回連携評価委員会（大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催）

2010/04/10 文部科学省「平成 21 年度補助金実績報告書等」作成・提出

7 岡山オルガノン代表者委員会委員および代理出席者一覧

大 学	所属・職名	氏 名	出欠確認
岡山大学	教育開発センター教授	橋 本 勝	欠席
岡山県立大学	デザイン学部教授	子野日 俊 夫	出席
岡山学院大学	キャリア実践学部教授	河 崎 雅 人	欠席
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大 崎 紘 一	出席
岡山理科大学	総合情報学部教授	竹 内 渉	出席
川崎医科大学	衛生学教授	大 槻 剛 巳	欠席
	学務課庶務係主任	川 西 礼 美	代理出席
川崎医療福祉大学	副学長	安 藤 正 人	出席
環太平洋大学	副学長	中 原 忠 男	欠席
	教授	柿 原 聖 治	代理出席
吉備国際大学	社会学部長	加 藤 健 次	出席
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小 山 悦 司	出席
くらしき作陽大学	音楽部教授	加 藤 充 美	出席
山陽学園大学	社会サービスセンター長	澁 谷 俊 彦	欠席
	事務局長	玉 木 誠	代理出席
就実大学	人文科学部教授	桑 原 和 美	出席
中国学園大学	学長補佐	飯 田 哲 司	欠席
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加 藤 正 春	出席
大学教育連携センター	センター長	木 村 宏	出席
大学教育連携センター	コーディネーター	佐 藤 大 介	出席
岡山大学オフィス	コーディネーター	遠 山 和 大	出席
岡山商科大学オフィス	コーディネーター	矢 延 里 織	出席
中国学園大学オフィス	コーディネーター	桑 田 朋 美	欠席



第2回岡山オルガノン代表者委員会

1 日 時 平成22年2月25日(木) 11:00~12:30

2 場 所 岡山理科大学 第27号館 2階 セミナー室

3 参加者 岡山オルガノン代表者委員会委員

4 議題案

(1) 議長の選出について

(2) 岡山オルガノン代表者委員会要項について 【資料1】

・委員長の選出について

(3) 平成22年度補助金調書等について

・作成経緯の説明

・平成22年度補助金調書等について 【資料2-1】

・平成23年度の事業展開について 【資料2-2】

(4) 経費および今後のランニングコストについて 【資料3】

・LMS ユーザーライセンスに関する費用

・多地点接続装置に関する費用

(5) 連携評価委員会について 【資料4】

(6) 実績報告書の作成について 【資料5】

(7) その他の必要な事項について

5 岡山オルガノンの共通計画 (この他運営委員会等は随時開催)

2010/03/02 文部科学省「平成22年度補助金調書等」提出締切

2010/03/14 「第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」開催

2010/03/15 「第1回連携評価委員会」開催 (大学コンソーシアム岡山代表者会議と同日開催)

2010/04/10 文部科学省「平成21年度補助金実績報告書等」作成・提出

2010/04/30 文部科学省「支出簿、対比表、各種調書」作成・提出

6 岡山オルガノン代表者委員会委員および代理出席者一覧

大 学	所属・職名	氏 名	出欠確認
岡山大学	教育開発センター教授	橋 本 勝	出席
岡山県立大学	デザイン学部教授	子野日 俊 夫	欠席
	事務局主幹	倉 田 太 吾	代理
岡山学院大学	キャリア実践学部教授	河 崎 雅 人	欠席
	事務部長、経理課長	高 田 豊	代理
岡山商科大学	副学長・産学官連携センター長	大 崎 紘 一	欠席
	産学官連携センター主任	中 村 裕	代理
岡山理科大学	総合情報学部教授	竹 内 渉	出席
川崎医科大学	衛生学教授	大 槻 剛 巳	欠席
	庶務係主任	川 西 礼 美	代理
川崎医療福祉大学	副学長	安 藤 正 人	出席
環太平洋大学	副学長	中 原 忠 男	出席
吉備国際大学	社会学部長	加 藤 健 次	欠席
倉敷芸術科学大学	教育研究支援センター所長	小 山 悦 司	出席
くらしき作陽大学	音楽部教授	加 藤 充 美	出席
	教育支援室室長	松 下 訓 康	陪席
山陽学園大学	社会サービスセンター長	澁 谷 俊 彦	出席
就実大学	人文科学部教授	桑 原 和 美	出席
中国学園大学	学長補佐	飯 田 哲 司	欠席
	経理課事務	小 林 正 明	代理
ノートルダム清心女子大学	人間生活学部教授	加 藤 正 春	出席
大学教育連携センター	センター長	木 村 宏	出席
	コーディネーター	佐 藤 大 介	出席
岡山大学オフィス	コーディネーター	遠 山 和 大	出席
岡山商科大学オフィス	コーディネーター	矢 延 里 織	出席
	事務補佐員	荒 木 智 子	陪席
中国学園大学オフィス	コーディネーター	桑 田 朋 美	欠席

岡山オルガノン コーディネート記録

日 時	2010年1月27日(水) 14:00~18:45
場 所	立命館大学 衣笠キャンパス
会議名称	立命館大学 衣笠キャンパス 遠隔講義視察 報告書
出席者	(役職)岡山大学オフィス コーディネーター (氏名) 遠山 和大 (役職)岡山大学オフィス 事務補佐員 (氏名) 小林 祐也 (役職)岡山商科大学オフィス コーディネーター (氏名) 矢延 里織
会議・打合せ 内容	<ol style="list-style-type: none"> 1. SONY テレビ会議システムの用途について <ol style="list-style-type: none"> (1) 単位互換科目の遠隔講義 (2) 会議 (3) 講演会のコラボレーション (4) 慶応大学の学生とコラボレーション (5) ドイツ、ニュージーランド等の提携校と海外交流 (6) その他 2. SONY テレビ会議システムを使用したライブ講義について <ol style="list-style-type: none"> (1) 学部では単位互換科目講義は行っていない。まだ必要性が浸透していない。 (2) 大学院で単位互換科目を2科目配信している。 (3) 3キャンパス間で配信している。 (4) 夜の講義は全キャンパス同時間帯で開講されている。 (5) 受信側も配信側の講義を録画できる。 (6) 各授業にTAは必ず1名配置して機器操作を行う。 3. 出席管理について <ol style="list-style-type: none"> (1) 教員によってやり方は異なるが、返事、出席メモへ記入、スクリーンへ学生の顔を映して確認する等の方法で出席確認を行っている。 4. 成績管理について <ol style="list-style-type: none"> (1) 受信するキャンパスの担当者が成績評価をする。 5. 試験管理について <ol style="list-style-type: none"> (1) 受信するキャンパスのスケジュールに合わせてレポート試験をする。 6. 連絡体制について <ol style="list-style-type: none"> (1) 休講の場合、キャンパスの事務所間で連絡を取り掲示板へ掲示、学生にEmailで通知する等対応している。 7. 機器について

	<p>(1) 総合窓口は SONY。SONY を通してマルチベンダーがサポートを行う。</p> <p>(2) 主な機器構成。</p> <ul style="list-style-type: none">① SONY テレビ会議システム 2台 (1つは予備)② 教員、学生用カメラ (天井) 1台ずつ③ 学生用液晶表示装置 (教室前) 2台④ 学生用液晶表示装置 (教室中間) 2台⑤ 学生用 PC カメラ 各 PC へ設置⑥ 学生用ワイヤレスマイク 各学生⑦ 教員用モニタ (天井) 1台⑧ 教員用モニタ (教卓) 3台 (管理用、教員用、AV 操作用) その他モニタ (教卓) 2台 (他キャンパス表示画面表示用)⑨ 教員用 PC (教卓) 1台⑩ 操作パネル (タッチパネル) 1台⑪ ワイヤレス、ワイヤードマイク⑫ AV 機器 (XGA 解像度スキャンコンバータなど) <p>(3) 卓へ設置した各機器は全キャンパス統一し、同じ順番で配置することにより教員の操作性やサポート対応に配慮している。</p> <p>(4) システムのリモコンは使わず、機器操作はカスタマイズ仕様の操作パネル (タッチパネル) を使用し、どんな教員でも使えるよう使いやすくしている。</p> <p>(5) タッチパネルの表示言語は日本語と英語に切り替えられる。</p> <p>(6) 教員と学生のカメラを2つ天井に設置している。ホワイトボードや黒板のそばに約 5 か所ボタンを付けて、ボタンを押すと教員カメラがそこへ向くようプリセットしてある。</p> <p>(7) 教卓にあるカメラコントローラーを操作してカメラ線を合わせる。</p> <p>(8) 臨場感を出すために、オフラインでしゃべっている声や黒板に書いているチョークの音を拾うよう四音マイクを教室天井の左右に 2 か所付けている。</p>
--	--

	<p>8. VOD 講義について</p> <p>(1) 単位互換全科目が LMS に自動的に登録される。VOD 講義にしたい教員がコンテンツ作成し、アップロードする。</p> <p>(2) 講義配布資料は、LMS へアップロード・ダウンロードする。</p> <p>(3) コンテンツは WEB CT を使っているが使用性が悪いので、検討している。</p> <p>9. ネットワーク回線について</p> <p>(1) キャンパス内は IIJ で広域利用。</p> <p>(2) 他キャンパス間はダークファイヤーで 1 G 利用。</p> <p>10. マニュアルについて</p> <p>(1) 操作マニュアルと障害対応マニュアルを作成し、全キャンパスで同じものを使用している。</p> <p>(2) 障害対応マニュアルはシステムチームがマニュアルを改訂している。</p> <p>11. システム障害時の対応について</p> <p>(1) システムチームが出張して指導する。または、携帯電話で対応する。</p>
発言・対応	
配布資料	(1)
記録者	矢延 里織
内部処理	(1)
承認 1	承認 2

新規関係者情報

企業名・大学名	立命館大学 情報システム部 情報基盤課 課長 武田 龍馬 (たけだ りょうま)
住所	〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
電話番号	075-465-8275
F A X	075-465-8276
ホームページ	http://www.ritsumei.jp/index_j.html
メールアドレス	Ryoma-t@st.ritsumei.ac.jp
企業名・大学名	立命館大学 情報システム部 情報基盤課 課長 倉科 健吾 (くらしな けんご)
住所	〒603-8577 京都市北区等持院北町 56-1
電話番号	075-465-8226
F A X	075-465-8276
ホームページ	http://www.ritsumei.jp/index_j.html
メールアドレス	kengok@st.ritsumei.ac.jp

写真

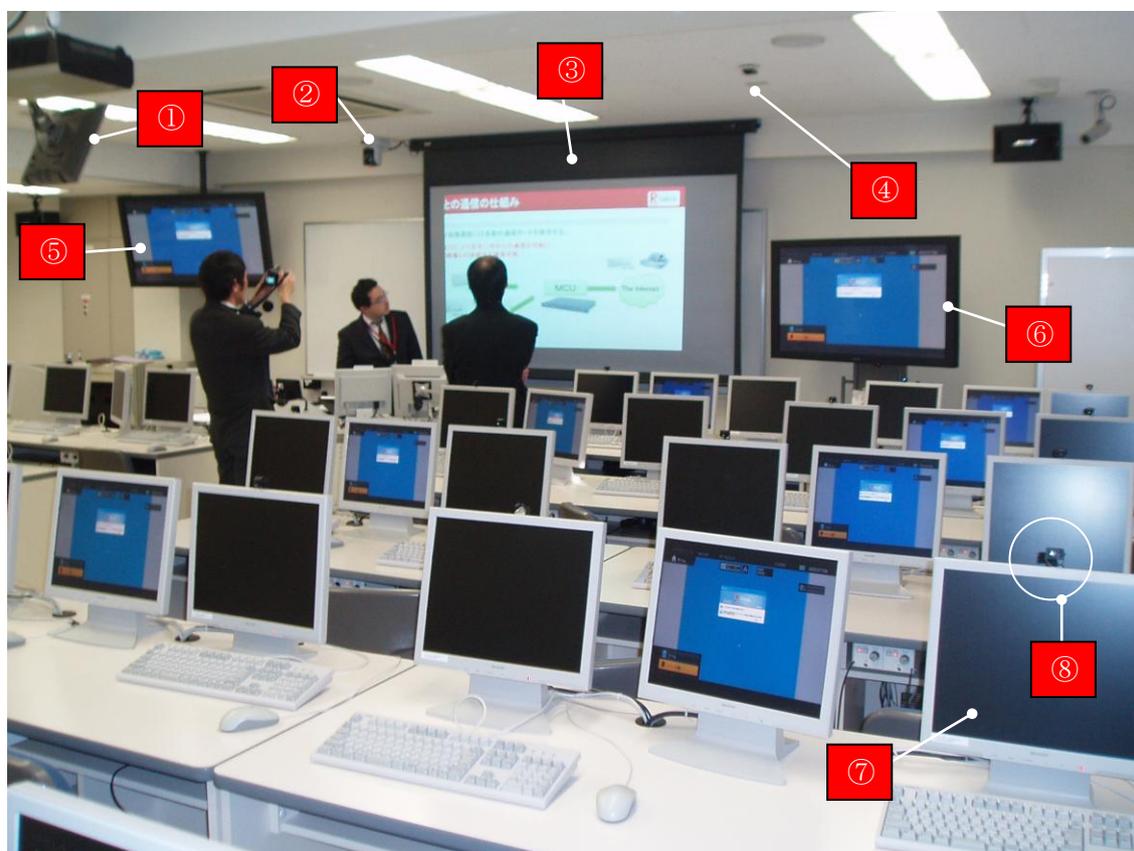
TV 会議システム ライブ講義配信教室

日時：平成 21 年 1 月 27 日（水）

場所：立命館大学 衣笠キャンパス 3 教室（キャンパス間大学院講義）

装置：SONY PCS-XG80（HD 高画質、最大 4 地点接続 MCU 内蔵）

教室 1



① 教員用表示モニター

② 学生撮影用 HD カメラ

③ センタースクリーン

④ 集音マイク

⑤ プラズマディスプレイ①

⑥ プラズマディスプレイ②

⑦ 学生用 PC

⑧ 学生用 Web カメラ



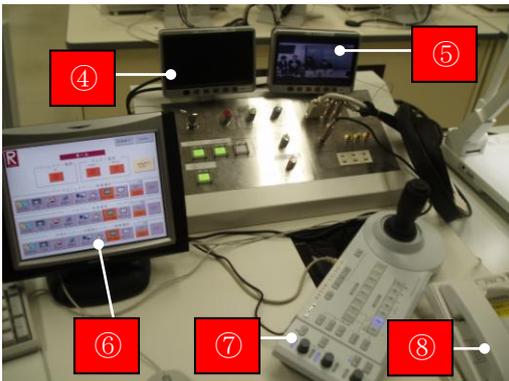
教卓

- ・ 機器類の設置場所は全キャンパス統一



教卓

- ① 管理用モニター
- ② 教員用 PC モニター
- ③ AV 確認用モニター



教卓

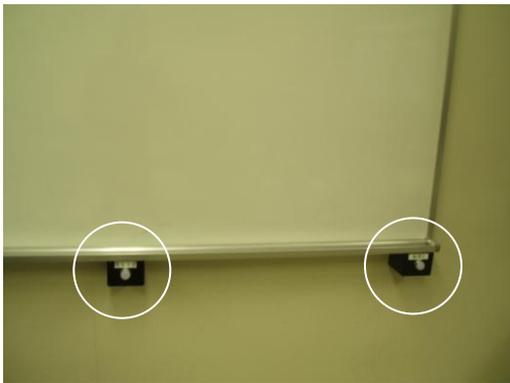
- ④ 他キャンパス表示画面表示用モニター①
- ⑤ 他キャンパス表示画面表示用モニター②
- ⑥ 操作タッチパネル・システム (カスタイズ仕様)
- ⑦ カメラコントローラー
- ⑧ 電話機 (各教室に設置、トラブル時連絡用)



- ⑨ 教員撮影用 HD カメラ
- ⑩ カメラ映像表示用モニター



学生撮影用 HD カメラ



カメラプリセットボタン

ホワイトボード下へ4つのボタンを設置。
ボタンを押した位置へカメラが自動撮影。



センタースクリーン

- ・外光吸収型スクリーン
- ・ワイド画面への対応
- ・照明を消さずに使える輝度

教室 2



表示液晶ディスプレイ (学生用)



教卓

TV 会議システム 2 台 (冗長化構成)

教室 3



マイク (学生用)

位置がプリセットされており、発言するとカメラが自動撮影。

「国公立大コンソーシアム・福岡」テレビ会議システム視察 報告書

文責：佐藤 大介

日 時：平成22年2月1日（月）10：30～14：30
場 所：福岡工業大学（福岡県福岡市東区和白東3丁目30番1号）
参加者：（岡山理科大学）佐藤大介
（岡山商科大学）大崎紘一、矢延里織、三浦尚子、伍賀千恵
対応者：小川滋、渡辺亮太、古賀照久、石川康則、木村由紀（国公立大コンソーシアム・福岡）、奥正継、中島良二（福岡工業大学）
※敬称は省略させていただきます

授業観察・教室見学

- ・テレビ会議システムとして、POLYCOM を使用し、回線は連携校では SINET、東京サテライト（コラポ産学官ビル内）は B フレッツを活用し、帯域 2MB 程度を確保している。
- ・カメラは、学生撮影用と、教員撮影用があり、特に教員撮影用では、PPT を見ながらの指示等がある場合先生の動きを把握することが必要であるため、必須であると考えている。
- ・モニター（16:9 対応）は 3 台（カメラ用、パソコン画面用、ビデオ用）設置している。パソコン画面用モニターはタッチパネル方式で、双方向でのやりとりが可能である。ただし、若干小さいので 2 代目の導入も検討している。
- ・教卓には、専用操作パネルと OHC、専用パソコンが設置されており、専用操作パネルにより操作の簡略化・単純化を図っている。操作パネルは業務委託により開発してもらっているが、開発費・改修費等かなり高額である。
- ・パソコンの画面はスクリーンショットのフレーム配信であった
- ・マイクは半径 5m 程度で音声を集音し、教室に 2 台設置し、学生の前に個別には於いていなかった。音響設備は学内の既存のものは使用せず、カメラ用モニターの音声出力からのみであった。授業中は配信先のマイクと PC 音の両方とも聞こえていた。集音性は高く、教室外の音（パトカーのサイレン）も聞こえた。ボリュームの大きさは適宜 TA が操作していた。
- ・教室は 16 名で、受講者は 1 名のみであり、西南学院大学から福岡工業大学に配信される「流通論特殊講義」（10:40～12:10）の一部を見学した。授業は学生が IE を使用したプレゼンテーション（PPT は使用しなかった）であった。

協議

- ・国公立大コンソーシアム・福岡における戦略 GP の経緯と取り組みについて概要説明を受けた。
- ・佐藤より、岡山オルガノンの取り組みについて概要説明を行った。

質疑応答

- ・出席管理について

「レポート提出」「その場で」「自己申告」の3パターンが主。ただし、受講生が多くないためこのような方式としている。

- ・配布資料について

資料はホームページからダウンロードをしてもらう。その際はパスワードが必要である。また、資料は事務の方で印刷している。

- ・休講・補講の連絡について

ホームページまたは学生に直接連絡している（少人数のため）。

- ・評価方法について

担当教員の判断でお行き、事務には最終成績を素点で提出してもらう。レポートの提出方法についても担当教員が指示した方法により、例えばメール等が活用されている。

- ・時間割について

まだ課題が残っている。配信する大学の時間割に合わせているが、大学院なので比較的融通が利いている。

- ・TA等について

オペレーション担当を置いている。数大学に1人でのような形も可能である。カメラは担当者が操作するが、それぞれの大学が勝手に操作をするとうまくいかなくなってしまった。マニュアルについては作成しても担当教員にどこまで周知するかの問題もあるため、その場で操作を覚えてもらっている。

- ・テレビ会議システムの授業外での使用法について

ワーキンググループの会議（実際には音声と画像の時差がありやりにくかった）、セミナー前の打ち合わせ、緊急の会議など。公開講座では利用していない。

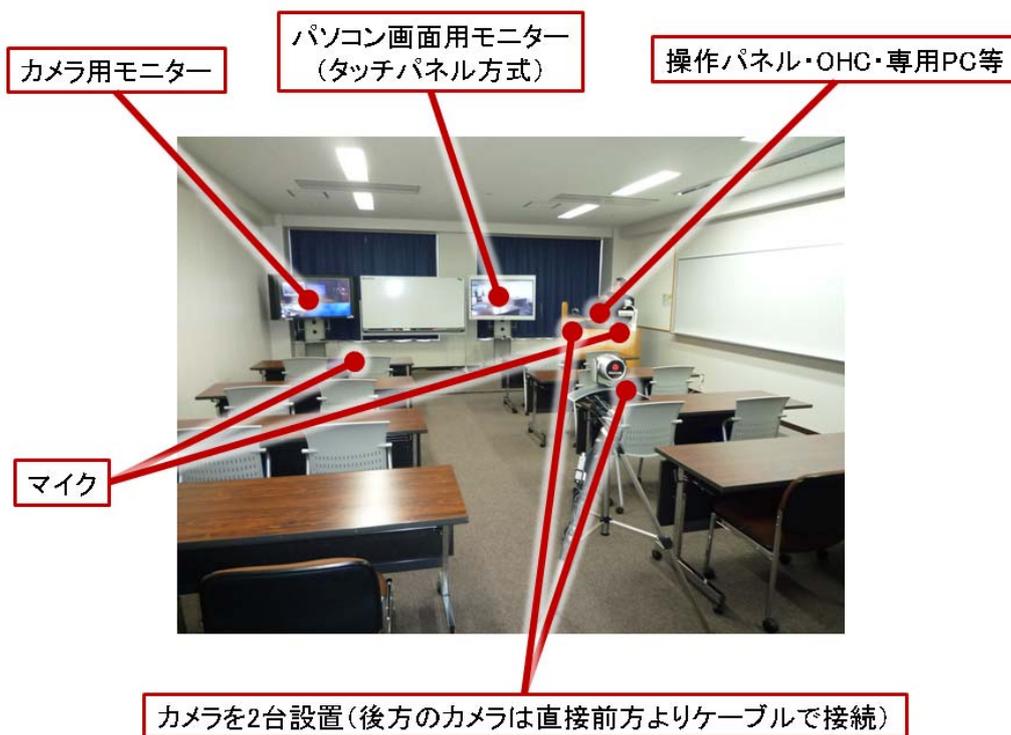
- ・広報活動・教員への対応について

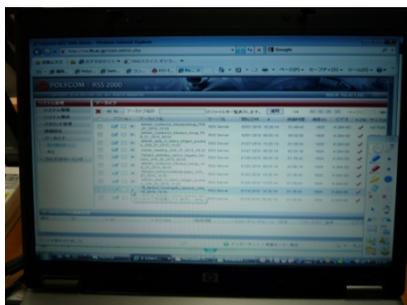
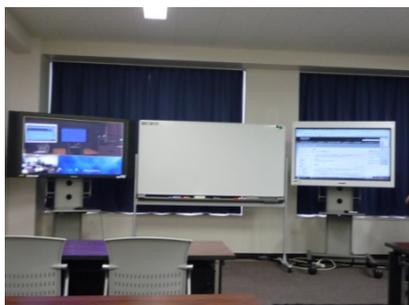
FDとして、対象学年や学生の基礎知識の違いなども他大学と調整する必要があるため、機器の使い方も含めて、研修を行う必要がある。また、リーフレットを作成し、教員に周知、研究科で配布、学生のオリエンテーションで説明を行っている。

<岡山オルガノンとの関連>

テレビ会議システムの本格導入に向けて、多々参考になることが多かった。自動講義収録によりオルガノンで取り組むVOD方式のe-Learningにつなげることが可能であり、また効率的なVODコンテンツの作成も可能となる。担当教員に対しても、他大学との指導内容の整合性も考えたり、テレビ会議システム活用授業の特性を理解したりするためにも、日ごろから実際のライブ型遠隔授業を参観するなど、連携校が一体となって指導法改善を図る必要も感じた。さらに、実際の運用においてトラブルが発生した時は「声が聞こえません」などのメッセージボードをあらかじめ準備しておき、対応する方法は大変参考になり、オルガノンでも導入したいと思う。

(文責：佐藤大介)





文部科学省 平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業

| [ホーム](#) | [携帯サイト](#) | [お問い合わせ](#) |

Organon 『岡山オルガノン』の構築

— 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 —

岡山オルガノン科目
開講案内・履修案内

学生の皆様

社会人・地域の皆様

教職員の皆様



▶ オルガノンの取組

▶ 取組状況

▶ 連携校紹介

▶ 資料アーカイブ

▶ 活動情報

▶ リンク

▶ お問い合わせ



TOPICS

最新 14□□



表示すべき新着情報はありません。

②関連資料

②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン(仮称)」
の開催

【資料1】企画概要資料

【資料2】広報用ちらし

【資料3】配布冊子

【資料4】参加人数資料

大学教育連携センター設立記念シンポジウム 企画概要

1 実施趣旨

学生や地域住民、大学教職員が共同で参画できる事業実施を目指して、大学教育連携センター設立記念シンポジウムを開催し、本取組を広く認知してもらおう。同時に、広報用パンフレットを作成し多方面への配布に取り組む。このシンポジウムの開催により、本取組の趣旨及び事業概要を広く一般（学生、地域住民、大学教職員も含む）に説明する場として活用され、連携校だけではなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。

2 名 称 「ハッシン！岡山オルガノン」

3 開催日時 平成 21 年 11 月 29 日（日） 13:00～16:00 ※受付開始時間 12:30

4 会 場

岡山県総合福祉会館 1階 大ホール メイン会場（収容定員 450名）
1階 ホール控室 講師、学長控室（収容定員 8名程度）
4階 特別会議室 昼食、発表者打ち合わせ・控室（収容定員 16名）

〒700-0813 岡山市北区石関町 2-1 TEL：086-226-3501 FAX：086-226-3502

※会場予約 9:00～17:00

5 参加費 無料

6 進行計画

9:00 センター・学生スタッフ集合（会場）
9:00～11:00 会場設営・音響確認等
11:00 連携校・VOD スタッフ集合（会場）
11:00～11:45 スタッフ昼食、最終打ち合わせ
12:00～12:45 講師、学長、発表者打ち合わせ会（4階特別会議室）
12:30～ 受付開始
13:00～13:20 開会式 挨拶
岡山理科大学 波田善夫学長 → 豊田真司副学長
岡山大学 千葉喬三学長 → 佐藤豊信副学長
岡山商科大学 井尻昭夫学長
中国学園大学 松畑熙一学長
岡山県 古矢博通副知事
13:20～13:35 『『岡山オルガノン』の構築』概要説明（佐藤大介コーディネーター）
13:35～14:20 連携校の優れた取組事例紹介

①岡山理科大学「加計サイバーキャンパスを支える LMS・MOMOTARO について」
(総合情報学部情報科学科 教授 大西 荘一 氏)

②岡山大学「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』
—学生参画による FD の活性化—」
(教育開発センター 教授 橋本 勝 氏)

③岡山商科大学「産学官連携教育
— (社) 岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー講義について—」
(副学長・産学官連携センター長 大崎 紘一 氏)

④中国学園大学「人材育成教育～実践的キャリア形成講座のあゆみ～」
(地域連携センター長 飯田 哲司 氏)

※各発表者 10 分・PowerPoint を活用する

※題目および発表者連絡締切：10 月 30 日・原稿提出締切：11 月 10 日

14:20～14:30 休憩

14:30～15:50 特別講演

演題：学生とともに作る授業、学生とともに進める FD

講師：木野 茂 氏 (立命館大学 共通教育推進機構 教授)

15:50～16:00 閉会式 挨拶 (木村宏センター長)

16:00～17:00 片付け

17:00 スタッフ解散

17:30～20:00 意見交換会「又来軒」

岡山県岡山市北区本町 6-36 第一セントラルビル B1F

TEL：086-227-6655 FAX：086-227-6639

予約内容：5,250 円ファミリープラン (8 名→7 名に変更)

7 講師案

<木村宏案>

- ・前年度採択戦略 GP (大学コンソーシアム石川)
- ・今年度採択戦略 GP (岐阜県、福島県)
- ・今年度選定委員会 (北原委員長)
- ・原 清次 (佛教大学 GP 推進室長)
- ・八木 透 (佛教大学 FD 開発推進センター長)
- ・富野暉一郎 (日本福祉大学学長)

<橋本勝先生案>

大学教育関係者：

- ・絹川正吉 (元 ICU 学長、新潟大学学外理事、特色 GP 審査委員長) *学会
- ・寺崎昌男 (前大学教育学会会長、東京大学名誉教授) *学会
- ・金子元久 (東京大学教授、『大学の教育力—何を教え、学ぶか』著者)
- ・佐藤良明 (元東京大学教授、文芸・音楽評論家)
- ・小田隆治 (山形大学教授、大学連携組織「樹氷」「つばさ」創始者) *学会×

- ・荻上紘一（元東京都立大学総長、大学セミナーハウス館長）
- ・館 昭（日本高等教育学会会長）
- ・小笠原正明（大学教育学会会長）＊学会
- ・安岡高志（立命館大学教授、“授業評価アンケートの父”）＊学会
- ◎木野 茂（立命館大学教授、“学生FDサミット”の仕掛け人）＊学会
- ・圓月勝博（同志社大学教授、圓月節で知られる講演の名手）＊学会

一般的著名人：

- ・樋口裕一（『頭がいい人、悪い人の話し方』著者）
- ・北折 一（NHK番組「ためしてガッテン」演出担当デスク）＊交渉次第で可能
- ・昇 幹夫（日本笑い学会副会長、産婦人科医）
- ・石渡嶺司（『最高学府はばかだらけ』『就活のバカヤロー』著者）

8 後援等申請団体・機関

岡山県、岡山県教育委員会、岡山市、倉敷市、高梁市、総社市、岡山県経済団体連絡協議会、岡山経済同友会、大学コンソーシアム岡山、山陽新聞社、山陽放送

ハッジン! 岡山オルガノン

大学教育連携センター
設立記念シンポジウム



特別講演

立命館大学
共通教育推進機構

教授 **木野 茂** 氏

「学生とともに作る授業、
学生とともに進めるFD」

プログラム

- 13:00 開会式
- 13:20 取組概要説明
- 13:35 連携校の優れた取組事例紹介
 - ①岡山理科大学
 - ②岡山大学
 - ③岡山商科大学
 - ④中国学園大学※詳細は裏面をご覧ください。
- 14:30 特別講演
※詳細は左をご覧ください。
- 15:50 閉会式 (～16:00)

平成21年 **11月29日(日)** **13:00**より
12:30より受付

岡山県総合福祉会館 1階 大ホール

〒700-0813 岡山市北区石関町2-1 TEL 086-226-3501
<http://www.fukushikaikan.jp/> (地図は裏面参照)

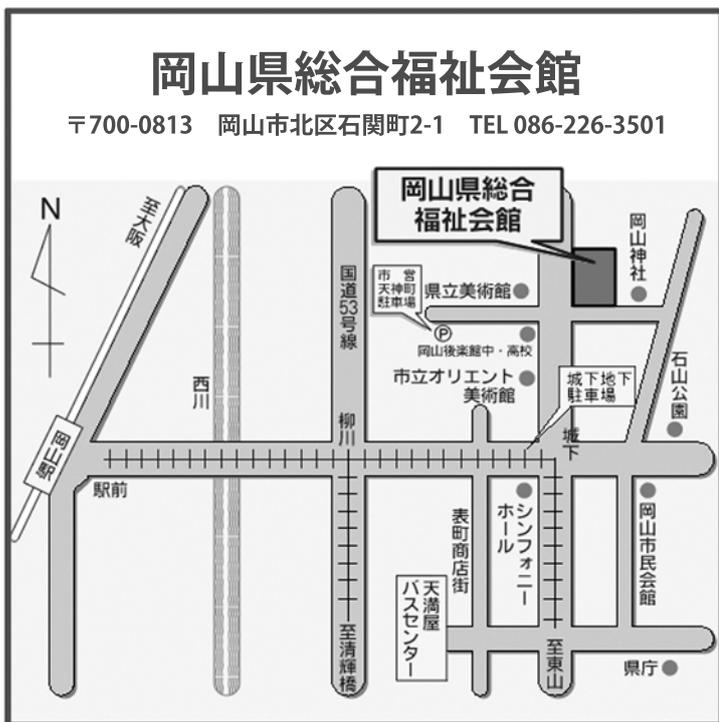
入場無料 申込不要 どなたでも

「岡山オルガノン」の構築

— 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育 —

岡山県では、3年前より産学官連携による活動組織である大学コンソーシアム岡山を設置し活動を開始しました。その結果、各大学が個別に実施している優れた取組の存在が明らかになったので、新たに「岡山オルガノン」を構築し、互いに連携して各取組を発展・充実させ、地域活性化の担い手となる人材育成に資する総合的教育充実事業として興すことに致しました。

本事業の目標は、学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上であり、これらを融合させることで地域創生型の人材を育成することです。具体的には、e-Learning方式による教育共有の実現、FD・SD活動の共同実施、学生個々のコンピテンシー向上を目指すキャリア形成教育の共同実施と教育指導者の育成、地域創生・環境教育に関わる教養教育の創出、地域経済界との連携による人材育成教育などです。全大学が特色を生かしつつ、積極的に本事業に取り組み、新たな地域貢献を実現させたいと考えています。



連携校の優れた 取組事例紹介のご案内

- ① 岡山理科大学 (情報処理センター所長 大西 莊一氏)
「加計サイバーキャンパスを支える LMS MOMOTARO について」
- ② 岡山大学 (教育開発センター 教授 橋本 勝氏)
「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』」
- ③ 岡山商科大学 (副学長・産学官連携センター長 大崎 紘一氏)
「産学官連携教育—(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー講義について—」
- ④ 中国学園大学 (地域連携センター長 飯田 哲司氏)
「人材育成教育
～実践的キャリア形成講座のあゆみ～」

大学教育連携センター設立記念シンポジウム参加人数

参加区分	参加者数(人)			
	教員	職員	学生	計
岡山大学	21	4	1	26
岡山県立大学	1	1		2
岡山学院大学				0
岡山商科大学	7	15		22
岡山理科大学	11	16	3	30
川崎医科大学	1			1
川崎医療福祉大学	2			2
環太平洋大学	8	6	5	19
吉備国際大学				0
倉敷芸術科学大学	1	2		3
くらしき作陽大学	5	1		6
山陽学園大学				0
就実大学	6	6		12
中国学園大学	2	5	4	11
ノートルダム清心女子大学	4	4		8
就実短期大学	3	1		4
岡山短期大学	1			1
京都大学			1	1
富山大学		1		1
立命館大学	1			1
大学コンソーシアム岡山		1		1
一般参加者				15
合計	74	63	14	166

男138人
女 28人

ご挨拶

事業推進代表者 波田善夫

(岡山理科大学 学長)



岡山県下には現在16大学が設置され、お互いに研究・教育の面で競争しつつも、強力な連携体制を築く努力を続けております。その成果が、平成21年度文部科学省補助事業である「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」へ応募し、採択された「岡山オルガノンの構築 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育」であります。

この取り組みは、各大学が個別に推進している優れた大学教育充実活動を県下の連携大学へ広く展開し、発展させることを目指しており、全国的にも数少ない大規模な連携事業であります。具体的な取り組みとしては、ITを活用した遠隔教育の開発と実施、共同FD・SD活動の実現、学生のコンピテンシー向上を目指すキャリア形成教育、地域経済界との連携による人材育成教育などが挙げられます。

ベースとなったのはこれまで進めてきた「大学コンソーシアム岡山」で展開してきた事業でありますので、現会長校である岡山理科大学が「岡山オルガノン」の代表校として申請させていただきましたが、各連携校のご協力を得て、是非成功させたいものとお願いいたしております。大学教育連携センターの立ち上げをお祝いするとともに、「岡山オルガノン」の名称が全国に行き届くよう頑張ってください。



CONTENTS

代表者挨拶

2 プログラム

3 「『岡山オルガノン』の構築」概要説明

5 連携校の優れた取組事例紹介

5 「加計サイバーキャンパスを支える LMS・MOMOTARO について」

8 「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』—学生参画によるFDの活性化」

11 「産学官連携教育—(社)岡山経済同友会ボランティアプロフェッサー講義について—」

14 「人材育成教育～実践的キャリア形成講座のあゆみ～」

17 特別講演

17 講師のご紹介

18 「学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD」

26 「イベント案内」学生FDサミット2010冬

27 NOTE

大学教育連携センター設立記念シンポジウム
「ハッシン！岡山オルガノン」

日 時 平成 21 年 11 月 29 日（日） 13:00～16:00

会 場 岡山県総合福祉会館 1階 大ホール
〒700-0813 岡山市北区石関町 2-1 TEL：086-226-3501 FAX：086-226-3502

参加費 無 料

プログラム

- 12:30～ 受付開始
- 13:00～13:20 開会式 挨拶
岡山理科大学 波田 善夫 学長
岡山大学 千葉 喬三 学長
中国学園大学 松畑 熙一 学長
岡山商科大学 井尻 昭夫 学長
岡山県 古矢 博通 副知事
- 13:20～13:35 「『岡山オルガノン』の構築」概要説明（佐藤大介コーディネーター）
- 13:35～14:20 連携校の優れた取組事例紹介
事例紹介 岡山理科大学
「加計サイバーキャンパスを支える LMS・MOMOTARO について」
総合情報学部情報科学科 教授 大西 荘一 氏
事例紹介 岡山大学
「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』 学生参画による FD の活性化」
教育開発センター 教授 橋本 勝 氏
事例紹介 岡山商科大学
「産学官連携教育 - (社)岡山経済同友会ボランティアプロフェッサー講義について -」
副学長・産学官連携センター長 大崎 紘一 氏
事例紹介 中国学園大学
「人材育成教育～実践的キャリア形成講座のあゆみ～」
地域連携センター長 飯田 哲司 氏
- 14:20～14:30 休憩
- 14:30～15:50 特別講演
演題：学生とともに作る授業、学生とともに進める FD
講師：立命館大学 共通教育推進機構 教授 木野 茂 氏
- 15:50～16:00 閉会式 挨拶（木村宏センター長）

『岡山オルガノン』の構築」概要説明

コーディネーター 佐藤 大介

1. 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム

- ・本プログラムの目的（文部科学省ホームページより抜粋）

国公立大学間の積極的な連携を推進し、各大学における教育研究資源を有効活用することにより、当該地域の知の拠点として、教育研究水準のさらなる高度化、教育活動の質保証、個性・特色の明確化に伴う機能別分化の促進と相互補完、大学運営基盤の強化等とともに、地域と一体となった人材育成の推進を図ること

- ・「岡山オルガノン」の構築についての申請

- ・選定状況（採択件数／申請件数）

全体 38 件／119 件（総合的連携型 25 件／76 件、質保証特化型 13 件／43 件）

2. 連携取組の趣旨・目的

- ・各大学等で独自に行われている優れた取組の共有化

例：岡山大学 「学生参画型教育改善」

岡山商科大学 「ボランティア・プロフェッサ科目」

岡山理科大学 「e-Learning システム MOMOTARO」

大学コンソーシアム岡山 「キャリア形成講座」 等

- ・岡山県「新おかやま夢づくりプラン」における協働 → 「キャリア教育」の推進

- ・地域一体型教育の推進の実現が必要 → 地方大学の活性化と再生へとつなげる

3. 連携取組の内容

- ・学士力育成のための取り組み

教養教育の充実化、共同 FD・SD 活動の実施

- ・社会人基礎力育成のための取り組み

キャリア指導プロフェッショナルチームの組織化、社会参画活動の実施

- ・地域発信力育成のための取り組み

ボランティア・プロフェッサ科目の配信、コーディネート科目の構築、地域貢献活動の実施

4. ICT（情報通信技術）の活用：遠隔授業の導入

- ・テレビ会議システムの活用：双方向ライブによる遠隔授業実施、学生交流や会議等で活用

- ・VOD（Video on Demand）の活用：インターネットを活用した個別学習

5. 連携取組の成功を目指して

- ・学生の積極的な参画

- ・教職員の教育改善への協働的取り組み

- ・ICT 環境の有効活用

- ・本取組に関する情報発信

- ・地域貢献・社会貢献活動

- ・地域資源を活用した地域一体型教育の実現

- ・今後 10 年程度を見通した事業展開

「岡山オルガノン」の構築

学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育



<代表校および連携校：全15大学>
岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、岡山医科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くまもと大学、山陽学園大学、就美大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学

「岡山オルガノン」の構築

地域発信力

- ◆ 地域活性・環境教育の創出
- ◆ 地域人材の活用
- ◆ 地域貢献活動

学士力

- ◆ 教養教育の充実と共有の実現
- ◆ F/D活動の共同実施
- ◆ S/D活動の共同実施

社会人基礎力

- ◆ キャリア形成教育の共同実施
- ◆ 実践的キャリア教育指導者の育成
- ◆ 社会活動参画

取組ポイント

- ◆ 地域に根差した教養教育の創出
- ◆ 遠隔授業の単位認定の制度化および単位互換制度の整備
- ◆ 岡山情報ハイウェイを活用したICT環境の導入・整備

- ボランティアプロフェッサー科目の実施
- 産学連携コーディネイト科目の構築
- 地域活性化教育の実施
- 環境教育実践活動

- 教養教育科目の拡充、共有化
- 学生参画方式によるF/D活動
- 大学間相互授業参観活動
- S/D研修会の組織化

- 実践的キャリア指導チームの組織化
- 実践的体験型プログラムの構築
- 社会で活かせる自己実現能力醸成
- 社会活動への学生参画推進

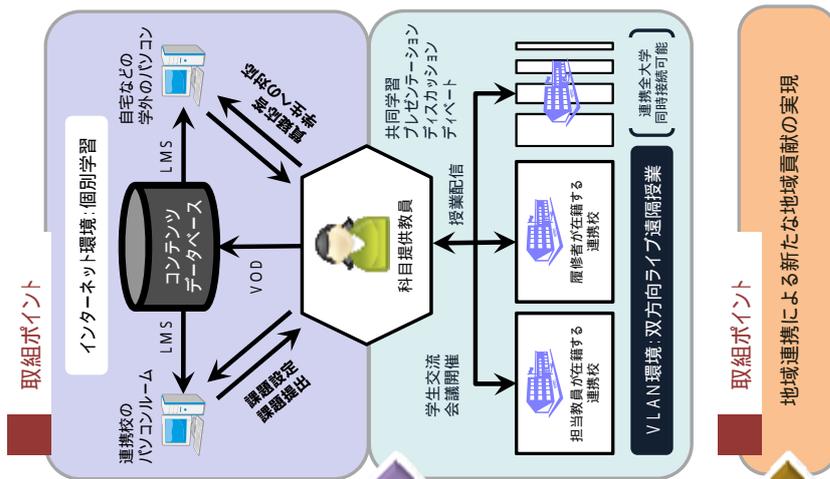
高校
(高大連携)

自治体
(地域課題解決)

大学コンソーシアム岡山
(部分的業務委託)

NPOなど
(共同事業実施)

企業
(地域人材活用)



取組ポイント

地域連携による新たな地域貢献の実現

“オルガノン”とは、元来「学問を構築する上で基礎となる機関・道具」という意味です。本取組では「大学教育の基礎・原動力」と解釈しました。各大学が持つ特色を生かし、大学間の連携によりさらに強化していくことで、地方大学の活性化と再生につなげられると期待しています。

実践事例 岡山理科大学

「加計サイバーキャンパスを支えるLMS・MOMOTAROについて」

総合情報学部情報科学科 教授 大西 荘一 氏

戦略GP「岡山オルガノン」設立シンポジウム

加計サイバーキャンパスを支える LMS「MOMOTARO」

日時:平成21年11月29日
場所:岡山県総合福祉会館

岡山理科大学
総合情報学部 情報科学科
大西 荘一

1. 遠隔授業と単位認定

単位認定
・大学卒業単位:124単位

大学設置基準 平成13年3月31日 改定
・60単位まで遠隔授業で取得可

遠隔授業の定義
大学設置基準第25条第2項で、「**多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室など以外の場所で履修する**」

平成13年文科高346号で、「毎回の授業の実施にあたって……**学生の意見の交換の機会が確保され**…同時双方向で行われない場合であっても、**一定の条件を満たしてあれば**、これを遠隔授業として行うことが可能」

2. 加計サイバーキャンパス

連携大学 5大学1短大

連携高校生

科目登録生
(社会人)
科目登録生
通信教育生

提供 受講

サイバーキャンパス
CyberCampus
科目群
多彩な科目を組み合わせた
学際領域

サイバーキャンパス トップページ

URL <https://cyber.kake-group.jp/>

加計サイバーキャンパス受講者数

年度	科目数	実履修登録者数()内は高校生の数)
H18	19科目	973(46)名
H19	26科目	1493(73)名
H20	32科目	1565(81)名
H21	36科目	未確定

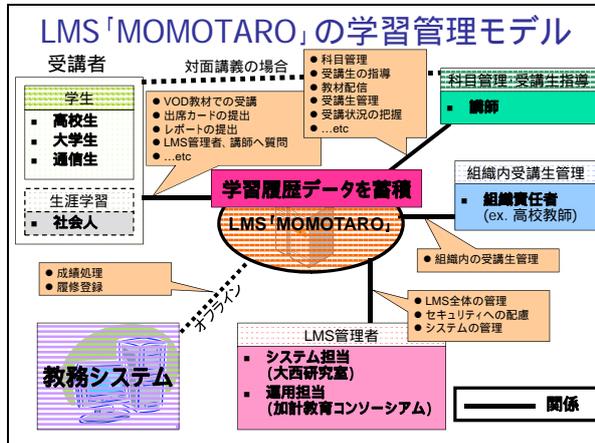
1人が複数の科目を履修
平成20年度延べ履修登録者数は**約5000名**

3. LMS「MOMOTARO」

サイバーキャンパスを支えているシステム
Learning Management System (LMS)

岡山理科大学の独自開発「MOMOTARO」
独自開発の理由

- ・管理が異なる独立した組織に対応
- ・実践を通じ必要な機能を作り込む
- ・高額なライセンス料の負担がない



4. VODにおける教育の質劣化の要因

- (1) VODでの学習は、**集中力が持続しにくい**
- (2) いつでも受講が可能であるため、
計画的な学習をせず、**学期末に集中する傾向**
- (3) 受講生の**本人認証が困難**
- (4) 教員は受講生の**学習状況を把握しにくい**
- (5) 受講生と教員との**コミュニケーション不足**
- (6) ネットワーク環境による**画像・音声への悪影響**

5. MOMOTAROの機能

VOD学習の問題点の解決のため次の機能を盛り込む

- 5.1 VOD教材の分割配信機能
- 5.2 VOD教材の学習状況確認機能
- 5.3 出欠管理機能
- 5.4 授業アンケートと小テスト機能
- 5.5 コミュニケーション機能
- 5.6 受講生の行動把握機能

5.1 VOD教材の分割配信機能

効果1 90分のVODの場合

受講生 → 集中力の持続が難しい

15～20分のVODの場合

受講生 → **集中力が持続する**

5.2 VOD教材の学習状況確認機能

VOD教材へのアクセス時間をログから計算し、リアルタイムにVOD学習時間を表示させる

→ **受講者に状況を理解させ、学習を促す**

例: VOD教材(30分)を15分間、学習した場合

受講 → **50%**と表示

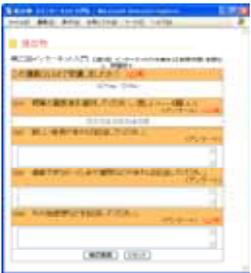
5.3 出欠管理機能

出席カードを送信 → 出欠確認表に自動的にマーキング

出欠管理機能

出席カード提出条件 → **学習状況の確認**

VOD学習終了
出席カード提出



1講義分のVOD教材の
学習時間が**90%を超え**ると
出席カードの提出が可能

出欠管理機能

出席カードの提出期限 → **計画的な学習を促進**



講師は提出期限を各出席カードごとに
設定することができる

5.4 授業アンケートと小テスト機能

毎回の出席カードに授業アンケート、小テストを付加
講師が自由に設定可能
選択式、自由記述式に対応

授業アンケート: 授業に対する受講生の反応を確認
小テスト: 講義の理解度を把握

→ **授業の改善にすばやく効果的な
対応が可能**

5.5 コミュニケーション機能

- チャット
 - 受講生間の情報交換
- 掲示板
 - 質疑応答
- お知らせ
 - 事務連絡
- メール送信
 - 受講生への個別連絡



5.6 情報セキュリティ

- 4レベルの権限
 - システム管理者: 全情報の管理
 - 講師: 担当科目に関する情報の管理
 - 高校教員: 所属高校の生徒に関する情報の管理
 - 受講生: 本人の情報の管理
- セキュリティ・テスト
 - SQLインジェクションなどセキュリティ攻撃対策

6. 「MOMOTARO」の今後の課題

- (1) 個人認証機能の強化
- (2) アクセスログの自動解析機能
- (3) 成績管理機能
- (4) アクセス分散化
- (5) 学習履歴データの保存と分析機能
- (6) 情報セキュリティの強化
- (7) モバイル化(携帯端末による学習)
- (8) SNSとの連携機能

実践事例 岡山大学

「学生・教員・職員の協働を目指す『改善委員会』

学生参画によるFDの活性化」

教育開発センター 教授 橋本 勝 氏

§ 1 . なぜ、FDに学生なのか

○FDの専門家的定義

「個々の大学教員が所属大学における種々の義務（教育、研究、管理、社会奉仕等）を達成するために必要な専門的能力を維持し、改善するためのあらゆる方策や活動」（B. Mathis）

（「FDとはなにか」絹川正吉『大学力を創る：FDハンドブック』東信堂，16p）

※しかし、日本のFDは必ずしもそういう内容としては捉えられていない？

何となく「上手い授業、教育効果の高い授業のやり方の勉強会」的なイメージが定着？

○出発点としての大学審議会答申（平成10年10月）

『21世紀の大学像と今後の改革方策について－競争的環境の中で個性が輝く大学－』

「各大学は、個々の教員の教育内容・方法の改善のため、全学的にあるいは学部・学科全体で、それぞれの大学等の理念・目標や教育内容・方法についての組織的な研究・研修（ファカルティ・ディベロップメント）の実施に努めるものとする旨を大学設置基準において明確にすることが必要である。」

○微妙な変化を引き起こした平成12年度の大学審議会答申

『グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について』（平成12年11月）

「教員の教育能力の向上のためには、各大学において、昨年度新たに制度化されたファカルティ・ディベロップメント（大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研究及び研修）の実施を推進する必要がある。」

○「大学設置基準」の変化：努力義務規定（平成11年に追加）⇒義務化（平成20年4月）

第二十五条の二 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究の実施に努めなければならない。



新第二十五条の三 大学は、当該大学の授業の内容及び方法の改善を図るための組織的な研修及び研究を実施するものとする。

○岡山大学としてのFDの解釈

「教員の教育内容や教育方法の改善に関して、理念・教育目標に沿って組織的に研究・研修を行い、実施に努めること」（岡山大学広報『いちよう並木』No.4，2p）

「FDは本来、教員一人一人がどのように授業改善するかということに主眼があるのではなく、あくまで教育組織として、全体としての教育をどう改善し、発展させていくかという観点が重要である。本学では、この点で大学という知的共同体の構成員全体が、しっかり関わらなければ教育改善の実効性は上がらないと考えている。教員と職員の連携ももちろん重要であるが、教育サービスの受容者である学生たちが、この問題と真剣に向き合っ

てこそ、よりよい教育がなされるのである。」（「岡山大学が考えるFD」岡山大学ティーチングチップス <http://cfd.cc.okayama-u.ac.jp/fd/tc/2005/> 2.1.4）

補足 1) 広中レポート：文科省高等教育局『大学における学生生活の充実方策について
—学生の立場に立った大学づくりを目指して—』(2000.6)

「学生中心の大学」への転換を図るという観点から、大学教育においては、大学で教育を受ける学生の希望や意見を、適切に大学の運営に反映させることが重要である。また、学生が積極的に大学運営に関わることを通じて主体的に大学生活を送ることは、学生の社会的な成長を促すことを期待できるものである。

学生の意見や希望を反映させる具体的な方法としては、(a) 大学として学生からのアンケート調査を行ったり、学生の実態調査を行うことにより、その希望や意見を聴取する方法、(b) 学生の代表と大学の運営責任者等との懇談会等を実施し、その希望や意見を聴取する方法、(c) 学生の代表を大学の諸機関に参加させる方法などが考えられる。

これまで大学において、学生の希望や意見を反映させる分野としては、正課外教育や福利厚生といった学生が中心となって活動する分野について考えられてきたが、今後は、正課教育の内容のあり方や授業方法、さらに教育条件の改善などの分野についても、学生の希望や意見を適切に取り入れる仕組みを整備していくことが重要である。(下線は橋本)

補足 2) 機関別認証評価の大学評価基準 (大学評価・学位授与機構の場合)

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム 基本的観点 9-2-①
「ファカルティ・ディベロップメントについて、学生や教職員のニーズが反映されており、組織として適切な方法で実施されているか」

補足 3) 岡山大学中期計画 I-1-(3)-4)

教材、学習指導法等に関する研究開発及びFDに関する具体的方策

- ② 学生を積極的にFDに参画させることを通じて、学ぶ者の視点を授業改善に取り込み、有効なFDを展開する。

[http://www.okayama-u.ac.jp/jp/pdf/chuki_keikaku\(18.3.31\).pdf](http://www.okayama-u.ac.jp/jp/pdf/chuki_keikaku(18.3.31).pdf)

補足 4) 特色GP「新基軸『学生参画』による教育改善システム」

平成17年度採択。取組代表例として横浜のGPフォーラムで発表

<http://www.okayama-u.ac.jp/jp/pdf/GP17.pdf>

§ 2 . 「改善委員会」の活動経緯と概要

平成13年6月「学生・教員FD検討会」としてスタート

- ・ 中心は前年の全学シンポジウムに参画した学生
- ・ 当初から各学部推薦委員を揃える (学生約30名、教員約15名)
- ・ 活動拠点を教員の研究棟内に確保

↓

平成15年に、「学生・教職員教育改善委員会」に改称

理由：FDとは何かを説明するだけで一苦労

特に、履修相談会の案内時、新委員の募集時、就職活動時

●委員会の構成

- ・ 11学部から推薦された学生委員…残留委員を含めて約30名
 - ※ 1年生の5月に推薦 (任期2年)
 - ※ 推薦方法は敢えて各学部に一任、半分以上が活発な委員なら十分やっつけられる体制
- ・ 各学部から推薦された教員委員+教育開発センター教員委員…多くても15名程度
- ・ 学務部から推薦された職員委員+臨時雇用した専属職員…現在は3名

●総勢約50名を統括するのは学生委員長

初代：経済学部3年／第2代：工学部2年（♀）／第3代：教育学部2年／
第4代：薬学部2年／第5代：工学部2年／第6代：環境理工学部2年／
第7代：文学部2年／第8代：薬学部2年／第9代（現）：文学部2年

●月平均1回の全体会（教員の各種委員会と同等の扱い）

●週平均1回のWG（専用の委員会室を使用）

現在は、授業改善／システム改善／学生交流の3つ（昨年6月に再編）
全体、学生委員、各WG毎に構築されたMLも活用
委員会室はWG以外の目的でも自由使用可（→サークルボックス化）

§3. 具体的な成果の「例」...他にもいろいろ

1) 使う側に立ったシラバスの改善

見やすさ、使いやすさの重視

項目の充実（ex：オフィスアワー、教員連絡先、教科書と参考書の区別）

2) 次々生まれる学生発案授業

「学びたいこと」を学ぶ＝主体的学びの原点

癒しの公園計画/大学授業改善論/知ってるつもり？コンビニ/

ドラえもんの科学/This is Okayama ver. Basic/

This is Okayama ver. Special/君は頭が良くなりたいか～発信力～/

知らなきゃやばい、大人のマナー

教養教育マガジン『OU-Voice』<http://kymx.adm.okayama-u.ac.jp/hp/ou/ou.html>

大学広報誌『いちよう並木』http://www.okayama-u.ac.jp/ja/ichounamiki/icho_j_48.html

3) 授業評価アンケートのあり方を再検討し、答える側から各種提案・試行

- ・現行のものは学生の意向を最大限尊重したもの
- ・回答負担の観点から質問項目も精選
- ・「授業改善中間アンケート」を学生だけで試行

4) 講習会から討論の場へ：参加型・全構成員型FDフォーラムへの転換に一役

- ・「偉いセンセ」の話聞くより皆で討議することで議論が具体化・明確化
- ・学生が参加・参画することでその方向性が促進

5) 自主的企画としての履修相談会：新入生オリエンテーションの一部を学生に一任

- ・新入生の戸惑いの軽減＋上級生の自覚の誘発
- ・学生と大学との信頼関係のアップ 学生と教員との役割分担

6) 深化・発展する教育改善学生交流（i*See）：学生参画型教育改善のメッカ

- ・今年は「大学教育川柳大会」「職員参画をテーマとするグループ討議」等を内容に9/22・23に開催。全国35大学から約100名の学生・教員・職員が参加。

岡山オルガノンが先行後援。

※i*SeeとはStudent exchange for an educational innovation (or improvement) のiを*により倒置したもの

参考文献・資料例

- ・『学生と変える大学教育』ナカニシヤ出版 2009
- ・「学生参画型FD・SDを考える」（『大学力』ミネルヴァ書房 2006 所収）
- ・「新基軸『学生参画』による教育改善システム」（文部科学時報 平成18年12月号）
- ・「誰にとってのFDか—岡山大学 学生・教員FD検討会がめざすもの—」（『FDが大学教育を変える』文葉社 2002 所収）
- ・【岡山大学学生・教職員教育改善委員会HP】<http://cfd.cc.okayama-u.ac.jp/stfd/>

実践事例 岡山商科大学

「産学官連携教育 - (社)岡山経済同友会

ボランティアプロフェッサー講義について - 」

副学長・産学官連携センター長 大崎 紘一 氏



(社)岡山経済同友会
ボランティアプロフェッサーによる講義

1. 講義の目的
「日本の将来を担う本学学生に企業経営について経営者の未来への想い、想いを実現させる経営活動」
2. 開講時期
平成8年4月 岡山大学:前期
岡山商科大学:前期、後期
「経営学特殊講義」
3. 講師、講義テーマの決定
(社)岡山経済同友会 政策委員会

岡山商科大学での講師陣
(平成8年～平成17年:10年間)

業種別講師分類

1. 運輸・観光分野 : 4社	5. 販売・サービス分野 : 10社
2. 製造業分野 : 21社	自動車 : 2社
建築関連 : 3社	宝飾品 : 2社
アパレル・装飾品関連 : 3社	ホテル : 3社
食品関連 : 5社	百貨店・スーパー : 2社
機械製品関連 : 5社	文具 : 1社
エネルギー関連 : 3社	6. 総合商社分野 : 3社
その他 : 2社	7. 知的サービス分野 : 7社
3. 情報・ソフトウェア分野 : 7社	8. その他分野 : 1社
4. 銀行・証券・生命保険分野 : 8社	
銀行 : 4社	
証券 : 3社	
生命保険 : 1社	

10年目以降の「ボランティアプロフェッサー制度」のあり方

1. 平成18年度の実施についての検討
 - (1) 10年間で区切りにする
 - (2) 毎年講師の人選が大変である
 - (3) 担当委員会
政策委員会から教育問題委員会に変更
2. 継続の可能性
 - (1) 両大学の学生にとっては、きわめて重要な講義である
 - (2) 大学側でできること
講義のテーマ、講師を決め、教育問題委員会で承認を受ける
講師の依頼も、同友会の承認後大学側で行う

平成18年度のボランティアプロフェッサーによる「経営学特殊講義」

1. 新しい方法での講義の試行
2. 講義テーマ[顧客指向経営]
前期 : サービス業...4社
後期 : 製造業...4社
3. ボランティアプロフェッサー講師陣
 - (1) 「サービス業における顧客指向経営」(前期)
岡山トヨタ自動車(株)
(株)トヨタコーポレーション
(株)ホテルグランヴィア岡山
(株)天満屋
 - (2) 「製造業における顧客指向のものづくり経営」(後期)
カイトック(株)
キリンビール(株)
内山工業(株)
アイサワ工業(株)

**平成19年度の
「ボランティアプロフェッサー制度」**

平成18年度実施しながら、教育問題委員会で検討
平成19年度も試行

1. 「経営学特殊講義」講義テーマ[顧客指向経営]
前期：銀行業・・・4行
後期：証券業・・・4社
2. ボランティアプロフェッサー講師陣
 - (1) 「銀行における顧客指向経営」(前期)
日本銀行岡山支店
(株)中国銀行
日本本政策投資銀行岡山事務所
おかやま信用金庫
 - (2) 「証券業における顧客指向経営」(後期)
野村證券(株)岡山支店
日興コーディアル証券(株)岡山支店
大和証券(株)岡山支店
新光証券(株)岡山支店

**平成20年度の
「ボランティアプロフェッサー制度」**

平成19年 教育問題委員会において
ボランティアプロフェッサー制度の継続を決定

1. 経営学特殊講義
(社)岡山経済同友会と岡山商科大学で教育プログラムの開発
2. 講義テーマ[経済界、地域社会を支援する団体]
 - (1)岡山県内には、多くの経済界、地域社会を支援する団体が存在
 - (2)その活動内容について統一的に講義として取り上げる機会がなかった

**平成20年度 「経営学特殊講義」
ボランティアプロフェッサー講師陣**

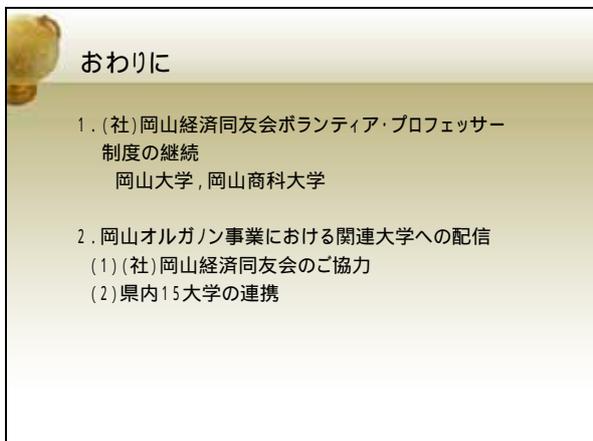
- (1) 前期(6団体)
(社)岡山経済同友会
岡山県商工会議所連合会
岡山県経営者協会
岡山県中小企業団体中央会
(社)日本青年会議所 中国地区 岡山ブロック協議会
財団法人岡山県産業振興財団
- (2) 後期(6団体)
岡山県商工会連合会
岡山県商店街連合会
AMDA社会開発機構
日本貿易振興会岡山貿易情報センター(JETRO)
岡山県農業協同組合中央会
岡山リサーチパークインキュベーションセンター(ORIC)

平成21年度 「経営学特殊講義」

1. 講義テーマ[経営に対する想いと具体的な経営活動]
2. ボランティアプロフェッサー講師陣
 - (1) 「物流・流通・観光業の経営」(前期)
両備ホールディングス(株)トランスポートカンパニー
西日本旅客鉄道(株)
全日本空輸(株)岡山支店
(社)岡山県観光連盟
岡山土地倉庫(株)
岡山県貨物運送(株)
 - (2) 「情報・通信・広告業の経営」(後期)
(株)両備システムズ
NTT西日本 岡山支店
(株)山陽新聞社
山陽放送(株)
(株)電通西日本 岡山支社
(株)ビザビ

**岡山商科大学
コンピュータ支援講義システム(CAL)**
(平成19年度文部科学省情報化事業採択)

1. 目的
多様なメディアを使用した同時双方向の講義システムによる教育効果の向上
2. CALの機能
 - (1) 多様なメディアを使用できる入出力装置
 - (2) 双方向通信機能
教員 ⇨ 学生：講義資料・まとめファイル配付
学生 ⇨ 教員：ファイルの回収
本学 ⇔ 国内外の大学(同時双方向)



実践事例 中国学園大学

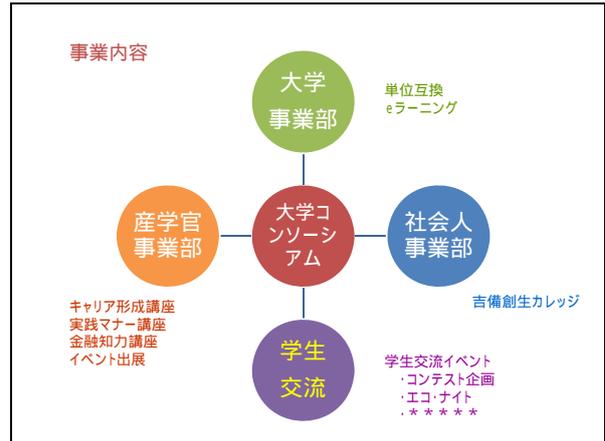
「人材育成教育

～ 実践的キャリア形成講座のあゆみ～

地域連携センター長 飯田 哲司 氏

人材育成教育
～ 実践的キャリア形成講座のあゆみ～

中国学園大学・中国短期大学
地域連携センター長
飯田 哲司



産学官連携事業部

『キャリア形成講座』

『実践マナー & ビジネスマインド講座』

『キャリア形成講座』

実践的なトレーニングにより、
社会人として必要な基礎力・
応用力を身につけよう！

入社後からも
活かせる
キャリア教育

コミュニケーション力

自己分析 他者理解

社会を知る 社会人基礎力

グループ・ワーク (課題解決)

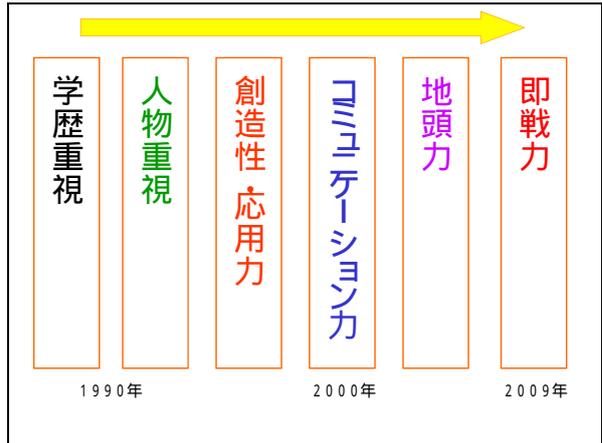
プレゼンテーション力

+

実践マナー・ビジネスマインド

【講座のテーマ・合言葉】

「わかる」と「できる」はちがう
 「保留」しないで「行動」しよう！
 考えることを人に任せるな！
 ひとつの頭で考えない
 自己実現と他者実現



前半は、「コミュニケーション力の強化」「自己分析」「他者理解」「キャリア形成論」を、実践的に学び、

後半の「課題解決グループワーク」では、最終回の プレゼン大会 優勝 に向けて、チーム一丸となつての真剣勝負を展開！！

岡山の大学へ行こう！

15回の正規講義
 2単位付与
 (*単位不要の希望者もあり)

2006年の前期より開講
 11クラス実施
 計280名が受講
 (*リピーターも多数あり)

開講日：(前期・後期とも)
 毎週 木曜日 15:30～17:00
 場所：岡山市デジタルミュージアム 講義室

「ビジネスマインド講座」は、夜間 土曜日 に集中実施

【講座風景】

岡山市デジタルミュージアム 講義室

徹底した「体験学習」と「実践型トレーニング」

企業出身で、採用・社内研修の経験を有する講師が担当
 (現在も、「企業内研修」や「プロ養成セミナー」を担当)
 時代に合った実践型トレーニングメニューを作成

クオリティの高い「プレゼンテーション」は、
企業の若手社員も圧倒！




プロもうなるほどの資料
ビデオレターも巧みに導入

ミニドラマやBGM、
立体模型なども・・・






凝った演出で
斬新な企画をアピール

OBも「プレゼン大会」に
駆けつけ、審査に参加






大会の振り返りも
きっちり

【修了後の絆】
打ち上げ・感謝会
同期会の発足






まなびピア inおかやま 2007







『キャリア形成講座』



→ 『大学コンソーシアム岡山』で、
継続実施！！

『実践マナー & ビジネスマインド講座』



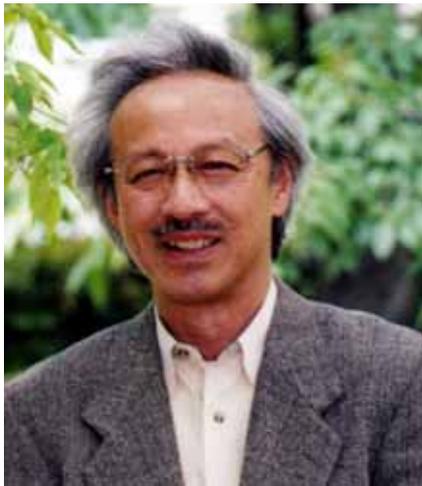
→ あらたな講師陣・プログラム・
開講形態を準備し、
『岡山オルガノン』で実施！！

特別講演

「学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD」

立命館大学 共通教育推進機構 教授 木野 茂 氏

講師紹介



立命館大学 共通教育推進機構 教授 ^{きの}木野 ^{しげる}茂

【専門分野】 環境学、大学教育学

【研究経歴】

1966年04月 大阪市立大学理学部（物理学科）助手
1969年06月 理学博士（大阪市立大学）学位取得
1986年10月 大阪市立大学理学部講師
2003年04月 大阪市立大学大学教育研究センターに移籍
同助教授、同副所長
2005年03月 大阪市立大学定年退職
2005年07月 立命館大学大学教育開発・支援センター教授
2008年04月 立命館大学共通教育推進機構教授

【メッセージ】

もともとの専門は宇宙線物理学でしたが、1971年から公害調査を起点に環境問題に進みました。教育の方は教員になってからずっと教養教育や物理学教育を担当してきました。1969年の第一次大学改革が頓挫した後は、自主講座を主宰したこともあります。1991年以後の第二次大学改革では大学教育の改革を推進する立場で将来計画委員や全学共通教育カリキュラム委員長などを務め、大学教育研究センターの設立に力を注いできました。前任校は公立大学で大規模私立大学の立命館大学とは様々な面で違いはありますが、学生の成長を大事にするという点では共通点があります。さらに立命館大学にはすぐれた職員体制と学生の教育への関わりという特長があります。教員、職員、学生のそれぞれの協力により、大学の教育をより良いものにするために努力したいと思っています。

【主な著書】

『新・水俣まんだら—チツソ水俣病関西訴訟の患者たち』（共著、山中由紀、緑風出版、2001年）
『新版 環境と人間—公害に学ぶ』（編著【共著者5名】、東京教学社、2001年）
『大学授業改善の手引き—双方向型授業への誘い』（ナカニシヤ出版、2005年）

学生とともに作る授業、学生とともに進めるFD

立命館大学 共通教育推進機構

木野 茂

大学授業のパラダイム転換

- ・知識伝授型から学生とともに作る授業へ
- ・早くユニバーサル段階に達したアメリカ (Johnson et al.1991 : Davis,1993)
- ・共同 (協同) 学習 : グループ学習の導入
- ・インフォーマル学習グループ、フォーマル学習グループ、ベースグループ (学習チーム)

古いパラダイムへの学生の不満は早くから

- ・「(教員は) 黒板と話をしていた」(1969年卒業生)
- ・「高校の授業の延長線のような授業だった」(1979年卒業生)
- ・「現実の社会の中で起こっていることを具体的に取り上げた講義がもっとあっていいのでは」(1989年卒業生)

大阪市立大学の卒業生アンケートより

日本でのパラダイム転換の先駆けは「自主講座」

- ・東大自主講座「公害原論」(1970-85) : 宇井 純 (当時東大助手) の主宰
- ・市民・学生に開かれた講座 : ワルシャワ大学、コレージュ・ド・フランスに倣う
- ・パウロ・フレイレ : 銀行型学習に対する問題提起型学習 (1979)
- ・熊本大学自主講座、大阪市大自主講座

大綱化 (1991) で授業は変わったか？

- ・カリキュラムは比較的自由になり、時代に合った魅力のある科目も増えた。
- ・しかし、授業改善の方は授業アンケートが広まっても遅々として進まない。
- ・この原因は、教員が受け身だからである。
- ・新しいパラダイムの授業は教員も学生も主体的能動的に関わる必要がある。

私の目標 双方向型授業

- ・新しいパラダイムによるさまざまな授業
共同 (協同) 学習、グループ学習、学生参加型授業、学生主体型授業、課題解決／探求学習、能動的学習、PBL (Problem/Project Based Learning)、アクティブ・ラーニングとも総称される
- ・双方向型授業—教員と学生の主体的能動的な参加を促す授業

最近の中教審答申にも登場した双方向型授業

- ・「学士課程教育の構築に向けて」(2008.12.24)
学士力（課題探求・問題解決）達成のため
⇒双方向型の授業が不可欠
⇒学生の主体的な参画を促す授業
- ・例示：学生参加型授業、協調・協同学習、課題解決型授業（PBL）など

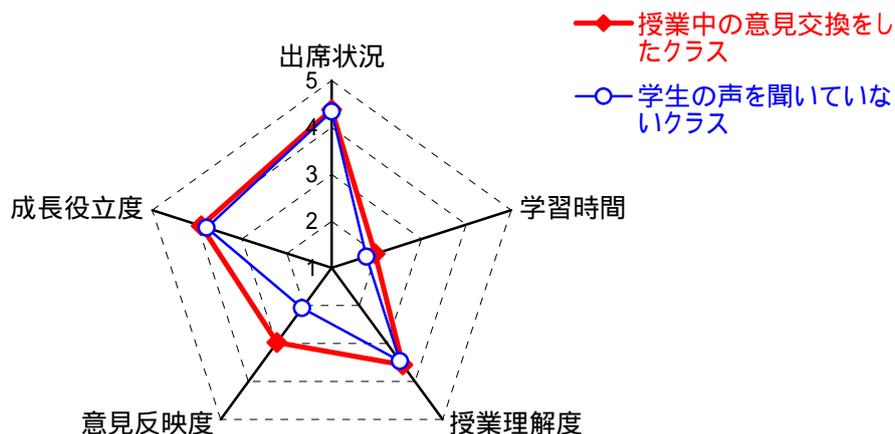
双方向型授業を勧める理由

- ①学生が日常的な学習を行うことができる。
- ②学生が自分で考える力をつけることができる。
- ③学生が自分も授業に参加していることを実感できる。
- ④学生が授業を楽しく受けることができる。
- ⑤教員も学生から刺激を受けることにより、授業をすることが楽しくなる。

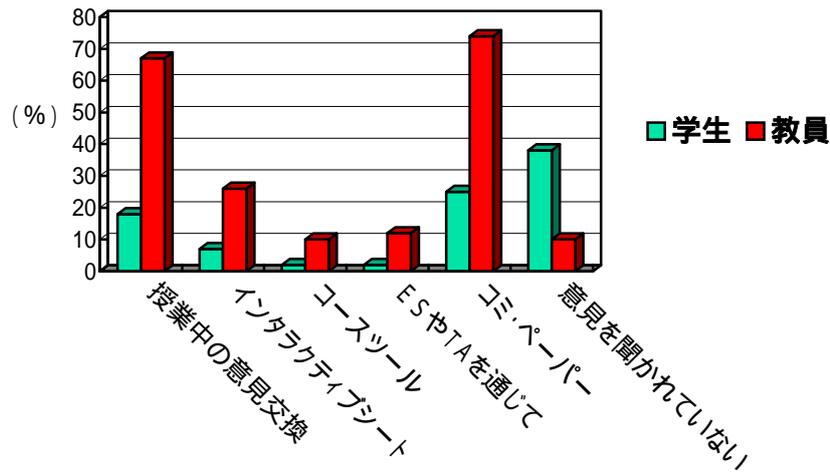
双方向型授業の第一歩はコミュニケーションの活性化

- ・紙ベース：カード、ペーパー
- ・直接：授業中の意見交換、TA/ESを通じて
- ・ICT：メール、ML、BBS、HP、クリッカー
- ・教員への効用：学生の理解度と受け止め方を知って授業を進めることができる。
- ・学生への効用：コミュニケーションに参加すれば、理解度・学習意欲・満足度が高まる。

しかし、コミュニケーションだけでは効果は少ない

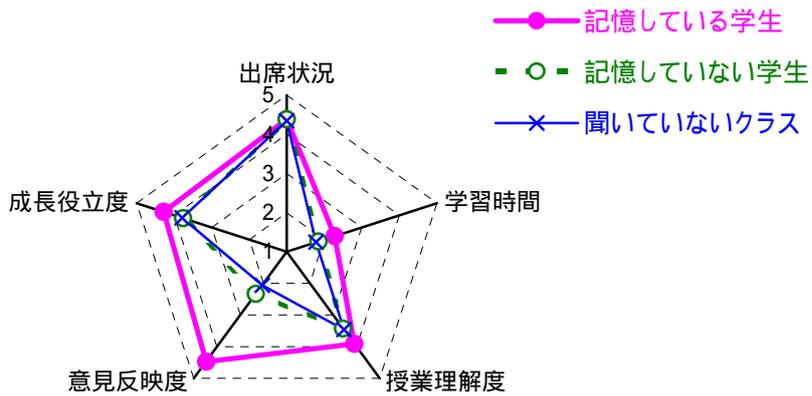


コミュニケーションの方法と学生・教員の認識度の違い

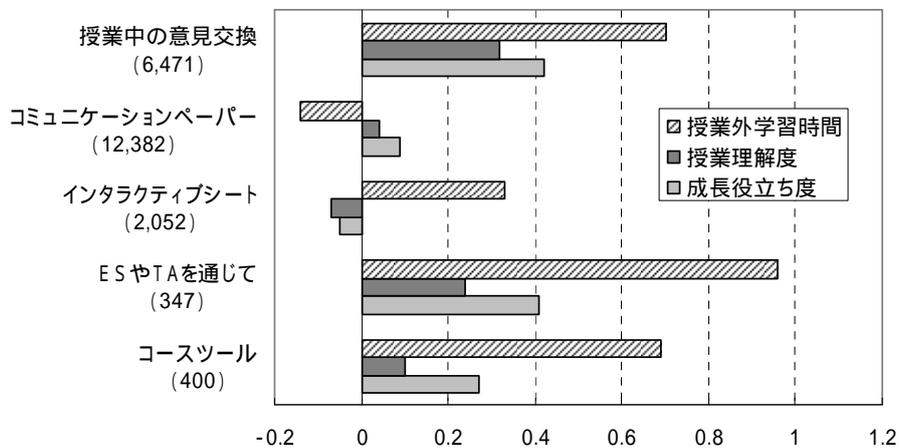


学生の主体的な参画で、はじめて効果を発揮する

・「授業中の意見交換」を実施したクラスで学生の記憶の有無による授業効果を比較



コミュニケーションの方法による授業効果の違い



双方向型授業実践の紹介

私の開発してきた双方向型授業

- ・文系向けの体験型自然系授業
- ・課題研究を論文にする教養ゼミナール
- ・講義型授業でどこまで双方向にできるか
学生参加型授業、コミュニケーション
- ・教材（テレビドキュメンタリー）や授業方法
(ICT活用)の開発で双方向型を追求

双方向型授業への工夫

- ・授業週刊誌
- ・Communication Space
- ・交歓会
- ・もぐり歓迎

学生の主体的な参画の試み：授業にディベートを取り入れる

- ・150人→2課題で賛否7班（各5-6人）の28チーム
- ・立論・反論（各2分）、答弁・再反論（各90秒）
- ・準備：1/2コマ2回、立論レジュメ作成
- ・本番：1コマ
予選（7会場）本選（教室）
進行係：各班代表

学生の主体的な参画の試み：グループ研究と発表で作る授業

- ・教科書の章ごとに関心のあるキーワードをあげ、問題提起型の「・・・か？」形式のテーマを探す。
- ・150人→20組のグループに分ける
- ・毎回ミニ講義の後、2グループ発表（15分+Q&A15分）
- ・進行：グループ代表

学生の主体的な参画の試み：ドキュメンタリーを教材にした授業

- ・TVドキュメンタリーを鑑賞
- ・グループでディスカッション
- ・自分の意見をMLに提出
- ・MLからベスト意見を投票
- ・ドキュメンタリーを題材にグループでテーマ研究
- ・発表+Q&Aで授業を作る

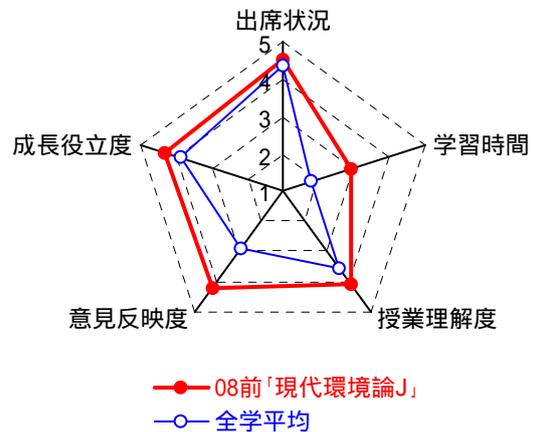
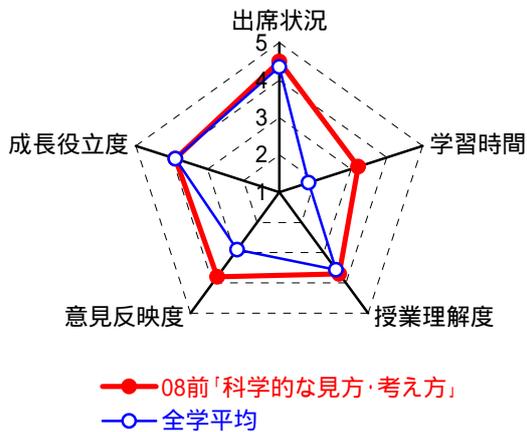
学生の主体的な参画の試み：授業の中で討論劇を上演

- ・授業展開にあわせた討論劇の挿入
- ・台本を作る
- ・役者を募集
- ・授業外に練習
- ・ケース・スタディの一種

学生の主体的な参画の試み：コースツールでディスカッション

- ・授業後に自由に書き込み
- ・スレッド方式で活発な意見交換
- ・教員も随時参加

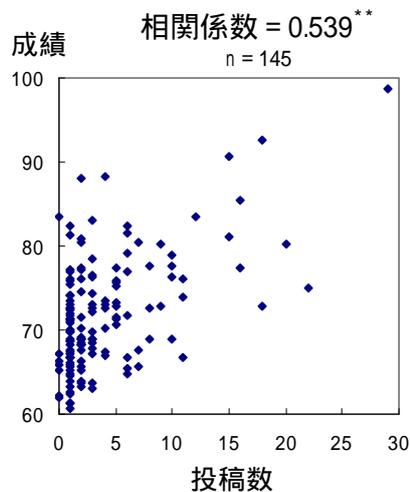
私の双方向型授業の授業効果例（細線は全学平均）



学生の主体的な参画は成績とも相関

コースツール投稿数
と成績評価の相関
(教室授業の例)

コースツールの利用
は授業外なので、学
生の主体的な参画の
指標となる



学生とともに作る授業から、学生とともに進めるFDへ

学生にとってFDとは？

- ・FDを担う主体は当然教員から
- ・最近では職員も大きな役割に
- ・では学生にとってFDとは何か？
- ・授業を行う教員と、教育を運営する教職員がFDを推進するのは責務だが
- ・授業を受ける学生はFDでも客体か？

学生によるFD活動の意義

- ・学生の視点を大学のFDに反映
教職員だけのFDでは、授業や教育を受ける学生の視点は見えない。学生FD活動は大学のFDをバランス良く進展させる
- ・FD活動は学生自身を成長させる
授業や教育に受け身の姿勢から主体的能動的な姿勢に転換し、自らの成長を促す

学生によるFD活動の例

- ・授業改善活動
学生視点による授業紹介／授業アンケートやシラバスなど大学FDへの参画／学生発案型授業／大学への改善要求
- ・学生同士の教育改善活動
教育改善の学生交流イベント／新入生への学習支援（ラーニング・チップス、履修相談、学習支援）／学生ピア活動

立命館大学における教育改善への従来の学生の関わり

- ・学生自治会
改善要求（アンケート結果公開、小規模授業強化、教室施設・設備改善）
- ・オリター・エンター
自治会が組織、新入生のサポート
- ・テーマごとの学生スタッフ
教育サポーター、障害学生・留学生・就職活動のサポーター、広報・LAN等

立命館大学のFD活動の定義

「建学の精神と教学理念を踏まえ、学部・研究科・他教学機関が掲げる理念と教育目標を実現するために、カリキュラムや個々の授業についての配置・内容・方法・教材・評価等の適切性に関して、教員が職員と協働し、学生の参画を得て、組織的な研究・研修を推進するとともに、それらの取組の妥当性、有効性について継続的に検証を行い、さらなる改善に活かしていく活動」（2007/05/07 教学対策会議）

立命館大学の学生FDスタッフ

- ・2006年度のFD活動の定義を検討するWGの学生委員が発端

学生視点で意見を発表する

- ・学内フォーラムで発表・参加
- ・総長とのランチタイムミーティング
- ・大学コンソーシアム京都のFDフォーラムで発表

学生視点で授業を紹介する

- ・「スタッフが紹介する授業実践集」(2007、冊子、教員配布)
- ・授業インタビュー(2008、Web、冊子全学へ)

学生同士で本音を語り合う

- ・しゃべり場「教養教育とは?」、「講義が面白いと思った瞬間」
- ・山形大学との学生交流:「学生中心の授業づくり」

FD活動をWeb発信する

- ・スタッフ紹介
- ・授業インタビュー
- ・企画紹介
- ・他大学交流

学生FD活動も連携の時期

- ・学生FD活動の取り組み事例はこれまでもかなりあるが、継続性・発展性に難がある例も多い
- ・大学側も積極的に学生FDスタッフを育て支援することが必要であり、FD活動に関心のある学生の大学間交流と相互支援が望まれる

新企画「学生FDサミット」を開催

- ・主催/立命館大学教育開発推進機構・立命館大学学生FDスタッフ

企画「学生FDサミット・2009夏～大学を変える、学生が変わる」

- ・2009年8月29-30日
- ・立命館大学衣笠キャンパス
- ・しゃべり場: petit 15テーマ、本番 8テーマ
- ・25大学・機関から100名参加

しゃべり場

- ・ヘンな授業の改善法
- ・授業アンケートって必要？何のため？
- ・高校生から大学生へー初年次教育を考えるー
- ・大学で学生が身につけるべき力とは？
- ・「大卒」って何？ー大学教育の質保証ー

- ・学生・教員・職員が協力して良い大学を作るには？
- ・都市の大学、地方の大学、それぞれのデメリットをメリットに変えるには？
- ・障害の有無にかかわらず大学で学ぶためどのような環境が必要か？

学生FDサミット 2010 冬も開催予定

- ・2010年2月20-21日、立命館大学衣笠キャンパス
- ・各大学の学生FD活動報告と交流
- ・しゃべり場、2010夏サミットに向けて

学生がキーワード

- ・「学生とともに作る授業」も、「学生とともに進めるFD」も、学生がキーワード
- ・双方向型授業の目的：学生が元気になるような授業になれば、教員も元気になる。
- ・学生FD活動の目的：学生が元気になれば、大学も元気が出る。

ご清聴ありがとうございました

- ・詳しくは、下記をご覧ください。

木野 茂『大学授業改善の手引きー双方向型授業への誘い』ナカニシヤ出版、2005年。

木野 茂「学生とともに作る授業ー双方向型授業への誘い」『学生と変える大学教育』（清水・橋本・松本編）ナカニシヤ出版、2009年、136-151頁。

木野 茂「教員と学生による双方向型授業ー多人数講義系授業のパラダイムの転換を求めてー」『京都大学高等教育研究』15、2009年（頁未定）。

木野 茂「学生とともに進めるFDー第1回学生FDサミットを開催して」『大学マネジメント』Vol.5、No.6、2009年、2-7頁。

大学を変え、
学生が変える

学生FDサミット

2010

冬



2010年2月20日(土)・21日(日) [予定]

会 場：立命館大学衣笠キャンパス

対象者：全国の大学の学生・教職員

1 日目 [予定]

活動報告

各大学で行われている取り組みを紹介してもらいます。

また夏サミットに参加した大学は、夏からどう変わったか報告してもらいます。

懇親会

全国から集まった学生や教職員と親睦を深めます。

2 日目 [予定]

しゃべり場

学生と教職員が混ざり学生FDについて話し合います。

2010夏サミットに向けて

来年度の夏サミットに向け各大学がそれぞれの課題や目標を設定します。



学生FDサミットとは

全国の大学の学生と教職員が一緒になって各大学での学生FDの進め方を考えます。
26大学から100人が京都に集まり大盛況だった夏に引き続いて冬も開催します！

現在、企画進行中!!

詳細は学生FDスタッフHPを随時チェック!!

立命館 FD

検索



- NOTE -

③ 関連資料

③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成

【資料1】 連携評価委員会委員委嘱依頼資料

【資料2】 連携取組事業評価についての資料

〇〇〇〇 殿

「『岡山オルガノン』の構築」
連携評価委員会委員の委嘱について（依頼）

岡山理科大学 学長 波田 善夫
（『岡山オルガノン』の構築」事業推進代表者）

拝 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より大学の教育・研究等に関しまして多大なるご尽力をいただき、誠に感謝しております。

さてこの度、別添のとおり文部科学省が実施しております「大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラム」に昨年7月に採択され、岡山県内15大学が連携した取り組みである

「『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—」
を開始し、現在大学教育連携センターを中心に連携校が一丸となって取り組みの発展・充実にま
い進しております。

つきましては、この取り組みがさらに発展し今後とも継続可能なものとなるよう、下記のと
おり、貴殿に連携評価委員会委員をお引き受けいただきたくご依頼申し上げます。

なお、ご承諾の際は、お手数ですが別紙承諾書をご返送くださいますようお願いいたし
ます。また、第1回連携評価委員会の開催のご案内も同封しておりますが、ご承諾いただける際
はご確認いただきますようお願い申し上げます。

敬 具

記

職 名 「岡山オルガノン」連携評価委員会委員
委嘱期間 委員承諾日から平成22年3月31日まで
職務内容 連携取組の内容や成果に対する評価および指導助言。具体的には、委員会
出席、学識経験者として指導・助言、評価報告書作成等です。
開催回数 年1回（平成22年3月15日開催予定）1回あたり2時間程度
そ の 他 岡山理科大学（代表校）の基準に基づき謝金及び旅費を支給いたします。

以 上

- 【添付資料】 ・「岡山オルガノン」連携評価委員会要項（別添1）および名簿案（別添2）
・平成21年度「大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラム」申請書類
・文部科学省「大学教育充実のための戦略的
大学連携支援プログラム」について

承 諾 書

平成 年 月 日

岡山オルガノン大学教育連携センター
事業推進代表者 殿

住 所

所 属

職 名

氏 名

印

平成 22 年 1 月 22 日付け岡理大発第〇〇〇号で依頼のありました委員の
委嘱について承諾します。

「岡山オルガノン」連携評価委員会要項

(趣旨)

第1条 この要項は、岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、連携評価委員会の組織及び運営に関し、必要事項を定めるものとする。

(所掌事務)

第2条 連携評価委員会は次に掲げる事項を所掌する。

- (1) 構成大学が実施した連携取組事業の内容および成果の評価を行うこと。
- (2) 構成大学が実施した連携取組事業の内容に関して指導および助言を行うこと。

(組織)

第3条 連携評価委員会の組織は次の各号に掲げる委員で組織する。

- (1) 有識者（産学官の外部委員）
- (2) 構成大学代表者（学長等）
- (3) その他委員会が必要と認めた者（学生を含む）

(委員長)

第4条 連携評価委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

- 2 委員長は、連携評価委員会の会議を主宰し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(委員会の成立等)

第5条 連携評価委員会は、委員の半数以上の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

- 2 連携評価委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の者の出席)

第6条 連携評価委員会は、必要があるときは、委員以外の者を出席させ、その意見を聴くことができる。

(事務)

第7条 連携評価委員会の事務は、構成大学の協力を得て、岡山理科大学内に設置している大学教育連携センターにおいて処理する。

(雑則)

第8条 この要項に定めるもののほか、連携評価委員会に関し、必要な事項は別に定める。

(平成22年1月22日：岡山オルガノン代表者委員会にて承認)

平成21年度 連携評価委員会 名簿 (案)

(1) 有識者 (産学官の外部委員)

所 属	職 名	氏 名
岡山県	副知事	古 矢 博 通
岡山県教育委員会	教育長	門 野 八洲雄
岡山経済同友会	代表幹事	中 島 基 善
山陽新聞社	代表取締役	越 宗 孝 昌
立命館大学共通教育推進機構	教授	木 野 茂

(2) 構成大学代表者 (学長等)

所 属	職 名	氏 名
岡山大学	学長	千 葉 喬 三
岡山県立大学	学長	三 宮 信 夫
岡山学院大学	学長	原 田 博 史
岡山商科大学	学長	井 尻 昭 夫
川崎医科大学	学長	福 永 仁 夫
川崎医療福祉大学	学長	岡 田 喜 篤
環太平洋大学	学長	大 橋 博
吉備国際大学	学長	藤 田 和 弘
倉敷芸術科学大学	学長	添 田 喬
くらしき作陽大学	学長	松 田 英 毅
山陽学園大学	学長	赤 木 忠 厚
就実大学	学長	押 谷 善一郎
中国学園大学	学長	松 畑 熙 一
ノートルダム清心女子大学	学長	高 木 孝 子
岡山理科大学	学長	波 田 善 夫

平成22年1月22日

〇〇〇〇 殿

『岡山オルガノン』の構築

第1回連携評価委員会の開催について

岡山理科大学 学長 波田 善夫
(『岡山オルガノン』の構築)事業推進代表者)

拝 啓

時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

この度は、私どもの大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム「『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—」における連携評価委員会委員の委嘱につきまして、快くご承諾いただき、深く御礼申し上げます。

さて早速ではございますが、下記のとおり第1回連携評価委員会を開催するはこびとなりましたので、委員の皆様にはご出席くださいますよう、謹んでご案内申し上げます。

つきましては、ご多用の中誠に恐れ入りますが、別紙出欠票を2月22日(月)までに郵送、FAXまたはE-mailにてご返信いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。なお、本取組の連携評価を進める上で、審議事項のご提案などございましたら、別紙に合わせてご記入くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

記

- 会 議 名 第1回連携評価委員会
日 時 平成22年3月15日(月) 15時～
場 所 岡山理科大学 第9号館 3階 大会議室
(岡山市北区理大町1-1 (同封しております地図でご確認ください))
- 議 題 (1) 委員長の選出
(2) 平成21年度連携取組の内容や成果について
(3) 平成22年度連携取組の計画について
(4) その他必要な事項

以 上

宛先：岡山オルガノン 大学教育連携センター（担当：佐藤、大本）

別紙

（郵送：〒700-0005 岡山県岡山市北区理大町 1-1 FAX 番号：086-256-9771 E-mail：info@okayama-organon.jp）

第 1 回連携評価委員会 出欠票

開催日：平成 22 年 3 月 15 日（月）

貴 大 学 名	
ご 出 欠	委員出席 代理出席 その他
ご 出 席 者	役職名 ご芳名
ご 随 行 者	役職名 ご芳名
ご提案したい議題	
ご 連 絡 事 項	

記 入 日	平成 22 年 月 日
ご担当部署	
ご担当者氏名	
T E L 番 号	
F A X 番 号	

連携取組事業評価について

[本連携取組事業の目的]

連携校間における（A）教養教育の充実・共同FD・SD活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる3つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることであります。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけではなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたいと考えています。

[評価の目的]

本連携取組事業の各々の取組を年度毎に振り返り、今後の継続的事業展開だけではなく、さらに発展的な取組へとつなげ、岡山県内の大学教育・学生サービスの質的向上を図ることを目的として点検・評価を行います。これを通して、成果や課題を連携校すべてにフィードバックし、各大学の特色を踏まえた上での大学教育充実に向けた改善を図る契機として活用します。

[評価規準・評価観点]

（1）事業取組評価

- ①本連携取組事業の内容が目的に沿って適切な企画・実施がなされているか
- ②大学間の連携が適切に図れているか
- ③本事業のために導入した設備が目的達成のために有効に活用されているか

（2）地域貢献評価：

- ①産官民や高校との連携が適切に図れているか
- ②地域の担い手となる人材育成につながる取組となっているか

[評価基準]

- A：十分に満足できる（期待する効果が見られる）
B：おおむね満足できる（期待する効果はあるが、未到達の部分もある）
C：努力を要する（期待する効果が見られない）
D：問題がある（期待する効果へとつなげるよう計画がなされていない）

[取組点検項目]

以下の5項目について評価をしていただきます。各項目の詳細な取組については文部科学省に今年度事業として提出した交付申請書の内容を掲載しておりますので、ご参照ください。

(1) 共通計画（組織基盤）

- ①代表校に「大学教育連携センター」および3大学に「サテライトオフィス」、また「岡山オルガノン代表者委員会」の設置
- ②大学教育連携センター設立記念シンポジウム「ハッシン！岡山オルガノン」の開催
- ③「連携評価委員会」の設置、3月に連携評価委員会を開催し、評価報告書を作成
- ④平成21年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加

(2) インフラ整備計画

- ⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）
- ⑥ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、2月以降にe-Learning用パソコンの設置調整
- ⑦ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1月以降に試行運用の開始
- ⑧ICT活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

(3) 学士力育成のための計画

- ⑨FD研修事業「i*See 2009」の共催
- ⑩「吉備創生カレッジ」に対して共同SD活動事業の委託内容の検討
- ⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信科目の検討・協議・決定
- ⑫共同FD・SDシンポジウムの開催、11月頃より共同FD・SD担当者会議の開催

(4) 社会人基礎力育成のための計画

- ⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
- ⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

(5) 地域発信力育成のための計画

- ⑮ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1月以降に配信コンテンツの作成
- ⑯七タエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

[評価報告書の作成について]

連携評価委員会開催当日に、大学教育連携センターおよび各オフィスの代表者より、各取組点検項目につきまして配布資料に従って概略の説明を致しますので、以下のとおり、本連携取組の評価報告書の作成をお願い致します。

- (1) 評価報告書は連携評価委員会の全委員にご提出いただきます。
- (2) 委員会から評価報告書の作成につきましては、上記で説明しました [本連携取組事業の目的] および [評価の目的] をご理解いただき、[評価規準・評価観点] に従い、評定およびコメントの記載をお願いします。
- (3) 評定は大項目ごとに [評価基準] の4段階評価でお願いします。コメント欄には、評定に基づき「優れている事項」や「改善すべき事項」など、記述していただくようお願いします。特に、評定で「C」または「D」の評価をされた場合は、課題や改善点など具体的に記述していただき今後の取組に反映させたいと思っております。また、各取組点検項目の小項目の番号 (①～⑩) について個別にコメントを記述される場合は、小項目の番号を分かるように付記してください。
- (4) 「点検項目別評価」と「総合評価」のそれぞれ記述の方をお願いします。「その他のコメント」につきましては、本連携取組についてご意見・ご感想等ご自由にご記入ください。
- (5) 行数・頁数など必要に応じて追加していただいて結構です。

以下、記入例を示させていただきますので、ご参照ください。

《記入例》

評 定	A	B	Ⓒ	D
コメント	・・・を実施したことにより、・・・に大きな成果があがっているのは確かである。ただし、実施した・・・の取組 (①) が部分的であり、・・・と・・・を目標にしている・・・への寄与は低いと考えられる。そのため、・・・の取組 (①) と・・・の取組 (②) については、・・・を整備し、・・・に対してより発展的な事業を展開し、・・・の向上を図るよう検討する必要がある。			

[提出方法]

大学教育連携センターにメールで添付してお送りください。

e-mail アドレス : info@okayama-organon.jp

提出期限 : 平成 22 年 3 月 29 日 (月) 17:00

連携取組事業評価報告書（平成21年度）

1. 基本情報

作成日	平成22年3月 日（ ）
委員氏名	印

2. 点検項目別評価

(1) 共通計画（組織基盤）

評 定	A	B	C	D
コメント				

(2) インフラ整備

評 定	A	B	C	D
コメント				

(3) 学士力育成のための計画

評 定	A	B	C	D
コメント				

(4) 社会人基礎力育成のための計画

評 定	A	B	C	D
コメント				

(5) 地域発信力育成のための計画

評 定	A	B	C	D
コメント				

3. 総合評価

評 定	A	B	C	D
コメント				

4. その他のコメント

--

④ 関連資料

④平成 21 年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム（仮称）」へ参加

【資料 1】 大学教育改革プログラム合同フォーラムちらし

【資料 2】 報告資料

【資料 3】 出張報告書フォーム資料

平成21年度

大学教育改革プログラム 合同フォーラム

平成22年1月7日(木)
8日(金)

東京ビッグサイトにて開催

主催：文部科学省・財団法人文教協会

文部科学省では全国の国公私立大学・短期大学・高等専門学校の優れた教育プロジェクトを支援するプログラムを実施しています。今回、東京都明で以下のプログラムが一堂に会し、今年度選ばれた取組の紹介をはじめ、大学教育改革の現状について広く社会へ情報発信を行うフォーラムを開催します。情報収集の場としてぜひご来場ください。

▶ 参加プログラム

- 大学教育推進プログラム
- 学生支援推進プログラム
- グローバルCOEプログラム
- 大学院教育改革推進プログラム
- 戦略的・大学連携支援プログラム
- 国際化拠点整備事業
- 周産期医療環境整備事業
- 看護職キャリアシステム構築プラン
- がんプロフェSSIONAL養成プラン

▶ フォーラムの主な内容

基調講演

【事前申込制】

天野郁夫 東京大学名誉教授
による講演が行われ今後の教育に関する議論が展開されます。

分科会

(グループディスカッション)

【事前申込制】

各大学等の事例発表が行われ、プロジェクト担当者から、改革の参考となる取組のエッセンスを中心として紹介されます。これらに対する意見交換が行われます。

ポスターセッション

【入場自由】

各ブースで今年度(19～20年度含む)選定取組に関する情報発信が行われます。参加者が自由に意見交換の出来る情報交換室も設けられます。

▶ 開催スケジュール

※ COE：「卓越した拠点 (Center of Excellence)」を「COE」と呼んでいます。

※ GP：「優れた取組 (Good Practice)」を「GP」と呼んでいます。

	会議棟7階 国際会議場	会議棟6階 605・606会議室	会議棟6階 607・608会議室	会議棟1階 レセプションホール
平成22年1月7日(木)	【事前申込制】	【事前申込制】	【事前申込制】	【入場自由】
	10:30～11:45 基調講演 天野郁夫 東京大学名誉教授			11:00～16:30 ポスターセッション 平成21年度(19～20年度も含む)選定取組等の紹介 ・学生支援推進プログラム ・大学院教育改革推進プログラム ・戦略的・大学連携支援プログラム ・産学連携による実践型人材育成事業 ・専門職大学院等における高度専門職業人養成教育推進プログラム ・社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム
	13:30～15:00 総合的な学生支援 (学生支援推進プログラム)	14:50～17:30 (いま) 大学院教育改革の現在 第1部 グローバルCOEプログラム 第2部 大学院教育改革推進プログラム		
16:00～17:30 大学間連携の展開 (戦略的・大学連携支援プログラム)				
平成22年1月8日(金)	【事前申込制】	【事前申込制】	【事前申込制】	【入場自由】
	10:30～12:00 特色ある優れた学部教育の展開 (大学教育推進プログラム)	10:30～12:00 短期大学の挑戦 (大学教育推進プログラム)	10:30～12:00 がん対策専門医療人の養成 (がんプロフェSSIONAL養成プラン)	11:00～16:30 ポスターセッション 平成21年度(19～20年度も含む)選定取組等の紹介 ・質の高い大学教育推進プログラム ・質の高い大学教育推進プログラム(短期大学) ・大学教育の国際化加速プログラム ・がんプロフェSSIONAL養成プラン ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業
	13:30～15:00 職員向け講演 横田利久 大学行政管理学会前会長			
16:00～17:30 大学教育の質保証 (大学教育推進プログラム)	16:00～17:30 大学教育の国際化 (国際化拠点整備事業)	16:00～17:30 医療系人材の養成 (周産期医療環境整備事業・看護職キャリアシステム構築プラン)		

お問い合わせ先(メールでのお問い合わせをお願いいたします)

財団法人文教協会 TEL: 03-3356-9183 e-mail: forum@bunkyo21.org

フォーラムの詳細・参加登録はこちら▶ <http://www.bunkyo21.org>

平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム 報告書

文責：木村 宏、佐藤 大介、大本 勝子

日 時 ：平成22年1月7日（木）10：30～17：30 8日（金）10：30～17：30
場 所 ：東京ビッグサイト会議棟 〒135-0063 東京都江東区有明 3-11-1
参加者 ：木村 宏、竹内渉、豊田真司、佐藤大介、大本勝子
参加人数 ：(未発表)

【7日】開会式

挨拶：文部科学省副大臣 鈴木 寛 氏

<挨拶概要>

GP や COE プログラムに対する来年度予算の状況について報告があり、その中で昨年の事業仕分けにより多くのプログラムや削減または今限りでの廃止など現状について説明があった。ただし、日本の教育改革において大学改革は重要な一部であるとの認識は強く、再来年度は大学教育が核となるような予算編成も視野に入れていることが報告された。

(文責：佐藤大介)

【7日】A. 基調講演「大学教育改革の課題と展望」

講師：東京大学名誉教授 天野 郁夫 氏

<講演概要>

国立大学法人評価委員としての経験を元に、大学教育の課題についてこれまで同様の問題が繰り返されていることにふれ、今後はこれまでの取組を検証することが必要であることが説明された。その中でこれまでの3つの答申について大学教育改革の変遷について説明があった。

「大学教育における課題は今後における学校教育の総合的な拡充整備のための基本的施策について」(答申)(1971)では、一般教育と専門教育の廃止、総合的学問体系化、教育の教育方法理解を提示したが、大学関係者の反論・批判により実現しなかった。「大学教育の改善について」(答申)(1991)は「設置基準の大綱化・自由化答申」とも呼ばれ、FD やシラバス推進、各大学による自己点検評価の取組、専門学部制の強化(一般教育学部や教養学部の廃止)が提言されている。「学士課程教育の構築に向けて」(答申)(2008)では、大学・高等教育システムの質的变化(学生、教員、職業と専門の関連性)により学士課程プログラム志向が強化され、Admission Policy、Curriculum Policy、Diploma Policy の策定へとつながった。また learning outcome の評価も強化された。

現在取り組まれている大学改革は、アメリカの制度を日本に取り入れているに過ぎず、十分にFD やシラバスを活用できておらず、専門学部制という組織原理はヨーロッパ思考に基づいており、この差を意識する必要がある。また今後改革の核となるのは大学院、特に修士課程の位置付けである。修士課程の内容が明確でないと学士課程がはっきりしないため、大学が今後主体的に検討する必要がある。

大学改革は国主体ではなく、教授個人、中間団体が主体的に担っていかなければならない。

<岡山オルガノンとの関連性>

これまで国が施策としてまとめてきた答申の内容は、オルガノンの中核となる取組が含まれており、今後連携して進めていくことの重要性を改めて実感した。また本取組の効果や取組自体の内容について、十分な検証を行うことが今後の大学教育改革においては重要な役割を果たすが、その方法についてもしっかりとしたプログラムを策定する必要性を感じた。また、大学院改革は本 GP には含まれていないが、学士課程の基礎基盤を支援する本 GP の取組が大学院を設置している県内大学の改革の一助となることができると考えられる。

(文責：佐藤大介)

【7日】 1. 「総合的な学生支援」分科会

<取組事例紹介>

<取組①「マイライフ・マイライブラリー」

発表者：東京女子大学図書館長 兼若 逸之 氏>

大学図書館を学生ニーズに応じた形式での運営をするため様々な特色ある取り組みをしているプログラムについて紹介があった。大学図書館が学術情報収集やコミュニケーションスペース、グループ閲覧室や個人学習スペースとしての機能は当然であるが、ガラス張り部屋でのプレゼンテーションルームや気分転換に使用できるリフレッシュルームを新設し、学生の社会人基礎力やキャリア構築力の育成にも努めている。また、学生アシスタントも系統立てて配置され、個々に必要な支援を提供するために、それぞれが担う役割分担を持っており、その中でも大学院生が務める学習コンシェルジュの配置は資料検索や論文作成などの支援を可能とし、学習活動、学生協働、学生生活の拠点としての学習滞在型図書館の構築のための興味深い取り組みであった。

<取組②「連絡システムに就職情報を統合した双方向ネット就職支援システム」

発表者：東京家政学院大学副学長 岩見 哲夫 氏>

学部によって学生の就職活動に対する意識や態度が異なっていたため、学生支援の向上・充実、より一層の効率化を目指した東京家政学院大学の改組（平成 23 年度）について説明があった。このプログラムは、就職支援による早期の進路決定の実現を目指すものであり、卒業生も参画したワーキンググループを立ち上げ、就職支援システムの構築を行っている。在学生はメーリングリストを活用して就職情報を得ることができ、さらにオンライン上で双方向に連絡、カウンセリングなどを行うコミュニティを設置し、大学が一括して就職相談や連絡の管理が可能となり、また学生も就活への意識付けや不安解消の場として活用している。今後はシステム改善、教職員の協力体制、卒業生との連携を強化していきより効果的な利用を検討している。

<取組③「学生の 3 つの就職力一体形成支援プログラム」

発表者：長岡大学教授 原田 誠司 氏>

地方大学として大学経営が厳しくなる中で定員割れの状況を打開しようと、産学官融合教育プログラムを展開し、社会人基礎力・人間力の養成に重点的に取り組んでいる。本 GP では社会人講座や就勝美人講座、資格取得講座を開講し、学生の就職活動の積極的な展開を支援している。また、学生がゼミ担当教員や就職支援室と履歴書や目標等の情報を共有し、適切な指導や支援を可能にする「キャリア・ポートフォリオ」システムを導入している。さらに、キャリアカウンセラーを配置し就職相談の窓口を充実させている。これらは大学の就職支援課だけでなく、ゼミやキャリア関連科目との連携も図りながら、全学的な取組となっている。

<コメント>

- ・学生支援の重要性、教職員の能力開発の必要性を再認識した。
- ・学生の力をどのように引き出すかが課題である、心技体の心の部分は学生に頼る部分が多いように感じた。
- ・教員・学生・保護者の意識・ニーズを把握するために、教員の研修プログラムに反映させることが必要であり、学生の学習意欲の転換につながるものである。
- ・就職に関して、地方大学は努力する必要がある、教員自身がマニュアル作成に取り組む必要がある。
- ・「学生を上手な活用」「学生のアクセス環境の整備」「就職支援体制」と言った個々の目的が含まれた取組となっている。

<岡山オルガノンとの関連性>

学生が大学本来の事業に参画し、さらなる充実を図ることは岡山オルガノンでも同じ目標を持っている。学生支援をする中で図書館活用や就職支援の重要性を再認識すると共に、これらの取組がキャリア形成へとつながる点から、キャリア指導のプロフェッショナルチームの組織化は大変有意義なものであり、これの実現に加えて、学生が参画する大学作りもキャリア形成の視点に含めていく必要性を感じた。

(文責：佐藤大介)

【7日】2. 「大学間連携の展開」分科会

<取組事例紹介>

<取組①「食の安全・安心の基盤としての地域拠点型教育研究システムのネットワーク形成」

発表者：酪農学園大学教授 吉野 宣彦 氏>

近年の食の安全・安心への不安を払しょくするためのシステム形成を目指した人材育成を目指し、学生（大学院生）だけではなく社会人への育成にも取り組んでいる。本取組で大学連携をする理由は、農村振興への個性を補完、窓口の一本化を図ることである。まず発表のはじめに、連携校教員が作成・編集をしたPRビデオが上映され、取組の紹介や実際に活動に参加している学生や農家の姿を見ることができた。取組では、人材育成と社会貢献を循環的に進めることで効果的になり、人材育成では地域拠点型農学エクステンションセンターを設け、テレビ会議システムやLMSを活用した授業配信や相談・検討等に取り組み、また社会貢献では各農村サテライトを各地域に設置し、研究員を常駐させ連携センターとの調整を図ると共に、地域農村のニーズ調査を実施し農村との信頼形成に努めている。

<取組②「北九州学術研究都市連携大学院によるカーエレクトロニクス高度専門人材育成拠点の形成」

発表者：北九州市立大学大学院国際環境工学研究科 研究科長 梶原 昭博 氏>

ユーザーニーズ（環境、安全性、快適性）と産業界の求める人材（機械工学、エレクトロニクス、人間工学）から、技術革新を主導する技術者の育成を目指した取り組みであり、各連携校大学院が強みとする分野の教育を担い単位互換を実施している。また、自動車関連業界20社の協力により現場のエンジニアを講師として招聘し先端技術等の専門教育と職業観を結び付けビジネスシーンに対応させる科目を新設し学生は履修することができる。実際の履修学生の声も紹介された。また、実践的派遣研修では、大学のニーズを把握し、FAISカー・エレクトロニクスセンターが主体となって、企業と大学のマッチングを実施し、学生の共同研究への参画を促している。今後の課題としては、人材輩出の受け皿（出口問題）、他分野応用、一般展開等があることが報告された。

<質疑応答>

[取組①]

Q：一時的なのか将来的な試みとしているのか？持続性は？

A：一時的と感じている人はいない。他のサテライトの設置要望もある。社会人教育の充実が必要だが、今後の進め方については考えていく必要がある。具体的には教職員研修や農家研修、広く一般を対象とした研修でも活用できるのではないかな。

Q：長寿マーケットの場所の確保・運営は？

A：場所は病院の駐車場にテントを立てている。これは役場の連携委員会で申し出ている。

[取組②]

Q：単位互換時のカリキュラムの制約は？

A：共同研究をしているが、カリキュラムの担当上一大学としている。

Q：履修学生数 25 名は少ないのでは？

A：リーマンショック以降自動車関連の就職希望が減った。来年度は増えると予想される。

[共通]

Q：各大学で中心的に取り組んでいる教職員の数は？

A：[取組①] 雇用×12 名（教員 5、研究員 3 名、事務員 4 名）

各大学でワーキンググループに参加してもらっている。

A：[取組②] 各大学の中心となる教員が調整にあたる。（専従事務の雇用×3 名）

<岡山オルガノンとの関連性>

戦略 GP の先進事例は岡山オルガノンの取組を進める上で大きな示唆を得られるものである。取組①では、遠隔地とのコミュニケーションのためテレビ会議システムや LMS が授業だけではなく相談や打ち合わせ等でも使用されており、本取組でも参考になった。また、人材育成と社会貢献の循環という考え方は、岡山オルガノンの構築に向けて地域発信力を高めていく上での基礎となる理念である。また、取組②では、単位互換制度において各大学が持つ強みをうまく生かした取組となっており、各大学のもつ特色を共有させることにより大学教育連携の充実化を図ることができる良い先進事例として大変参考になった。また人材育成においては、両取組で共通しているのは地域産業ニーズの把握である。岡山オルガノンでは魅力ある地元進学・地元就職も取組の成果として期待しており、そのためにもさらなる地域・産業との密接な連携が必要であると実感した。

（文責：佐藤大介）

【8日】6. 「短期大学の挑戦」分科会

<取組事例紹介>

<取組①「地域の子育て施策を活用した教育方法の改善」>

発表者：大垣女子短期大学総合教育センター長 矢田貝 真一 氏>

短大に設置している 4 学科が共同で地域との結びつきを重視した活動を大垣市と連携して行っている。このような取組は FD 活動を通して、学習意欲の低下や社会生活体験・経験不足という課題が明らかとなり取り組み始めた。大垣市とは、子育てや人材育成、地域振興、保健・医療・福祉面で協定が結ばれ、地域の子育て支援関連のイベント（例：子育てサロン）を実施している。この他学科との学生と共同で

イベントを開催する中で、参加者から多様な取組について知ることができたという意見があり、また学生からも一定の達成感や充実感を得ることができ、また他学科の学生から学ぶことも多かったようである。最後にこの取組を展開する前提として、これまでの特色 GP や現代 GP などの様々な取組が参考となったと説明があった。

<取組②「課題探求能力」の育成を目指す教育取組

発表者：安田女子短期大学秘書科 立花 知香 氏>

秘書科はこれまで学生の悩みに対する対応を検討し、学生の主体的態度、将来志向、社会的要請に応じた人体育成に取り組んできた。その中で現代的課題として自立した「課題探求能力」のある人材の育成が必要であり、そのために教育課程外活動を積極的に活用している。まず DIY 教育システムを立ち上げ、インターネット上でどこでも (D) 持てる会議の場を設け、学内のゼミ室等を活用していつでも (I) 持てる会議の場、作業の場を設けている。イベントでは、学科ガイダンスやオープンキャンパス、高大連携講座をはじめ、ジョブカフェ、保護者懇談会といった独自行事も実施している。また、学生の議論から生まれた秘書科「マナー」憲章に全学生が署名し「安田ブランド」の確立を目指している。最後に他大学での応用についても示唆があった。

<パネルディスカッション>

- ・ GP をすることで弱点がわかり、強みを生かすことができる。また GP に参加することが一番の FD であるように感じる。厳しいからこそ短大の存在意義を考えるチャンスである。
- ・ 両校とも学生を大事にし、学生との距離の近さが重要に感じた。先生と学生が深い人間関係を築く中で、何でもしてあげる、ではなく、社会の厳しさを経験させることも重要である。
- ・ 地域とつながることも大きな支えとなる。
- ・ 卒業後に秘書科で良かったとどう言わせるかがポイントである。
- ・ 2年課程でも地域で学生育てていけるように、教員が短大像をしっかり持つことができる。
- ・ 学生の主体性を芽生えさせる必要がある。やって満足にせず、振り返りをして主体性に結びつけることが必要である。また、地域にどう反映させるのかも課題である。
- ・ 大学はあるだけで大きな地域貢献になり、地域に情報発信をしている。「良い研究ができる先生は良い教育ができる」ので、研究環境の整備も重要である。

<質疑応答>

[取組①]

Q：イベントに参加した保護者や学生の感想は？

A：アンケートはしていないが、様々な活動に出会えるのは喜んでもらえている。

Q：総合教育センターの役割は？

A：平成 21 年度に設置し、4 学科の学生のつながりを支援。また、初年次教育、リメディアル、リカレント等も担当している。

Q：学生の気付き、他者理解、学生の育ちは？

A：他学科の学生のふれあい、他学科の学生の得意・不得意が分かる。教育効果の検証は今後の課題である。

Q：市からの協力の内容は？

A：広報、後援、調査依頼、結果を市の施策に反映させる。また地域のイベントの誘いも多くある。市長が語る会を短大内で実施している。

Q：幼保の教育課程の合理化は？

A：幼児教育課程は3年生にして、3年目に地域の演習を含んでいる。

[取組②]

Q：全学的な組織は？

A：委員、協議会で情報を共有している。

<岡山オルガノンとの関連性>

岡山県内では短期大学を併設している大学も多い中で、今後岡山オルガノンの取り組みを短期大学にも拡充していく必要がある。短期大学の取り組みが地域により密接に連携することでさらなる魅力作りへとつなげられる。岡山オルガノンでは地域に根差した科目を e-Learning で配信する計画であり、短大生が地域について知るとても良いチャンスとなる。また、他学科との学生交流についても大きな成果を上げており、岡山オルガノンでは大学間の学生交流により教育効果の向上につなげられることが期待できる。エコナイトや地域活性化シンポジウムに短大生や地域一般の方も広く展開することの意義を改めて認識できた。

(文責：佐藤大介)

【8日】7. 「大学教育の国際化」分科会

<取組事例紹介>

<取組①「大阪大学国際化拠点整備事業」

発表者：大阪大学留学生センター教授 近藤 佐知彦 氏>

大阪大学 G30 の取組として英語コースを学部および大学院に新設している。また留学生受け入れの環境整備として留学生センターも改組した。それぞれの学生についてはシミュレーションをしたが、その学生数への対応が課題である。3000 人を目標にするため「非正規生」向けプログラムを導入。非正規生は正規生の準備群として位置付けられ、毎年還流非正規生も入ってくるため、学生数は増加するという構造である。また取組ビザ取得やコスト面での対応として「短期」ではなくさらに短い「超短期」留学プログラムを実施し、この超短期の間に十分な教育効果が上がる内容を検討し、学生サービスへのアクセスを可能とし、また Web 願書受付など体制整備にも取り組んでいる。報告書は WEB で入手可能。

<http://ex.isc.osaka-u.ac.jp/spring2009/index.html>

<質疑応答>

Q：費用については？

A：名のテクのような学内企画型プログラムはギリギリラインでやっている。日本語は業務委託型で業者からのオファーの金額に合っている。

Q：サポートオフィスのキャリア形成は？

A：英語選考が主眼。まだ始まっていない。

<取組②「立命館大学国際化拠点整備事業」

発表者：立命館大学国際部副部長・文学部教授 中川 優子 氏>

立命館大学では学部学生の約 20%が在学中に一度は留学経験をするよう派遣枠を設けている。留学制度としては、レベル別、期間別とがある。さらに、グローバル・ゲート・プログラム (GGP) という留学前から留学後まで、4年間を通じて留学効果を最大限に引き出す国際教育プログラムを設けている。またアメリカの 2 大学と学部共同学位プログラム (DUDP) をスタートさせ、2 大学の学部単位を最短 4 年で取得できるコースもある。このプログラムに関する単位互換制度や奨学金についての説明があった。この

ほかにも交換留学制度もあり、学生は奨学金などを活用して留学をしている。

<質疑応答>

Q：希望者がGGPに登録するのか？

A：初年度は入試合格者に希望を書かせた。現在は入学後の応募をしてもらい、プレースメントテストで可否を出している。学部によっては時間割の都合で、参加していない学部もある。

Q：GGP参加者数は？少人数授業の人数と時間は？

A：現在46名（4クラスのうち1クラスはDUDP）

Q：GGPの単位認定の考え方は個別的か包括的か？

A：各学部の条件で手が出せないのが現状。学部ごとに科目があるかどうかによる。

Q：学生の募集基準があることについて今後の展望は？

A：プログラムによって全員応募の可のものもある。長期になると授業についていくためある程度必要がある。面接は大事なスクリーニングと考える。

Q：GGPでの就職支援は？

A：帰国後の授業も企画している。DUDPは留学先のキャリアセンターで対応してもらっている。これから留学がどのようなキャリア形成になるか検討中である。

<取組③「明治大学国際化拠点整備事業」

発表者：明治大学政治経済学部教授 飯田 年徳 氏>

アメリカの大学からの受け入れおよび明治大学生の短期留学を基盤として交流をしている。外国人学生の受け入れ時にはサポーター学生を募集し通訳やディスカッションなどを実施している。日本人学生を派遣する際も、学部独自のプログラムのため、学部の特性に合わせた内容を組むことができ、また留学体験の意義を重視し学生寮に宿泊させている。このプログラムに関する安全管理や費用、単位付与についても説明があった。学生募集についてはTOEICに一定の条件を持たせ面接も実施している。ただし、この取組においては、まずは語学研修のレベルから始め「英語で学ぶ環境作り」を整備していく必要があることが話された。今後は教職員の負担軽減やインターンシップ（ジャーナリズム）もできるよう考えていきたい。

<質疑応答>

Q：英語力強化の学部独自の取り組みを行っている。

A：留学目的という趣旨を入れて、全学的な取組にする予定である。

<岡山オルガノンとの関連性>

岡山オルガノンでは国際化の視点は特記していないが、型にはまらないプログラムやシステムの導入により、学生のより充実した学生生活につながることが分かる取組であると感じた。また外国に投げ込まれる学生（日本人留学生も外国人留学生も）に対するケアも充実させることにより外国に興味を持つ学生が増えていることは、地域に学生を投げ込むことで地域に興味を持つようになるのではと感じている。そのためのサポート体制をどのように構築するのが今後の課題である。

（文責：佐藤大介）

【7日・8日】ポスターセッション

<概要>

ポスターセッションでは、初日は8つのプログラムについて161の取組が、2日目は7つのプログラムに

ついて 177 の取組が出展していた。

＜岡山オルガノンとの関連性＞

岡山オルガノンの取組は e-Learning や FD・SD、キャリア教育等多岐にわたっており、連携校の教職員の研修にも取り組んでいく必要がある、そのためポスターセッションでは先進事例の取組を知るための情報収集のみではなく、年度内に開催されるシンポジウム等のイベントについての情報を集め、連携校教職員に対して参加を促したい。

(文責：佐藤大介)

【7日・8日】情報交換室

＜概要＞

情報交換室は当日直接持参した GP 関連の資料を設置できる場所で、申し込み等不要であるが、担当者の張り付きは禁止されていた。今回岡山オルガノンからも取組概要図ならびに設立記念シンポジウムで配布した冊子 150 部を持参し、本取組について広く知ってもらうため両日ともに設置した。両日で 80 部の資料を配布することができた。

＜岡山オルガノンとの関連性＞

岡山オルガノンの取組は県内ほぼすべての大学が連携している全国的にも珍しい取り組みであり、この取り組みについて大学関係者に広く周知していくことは本取組の成果を今後全国に波及させていくために必要な活動であると考えている。

(文責：佐藤大介)

資料（会場の様子）



開会式



A. 基調講演



1. 「総合的な学習支援」分科会



2. 「大学間連携の展開」分科会



4. 「特色ある優れた学部教育の展開」分科会



6. 「短期大学の挑戦」分科会



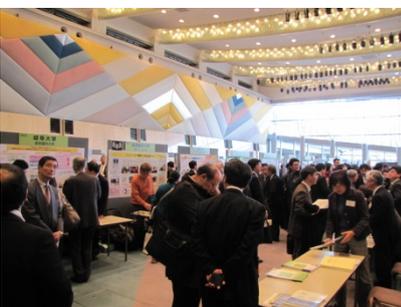
B. 職員向け講演



5. 「大学教育の質保証」分科会



7. 「大学教育の国際化」分科会



ポスターセッション



情報交換室



エントランス

回 覧	岡山オルガノン 大学教育連携センター					所属大学担当部署

『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—

出張報告書

1. 基本情報（必要に応じて内容を修正してください）

記入日	平成 年 月 日 ()	
文責		
所属大学	岡山理科大学	
出張者氏名		
参加日	平成 年 月 日 ()	
場所		
出張先詳細	申請プログラム	記入例) 大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
	取組名称	
	連携校数	

2. 本取組事業との関連性

※該当する項目にチェック☑をしてください。

【取組全体共通について】

- テレビ会議システムを活用した双方向ライブ型遠隔授業
- VOD を活用した e-Learning による個別学習
- 地域の高校、自治体、大学関連コンソーシアム、企業等との連携による地域貢献
- その他 ()

【学士力の育成について】

- 単位互換制度の充実、教養教育科目の充実・共有化
- 連携校同士の共同 FD 活動
- 連携校同士の共同 SD 活動
- その他 ()

【社会人基礎力の育成について】

- キャリア形成教育の担当教員育成
- マナーやビジネスマインド醸成などの実践的体験型プログラム
- 学生の社会活動参画
- その他 ()

【地域発信力の育成について】

- 地域に根差した教養教育の創出
- 産学連携のコーディネート科目の構築
- 地域活性化教育や環境教育の実施
- その他 ()

3. 出張内容（参加した会の内容）

※タイトルや発表者等の情報だけではなく、具体的な内容を書いてください。

4. 参加者の感想と本取組事業に展望すること（オルガノンに関連した内容）

※前頁「2. 本取組事業との関連性」でチェックした項目に関連し、本取組事業の実施体制や運営形態・取組手法などについて、参考になった点や反映・応用できる点、また、苦勞している点を具体的にお書きください。

例) 大学連携成功へのポイント、広報・宣伝の方法、学内教職員の協力体制の強化方法、連携推進のために活用しているツール（機器やソフトウェア等）等

※参加者個人の感想および出張報告に関連して本取組事業に対する展望を書いてください。

5. その他（任意）

※特記事項などあれば、お書きください。

◆ちらしや配布資料等は可能な限りご提出ください。

◆出張報告内容は岡山オルガノン公式ホームページ (<http://okayama-organon.jp>) に掲載する場合がございますのでご了承ください（個人情報を除く）。

⑤ 関連資料

⑤次年度以降の遠隔教育の単位認定の制度化と単位互換協定締結の準備（年内に締結）

【資料1】 ネットワーク担当国会議資料

【資料2】 『大学コンソーシアム岡山』参加大学相互間の単位互換に関する協定書」
の利用同意書に関する資料



第1回ネットワーク担当者会議

- 1 日 時 平成21年9月29日(火) 15:30~17:30
- 2 場 所 岡山理科大学 22544 教室 (25号館4階)
- 3 参 加 者 各連携校の e-Learning 担当者、経理担当者、教務担当者
- 4 議 題 案
 - (1) e-Learning システムの活用方法について (e-Learning 担当者向け)
 - ①ライブ方式
 - ②VOD 方式
 - (2) テレビ会議システムの契約について (経理担当者向け)
 - ①設置導入業者の選定
 - ②各大学の回線環境調査
 - ③設置導入および契約
 - (3) e-Learning 用パソコンの購入について (e-Learning・経理担当者向け)
 - (4) 単位互換・単位認定の制度について (教務担当者向け)
 - (5) 各担当者の役割について
 - (6) 今後の進め方について
 - (7) その他

5 出席者一覧

大学名	職名	氏名
岡山大学	学務部学務企画課長	中野宏栄
	学務部学務情報システム開発室専門職員	小池泰之
	学務部学務企画課 教務第一係	清水千恵
	学務部学務企画課 教務第二係	渡部英広
	学務部学務企画課 企画室	簗島素子
岡山県立大学	情報工学部・助教	山内仁
	事務局・主幹	村上浩志
	事務局・主任	糸島英美
	事務局・主幹	倉田太吾
岡山学院大学	教授	河崎雅人
岡山商科大学	会計課課長補佐	王前美重
	教務課係長	伍賀千恵
	総務企画課主任	三浦尚子
	産学官連携センター主任	中村裕
	コーディネーター	矢延里織
川崎医科大学	教務係長	中山全子
	情報システム室 室長代理	川内宏晃
川崎医療福祉大学	副学長	安藤正人
	講師	小池大介
	庶務課長	和気恭平
	教務課長	田中俊行
環太平洋大学	情報センター主事	星野太一郎
	総務課長	海老原匡一
吉備国際大学	スチューデントサポートセンター教務課	工藤耕空
	スチューデントサポートセンター教務課	大政孝則
	総合企画局総合企画部企画課	和気信幸
倉敷芸術科学大学	庶務部次長	小田上和男
	教務部課長	忠政慎也
	教育研究支援センター	伏見泰司
くらしき作陽大学	音楽学部教授	加藤充美
	教育企画部部長	松下訓康
山陽学園大学	准教授	片岡武
	教務課主任	田中直喜
	会計課主任	山田寛
就実大学	総務課主任	大田原直樹
	情報センター主任	伊丹健治
	教務課事務員	岡田依子
中国学園大学	教授	福森護
	経理課長	矢部幸一
	教務課長補佐	村松敬生
ノートルダム清心女子大学	財務部長	長畑健一
	財務部係長	佐藤紀子
	情報機器教育等支援センター次長	加藤周一
岡山理科大学	大学教育連携センター長	木村宏
	総合情報学部教授	竹内涉
	総合情報学部教授	大西荘一
	経理部長	乙倉博史
	用度課長	小夜美知子
	教務部次長	三川博
	学外連携推進室次長	金子典正
	大学教育連携センターコーディネーター	佐藤大介

『岡山オルガノン』の構築」事業における単位互換制度に関する
『大学コンソーシアム岡山』参加大学相互間の単位互換に関する協定書」の利用同意書

岡山理科大学、岡山大学、岡山県立大学、岡山学院大学、岡山商科大学、川崎医科大学、川崎医療福祉大学、環太平洋大学、吉備国際大学、倉敷芸術科学大学、くらしき作陽大学、山陽学園大学、就実大学、中国学園大学、ノートルダム清心女子大学（以下、「構成大学」という）が、大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムに基づく構成大学間の連携取組事業（以下、「連携取組事業」という）に関し締結した「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムの共同実施に関する協定書」第2条に基づき、『大学コンソーシアム岡山』参加大学相互間の単位互換に関する協定書（平成19年9月11日締結、平成19年10月1日発効）および別途定められた覚書等（以下、「単位互換に関する協定書等」という）を連携取組事業における構成大学間の単位互換協定として利用することに以下のとおり同意する。

（利用の範囲）

第1条 この同意書の利用の範囲は連携取組事業における構成大学間とする。

（利用の期間）

第2条 この同意書の利用の期間は、平成22年4月1日から平成24年3月31日までとする。

（適用の範囲）

第3条 連携取組事業の推進において、構成大学は単位互換に関する協定書等に定める関連条項を遵守しなければならない。ただし、単位互換に関する協定書等の内、実施要項、申合せ事項第3項、第5項、第8項はこの限りではない。

2 連携取組事業における単位互換に関する実施要項は別途定める。

（単位互換に関する協定書等の変更時の対応）

第4条 単位互換に関する協定書等に改定があった場合は、新たに施行された協定書に従うものとする。

（同意書の改定）

第5条 この同意書は、構成大学の協議と合意のもとに、必要に応じて改定することができる。

(協議事項)

第6条 この同意書に定めるもののほか、各条項に疑義が生じた場合は、構成大学間において協議の上解決をはかるものとする。

平成22年3月 日

大 学 名 _____

学 長 名 _____ 印

協 議 書

『岡山オルガノン』の構築」事業における単位互換に関する実施要項

『岡山オルガノン』の構築」事業における単位互換制度に関する『大学コンソーシアム岡山』参加大学相互間の単位互換に関する協定書』の利用同意書第3条第2項の規定に基づき、構成大学間の単位互換に関する実施要項を作成する。

(授業科目及び受入学生数の決定)

第1条 構成大学は、単位互換履修生として履修できる授業科目及び受入学生数については、前年12月末までに決定する。

(募集要項の作成)

第2条 大学教育連携センター（以下「センター」という）は、構成大学が決定した授業科目及び受入学生数に基づき、単位互換履修生について募集要項（以下「募集要項」という）を作成し、前年度2月末日までに構成大学へ通知する。

2 募集要項には、当該大学が実施する単位互換の実施方法（出願条件、授業科目、単位数、受入学生数、履修期間、試験、出願手続き、施設の利用、その他）を記載する。

(受入依頼及び通知)

第3条 構成大学は、学生の出願に基づき、原則として前期にあつては4月上旬、後期にあつては、7月中旬までに、受入大学へ一括して受入依頼を行う。

2 受入大学は、受入の可否を速やかに派遣大学およびセンターへ通知する。

(出願・履修・入学手続)

第4条 単位互換履修生として科目履修を希望する学生は、派遣大学に募集要項に定められた所定の出願書類を提出しなければならない。

2 単位互換履修生として許可された者は、最初の授業の前までに派遣大学の教務部・課窓口、もしくは授業の初回受講時に、受入大学が派遣大学に送付した身分証明書等の必要な資料を受け取らなければならない。

(出席の管理)

第5条 ライブ型遠隔授業への学生の出席は、派遣大学が出席簿を作成し管理する。

2 派遣大学は受入大学に出席簿を試験実施後速やかに提出する。

(試験の実施)

第6条 定期試験・追試験の実施及び受験上の取扱い等については、受入大学の定めるところによる。

(成績及び単位修得の報告)

第7条 受入大学は、派遣大学およびセンターへ成績及び単位修得について当該学期ごとに報告する。

(証明書の発行)

第8条 単位を修得した科目の成績証明書は、派遣大学で発行する。

(休学、退学等の通知)

第9条 単位互換履修生が、休学、退学等身分に異動があった場合は、派遣大学は、受入大学に通知する。

(成績管理)

第10条 受入大学は、単位互換履修生の成績原簿を保管する。

(資料の交換)

第11条 参加大学は、単位互換に関する協定書等及び実施要項に関する資料を交換する。

(有効期間)

第12条 本実施要項の有効期間は、平成22年4月1日から平成24年3月31日までとする。

(その他必要事項)

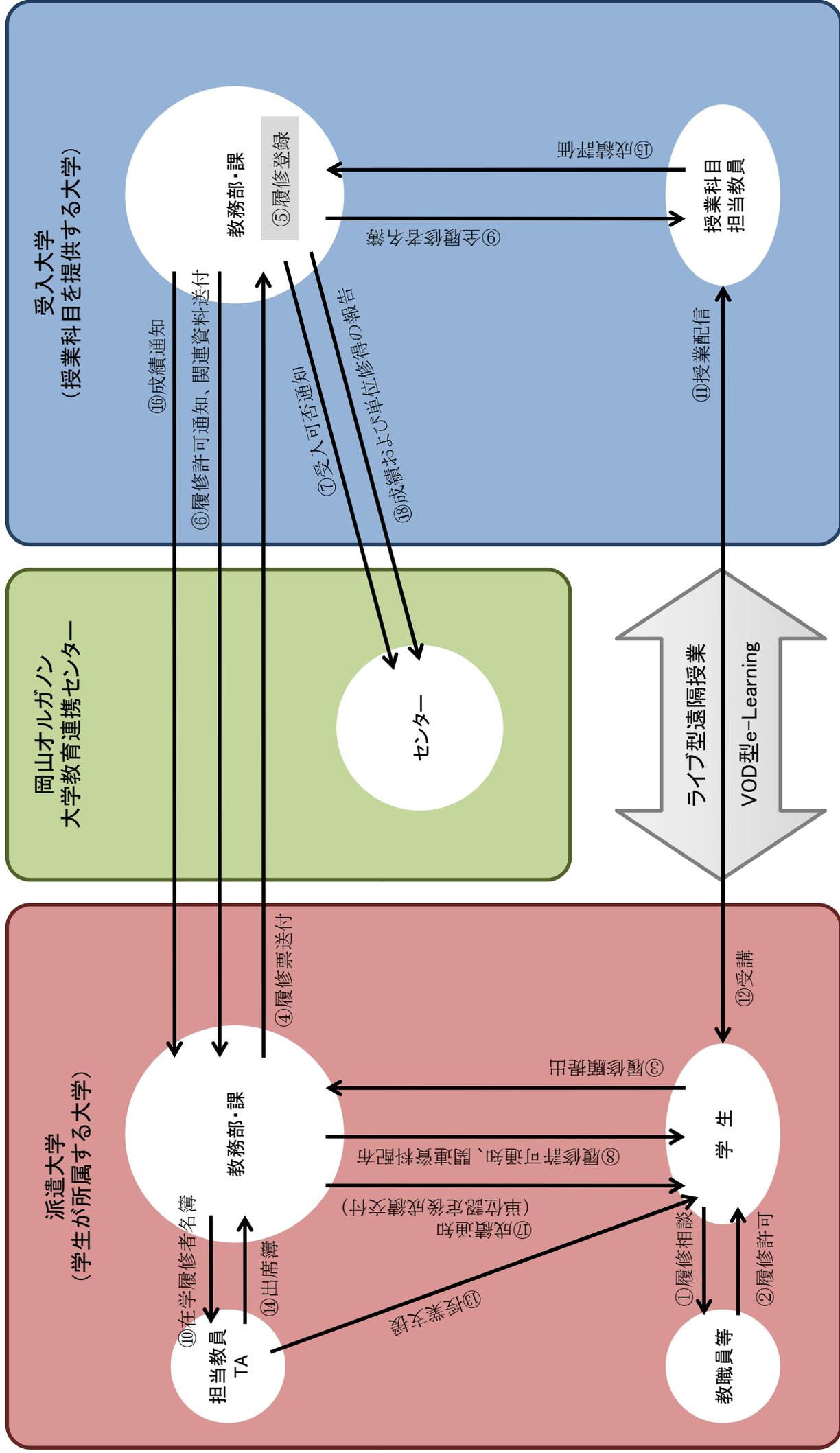
第13条 この要項に定めるもののほか、必要な事項については、構成大学間において協議のうえ、定めるものとする。

(適用の範囲)

第14条 この実施要項は、平成22年度単位互換履修生および平成23年度単位互換履修生に適用する。

附則 この実施要項は、平成22年4月1日から施行する。

『岡山オルガノン』の構築』事業における単位互換に関する履修手続きフローチャート(案)



※⑥⑧の「履修許可通知」は、場合によっては「不許可通知」もあり得る。
 ※⑥の「関連資料」は、身分証明書や施設利用案内等であり、各大学ごとに配布資料は異なる。
 ※⑧の「関連資料」は、最初の授業の前までに派遣大学の教務部・課窓口、もしくは授業の初回受講時に学生に配布する。
 ※⑩⑬⑭は、ライブ型遠隔授業時に必要となる手続きであり、VOD型e-Learningの際は不要である。

⑥ 関連資料

⑥ ネットワーク、サーバー、コンテンツ管理およびパソコン設置に係る業者の決定、
2月以降に e-Learning 用パソコンの設置調整

【資料1】「フレッツ・グループ」パンフレット

【資料2】VOD型 e-Learning サイト「まなびオルガノン」ホームページ資料

【資料3】e-Learning 用パソコンの連携校共通要求仕様書資料

フレッツ・グループ

「安くて高品質なIP-VPNサービスってないの？」 その疑問をフレッツ・グループ^{*}が解決します!

※フレッツ・グループのご利用には、フレッツ・光プレミアム等のNTT西日本のフレッツアクセス回線の契約が必要です。

リーズナブルな月額料金

コスト削減に貢献^{*}

月額利用料金は、
1契約あたり1,890円(税込)^{*}~と、
コストパフォーマンスに優れています。

*ベーシックメニューの場合

セキュリティの高い
グループ内通信

安心

インターネットを介さない地域IP網内に
閉じた通信のため、高セキュリティ。
顧客データなども安心して
やり取りできます。

設定・接続も簡単

簡単

簡単な設定で、グループ内のデータ共有が
可能になります。また、ネットワークの
設定が容易なので、拠点の増減や
変更にも柔軟に対応できます。

光回線を使って高速通信

高速

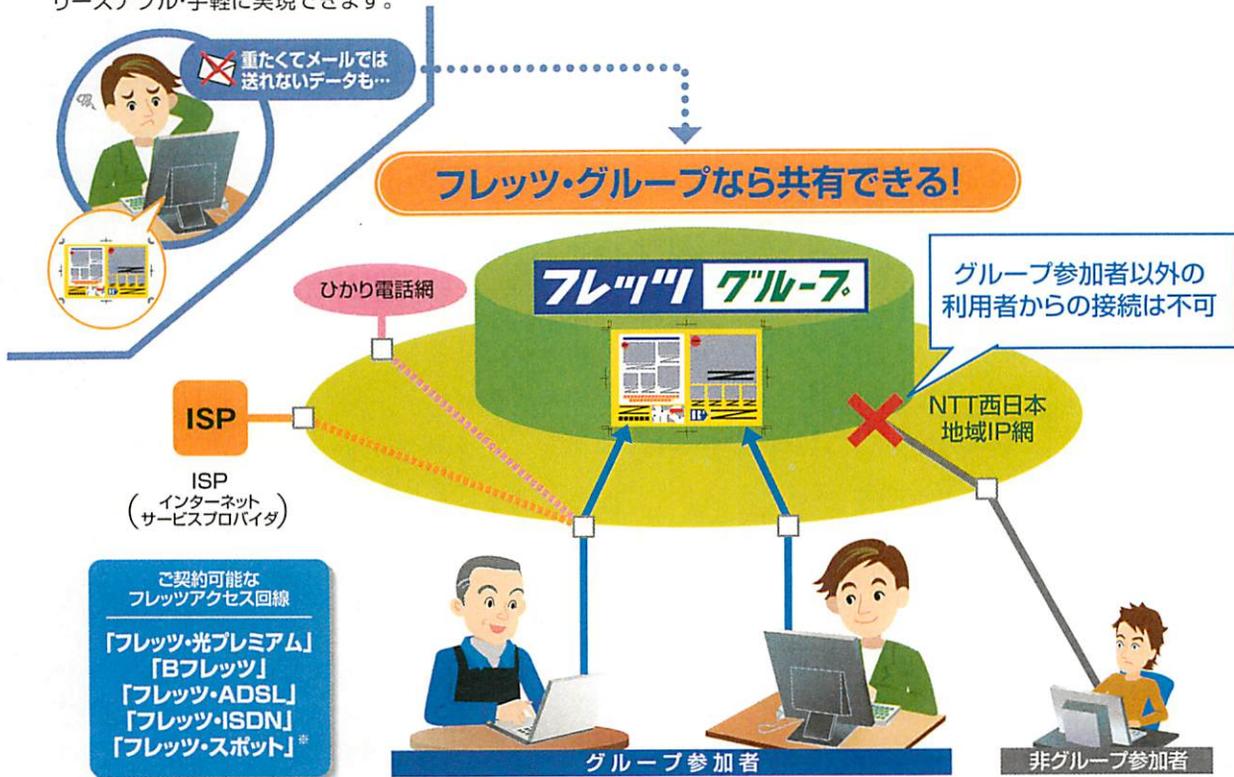
高速・高品質の通信が可能です。
大容量データの送受信も簡単です。

※本サービスは、ベストエフォート型
のサービスであり、通信速度を保証
するものではありません。

★お客さまの環境によっては経費削減にならない場合もあります。

サービスイメージ図

フレッツ・グループは、フレッツアクセス回線の利用者同士でグループを構成し、グループ内通信を可能にするIP-VPNサービスです。メール添付では送信できない大容量ファイルの共有や、グループ内に設置したサーバへのアクセスなどをリーズナブル・手軽に実現できます。



*フレッツ・スポットは、ビジネスメニュー(一括契約)のグループメンバとしてのみご利用可能です。

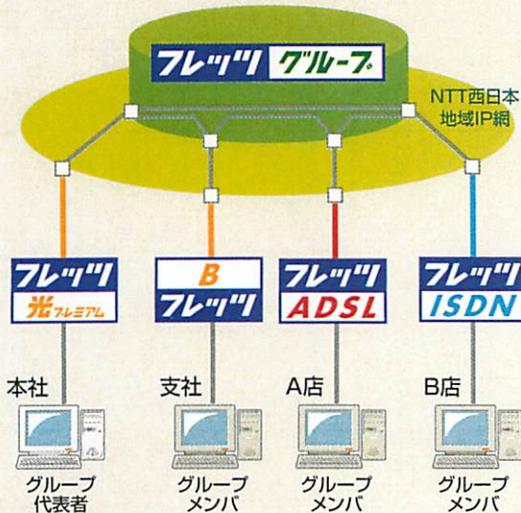
こんな時にも便利です!

- ◎売上データの共有
更新した内容も常に共有!
情報が早くて安全!
- ◎デザインデータなど重たいデータの共有
メールで送れないような重たいデータもネットワークで受け渡し!
- ◎サーバ等の共有
離れた拠点にあるサーバにもアクセス可能!

サービスメニュー

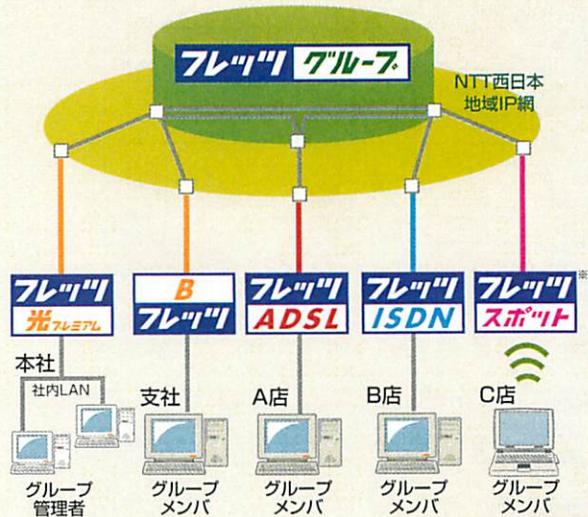
【ベーシックメニュー】

グループへの接続に必要なユーザIDなどの認証情報やIPアドレスなどをNTT西日本が一元管理することにより、簡単に利用できるメニューです。手軽にプライベートネットワークを構築したい方におすすめです。



【ビジネスメニュー】

グループへの接続に必要なユーザIDなどを、カスタムコントロールによりお客さまが自由に設定できるメニューです。柔軟なネットワーク設定をご希望の方におすすめです。



*フレッツ・スポットは、ビジネスメニュー(一括契約)のグループメンバとしてのみご利用可能です。

(注) フレッツ・グループのご利用には、フレッツ・光プレミアム等のNTT西日本のフレッツアクセス回線の契約が必要です。

● フレッツ・グループ導入事例

A社様：製造業の場合 ▶▶▶

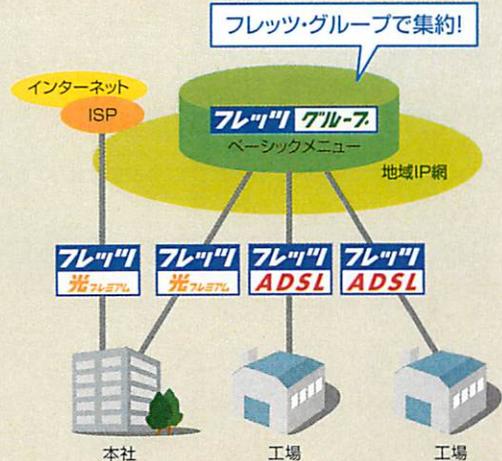
フレッツ・グループで本社でのインターネット集約に成功!

課題・ニーズ

- 本社と県内2箇所の工場を専用線で接続しているが、通信費が高額・通信速度も遅いことが多い。
- インターネット回線を拠点ごとに導入するのは、ISP費用等が高額。
- セキュリティ対策ソフトが拠点ごとに必要。

解決!

- フレッツ・グループを導入することにより、**高速***な拠点間ネットワークの構築に成功!
- インターネットを本社に集約し、各拠点で契約していたISPにかかるコストを削減*!
- 本社でのインターネット集約によって、**セキュリティ対策を本社に実施するのみでOK!**



※ベストエフォート型のサービスであるため、通信速度や通信品質を保証するものではありません。

B社様：ガソリンスタンドの場合 ▶▶▶

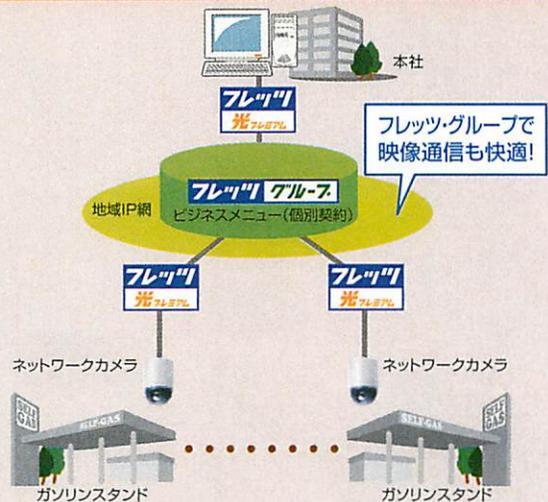
フレッツ・グループで遠隔監視体制を構築!

課題・ニーズ

- ガソリンスタンドを県内に5箇所展開しており、業務内容を遠隔で確認したい。
- セルフ式ガソリンスタンドへの監視カメラ設置の必要性から、映像通信ができる広帯域で定額制のネットワークが必要。
- 社員の勤務情報等の通信も必要なため、セキュリティが強いネットワークがほしい。

解決!

- フレッツ・グループを導入することにより、**映像データのやり取りも快適!**
- **定額制のフレッツ・グループによるコスト削減***の実現!
- 映像データ以外の重要なデータも**信頼性の高いフレッツ・グループにて通信可能!**



C社様：小売業の場合 ▶▶▶

フレッツ・グループを使って音声とデータを統合し、拠点間の内線通話のコスト削減!

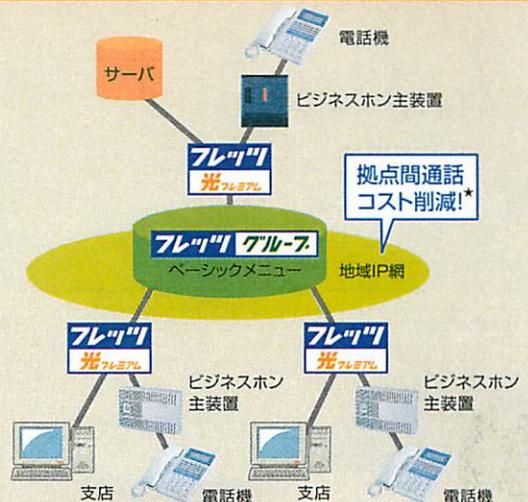
課題・ニーズ

- 県内3拠点を専用線で接続しているが、ランニングコストが高額なため、コスト削減をしたい。
- 拠点間の通話も外線ですら通話するため高額。

解決!

- リーズナブルなフレッツ・グループによる**コスト削減***の実現!
- 音声とデータを統合し、**ファイル共有を実現!**
- 拠点間の**通信速度が向上!**

※ベストエフォート型のサービスであるため、通信速度や通信品質を保証するものではありません。



★お客さまの環境によっては経費削減にならない場合もあります。

D自治体様：自治体の場合 ▶▶▶

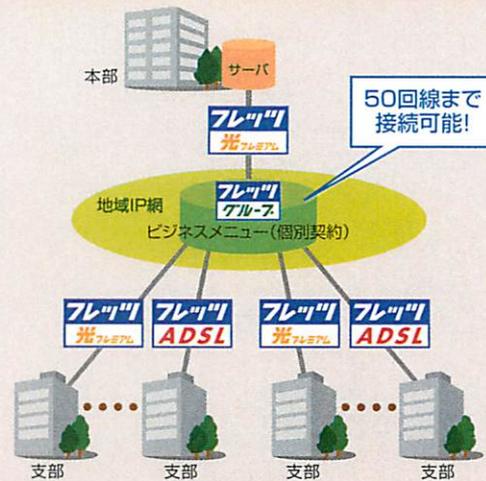
フレッツ・グループで47拠点を接続!

課題・ニーズ

- 県をまたいで47箇所の支部を持ち、本部と支部間での重要データのやりとりなど、データ量が重い。
- ISDN通信で、速度が遅く、通信コストが高額で安定しない。
- 料金を気にせず拠点間通信ができる環境と高速回線が必要。

解決!

- 50拠点まで接続可能なフレッツ・グループを導入!
- フレッツ・グループを導入することにより、**拠点間通信の高速化と通信コストの定額化を実現!**



※ベストエフォート型のサービスであるため、通信速度や通信品質を保証するものではありません。

E社様：自動車部品製造の場合 ▶▶▶

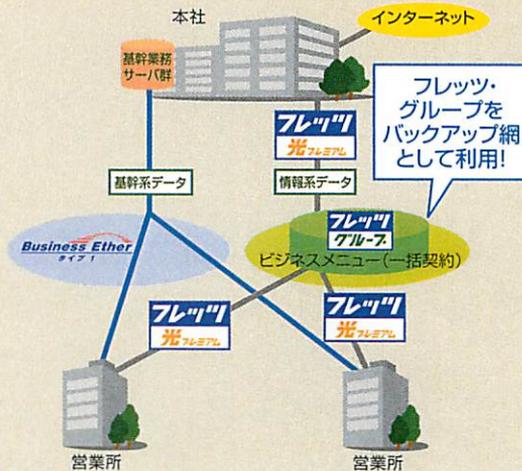
フレッツ・グループをメイン回線のバックアップ網として利用!

課題・ニーズ

- 売上データの送信には、絶対通信断が発生しない信頼性の高い回線が必要。
- グループ会社で社内通信断が発生。バックアップ網を検討している。
- 最近PC端末が増加し、インターネット等のデータ量が増えたことに原因があると判明。

解決!

- 基幹系データと情報系データを分離するため、**メイン回線にフレッツ・グループをプラス!**
- 情報系データ用のフレッツ・グループを**基幹系データのバックアップ網**としても利用!
- インターネット等のデータ量増加も、**フレッツ・グループの高速通信**で安心!



※ベストエフォート型のサービスであるため、通信速度や通信品質を保証するものではありません。

F社様：サービス業の場合 ▶▶▶

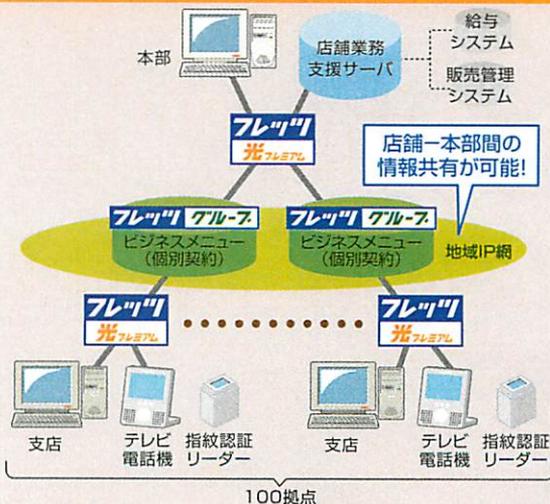
フレッツ・グループを活用し、店舗業務をリアルタイムに管理!

課題・ニーズ

- 本部から各店舗へ適切な指示を出し、店舗業務の最適化をはかりたい。
- 店舗が100拠点あり、多くのパート、アルバイトが勤務しているため、誰でも簡単に操作できる端末が必要。

解決!

- フレッツ・グループを活用して、**複数店舗の一元管理を実現!**
- 本部から店舗への分析データのフィードバックにより、**店舗業務の最適化を実現!**
- テレビ電話機、店舗業務支援サーバの導入により、**誰でも簡単に本部への報告が可能!**



(注)フレッツ・グループのご利用には、フレッツ・光プレミアム等のNTT西日本のフレッツアクセス回線の契約が必要です。

サービスメニューについて

手軽に導入できる簡易型の「ベーシックメニュー」と、柔軟にネットワークを設定できる高機能型の「ビジネスメニュー」の2種類をご用意しています。ご利用目的に合わせてお選びいただけます。

ベーシックメニュー

認証情報やIPアドレス等はNTT西日本が一元管理。手軽に導入できる簡易型メニューです。導入・運営が簡単なため、SOHOなど比較的小規模のお客さまからのご利用に最適です。プライベートネットワークをリーズナブル・手軽に構築できます。

ビジネスメニュー

グループへの接続に必要な認証情報やIPアドレス等を、カスタムコントロールにより、お客さま自身で自由に設定いただけます。既存ネットワーク環境をそのまま活かしたいお客さまや、支店や仕事の拠点を多く持つお客さまのご利用に最適です。

メニュー		ベーシックメニュー		ビジネスメニュー			
契約形態(請求方法)		個別契約		個別契約		一括契約	
利用上限拠点数		10	20	50	10	20	
		(グループ代表者:1、グループメンバ:1~9)	(グループ管理者:1、グループメンバ:1~19)	(グループ管理者:1、グループメンバ:1~49)	(グループ管理者:1、グループメンバ:1~9)	(グループ管理者:1、グループメンバ:1~19)	
ユーザID		NTT西日本が割り当て (代表者を含め最大10個)		グループ管理者がグループメンバ用のユーザIDを登録(グループ管理者のユーザIDはNTT西日本が割り当て) (管理者を含め最大20個) (管理者を含め最大50個) (管理者を含め最大10個) (管理者を含め最大20個)			
IPアドレス指定		NTT西日本が割り当て		グループ管理者が実施			
利用IPアドレス		NTT西日本より指定		●NICより割り当てられたグローバルIPアドレス(IPv4 RFC791) ●プライベートIPアドレス(RFC1918準拠)			
IPアドレス払い出し方法		端末型払い出し		LAN型払い出し/端末型払い出し			
カスタムコントロールでできること	グループ管理者(ビジネスメニュー)/グループ代表者(ベーシックメニュー)	●グループメンバIDのパスワード変更 ●グループ参加者一覧の閲覧		●ユーザIDの登録・削除 ●パスワードの登録・変更・削除 ●払い出しIPアドレス、サブネットマスクの登録・変更・削除 ●グループ参加者一覧の閲覧		●ユーザIDの登録・削除 ●パスワードの登録・変更・削除 ●払い出しIPアドレス、サブネットマスクの登録・変更・削除 ●グループ参加者一覧の閲覧 ●グループメンバIDに対する認証状態の制御	
	グループメンバ	●グループメンバIDのパスワード変更 ●グループ参加者一覧の閲覧		●グループメンバIDのパスワード変更 ●グループ参加者一覧の閲覧			

料金について

■月額利用料金^{※1※2}

メニュー		ベーシックメニュー		ビジネスメニュー			
契約形態(請求方法)		個別契約		個別契約		一括契約	
Bフレッツ ビジネスタイプ 利用有無 ^{※3}		なし	あり (代表者のみ)	なし	あり (管理者のみ)	なし	あり (管理者のみ) あり (管理者/メンバ)
月額利用料金 (1契約あたり)	利用上限 拠点数:10	1,890円 (税込)	11,550円 (税込)	—	—	29,400円 (税込)	50,400円 (税込) 176,400円 (税込)
	利用上限 拠点数:20	—	—	4,200円 (税込)	25,200円 (税込)	58,800円 (税込)	88,200円 (税込) 352,800円 (税込)
	利用上限 拠点数:50	—	—	4,200円 (税込)	—	—	—

※1.ご利用開始月、廃止月の料金は利用日数に応じた日割計算となります。

※2.別途、フレッツ・光プレミアム等のNTT西日本のフレッツアクセス回線の契約が必要です。

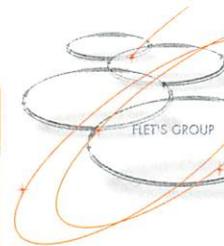
※3.Bフレッツ ビジネスタイプは「Bフレッツ ビジネスタイプ利用」において「有」を選択された場合のみご利用可能です。また、グループ代表者ならびにグループ管理者がBフレッツ ビジネスタイプをご利用のグループにおいて、グループ代表者/グループ管理者変更をお申しいただくことはできません。

■工事費^{※4※5}

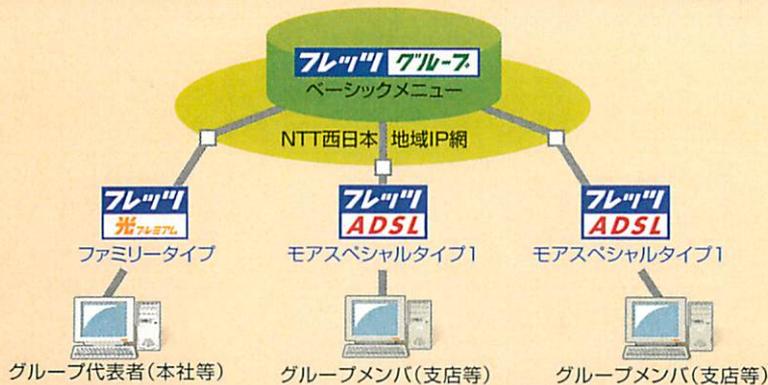
メニュー		ベーシックメニュー		ビジネスメニュー	
契約形態(請求方法)		個別契約		一括契約	
単位		1契約ごと			
工事費		基本工事費1,050円(税込) 交換機等工事費1,050円(税込)			

※4.別途、フレッツ・光プレミアム等のNTT西日本のフレッツアクセス回線の契約が必要です。

※5.工事費は代表的な例であり、工事の内容によって異なる場合があります。



月額利用料金算出例① ベーシックメニューでグループを構築した例(拠点数:3)

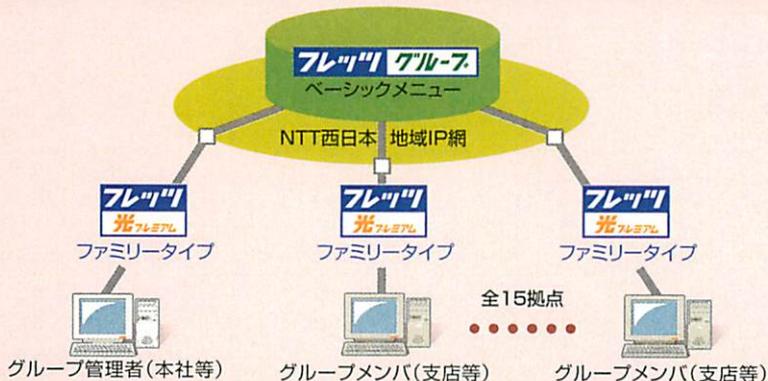


	本社	支店	支店
フレッツ・グループ月額利用料金	1,890円(税込)	1,890円(税込)	1,890円(税込)

計 5,670円(税込)/月*

※別途フレッツ・光プレミアム、フレッツ・ADSLの月額費用が必要です。

月額利用料金算出例② ビジネスメニュー(一括契約)でグループを構築した例(拠点数:16)



	本社	支店	支店	支店
フレッツ・グループ月額利用料金	58,800円(税込)	—	全15拠点	—

計 58,800円(税込)/月*

※別途フレッツ・光プレミアムの月額費用が必要です。

(注)上記金額にはサービスごとの消費税込みの総額を表示しております。複数のサービスをご契約のお客さまにおかれましては、お手元で計算された額と実際の請求額が異なる場合がございます。請求額総額で1円未満の端数がある場合は切捨てとさせていただきます。

■サービスご利用上の注意事項

●本サービスのご利用は、弊社がNTT西日本エリア内にて提供する以下のフレッツ・アクセス回線のご契約の方に限ります。フレッツ・光プレミアム、Bフレッツ、フレッツ・ADSL、フレッツ・ISDN、フレッツ・スポット(フレッツ・スポットはビジネスメニュー(一括契約形態)のグループメンバーの場合にのみ利用可能です。)
 ●Bフレッツ ビジネスタイプは「Bフレッツ ビジネスタイプ利用有無」において「有」を選択された場合にのみご利用可能です。
 ●本サービスはベストエフォート型の通信をご提供するものであり、通信速度や品質を保証したサービスではありませんのであらかじめご了承ください。
 ●「光プレミアムなしプラン」から「光プレミアム対応プラン」に変更する際には、一時的な通信断が発生しますので、あらかじめご了承ください。
 ●ご利用メニューを変更する場合はご利用中のメニューを廃止していただき再度新規メニューでのお申し込みとなります。
 ●「フレッツ・グループ ビジネスメニュー(個別契約形態)」の「50拠点プラン」について、ご利用開始から3ヵ月経過しても21拠点を越えるご利用がないときには、あらかじめご契約者に通知させていただいた後、利用上限拠点数を20に変更させていただく場合があります。なお、変更の際には、一時的な通信断が発生しますので、あらかじめご了承ください。
 ●ベーシックメニュー、ビジネスメニュー(個別契約形態)を複数名義でご契約の場合、各種申し込みの際にフレッツ・グループご利用に関わる同意書を提出いただく場合があります。
 ●グループの利用に伴うお客さま間のトラブルについて、弊社では一切関与いたしませんのであらかじめご了承ください。
 ●ユーザID・パスワードはお客さま固有の情報であるため、管理には十分ご注意ください。万が一、これらがお客さまの過失により漏洩、盗難等され、損害が発生した場合でも、弊社は責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。なお、パスワードは定期的に変更されることをお勧めします。
 ●「フレッツ・グループ ビジネスメニュー(個別契約形態)」では、グループ管理者とグループメンバーが同日にご利用を開始することはできません。
 ●同一グループに係るお申し込みの内容によっては、ご利用のユーザID・グループ識別子等が変更になる場合があります。また、本サービスをご利用のフレッツ・アクセス回線が廃止になった場合、本サービスも廃止となります。
 ●グループ代表者ならびにグループ管理者がBフレッツビジネスタイプをご利用のグループにおいて、グループ代表者/グループ管理者変更をお申し込みいただくことはできません。
 ●弊社設備増強等の工事に伴い、ご利用を一時中断させていただく場合があります。
 ●本サービスのご利用に係る料金・提供条件等は、変更となる場合があります。
 ●本サービスのご利用料金は、フレッツ・グループをご契約のフレッツ・アクセス回線のご利用料金とあわせて請求いたします。
 ●ご利用開始月、廃止月の料金は利用日数に応じた日割計算となります。
 ●本パンフレットには、商品毎に消費税込みの総額を表示しておりますが、複数の商品をお買い求めのお客さまにおかれましてはお手元で計算された額と実際の請求額が異なる場合がございます。
 ●請求額総額で1円未満の端数がある場合は、切り捨てとさせていただきます。



NTT
西日本

フレッツ・グループ
公式ホームページ

<http://flets-w.com/group/>

インターネットによるお問い合わせ

<http://flets-w.com/otoiawase/>

お申し込み・お問い合わせ



0120-116116

※携帯電話・PHSからもご利用になれます。

[受付時間] 午前9時～午後9時 土曜・日曜・祝日も受付中(年末年始を除きます)。

電話番号をお確かめのうえ、「0120」から正しくダイヤルしてください。

ユーザーID

パスワード

次回より自動ログインする

ログイン →

 ID・パスワードをお忘れですか？

▶ まなびオルガノンとは

▶ 体験版デモ講義

▶ 配信科目一覧

▶ 履修方法

大学教育の充実まなびオルガノン

公式ホームページ

詳しくはこちら ▶



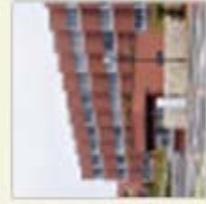
くまなびオルガノン > 代表校および連携校：全15大学



岡山理科大学



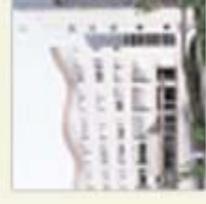
岡山大学



岡山県立大学



岡山学院大学



岡山商科大学



川崎医科大学



川崎医療福祉大学



環太平洋大学

「岡山オルガノンの構築」に関わる e-Learning 用パソコンの連携校共通 要求仕様書（案）

1. OS

Windows Vista もしくは Windows 7 のいずれか

2. メモリ

2GB 以上

3. ブラウザ

Microsoft Internet Explorer 7.0 以降のバージョン

4. ソフトウェア

Microsoft Office Word2007, Excel2007, PowerPoint2007

Microsoft Windows Media Player 10.0 以降のバージョン

環境復元の機能を持つソフト

5. 機能

ディスプレイ、キーボード（デスクトップパソコンの場合）、光学式マウス、CD/DVD ドライブ、ヘッドホン出力、各大学のインターネット環境に対応している通信機能

6. 予算の上限

1 台につき 110,000 円（設置調整費を含む）

⑦ 関連資料

⑦ ライブ教育配信用のテレビ会議システムの整備、1 月以降に試行運用の開始

【資料 1】 HD ビデオ会議システム要求仕様書

【資料 2】 HD ビデオ会議システム PCS-XG80 パンフレット

【資料 3】 マトリックス・ミキサー AT-MX44 ちらし

「岡山オルガノンの構築」に関わる HD ビデオ会議システム

要 求 仕 様 書

平成 2 1 年 1 0 月

岡山理科大学

岡山オルガノン 大学教育連携センター

1. HDビデオ会議専用端末

- 1-1 ビデオ会議専用端末によって構成されるシステムであること。
- 1-2 ビデオ会議専用端末は本体部とカメラ部がセパレートタイプであること。
- 1-3 下記の通信プロトコルに対応していること。
 - ・ 端末方式
 - ITU-T H.320 および H.323
 - ・ 画像符号化方式
 - H.261、H.263、H.263+、H.263++、H.264、MPEG-4 SP@L3
 - ・ 音声符号化方式
 - G.711 (3.4kHz@56/64kbps)、G.722 (7.0kHz@48/56/64kbps)、G.728 (3.4kHz@16kbps)、MPEG-4 AAC Mono (22kHz@64/96kbps-IP 接続時)
 - MPEG-4 AAC Stereo (22kHz@64/96kbps-IP 接続時)
 - ・ 遠隔カメラコントロール
 - H.281(ズーム/フォーカス/パン/チルト/プリセット移動可能)
 - ※1 対1 接続時のみ
 - ・ フレームフォーマット
 - H.221、BONDING、H.225.0
 - ・ デュアルストリーム
 - H.239 (Presentation)
 - ・ 暗号化
 - H.233、H.234、H.235 Ver.3
- 1-4 下記のネットワークプロトコルに対応していること。
 - ・ TCP/IP、UDP/IP、DHCP、DNS、HTTP、TELNET、SSH、SNMP、NTP
- 1-5 下記のネットワーク機能を有すること。
 - ・ パケット再送機能 (Real-time ARQ)、前方誤り訂正機能 (Adaptive FEC)、最適レート制御機能 (ARC)、ポートの任意設定、NAT 対応、PPPoE サポート、暗号化機能
- 1-6 本体に MCU 機能を有することができ、MCU 機能を内蔵した本体 1 台で最大 6 地点まで多地点接続が可能であること。ただし、次年度には別途多地点接続装置を導入し、最大 15 地点までの接続を可能とさせる予定である。
- 1-7 通信速度が下記以上であること。
 - ・ IP 接続：64~10,240kbps
- 1-8 映像フレーム数が下記以上であること。
 - ・ 最大 60 フィールド/秒 (H.264 1080i 時)
 - ・ 最大 60 フレーム/秒 (H.264 720p 時)
- 1-9 画面表示機能が下記に対応していること。
 - ・ 1 画面/4 画面分割表示/6 画面分割表示
 - ・ 各分割画面に地点名を表示

-
- 1-10 下記の機能を有すること。
 - ・リップシンク
 - ・マイクオフ
 - ・ステレオエコーキャンセラー
 - 1-11 映像出力としてHDMI出力とRGB出力の両方を有すること。
 - 1-12 下記以上の性能を有するカメラが付属していること。
 - ・1/3型CMOSカラーカメラ、
 - ・有効画素数：約200万画素
 - ・ズーム：光学ズーム10倍、電子ズーム4倍
 - ・オートフォーカス機能
 - ・リモコン操作可能（パン／チルト／ズーム／フォーカス）
 - ・パン／チルト：水平±100度/垂直±25度
 - 1-13 RFリモコンを付属していること。
 - 1-14 メモリーカードなどのメディアを利用し、現地にてバージョンアップの対応が可能であること。
 - 1-15 オプションでペンタブレットを使い、テレビ会議画面内に自由に書き込みが行えること。
 - 1-16 H.239を用いてPC画面を遠隔地に送信することができること。
(※HDデータソリューションソフトウェアをインストールした拠点のみ)

2. オーディオミキサー

- 2-1 4入力4出力のオーディオミキサーであること。
 - 2-2 各入出力を任意に組み合わせて使用できるマトリックスミキサーであること。
 - 2-3 各入出力全てにレベル切り替え用アッテネーターを装備し、MIC/LINEの切替えが任意に行えること。
 - 2-4 4入力全てにファントム電源を有すること。
 - 2-5 4入力全てにトリム調整機能を有すること。
 - 2-6 ラックマウント可能であること。
 - 2-7 現地機器ラック（卓）内に設置可能であること。
-

3. 機器の納入

- 3-1 機器の納入については、すべて納入業者の責任範囲とし損傷補償は次による。
- (1) 機器納入にあたり造営物の損傷など第三者に与えた損害に対する補償は、納入業者の負担とする。
 - (2) 機器材料の運搬にあたり、造営物などに損傷を与えた箇所は本システム導入大学の指示に従い速やかに原形に修復する。
- 3-2 検収後、全大学に対して大学からの問合せに迅速に対応し、現地調整が必要な場合にはオンサイト対応を行うこと。
- 3-3 正式な運用開始の際に、大学からの要請に応じて積極的に協力すること。(オンサイト対応含む)
- 3-4 正式な運用開始の際に、大学からの要請があれば立ち会うこと(遠隔講義当日等)また、そこで挙げた問題点(原因が機器にあった場合)に関しては、納入業者が責任を持って対応すること。

4. 機器構成

システム全体は15大学分とし、以下の構成とする。

大 学 名	ビデオ会議システム	HD 多地点接続ソフトウェア	ペンタブレット	HD データソリューションソフトウェア	オーディオミキサー
岡山理科大学	○	○	○	○	○
岡山大学	○	○	○	-	○
岡山学院大学	○	○	○	-	○
岡山県立大学	○	○	○	-	○
岡山商科大学	○	○	○	○	○
川崎医科大学	○	○	○	-	○
川崎医療福祉大学	○	○	○	○	○
環太平洋大学	○	○	○	-	○
吉備国際大学	○	○	○	-	○
倉敷芸術科学大学	○	○	○	-	○
くらしき作陽大学	○	○	○	-	○
山陽学園大学	○	○	○	-	○
就実大学	○	○	○	-	○
中国学園大学	○	○	○	-	○
ノートルダム清心女子大学	○	○	○	-	○

5. 検収

本システム導入大学は、検査を本仕様書に基づき実施するものとする。検査の細目及び日程については、別途協議のうえ決定する。

6. システム全体の保守

納入機器の故障の際には、2 営業日以内のオンサイト保守が可能であること。

7. 保証

引渡し日から起算して1年以内（以下、「保証期間」という）については、取扱いの過誤によらない原因で装置の故障、損傷などの不良・不備と認められる箇所を生じた場合には、納入業者において、速やかに無償で修理すること。

8. 導入実績の提示

HD ビデオ会議システムの導入実績を可能な範囲で提示すること。

9. 提出書類

機器納入業者は、以下の書類を提出すること。

- (1) 納入機器一覧
- (2) 機器操作マニュアル（日本語）

10. 補償

本仕様書に記載されていない事項は、本システム導入大学担当者の指示に従うこと。

11. 記載外事項

本仕様書に記載されていない事項は、本システム導入大学担当者の指示に従うこと。

12. 疑義

本仕様書の記載内容に疑義が生じた場合は、協議の上決定する。

SONY

2009.1

HDビデオ会議システム **PCS-XG80**
希望小売価格 1,155,000円(税抜価格 1,100,000円)

これが、満場一致のリアリティー。
ビデオ会議システムは、いまハイビジョン世代へ



IPELA

sony.jp/pcs/

●本カタログに掲載の価格には、配送設置・工事・接続調整などの費用は含まれていません。

ハイビジョンだから、臨場感が違う、理解度が違う。 ソニーのビデオ会議システムの到達点、PCS-XG80

出席者の体温まで伝わるような、リアリティーに満ちたビデオ会議が、いま始まる。

ソニーが培ってきたビデオ会議システムの技術とノウハウを結集した、PCS-XG80 登場。

高精度なハイビジョン映像により、微妙な表情や質感までも鮮明に表示。

クリアな音声品質とあいまって、まさに全員が目の前にいるかのような臨場感あふれる会議を実現します。

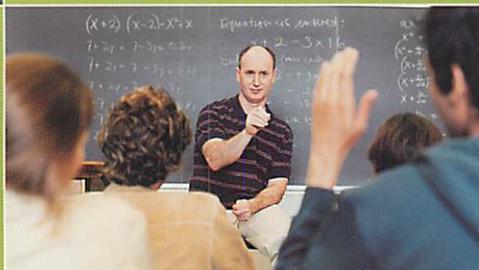
これからのビジネスシーンをリアルに変えていく、“ハイビジョン”ビデオ会議システムです。



EDUCATION



BUSINESS



MEDICAL



DESIGN CHECK



QUALITY

リアルな映像と音声、便利な高機能で、さまざまなビジネスシーンに活躍。

1080i ハイビジョン映像での通信を実現



ITU-T H.264 映像圧縮方式に対応し、ハイビジョン映像で通信を実現。解像度 1920×1080、60フィールド、最大約 10Mbps で、なめらかな動きを再現した HD 映像を送受信できます。



CIF 352×288

約20倍



HD 1920×1080

〈1080i ハイビジョン通信でのご注意〉

1080i モードの設定がされた PCS-XG80 同士の対向接続 (単画面表示のみ) となります。

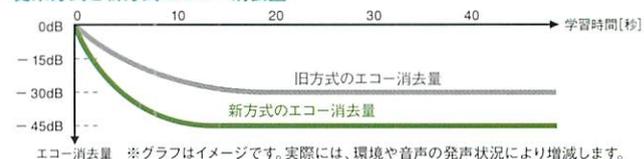
音声技術の結晶『プレミアム☆ビジネス音質』



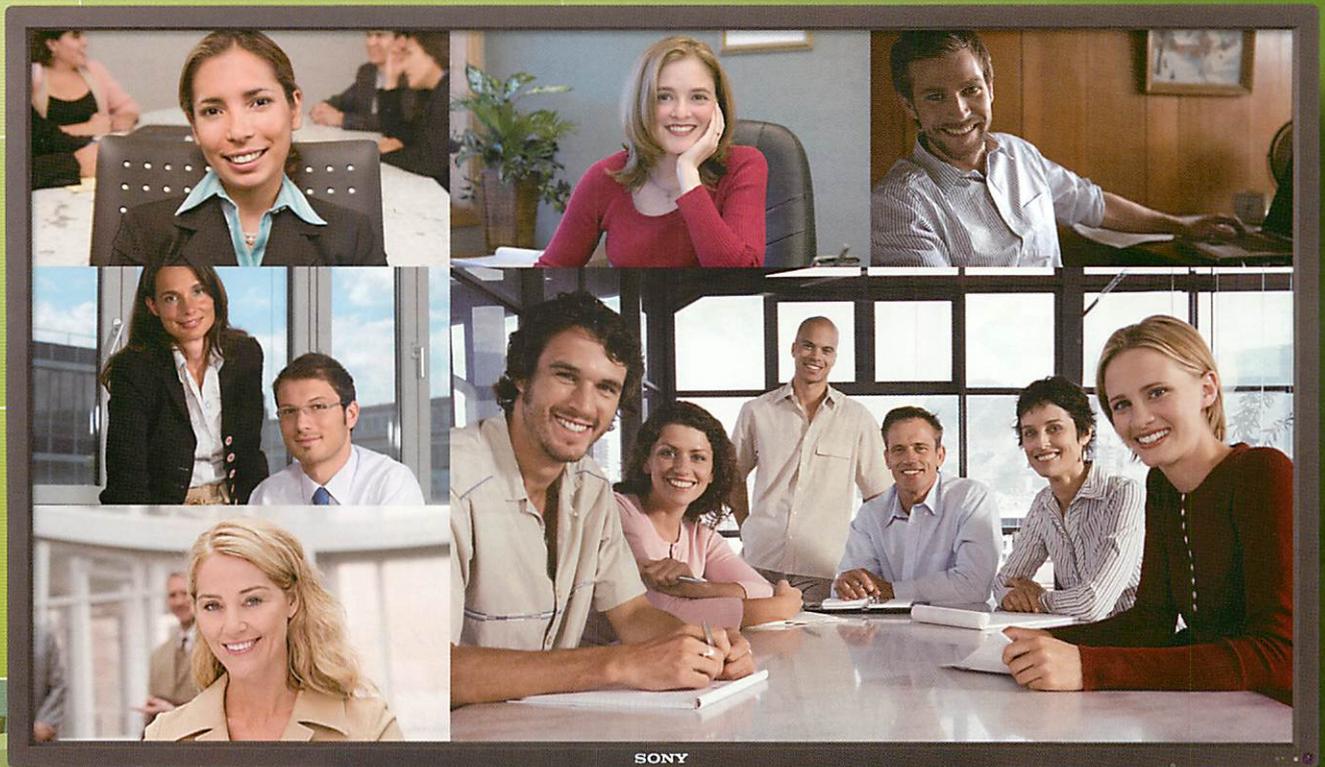
ステレオエコーキャンセラーと広帯域な音声圧縮方式 (MPEG-4 AAC 22kHz) の採用により、クリアかつ自然な音質で再現できます。高域までフラットな周波数特性、音場学習や音質補正機能などを強化した「新エコーキャンセラー」を搭載することで、ビデオ会議システムに求められる音質を追求しました。

- 複数拠点の人が同時に話しても音が途切れない
- 自分の声がスピーカーからこだまのように聞こえない
- マイクから離れている人の声もクリアに聞こえる

従来方式と新方式のエコー消費量



エコー消費量 ※グラフはイメージです。実際には、環境や音声の発声状況により増減します。



HDビデオ会議システム PCS-XG80

希望小売価格 1,155,000円(税抜価格 1,100,000円) ※写真のモニターは別売です



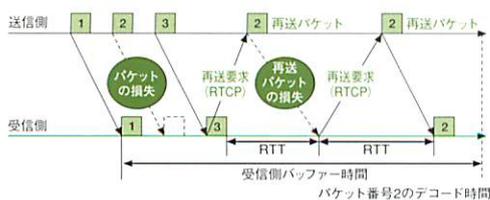
CONTROL



安定したビデオ会議を実現する「QoS機能」

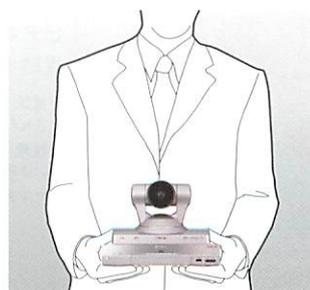
音声の乱れや映像の劣化・フリーズなどを引き起こす通信中のパケットロス。ソニーのネットワーク品質制御(QoS: Quality of Service)機能は、“パケットレベルで回復させる”ポリシーに基づく最新技術を用いて、ビデオ会議の安定した進行をサポートします。

パケット再送機能(Real-time ARQ)の仕組み



どこにでも持ち運びやすいコンパクトサイズ

基本性能を充実させ、コンパクトで場所を選ばない汎用性の高いビデオ会議システム。さまざまな用途・シーンで活躍します。



安心のサポート体制



テクニカルサポートセンターが国内に11拠点。購入時にご登録いただくことで、1年間の保守サービスを提供します。

- ① テレホンサポート
- ② センドバック修理サポート
- ③ オンサイトサポート
- ④ リペアサービス

先進の新機能

1080i ハイビジョン映像での通信を実現



解像度 1920×1080、60フィールドで映像・音声の送受信が可能です。ITU-T H.264 映像圧縮方式に対応し、ハイビジョン映像での通信を実現。有効画素 1920×1080、60フィールド、最大約10Mbpsで、なめらかな動きを再現した高精細なハイビジョン映像を送受信できます。



〈1080i ハイビジョン通信でのご注意〉

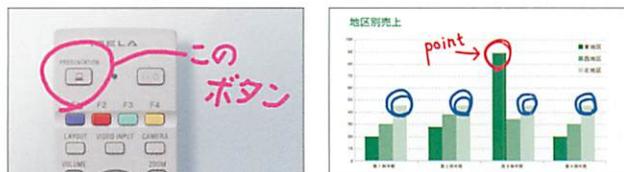
1080i モードの設定がされた PCS-XG80 同士の対向接続 (単画面表示のみ) となります。

業界初*1、通信中の映像にマーキング可能な「ビデオアノテーション」機能を搭載

ペンタブレット(別売)*2を使って、画面上にマーキングやポインティングが可能。PCのプレゼンテーション画面やカメラ映像に自由に書きこめます。

*1 ビデオ会議システムとして2008年10月時点

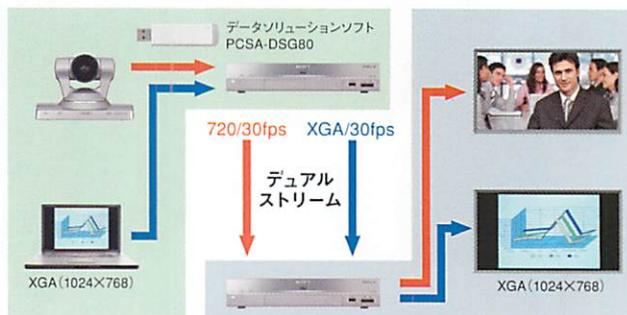
*2 ペンタブレット Bamboo MTE-450/K0



デュアルストリームでHD映像とPC画面を30フレームで共有できる「データソリューション」機能を搭載

HD 映像(720/30p)とH.239によるPC画面(XGA/30fps)を同時に送受信可能。カメラ映像とプレゼンテーション資料のアニメーションなどをなめらかに再現します。

※別売のHDデータソリューションソフトウェアが必要です。



業界初*、HDカメラに新開発の「ブライトフェイス」機能を搭載

画素ごとにコントラストを最適化する「ブライトフェイス」機能を搭載。プロジェクターを使った室内の映像や逆光状態など、明暗差の大きい環境でも鮮明な映像を実現しました。

*ビデオ会議システムとして2008年10月時点



※使用環境によっては期待される効果が得られない場合があります。

コミュニケーションをサポートする多彩な機能

最大10拠点接続で、コミュニケーションを実現

親機が1台の場合、最大6拠点。親機が2台の場合、最大10拠点の接続が可能です。

※別売のHD多地点接続用ソフトウェアが必要です。

◆SDビデオ会議とHD会議の混在接続が可能

PCS-G70S / PCS-G50 / PCS-1 / PCS-TL33 / PCS-HG90との接続が可能です。

※SD端末との混在時は全てSD解像度となります。

※他機種と接続した場合、PCS-XG80の最大通信帯域は4Mbpsになります。

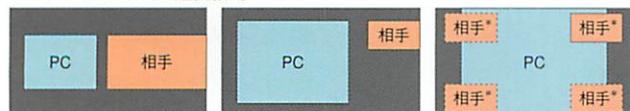
多彩な画面表示モード

利用シーンに応じて、多彩な画面表示モードから選ぶことができます。

ビデオ会議時



データソリューション送受信時



※子画面の表示はいずれか1カ所になります。

メモリースティックレコーディング機能を搭載

本体に挿入された“メモリースティック”にビデオ会議の内容を録画することができます。

※再生には別途QuickTimeがインストールされたPCが必要です。

※記録可能な内容はメインモニターに表示されている映像・音声です。

※メモリースティックへの記録時間は、メモリースティック容量およびビデオ帯域により異なります(例えばビデオ帯域128kbps、メモリースティック容量が2GBでは約10時間の記録が可能です)。

※Quick Timeで再生するには、1つのファイルを6時間以内に収める必要があります。

ステレオ音声に対応



ステレオエコーキャンセラーと広帯域な音声圧縮方式(MPEG-4 AAC 22kHz)の採用により、クリアかつ自然な音質で再現できます。

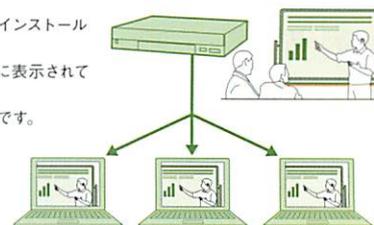
ストリーミング機能を搭載

ビデオ会議の内容を、会議に参加しなくても遠隔地でPCを用いて視聴することができます。

※視聴するには別途QuickTimeがインストールされたPCが必要です。

※視聴可能な内容はメインモニターに表示されている映像・音声です。

※マルチキャストネットワークが必要です。



快適な通信を実現するネットワーク機能

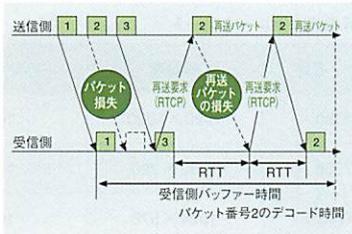
インテリジェント QoS 機能

前方誤り訂正機能(Adaptive FEC)、最適レート制御機能(ARC)、パケット再送機能(Real-time ARQ)のインテリジェント制御により、画像の乱れや音切れを防ぎ、安定した通信品質と高いQoE(ユーザー体感品質)を実現しました。

◆ パケット再送機能(Real-time ARQ*1)

受信側が損失パケットを検出し、送信側に通知。送信側がその損失パケットをリアルタイム性を考慮して再送することによりロス回復する機能です。

*1 ARQはAutomatic Repeat reQuestの略称です。



◆ 最適レート制御機能(ARC*2)

新制御アルゴリズムTFRC(TCP-Friendly Rate Control)を採用。ネットワークの混み具合に応じて通信レートを制御する機能です。WebやFTPなどのTCPトラフィックの使用状況を考慮しながら自動調整することでビデオ会議をスムーズに進行できます。

*2 ARCはAdaptive Rate Controlの略称です。

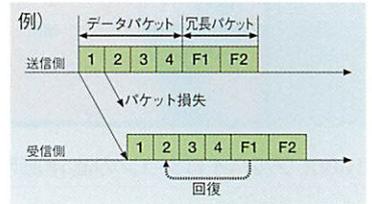


◆ 前方誤り訂正機能(Adaptive FEC*3)

従来のFEC(冗長パケットを用いた、損失パケット回復技術)をさらに強力に進化させた機能です。冗長パケット数の増加による回復性能の向上と、ネットワークの混み具合に合わせて冗長パケットの生成量を調整することで、混み具合によらず回復性能を維持し、フリーズやブロックノイズの発生を抑制して、安定した映像を実現します。

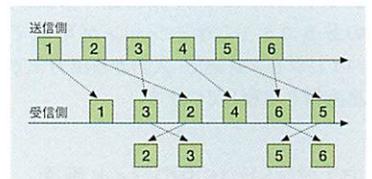
*3 FECはForward Error Correctionの略称です。

*通信帯域最大8190kbpsまでの対応となります。



◆ リオーダー機能

パケットロスの原因となるパケット順序誤りが発生した場合でも、リオーダー機能により正しい順序に修復。なめらかな映像や音声を実現しています。

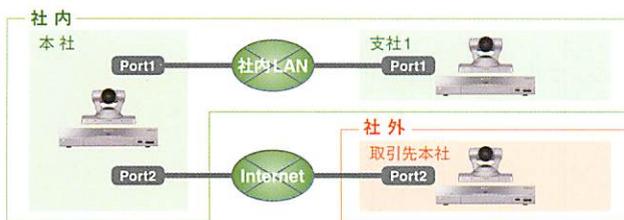


デュアルネットワークインターフェースを搭載

2つのネットワークインターフェースに個別の設定ができます。

- ケーブルの抜き差し、設定変更することなくLANやWANなどと接続が可能です。
- LANとWANの混在した多地点会議が可能です*。

*別売のHD多地点接続用ソフトウェアが必要です。



PPPoEをサポート

PPPoEをサポートすることにより端末側で終端でき、NTT東日本・西日本のBフレッツやフレッツADSLと直接接続できます。

NAT対応

NAT配下のネットワーク環境から、グローバルアドレスをもつ端末に接続できます。

暗号化機能

映像、音声、PC画面を暗号化します。セキュリティの保たれた会議が可能です。

● ITU-T国際標準方式の暗号化(128bit AES)通信方式に対応しています。

*通信帯域最大6144kbpsまでの対応となります。

簡単・安心・便利

簡単操作を実現

- RFリモコンの採用で、向きを気にせず卓上に置いてリモコン操作が可能です。

- わかりやすい半透過型メニューと、ワンタッチダイヤルで、簡単操作を実現しました。



Web遠隔コントロール機能

ネットワーク経由でPCから各種設定や遠隔操作が行え、遠隔地にいながら、管理者が端末の管理・サポートを簡単に行えます。



リモコン操作

音量調整、マイクミュート、カメラコントロールなどが可能。

設定変更

設定の変更、通信履歴の閲覧が可能。

アドレス帳編集

簡単にアドレス帳を編集することができます。この機能を使うと、漢字入力が可能です。

1年間の保守サービス付き



購入時にご登録いただくことで、1年間の保守サービスを提供します。

- ① テレフォンサポート
- ② オンサイトサービス
- ③ センドバック修理サポート
- ④ リペアサービス

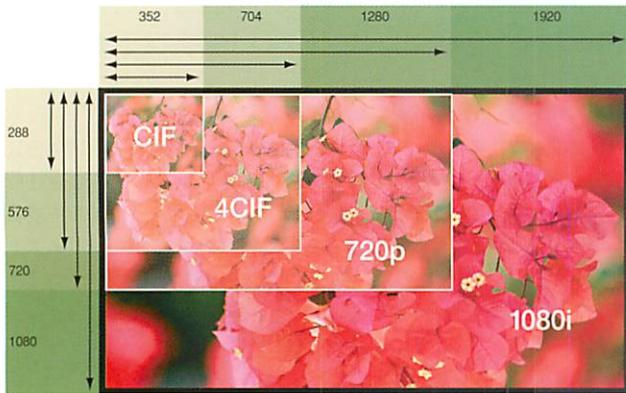
メモリースティック機能

メモリースティックを使って、さまざまな機能をご利用いただけます。

- 自動発信機能:メモリースティック内に個人用アドレス帳が作成でき、メモリースティックを差し込むだけで、相手に自動発信ができます。
- 静止画像保存機能:カメラ画像やアノテーション機能の画像を保存可能です。
- アドレス帳/機器設定の保存:アドレス帳や機器設定をメモリースティックに保存できるので、アドレス帳や設定の移行が簡単に行えます。
- ファームウェアのバージョンアップ:最新のファームウェアをホームページからダウンロードでき、メモリースティックを使って簡単にバージョンアップできます。
- レコーディング機能*:ビデオ会議の内容をメモリースティックに録画でき、PCで再生できます。

*記録時間はメモリースティック容量およびビデオ帯域により異なります。

HDとSDの解像度



1080i フルハイビジョンの高精細映像を実現

CIF解像度(352×288)と比べ約20倍の解像度1920×1080の毎秒60フィールドにより、高精細で自然な動きを再現できるため臨場感のあるコミュニケーションが可能です。映像符号化方式もフルハイビジョン対応で、入力から出力までフォーマット変換がないため、高画質を実現しています。

アスペクト比16:9のワイド画面

従来の4:3に比べ人の目の視野に近い16:9により、自然に画面を見ることができ、すみずみまでクリアな映像再現が可能です。

多彩なフォーマットに対応

新たに16:9のW4CIF(1024×576)、W432p(768×432)、WCIF(512×288)に対応し、従来のCIF(352×288)に比べて高画質な映像でビデオ会議が可能です。

解像度とフレームレート

名称	解像度	アスペクト比	最大フレームレート
1080i	1920×1080	16:9	60*1
720p	1280×720	16:9	60
W4CIF	1024×576	16:9	30
W432p	768×432	16:9	30
WCIF	512×288	16:9	30
4CIF	704×576	4:3	H.264時:30*2 H.263時:10
CIF	352×288	4:3	30
QCIF	176×144	4:3	30

*1 1080iモードの場合(フィールド/秒) *2 PCS-XG80同士のみ

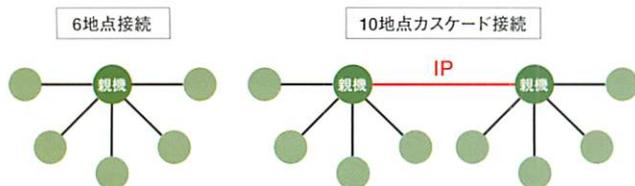
多地点接続

多地点会議機能(MCU機能)

HD多地点接続用ソフトウェア(別売)をインストールすることで、親機になります。1台を親機とした場合、最大6地点の同時会議が行え、2台の親機をカスケード接続することで、最大10地点の同時会議が可能になります。

※カスケード接続時は、HD解像度にはなりません。またシンプルスクリーンモード表示のみとなります。

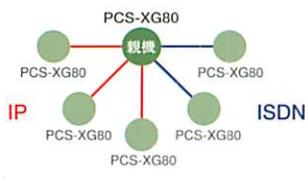
※分割画面と親機放送のときのみ720pになります。



異速度・異解像度混在通信

IPネットワークとISDN回線の異速度・異解像度混在通信に対応しています。それぞれの回線のスピードおよび解像度が維持されますので、接続方式が混在してもシステム全体のパフォーマンスを損なうことなく通信が行えます。

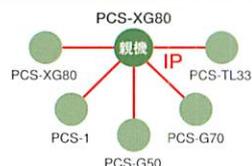
※IP同士、ISDN同士での異速度・異解像度混在通信はできません。



SDビデオ会議との混在接続

既存SDビデオ会議との混在接続が可能です。

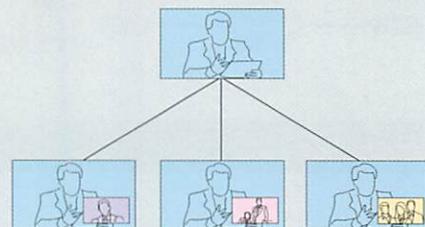
※SD端末との混在時はすべてSD解像度となります。



多地点接続時の画面モード

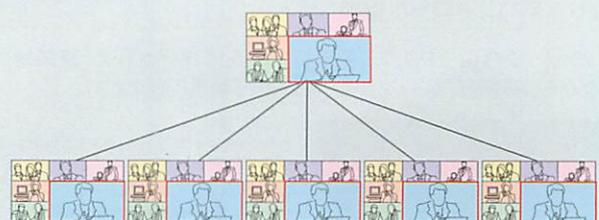
シンプルスクリーンモード

発言者の映像または指定拠点の映像が単画面表示されます。



コミュニケーションモード

すべての画面に、全拠点の映像が分割表示されます。赤枠部分は固定表示、または音声検知による自動切替表示(発言者の画面へ切替)を選択できます。



ソニービデオ会議システムの機能性をさらに高めるオプション

ソフトウェア



HDデータソリューションソフトウェア
PCSA-DSG80

希望小売価格262,500円
(税抜価格250,000円)
※シングルストリームでのPC画面伝送では必要ありません。



HD多地点接続用ソフトウェア
PCSA-MCG80

希望小売価格420,000円
(税抜価格400,000円)
※IP, ISDNに対応

ペンタブレット



ビデオアノテーション用ペンタブレット Bamboo
MTE-450/K0

株式会社ワコム製
オープン価格
※オープン価格商品は、販売店にお問い合わせください。

カメラ



旋回型HD 3CCDカラービデオカメラ
BRC-H700

希望小売価格997,500円
(税抜価格950,000円)



旋回型HD 3CMOSカラービデオカメラ
BRC-Z700

希望小売価格966,000円
(税抜価格920,000円)

ISDN 接続用インターフェース



ISDN接続用インターフェースユニット
PCSA-B384S

希望小売価格183,750円
(税抜価格175,000円)



ISDN接続用インターフェースユニット
PCSA-B768S

希望小売価格220,500円
(税抜価格210,000円)

マイク



マイクロホン
PCS-A1

希望小売価格63,000円
(税抜価格60,000円)
無指向性



マイクロホン
PCSA-A3

希望小売価格63,000円
(税抜価格60,000円)
単一指向性



エコーキャンセリングマイク
PCSA-A7P4

希望小売価格336,000円
(税抜価格320,000円)

エコーキャンセラー付き
単一指向性マイク。
最大80個(40個×2系統)の
カスケード接続が可能

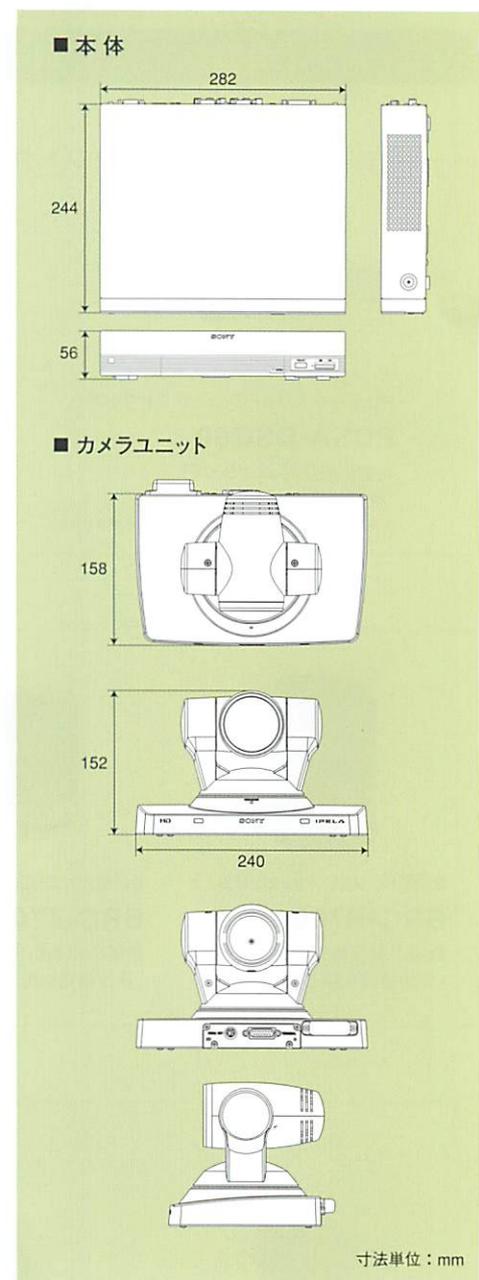
IPELA

“IPELA”、それは、ハイクオリティな映像と音声を駆使して現代のビジネスシーンを強力にサポートする、IPネットワーク対応のビジュアルコミュニケーションツールです。
高品質な映像・音声による「リアリティー」、高機能な「インテリジェンス」、使い易い「ユーザビリティ」。
この3つの特長によって、“IPELA”はお客様のワークフローを改善し、新たなビジネスチャンスを創造します。
たとえば、地球の反対側にいる相手とアイデアやイメージを共有し、同じ空間を体験すること。
それはもう未来の話ではなく、“IPELA”が今、実現する世界です。

主な仕様

端末方式	ITU-T H.320およびH.323、IETF SIP	
画像符号化方式	H.261、H.263、H.263+、H.263++、H.264、MPEG-4 SP@L3	
ITU-T 標準に 準拠	音声符号化方式	G.711(3.4kHz@56/64kbps)、G.722(7.0kHz@48/56/64kbps)、G.728(3.4kHz@16kbps)、MPEG-4 AAC Mono(14kHz@48/64/96kbps)、MPEG-4 AAC Mono(22kHz@64/96kbps-IP接続時のみ)、MPEG-4 AAC Stereo(22kHz@192kbps-IP接続時のみ)
	遠隔カメラコントロール	H.281(ズーム/フォーカス/パン/チルト/プリセット)
	フレームフォーマット	H.221、BONDING、H.225.0
	デュアルストリーム	H.239 (presentation)
	暗号化	H.233、H.234、H.235 Ver.3
その他	H.460.18、H.460.19、H.350	
通信速度	IP接続時	64～10,240kbps
	ISDN接続時	56～768kbps(PCSA-B768S取付時)、56～384kbps(PCSA-B384S取付時)
映像	有効画素数	[4:3時] QCIF(176ピクセル×144ライン)、CIF(352ピクセル×288ライン)、4CIF(704ピクセル×576ライン) [16:9時] WCIF(W288p)(512ピクセル×288ライン)、W432p(768ピクセル×432ライン)、W4CIF(1024ピクセル×576ライン)、720p(1280×720)、1080i(1920×1080)
	フレーム数	最大60フィールド/秒(H.264 1080i時)、最大60フレーム(H.264 720p時)、最大30フレーム(H.261、H.263、H.263+、H.263++、H.264、MPEG-4 SP@L3時)、但し、H.263 4CIF時を除く、最大10フレーム(H.263 4CIF時)
画面表示	フルスクリーン/PinP/PandP/Side by Side	
音声	高音質機能	ステレオエコーキャンセラー(ON/OFF切り換え可能)、オートゲインコントロール、オートノイズリダクション
	リップシンク機能	AUTO/OFF切り換え可能
	マイクオフ機能	ON/OFF切り換え可能
入出力 端子	映像入力	外部ビデオ入力[S映像×1、アナログコンポーネント(YPbPr)×1、RGB×1]
	映像出力	HDMI×1、RGB×1
カメラ ユニット	音声入力	外部マイク入力(プラグインパワー対応L/R)×2、外部マイク入力(デジタル)×2、AUDIO 1入力(L/R、ピンジャック)×2、AUDIO 2入力(L/R、ピンジャック)×2
	音声出力	HDMI×1、ライン出力(L/R、ピンジャック)×2、録音出力(L/R、ピンジャック)×2
	ネットワーク	10BASE-T/100BASE-TX×2、ISDNユニットインターフェース×1
	外部制御	RS-232C×1
	その他	メモリスティックスロット×1、タブレット用×1、メンテナンス用(RS-232C)×1
	撮像素子	1/3型CMOSセンサー
	画素数	約200万画素(有効画素数)
	プリセット	100ヶ所
	フォーカス	オート/マニュアル
	露出機能	オート(オートゲインコントロール)
ズーム	40倍ズーム(光学10倍×デジタル4倍)、f=3.4～33.9mm、F1.8～F2.1	
水平画角	約8～70度	
パン/チルト	水平±100度/垂直±25度	
SN比	50 dB	
電源	本体より供給	
その他機能	オートホワイトバランス、逆光補正、ブライトフェイス機能、ノイズリダクション、セカンドカメラへのVISCA出力	
メモリスティック	静止画(JPEG)の読み出し/保存、バージョンアップ、プライベートアドレス機能(自動発信機能)、機器設定の保存/ロード、アドレス帳の保存/ロード、会議内容の録画	
同時接続地点数	最大10地点(別売のHD多地点接続用ソフトウェアが必要)	
地点名表示機能	可(多地点接続時)	
ネットワークプロトコル	TCP/IP、UDP/IP、DHCP、DNS、HTTP、TELNET、SSH、SNMP、NTP	
ネットワーク機能	パケット再送機能(Real-time ARO)、前方誤り訂正機能(Adaptive FEC)、最適レート制御機能(ARC)、リオーダー機能、ポートの任意設定、NAT対応、PPPoEのサポート、暗号化機能、IP Precedence/DiffServ、UDP生成、自動ゲートキーパー検出、UPnP、IPv6	
その他	外部制御機能	RS-232C、TELNET/SSH、WEBブラウザ経由で制御可能
	パスワード機能	管理者向け
ストリーミング・レコーディング機能	音声:64kbps、映像:0～512kbps(5段階)	
データ会議機能	PC画面を(SXGAまで)送受信可能(送信側別売のHDデータソリューションソフトウェアが必要)	
電源	DC19.5V付属ACアダプターから供給(AC100～240V、50/60Hz)	
消費電流	5A(DC19.5V)	
外形寸法(幅×高さ×奥行)	本体:約282×56×244mm(突起部含まず)、カメラユニット:約240×152×158mm(突起部含まず)	
質量	本体:約2.2kg、カメラユニット:約2kg	
付属品	専用カメラ、専用マイク(PCS-A1)×2、ACアダプター、電源コード、HDMIケーブル(3m)、カメラケーブル(3m)、RFリモコン、リモコン用電池×2、マジックテープ(カメラユニット用)×2、本体取扱説明書(CD-ROM)、カメラ取扱説明書、ご使用前に、設置ガイド、簡単接続操作ガイド/リモコン操作ガイド、B&Pワランティブックレット(本体保証書、カメラ保証書、本体無償保証修理記入シート、カメラ無償保証修理記入シート)、ソフトウェア使用許諾書	

外形寸法図

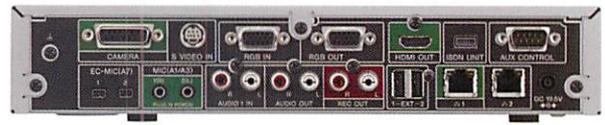


PCS-XG80 <本体>

前面パネル



背面パネル



安全に関する注意 商品を安全に使うため、使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

商品購入時の注意 ●ご購入の際は、必ず「保証書」の記入事項を確認のうえ、大切に保管してください。 ●ネットワークに関するお問い合わせは、稼働場所のシステム管理者や購入店へご相談ください。
 カタログ上の注意 ●仕様および外観は、改良のため予告なく変更されることがあります。 ●カタログと実際の商品の色とは印刷の関係で、多少異なる場合があります。 ●使用シーンの写真はイメージです。 ●画面はハメコみ合成です。 ●効果例の写真は必ずしも効果をわかりやすくするため、スチル写真を強調して加工したイメージです。 ●IPELA、IPELA、メモリスティックはソニー株式会社の商標です。 ●QuickTimeは米国その他の国で登録された米国Apple Inc.の商標です。 ●その他、記載されている各社名および各商品名は、各社の商標または登録商標です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません。

ソニーウェブサイト sony.jp/pro/

本カタログは再生紙および環境に配慮した大豆インキを使用

※特定市場向け商品などソニーウェブサイトに掲載していない商品もあります

ソニー株式会社
 ソニーマーケティング株式会社 / 〒108-0074 東京都港区高輪4-10-18

商品に関するお問い合わせは
業務用商品相談窓口
フリーダイヤル ☎ 0120-788-333
 ●携帯電話・PHS・一部のIP電話からは 0466-31-2588
 ●FAX 0120-333-389
 ●受付時間 9:00～18:00(土・日・祝日、および年末年始は除く)

2009.1
 カタログ記載内容2009年1月現在

PRO AUDIO PROFESSIONAL AUDIO EQUIPMENT

EQUIPMENT

イクイップメント

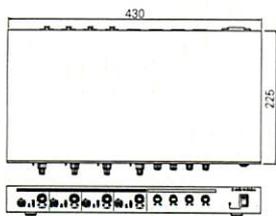
マトリックス・ミキサー

4in 4out

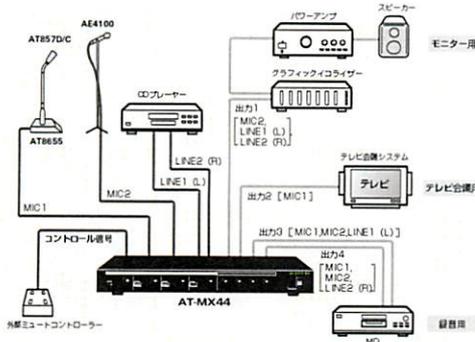
AT-MX44
¥175,000. (税別)

最大ゲイン 70dB (1KHz,600Ω負荷)	最大入力レベル(1KHz,T.H.D 1%) MIC-40dB(入力ATT=MIC,TRIM MAX) LINE+28dB(入力ATT=LINE,TRIM MIN)	基準 入力レベル -66dBu	入力 インピーダンス MIC:約6KΩ LINE:約50KΩ	最大出力 レベル +22dBm	基準 出力レベル +4dBm	出力 インピーダンス MIC:約160Ω LINE:約200Ω	ノイズレベル -125dB(入力150Ω 終端JIS-A,最大利得時)	バランス出力T.H.D (1KHz,TRIM最大時) 0.05%以下		
周波数特性 マイク入力-ライン出力,TRIM 最大時20~20,000Hz(±3dB)	ローカット特性 -12dB/oct (-3dB 200Hz)	TRIM可変範囲 +22dB~-+56dB	MIC/LINE 入力パッド 30dB	MIC/LINE 出力パッド 50dB	ファントム 電源 48V DC	電源 100V AC 50/60Hz	消費電力 13W	動作温度 範囲 0~40°C	重量 3kg	付属品 ACコード、 ラックマウント金具セット

- 入出力ともにレベル切替用アッテネーター(MIC/LINE)を備え、各種機器をフレキシブルに接続できる4in/4outの多機能型ミキサーです。
- 入力感度とミキシングレベルの調整は別個に行え、きめ細かく入念な調整が可能です。
- 4系統の入力チャンネルごとに出力チャンネルとローカットの設定ができます。
- ミュートコントロール端子にコントローラーを接続すれば、入力信号をチャンネルごとにミュートすることができます。



接続例



出力をアンバランス機器と接続する場合には、電子バランスのため、1番ピンと3番ピンをショートさせ、1番ピンにシールド線、2番ピンに芯線(信号)を接続して下さい。



1 2 3 4

5

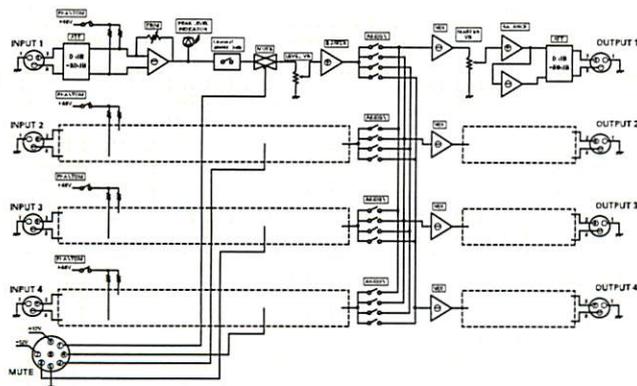
6 7

- 1 出力アサイン、ローカット設定スイッチ
- 2 ピークレベルインジケータ
- 3 入力アッテネータースイッチ
- 4 トリム/入力レベルボリューム
- 5 出力レベルボリューム
- 6 パワーインジケータ
- 7 パワースイッチ

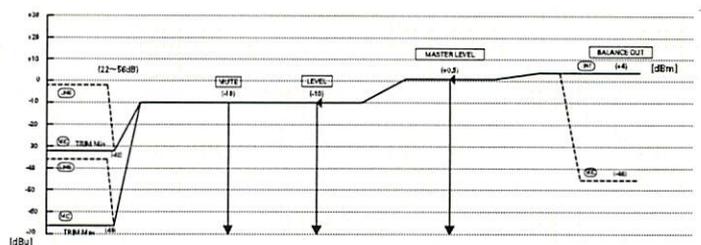


- 8 ACインレット端子
- 9 バランス出力端子ch.1~ch.4
- 10 出力アッテネータースイッチ
- 11 バランス入力端子ch.1~ch.4
- 12 ファントム電源スイッチ
- 13 ミュートコントロール端子(DIN 8P)

ブロック ダイアグラム



レベル ダイアグラム



Distributor

株式会社 オーディオテクニカ プロオーディオ営業部

〒113-8525 東京都文京区湯島1-8-3 テクニカハウス Tel.03 (6801) 2010

□ 製品の規格・仕様は改善等のため予告なく変更することがあります。□ 製品の色は印刷により、実際の色とは違って見える場合があります。□ 製品の価格には消費税、工事費、設置調整費、送料等は含まれておりません。□ パーツ扱ひ品は別途費用を申し受けます。□ 付属品として記載されたもの以外は付属していません。

<http://www.audio-technica.co.jp/proaudio>

安全に関するご注意

- ご使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご利用ください。
- 水、湿気、蒸気、ほこり、油煙などの多い場所に設置しないでください。火災、発煙、故障の原因となる場合があります。
- プラスマディスプレイ、同時選択システムなど外部線を使用した機器とは、同時使用できない場合があります。

⑧ 関連資料

⑧ICT 活用教材作成講習会の実施、次年度配信用コンテンツの作成

【資料 1】 e-Learning 運営委員会資料



e-Learning 運営委員会（準備会議）

1 日 時 平成22年1月13日（水）16：45～18：00

2 場 所 岡山理科大学 第11号館 8階 会議室

3 参加者 e-Learning 運営委員（岡山理科大学のみ）

4 議題案

（1）岡山オルガノンの遠隔教育について

（2）平成22年度配信科目について

（3）コンテンツ作成に関する具体策について

・使用機器および学習管理システム等の購入について

（4）単位互換の仕組みについて

（5）その他の事項について

・連携校の運営委員担当者の選定について

5 e-Learning 運営委員会委員（岡山理科大学関係）

大 学 名	職 名	氏 名
岡山理科大学	情報科学科教授、学外連携推進室副室長	木 村 宏
	建築学科教授	竹 内 渉
	情報科学科教授	大 西 荘 一
	情報科学科准教授	河 野 敏 行
	情報科学科教授	榊 原 道 夫
	情報処理センター	田 坂 仁 昭
	図書館資料情報課	西 崎 書 彦
	教務部次長	井 元 敏 夫
	大学教育連携センター コーディネーター	佐 藤 大 介
	教務課長兼学事課長	三 川 博



第1回 e-Learning 運営委員会

1 日 時 平成22年3月25日(木) 15:00~17:00

2 場 所 岡山理科大学 第11号館 5階 実習室

3 参加者 e-Learning 運営委員

4 ICT活用教材作成講習会

- ・大西 荘一 氏 (総合情報学部情報科学科)
- ・西崎 書彦 氏 (図書館資料情報課)

5 議題案

(1) 平成22年度のVOD型e-Learningの計画について

- ・岡山オルガノンの遠隔教育について
- ・平成22年度配信科目について
- ・コンテンツ作成に関する具体策について
- ・単位互換の仕組みについて

(2) その他の事項について

⑨ 関連資料

⑨FD 研修事業「i*See 2009」の共催

【資料 1】第 6 回教育改善学生交流 i*See2009 資料

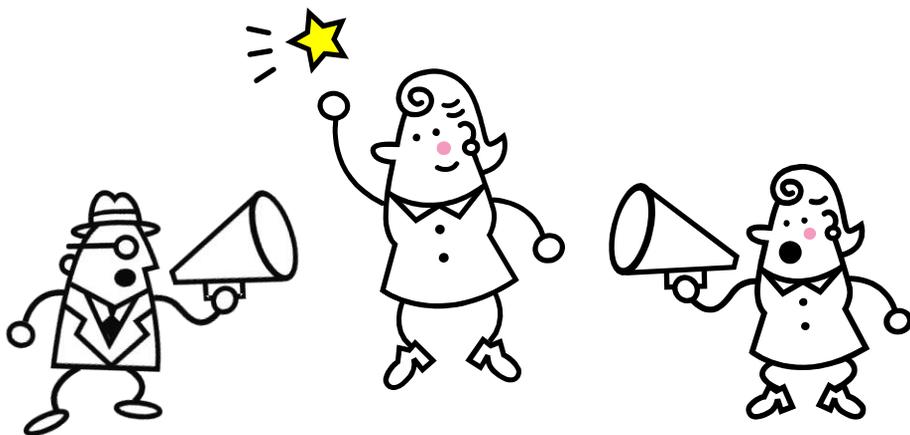


岡山大学創立60周年記念事業

第6回教育改善学生交流

i*See2009

大学教育を変える2つのスパイス



日時: 2009年9月22日(火・休) 13:00~18:40
23日(水・祝) 9:30~16:00

場所: 岡山大学一般教育棟(津島キャンパス)

1日目: 学生主体の教育改善活動について

2日目: 職員が参加する教育改善活動について

主催: 岡山大学 学生・教職員教育改善委員会

i*See2009 へようこそ

本日は、第6回教育改善学生交流 i*See2009 へご参加くださりありがとうございます。

岡山大学学生・教職員教育改善委員会が主催する本イベントも今年で6回目を迎えます。今回の i*See2009 では、学生・教員・職員が相互に協力し合ってどのように教育改善に取り組めるかについて考える機会としたいと考えております。

今回のイベントのテーマは「大学教育を変える2つのスパイス」です。このテーマを考えた当時の私は、学生と職員をスパイスに例えていることから推察できるかもしれませんが、両者を「教員が作る大学教育という料理に味付けするスパイス」すなわち教員が中心となって行う教育改善活動の補助的役割を担う姿が望ましいと考えておりました。

しかし各地の学会やイベントに参加してお話を伺ううちに、どうも学生も職員もスパイスのような補助的役割に甘んじてはいけないのではないかと今では深く感じているところであります。

これを踏まえ、今回の i*See2009 では1日目は学生の教育改善活動への参画の一例として学生が主体となった教育改善活動を取り上げることで学生による教育改善活動について考える機会とし、2日目はお二人の大学職員の講演とその後の議論を通して大学職員の教育改善活動への積極的参画について考える機会としたいと思っております。

学生が主体となったイベントで大学職員の方々にスポットを当てる主旨のイベントは全国的にみてもあまり例のないものかと思えます。かくいう私自身も昨年度本学で開催されました i*See2008「そしてぼくらは i*See を越える！」にて討論した職員の方の話聞くまでは教育改善における大学職員の重要性をあまり認識してはいませんでした。討論後、教育改善活動における大学職員の重要性を認識すると共に、是非次年度の i*See ではこの点を取り上げてみたいと感じ、今回の i*See2009 を企画し始め、現在に至るわけでありませぬ。

i*See2009 における議論の内容は、明日すぐに見えるものではないかもしれませんが、しかし、私としては本イベントが、各人の教育改善活動で何か迷いが生じたときのささやかな希望、「教育改善」という深い世界で先が見通せなくなった時の一筋の光となればこれほど嬉しいことはございません。また特に学生の皆さんは、教育改善活動に興味がある他大学の学生との交流を通して一人でも多くの仲間を作る機会ともしていただければ幸いです。

最後になりますが、今回は、北は北海道から南は九州までの幅広い地域から学生・教員・職員の方々が参加され、しかもシルバーウィークという長期の連休中にも関わらず昨年のおよそ2倍の方々をお迎えして本イベントを開催できますことは本委員会の学生にとって大きな喜びです。委員一同皆様のご期待に沿えるよう精一杯努力致しますのでよろしく申し上げます。

2009年9月22日

岡山大学 学生・教職員教育改善委員会

i*See2009 実行委員長

i*See2009 参加者一覧

所属	氏名	身分
札幌大学	萱森 俊樹	学生
	木村 利昭	学生
	成田 涉	学生
	梶浦 桂司	教員
函館工業高等専門学校	本村 真治	教員
獨協大学	柿沼 義孝	教員
亜細亜大学	荒井 修一	学生
	宇佐見 義尚	教員
専修大学	梶谷 拓史	学生
日本女子大学	白尾 吉晴	事務職員
立教大学	足立 寛	事務職員
	伊藤 直子	事務職員
横浜国立大学	金馬 国晴	教員
	長谷川 紀幸	事務職員
富山大学	久保田 真功	教員
名古屋大学	安田 淳一郎	研究員
三重中京大学	田中 伊織	学生
	高橋 祐紀	学生
	丸山 優希	学生
	山下 恭兵	学生
	清水 亮	教員
京都外国語大学	村岡 孝之	事務職員
同志社大学	中原 伸夫	事務職員
立命館大学	島田 慶一	学生
	鈴木 祐太	学生
	平野 優貴	学生
	横江 利優	学生
	木野 茂	教員
	中野 正也	事務職員
関西大学	長谷川 伸	教員
関西医科大学	後藤 大輔	教職員
近大姫路大学	初田 真人	教員
奈良県立大学	石地 順一	学生
	中島 光	学生
	西永 結紀	学生
	平松 暖野	学生
	前川 絵梨	学生
	松本 亨甫	学生
和歌山大学	吉田 雅章	教員
岡山大学	神原 由依	学生
	野海 和貴	学生
	星野 沙貴絵	学生
	坂入 信也	教員
	花咲 徳亮	教員
	石原 千恵	事務職員
	土松 雅美	技術補佐員
	花立 了一	事務職員
	岡山理科大学	木村 宏
中国学園大学	宮岡 恵子	学生
	守時 彩	学生
	佐藤 大介	教員
ノートルダム清心女子大学	木梨 憲一	事務職員

所属	氏名	身分
広島大学	山根 清	事務職員
福山大学	松田 文子	教員
香川大学	西本 佳代	教員
徳島大学	富山 篤	学生
	川野 卓二	教員
	斉藤 隆仁	教員
愛媛大学	岡山 聡子	学生
	田中 歩惟	学生
	玉井 はつみ	学生
	緋田 麻奈実	学生
	日野 佑哉	学生
	松野 紘己	学生
	松重 雄大	学生
	眞鍋 祐樹	学生
高知大学	立川 明	教員
北九州市立大学	山本 佳奈	学生
	山本 峻也	学生
九州大学	久保山 宏	教員
久留米大学	酒井 佳世	事務職員
大分大学	大塚 俊栄	学生
	永富 絹代	学生
	矢野 恭子	学生
	矢野 眞美	学生
	尾澤 重知	教員
宮崎大学	山田 裕司	教員
	内田 成人	事務職員
加古川市立別府西小学校	上野 秀敏	公立学校教員
海上自衛隊	戒 敬太郎	自衛官
会社員	小松 弘実	会社員
岡山県立岡山朝日高等学校	星野 一輝	高校生
岡山大学 学生・教職員教育改善委員会	安藤 誠	学生
	大村 優子	学生
	柏原 宏香	学生
	角田 士	学生
	清水 康正	学生
	園田 将太	学生
	高橋 和	学生
	中里 祐紀	学生
	久田 悠理	学生
	橋本 勝	教員
山内 源	事務職員	
岡山大学	佐藤 豊信	副学長

34大学 94人

プログラム<9月22日>

- 12:00~13:00 受付
- 13:00~13:20 開会式 [会場:A41]
挨拶 岡山大学 佐藤豊信副学長
趣旨説明 i*See2009 実行委員長 中里祐紀
- 13:20~13:30 移動
- 13:30~15:10 学生交流グループワーク [会場:A36]
詠っていいとも!
~学生が川柳にのせて本音を詠みます~
- 15:10~15:20 移動
- 15:20~17:25 シンポジウム [会場:A41]
<テーマ:学生主体の教育改善活動について>
- 15:20~15:25 趣旨説明
- 15:25~15:55 『社会人学生が見たプロジェクト型学習入門』
永富絹代 (大分大学 経済学部3年)
- 15:55~16:25 『札大おこし隊!3Gプロジェクト』
~学生による学生のための学校づくり~
木村利昭 (札幌大学 法学部4年)
- 16:25~16:55 『学生が進めるFD』
横江利優 (立命館大学 経営学部2年)
- 16:55~17:25 『岡山大学 学生・教職員教育改善委員会について』
中里祐紀 (岡山大学 文学部2年)
- 17:25~17:35 休憩
- 17:35~18:35 全体での質疑応答
- 18:35~19:00 移動
- 19:00~21:00 懇親会 [会場:ゆの吉]

プログラム<9月23日>

9:00~9:30 受付

9:30~10:35 職員による講演【会場：A41】

<テーマ：職員が参加する教育改善活動について>

9:30~9:35 趣旨説明

9:35~10:05 『正課外における職員の教育支援活動』

足立寛 氏（立教大学 総長室調査役）

10:05~10:35 『PBLの運営サポートとしての職員の役割

学びの原点—プロジェクト科目の挑戦』

中原伸夫 氏（同志社大学 教務部教務課教務係長）

10:35~10:45 移動

10:45~13:45 グループディスカッション①【会場：別紙表参照】

～「職員による新たな形での教育改善活動」をテーマに

フリーディスカッションを行ないます～

*13:45までにA41へ集まってください。

13:45~14:00 移動

14:00~15:30 グループディスカッション②【会場：別紙表参照】

～グループディスカッション①の内容を再編成された

新グループで報告しさらに発展させます～

15:30~15:40 移動

15:40~16:00 閉会式【会場：A41】

最優秀川柳の発表

挨拶 岡山大学学生・教職員教育改善委員会委員長 中里祐紀

※・9月23日の昼食はグループディスカッション①の時間帯にとります。

・クローク【A42】は以下の時間帯には施錠いたします。御用の際はスタッフまでどうぞ。

22日：13:30~18:35

23日：9:30~16:00

・一般教育棟内は全館禁煙につき喫煙は所定の場所をお願いします。

学生交流グループワーク 詠っていいとも！

～学生が川柳にのせて本音を詠みます～

司会：清水 康正（岡山大学学生・教職員教育改善委員会委員）

参加対象：学生（教職員の方は学生の議論の様子を御観覧下さい。）

プログラム

13：30 開会・説明（開会の挨拶、川柳コンテストの説明）

13：40 川柳詠み始め

各々、様々な思いを綴っていただきます

13：55 議論開始

書いた川柳の中からいくつかを題材にして議論していただきます。

また、この時司会が各グループを回ってランダムにその場で川柳を詠みあげることもあります

14：45 まとめ

議論を踏まえて最後にグループで一つ、川柳を作ってください

14：55 発表

各グループの代表者一人に作った川柳を発表していただきます

15：10 閉会式

シンポジウム会場（A41）へ移動

また、最初に学生のみなさんに書いていただいた川柳と教職員の方々が希望して書いていただいた川柳の中から一つ、投票によって最優秀作品を決めたいと思います。

投票の方法などはコンテスト中に説明いたします。

見事に最優秀賞に選ばれた人には豪華賞品(?)を贈呈いたします。

グループ	リーダー	学生				
い	柏原宏香	安藤誠	神原由依	丸山優希	前川絵梨	
		岡山聡子	田中歩惟	山本峻也	矢野眞美	
ろ	角田士	荒井修一	島田慶一	平松暖野	富山篤	
		玉井はつみ	山本佳奈	星野沙貴絵	星野一輝	
は	園田将太	高橋和	梶谷拓史	鈴木祐太	西永結紀	宮岡恵子
		野海和貴	緋田麻奈美	大塚俊栄	田中伊織	
に	中里祐紀	萱森俊樹	山下恭兵	平野優貴	中島光	
		成田涉	日野佑哉	松重雄大	永富絹代	
ほ	久田悠理	木村利昭	高橋祐紀	横江利優	石地順一	
		松本亨甫	松野紘己	矢野恭子	守時彩	

⑩ 関連資料

⑩ 「吉備創生カレッジ」に対して共同 SD 活動事業の委託内容の検討

【資料 1】 大学職員のための実践メンタルヘルス講座資料

【資料 2】 岡山オルガノン事業 業務委託契約書（案）資料

802

大学職員のための実践メンタルヘルス講座

提供大学等：岡山オルガノン

■内容

この講座は、実践的な研修プログラムとして吉備創生カレッジに設けられているコースです。今回は「大学職員のための実践メンタルヘルス講座」を開設します。学生・教職員のメンタルヘルス向上のための実践的な講義です。

■テーマ・講師名

- 1回目 実践メンタルヘルス講座・講義（学生編）
 - 岡山大学保健管理センター 准教授 大西 勝
- 2回目 実践メンタルヘルス講座・講義（職員編）
 - 岡山大学保健管理センター 講師 清水 幸登
- 3回目 実践メンタルヘルス講座・症例検討
 - 大西、清水、臨床心理士

■講師の専門分野

学生のメンタルヘルス

■開講日・時間

1回目 平成 22 年 08 月 24 日(火) 10:00～11:30

2回目 平成 22 年 08 月 24 日(火) 12:30～14:00

3回目 平成 22 年 08 月 24 日(火) 14:30～16:30

■受講料：2, 200円 ■定員：50名

■備考

受講対象は、主に大学を中心とする高等教育機関の職員を想定しており、SD（スタッフディベロップメント）の一環として修了者には修了証を渡しますが、人員に余裕があれば、一般社会人の受講もできます。

(http://www.consortium-okayama.jp/society/kibi-sousei-list2_7.html#802)

吉備創生カレッジとは

吉備創生カレッジは、大学コンソーシアム岡山と山陽新聞社が 2007(平成 19)年4月から共催方式で開講している生涯学習講座です。

4月から9月までを前期、10月から3月までを後期として年間約 80 講座を開講し、地域に根ざした生涯学習拠点を目指しています。

講師は、主として大学コンソーシアム岡山加盟校の大学教員が務め、山陽新聞社本社ビルを会場(さん太キャンパス)に、地域づくり、歴史、文化、教育、医療福祉、社会、生活など各大学の特色を生かした多彩な講座内容です。

皆様のご参加をお待ちしております。

(<http://www.consortium-okayama.jp/society/about.html>)

岡山オルガノン事業 業務委託契約書（案）

大学教育連携センター（以下「甲」という）と、大学コンソーシアム岡山（以下「乙」という）は、甲の『岡山オルガノン』の構築―学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育―（文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業）に関する業務の委託に関し、次の通り契約を締結する。

（目的）

第1条 本契約は甲が乙に対し、『岡山オルガノン』の構築―学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育―事業の一環として、共同SD研修事業に関する業務、実践的体験型プログラムに関する業務、その他これに付帯する業務（以下「本件業務」という）を委託し、乙はこれを受託する。

（業務の内容）

第2条 甲は、次に定める業務（以下「委託業務」という）の全部または一部を乙に委託し、乙はこれを受託する。

- （1）共同SD研修会開催ならびにそれに付随する一切の業務
- （2）実践的体験型プログラムの実施ならびにそれに付随する一切の業務
- （3）その他甲乙協議の上決定された業務

2 甲は、前項に掲げる委託業務について、日程、内容、実施方法等の詳細を甲乙協議の上決定し、必要に応じて、企画書、見積書等を作成するものとする。

3 甲または乙は必要があるときは委託業務の内容、実施方法等の変更および追加等を行うことができるものとする。この場合、甲乙協議の上、委託業務内容、実施方法、業務委託料などを改めて決定するものとする。

（報告義務・事故処理）

第3条 乙は、甲の請求があるときは、口頭または書面にて、遅滞なく本件業務の実行状況を報告しなければならない。

2 本契約に基づく委託業務の遂行に支障をきたすおそれのある事態が発生した場合は、その事態の帰責の如何にかかわらず速やかに、その旨をただちに相手方に報告し、甲乙協力して今後の対応方針についての協議を行なうものとする。

（資料等の貸与・保管・返却・廃棄）

第4条 甲は委託業務の遂行上必要な資料・機器等（以下「資料等」という）を乙に貸与し、また委託業務遂行上必要な情報を告知するものとする。

2 乙は、甲から貸与された資料等がある場合、本契約に基づく委託業務以外の用途に使用してはならず、善良なる管理者の注意義務をもって使用・保管・管理するものとする。

3 乙は、甲から貸与された資料等を本契約に基づく委託業務以外の目的に、複写・複製・編集

等を行わないものとする。

- 4 貸与された資料等が不要となった場合、本契約が解除された場合、または甲からの要請があった場合、甲の指示により、乙は貸与された資料等をすみやかに甲に返却または廃棄するものとする。

(秘密保持)

第5条 甲および乙は本契約に際して、または本契約に基づく委託業務遂行上知りえた双方の技術上、営業上、人事上および個人情報その他すべての秘密情報の秘密を遵守するものとする。

- 2 乙は秘密情報について、本契約の目的の範囲内のみで使用できるものとし、複製、改変が必要なときは、事前に甲から書面による承諾を受けなければならない。
- 3 本条の規定は、本契約終了後または期間満了後も有効に存続し、相手方の事前の承諾を得ることなく、第三者に開示・漏洩しないものとする。

(業務委託料及び支払方法)

第6条 甲は委託業務に係る業務委託料を乙に支払うものとし、その金額については、別に定めるとする。

- 2 本件業務にかかる交通費等の経費は、原則として乙がすべて負担するものとする。ただし、甲の依頼により多額の経費を必要とする場合には、別途協議の上取り決める。
- 3 甲は、本条に定める業務委託料を、乙の発行する請求書に基づき、翌月末までに乙の指定する銀行口座への振込みにより支払うものとする。なお、振込にかかる手数料は甲の負担とする。

(契約期間及び解約)

第7条 本契約の有効期間は、平成22年4月1日から平成23年3月31日までとする。

- 2 本契約の延長については、契約満了の1ヶ月前までに甲乙が協議のうえ、業務委託料と契約期間を取り決めることができるものとし、別途書面にて契約締結することとする。
- 3 甲および乙は本契約期間中であっても、3か月前の予告をもって本契約を解約することができるものとし、相手方に対しその事業に損害が生じないように配慮しなければならない。

(成果の権利および知的財産権の帰属)

第8条 本契約に基づく委託業務に基づき乙が甲のために作成した成果物（中間成果物も含む）および役務の提供の結果、発生した著作権及びその他の無体財産権は、乙またはその他委託業務遂行上の関係者が既に保有するものを除き、すべて甲に帰属し、その権利は乙から甲に無償で譲渡されるものとする。

(権利の侵害)

第9条 乙は、本件業務を行なうにあたり、第三者の権利を侵害しないよう留意するとともに、乙が甲のために作成した成果物（中間成果物も含む）および役務の提供の結果について第三者との間で紛争が生じた場合、乙は自己の責任と負担において処理・解決するものとする。

(再委託)

第10条 乙は、甲による事前の承諾がないかぎり、本件業務の全部または一部を第三者に再委託できない。尚、甲の事前の承諾を得て第三者に再委託する場合には、乙は当該第三者に対し、本契約における乙の義務と同様の義務を遵守させ、その行為について一切の責任を負う。

(協議事項)

第11条 本契約に定めなき事項または本契約各条項の解釈上の疑義が生じた場合は、法令に従うほか、甲乙誠意をもって協議のうえ解決をはかるものとする。

以上、甲乙間の本契約の成立を証するため、本契約書2通を作成し、甲乙記名捺印のうえ各1通を保有するものとする。

平成22年4月 日

甲：住 所 岡山県岡山市北区理大町1-1
名 称 岡山オルガノン大学教育連携センター
代 表 者 センター長 木村 宏 印
連 絡 先 086-256-9771

乙：住 所
名 称 大学コンソーシアム岡山
代 表 者 会長 印
連 絡 先

⑪ 関連資料

⑪各大学における教養教育配信科目の検討及び候補の決定、12月に教養教育配信
科目の検討・協議・決定

【資料1】 学士課程教育連携委員会資料

【資料2】 単位互換に関する広報用ちらし

「岡山オルガノン」第1回学士課程教育連携委員会

日 時：平成22年1月19日（火）14時00分～

場 所：岡山大学一般教育棟D棟6階 大会議室

議 題：

報告事項

1 メディアを利用した教育に関する学則等の整備状況について 資料1

2 その他

協議事項

1 岡山オルガノン連携機関間における単位互換協定について 資料2

2 その他

その他

次回開催予定

岡山オルガノン・学則等規程の整備状況

大学名	学則等整備状況	備考
岡山理科大学	○	すでに整備済みである。
岡山大学	○	すでに整備済みである。
岡山県立大学	△	学則の変更は必要ないと判断する。細則を整備する予定。
岡山学院大学	△	検討中である。
岡山商科大学	○	オルガノンの単位の取扱についてまで整備済みである
川崎医科大学	△	私立の単科大学であり、学生が他大学の科目を受ける時間がない。 配信する側の整備を行っている。
川崎医療福祉大学	×	配信する大学がどう単位を与えるか検討する必要がある、受ける側は必要ないのでは？ 学則の改正予定なし。放送大学との場合は、取扱を交わすことで単位取得を行っている。
環太平洋大学	—	欠席
吉備国際大学	○	加計学園グループの中で既にe-learningを利用している。
倉敷芸術科学大学	○	同上
くらしき作陽大学	△	コンソーシアムの単位互換については運用で対応していた。 メディアを利用することに関して、学則改正予定である。
山陽学園大学	△	学則改正の予定なし。細則の改正を行い対応。
就実大学	△	明日の教授会で諮る。学則を改正する予定である。
中国学園大学	○	学則の改正を行った。
ノートルダム清心女子大学	○	学則の改正を行い、4月からの適用が可能である。

岡山オルガノン

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的^①大学連携支援プログラム」選定事業「岡山オルガノンの構築」
 オルガノン「Organon」とは、「元来」学問を構築する上で基礎となる機関・道具」という意味。
 本取組では「大学教育の基礎・原動力」と解釈し、各大学が持つ特色を生かし、大学間の連携によりさらに強化していくことで、地方大学の活性化と再生を図る。

<http://okayama-organon.jp>

岡山県内15の大学が連携して遠隔授業をサポートし、
 教養教育の充実を図ります！

◎双方向テレビ会議システムを利用した ライブ配信科目の提供

- VLAN環境を利用した双方向ライブ遠隔授業は、連携大学間で同時接続でき、参加者全員での共同学習が可能です。
- 平成22年度前期は、まず、ライブ配信科目2科目を提供します。

◎インターネットを利用した e-Learning科目の提供

- 連携大学や自宅のパソコンを使用し、質疑応答や課題提出を行うことができます。

15 大学単位互換

岡山オルガノン

2010 年度単位互換履修生募集！

「単位互換」とは…

協定を結んだ 15 大学間で修得した科目の単位を、所属する大学の単位として認定するシステム。

[連携15大学]

岡山理科大学^(代表校)

岡山大学

岡山県立大学

岡山学院大学

岡山商科大学

川崎医科大学

川崎医療福祉大学

環太平洋大学

吉備国際大学

倉敷芸術科学大学

くらしき作陽大学

山陽学園大学

就実大学

中国学園大学

ノートルダム清心女子大学

岡山オルガノン ライブ講義配信

あなたの大学で他大学の授業が受けられます。

- 移動の必要がないので、交通費も時間もかかりません！
- 遠方の他大学の授業も気兼ねなく受けることが可能です。
- もちろん、単位としても認定されます！

テレビ会議システムを利用した
新しい講義形式です
平成22年度4月より開始

● 平成22年度 [前期] 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	単位数・開講日時
岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅰ (岡山経営学) (社)岡山経済同友会の協力により、産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてください。本講座を通して経営理論や経営手法を習得できるような講義内容となっています。前期は、県内において長年経営しておられる企業の「永続の経営」がテーマです。	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 大崎 紘一	履修年次 / 2～4年 単 位 / 2単位 開講期 / 前期 曜日・時限 / 月曜日・4限 14:40～16:10
川崎医科大学	基礎環境医学 (リベラルアーツ選択Ⅱ) 今、環境というのは地球を救うという意味で、キーワードとなっています。本講座では、健康障害などの面から観てみたいと思います。環境について、特に健康とのかかわりを考えてみませんか。	大槻 剛巳	履修年次 / 2～4年 単 位 / 1単位 開講期 / 1学期 曜日・時限 / 金曜日・1限 9:00～10:30

● 平成22年度 [後期] 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	単位数・開講日時
岡山商科大学	経営学特殊講義Ⅱ (岡山経営学) 前期と同じく(社)岡山経済同友会の協力により、産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてください。 後期は、「多店舗展開企業の経営」がテーマです。	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 大崎 紘一	履修年次 / 2～4年 単 位 / 2単位 開講期 / 後期 曜日・時限 / 月曜日・4限 14:40～16:10
倉敷 芸術科学大学	倉敷まちづくり基礎論 ※ 「倉敷まちづくり基礎論」は対面授業が含まれます。 双方向ライブ遠隔授業と共に、共同学習共同討議、プレゼンテーションなど学生参加型の講義です。	五十嵐 英之 村山 公保	履修年次 / 1～4年 単 位 / 2単位 開講期 / 後期 (集中) 曜日・時限 / 土曜日・3～5限 13:10～18:10
	倉敷まちづくり実践論 ※ 「倉敷まちづくり実践論」は対面授業が含まれます。 双方向ライブ遠隔授業と共に、実践的なグループワークと体験活動も行います。	カスパー・シュワーベ 小山 悦司	履修年次 / 1～4年 単 位 / 2単位 開講期 / 後期 (集中) 曜日・時限 / 土曜日・3～5限 13:10～18:10

※「倉敷まちづくり基礎論／実践論」はともに「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトとした地域の活性化を目的とした講座です。
 対面授業は倉敷駅前倉敷芸術科学大学「まちなかきゃんぱす」で行われます。
 また、一般市民の方々にも開放された大学公開講座でもあります。(一般の方々と一緒に受講します！)

お問い合わせ先 所属大学の教務課等または「岡山オルガノン」センター及びサテライトオフィス

大学教育連携センター 〒700-0005 岡山市北区理大町 1-1 岡山理科大学内 TEL. 086-256-9771 (内線: 3167)

岡山大学オフィス 〒700-8530 岡山市北区津島中 2-1-1 岡山大学内 TEL. 086-251-8513 (内線: 8513)

岡山商科大学オフィス 〒700-8601 岡山市北区津島京町 2-10-1 岡山商科大学内 TEL. 086-252-0642 (代表)

中国学園大学オフィス 〒701-0197 岡山市北区庭瀬 83 中国学園大学内 TEL. 086-293-1100 (代表)

⑫ 関連資料

⑫ 共同 FD・SD シンポジウムの開催、11 月頃より共同 FD・SD 担当者会議の開催

【資料 1】 企画概要資料

【資料 2】 広報用ちらし

第1回岡山オルガノンFD・SDシンポジウム 企画概要

1 実施趣旨

本取組における共同FD・SDの活動内容についてのシンポジウムを開催し、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。シンポジウムでは、各大学の取組事例を公開してもらい、連携校の現状把握を行い、改善に向けた議論を行う。更に次年度以降の共同FD・SD活動の内容について、広く大学教職員に情報提供していくためのシンポジウムであり、このシンポジウム開催により次年度以降の共同FD・SD活動の円滑実施を図ることができる。

2 名 称 「第1回 岡山オルガノンFD・SDシンポジウム」

テーマ： 授業評価アンケートの現状と課題
いま これから

3 開催日時 平成22年3月14日（日） 12:50～16:30

4 会 場 岡山県生涯学習センター 情報・創作棟（岡山県岡山市北区伊島町3丁目1-1）

階	施設名	収容数	用途
2	大研修室	150人	メイン会場
	ミーティング室2	12人	打ち合わせ・出演者控室
	ミーティング室3	18人	スタッフ控室
*	駐車場	180台	※30台以上の場合交通整理係が必要

※予約時間 9:00～17:00

5 参加費 無料

6 進行計画案

- 9:00 スタッフ集合（会場）
- 12:20～12:50 受付開始
（司会進行：蟻正 瑠美 氏）
- 12:50～13:00 開会挨拶 大学教育連携センター代表 木村 宏（岡山理科大学）
- 13:00～14:00 基調講演
テーマ：「授業評価の性質と今後の活用」（仮題）
講師：立命館大学教育開発推進機構 教授 安岡 高志 氏
- 14:05～14:20 クリッカーの活用による授業評価アンケートの“評価”
- 14:20～16:25 授業評価アンケートの取組状況
14:20～15:55 連携各大学の取組状況紹介（1大学5分程度で説明）
15:55～16:25 質疑応答および全体討論
- 16:25～16:30 閉会挨拶 岡山オルガノン岡山大学オフィス代表 橋本 勝（岡山大学）
- 16:30～17:00 片付け（17:00に完全撤収の必要あり）
- 17:00 スタッフ解散

第1回 岡山オルガノンFD・SDシンポジウム

「授業評価アンケートの現状と課題」

— 15大学の実践知と問題点の共有を目指して —

平成22年3月14日[日] 12:50-16:30

岡山県生涯学習センター 情報・創作棟2階大研修室

■ 岡山市北区伊島町3丁目1-1 ■ 参加費無料 ■ 大学教職員、一般の方対象 [定員 / 150名]

※当日参加も受け付けますが、定員になり次第受付を終了させていただきます。

オルガノン“organon”とは、
元来「学問を構築する上で
基礎となる機関・道具」とい
う意味。

本取組では「大学教育の基
礎・原動力」と解釈し、各
大学が持つ特色を生かし、
大学間の連携によりさらに強
化していくことで、地方大学
の活性化と再生を図る。

お申込み・問合せ先

「岡山オルガノン」岡山大学オフィス [岡山大学内]

〒700-8530 岡山市北区津島中2-1-1 TEL/FAX:086-251-8513 担当:遠山・小林

e-mail:okadai@okayama-organon.jp

第1回 岡山オルガノンFD・SDシンポジウム

「授業評価アンケートの現状と課題」

— 15 大学の 実践知と問題点の共有を目指して —

プログラム

- 12:20 - 12:50 受付
- 12:50 - 13:00 開会挨拶 岡山オルガノン大学教育連携センター長 木村 宏 (岡山理科大学)
- 13:00 - 14:00 基調講演 「授業評価の性質と今後の活用」(仮題)
立命館大学教育開発推進機構 教授 安岡 高志 氏
- 14:05 - 14:20 クリッカーの活用による授業評価アンケートの“評価”
- 14:20 - 16:25 授業評価アンケートの取組状況
- 14:20 - 15:55 連携各大学の取組状況紹介
- 15:55 - 16:25 質疑応答および全体討論
- 16:25 - 16:30 閉会挨拶 岡山オルガノン岡山大学オフィス代表 橋本 勝 (岡山大学)

主催

文部科学省平成21年度「大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム」選定事業「岡山オルガノンの構築」

[連携機関] 岡山理科大学(代表校)/岡山大学/岡山県立大学/岡山学院大学/岡山商科大学/川崎医科大学/川崎医療福祉大学/環太平洋大学/吉備国際大学/倉敷芸術科学大学/くらしき作陽大学/山陽学園大学/就実大学/中国学園大学/ノートルダム清心女子大学

会場案内



岡山県生涯学習センター

〒700-0016 岡山市北区伊島町3丁目1-1
TEL (086) 251-9750

■バス利用

- 岡電バスJR岡山駅西口から中央病院線⑦
京山入口下車徒歩8分
(所要時間約13分)

■徒歩

- JR岡山駅西口から約25分(約1.7km)

■車利用

- JR岡山駅西口から約5分
- 山陽自動車道岡山ICから約10分

※駐車場に限りがありますので、
できるだけ公共交通機関をご利用ください。

⑬⑭ 関連資料

⑬実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催

⑭キャリア形成講座の発展型事業の委託

【資料1】「社会人基礎力養成のための取組」報告資料

『社会人基礎力養成のための取り組み』
(2009年9月～2010年3月)

中国学園大学オフィス
飯田哲司・桑田朋美

- 計画：⑬ 実践的キャリア指導チームの組織化， 1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催
⑭ キャリア形成講座の発展型事業委託

1. 取り組みのベースとなる事業紹介

＜大学コンソーシアム岡山「キャリア形成講座」＞

* 産学連携による実践型講座

- ・2006年度より、2単位付与の正規講座として開講
前期・後期とも「水曜講座」を各1回開講（2007年度までは、「水曜講座」と「木曜講座」を前期・後期とも開講）
会場は、岡山駅西口の「岡山市デジタルミュージアム講義室」
時間は「15:30～17:00」（⇒ 2010年度からは「16:30～18:00」）
- ・これまでの講座修了生（単位取得者）は、9大学より計255名
（数字外に、リピーター学生や社会人および他エリア大学からの参加者もあり）

* 参考：受講生の推移表を添付

【特徴】

- ① 就活のためのキャリア講座ではなく、入社後の40数年間に渡り必要なキャリア形成教育
- ② 実社会で活かせる実践的テーマを、《体験学習スタイル》でトレーニング
（社会人基礎力と応用力を養成）
- ③ 企業の人材育成経験者、現役の企業向け研修講師による集中プログラム
（企業等の新人研修・昇格者研修の内容も導入）
- ④ 主テーマは、「自己理解」「コミュニケーション」「チーム力」「課題解決」「プレゼンテーション」+「交流」
- ⑤ 講座修了後も、受講生のつながり・絆は継続し、同窓会・感謝会が開催。まなびピアなどイベントにも出展

＜大学コンソーシアム岡山「実践マナー&ビジネスマインド講座」＞

- ・学生からの要望により、「キャリア形成講座」の続編に当たる「特別演習授業」として開講
（のちに予算化し、キャリア形成講座受講生以外の学生も受講可能とする）
- ・上記「キャリア形成講座」の講義終了後に、同じ講義室で夜間講義として実施（17:30～19:00）
土曜日の「半日コース」もテスト的に実施するが、受講人数は20数名どまり（←告知・案内不足）
- ・社会人の参加や香川大学生の参加が見られるなか、岡山県内の大学生の増加には至らず・・・

【特徴】

- ① ゼミ的な「演習・実技スタイル」の参加型授業
- ② 企業で実施される研修メニューを導入
（「実践マナー」「議論・ディベート演習」「産業心理学（顧客心理）」など）

* 参考添付資料：「キャリア形成講座」受講生推移表
「2010年度 キャリア形成講座 日程表」

《2010年度『キャリア形成講座』日程表》

【時間】 16:30～18:00

(* 前後期とも「第9回」「第10回」は、15:30～18:30の連続講義)

【場所】 岡山市デジタルミュージアム 4階講義室

(※ → この日は、別フロア・別会場での講義となります)



* 対象学年: 全学年可 (2単位付与)

	講義テーマ	前期日程	講師	後期日程	講師
第1回	はじめに ～ガイダンス、キャリア形成とは～	4月15日(木)	飯田 哲司	10月7日(木)	飯田 哲司
第2回	自分を知る ～自己分析・自己診断チェック～	4月22日(木)	桑田 朋美	10月14日(木)	桑田 朋美
第3回	コミュニケーション力① ～コミュニケーションの基本と応用技術～	5月13日(木)	飯田 哲司	10月21日(木)	飯田 哲司
第4回	コミュニケーション力② ～スキルアップトレーニング～	5月20日(木)	桑田 朋美	10月28日(木) ※	桑田 朋美
第5回	セルフ・コントロール ～ビジネスマインド養成ワーク～	5月27日(木) ※	桑田 朋美	11月4日(木) ※	桑田 朋美
第6回	社会が求める人材とは ～求められる能力・要件とその活かし方～	6月3日(木)	飯田 哲司	11月18日(木)	飯田 哲司
第7回	あらたなキャリア形成の考え方 ～これからのキャリアプランニング～	6月10日(木)	飯田 哲司	11月25日(木)	飯田 哲司
第8回	チーム力強化演習(就活対策演習) ～模擬グループ面接～	6月17日(木)	桑田 朋美	12月2日(木)	桑田 朋美
第9回	課題解決力① ～グループ演習<企画会議>～	6月24日(木)	飯田 哲司	12月9日(木)	飯田 哲司
第10回	実践力強化演習 ～ブレinstーミング～	<180分授業>	桑田 朋美	<180分授業>	桑田 朋美
第11回	課題解決力② ～グループ演習<企画会議>～	7月1日(木)	飯田 哲司	12月16日(木)	飯田 哲司
第12回	課題解決力③ ～グループ演習<企画会議>～	7月8日(木)	飯田 哲司	1月6日(木)	飯田 哲司
第13回	課題解決力④ ～企画プレゼン最終準備～	7月15日(木)	飯田 哲司	1月13日(木)	飯田 哲司
第14回	プレゼンテーション大会 ～企画発表プレゼン～	7月22日(木)	飯田 哲司 桑田 朋美	1月20日(木)	飯田 哲司 桑田 朋美
第15回	プレゼン大会 総括・振り返り 就活対策特別講義	7月29日(木)	飯田 哲司 桑田 朋美	1月27日(木)	飯田 哲司 桑田 朋美

【講師】 飯田 哲司 (中国短期大学 教授, 岡山経済同友会 教育問題委員会 講師)

桑田 朋美 (社会保険労務士事務所 代表, 岡山オルガノン 人材育成コーディネーター)

2. 取り組み・事業展開の方向

前述の「キャリア形成講座」は、大学コンソーシアム岡山で、2010年度も継続実施



- ・コンソーシアムの2講座を基礎に、より進化した《社会人基礎力養成講座》を、より多くの学生に提供する
- ・各大学で実施の既存のキャリア教育講座にない「より実践的なプログラム・カリキュラム」を提供する
- ・短期集中コース、一日コース、合宿コース等の講座パターン・メニューを構築する
- ・これら実践的な講座実現のための講師を発掘・集結し、プロ集団としての講師チームを組織化する
- 質の高いカリキュラム・教材ならびに資料を作成する

3. 活動報告（2009年9月～2010年3月）

■計画：⑬ 実践的キャリア指導チームの組織化、1月に実践的キャリア指導チーム会議の開催

1) 講師の要件を整理（9月）

- × 旧来の古いキャリア形成論
- × 借りてきたような話
- × 型通りのマナー・就職指導



- 実社会での経験・実例を踏まえたキャリア形成論
- 学生・社会人を対象とした講演・講義の経験と実績
- 能力開発指導の資格・経験、自発的学習の実績
- ◎ プログラムの作成能力
- ◎ 上質な資料・教材の作成能力
- ◎ プロとしてのマインド・熱意、受講生への愛情・誠意
- △ プロスピーカーとしての技術

2) 講師候補者との打合せ・面談・講義見学（9月～1月）

産業界の候補人材ならびに現役講師などを当たり、打合せ・面談を実施

* 選考方法：実際の講義見学、カリキュラム立案の力量チェック、学生視点での講義力チェック等

3) 新カリキュラム・新プログラムの作成（9月～10月）

講師候補者の発掘と並行して、新カリキュラム案・新プログラム案を作成（9・10月）

⇒ 候補者との打合せ・面談の際の話材や選考のための資料としても活用

⇒ この新プログラムで、実際の講演・講義を今年度中に実施

（大学・企業・団体・高校からの講演依頼をすべて受け、新プログラムの実践テストを行う。

同時に、講師候補者に講演を見ていただき、これら講演を“実地勉強会”の場とする）

【プログラムの形態パターン】

種別	スタイル	内容
単発（単位なし）	「3時間コース」 「4. 5時間コース」 「6時間コース」	「社会人3基礎力」強化プログラム ・3つの基礎力全般の強化メニュー あるいは ・1つの基礎力の特化型メニュー （シリーズ化も可能）
単発（単位付与）	「短期集中講座」 （2日間コース） （3日間コース） * 1単位分	
合宿（単位なし） （単位付与）	「短期集中講座」 （1泊2日コース） * 単位付与の場合、1単位	

4) 第一次“講師チーム”形成 (9月～11月)

氏名	職業 および 主な講師業務	専門・担当
飯田 哲司 (代表)	中国短期大学 情報ビジネス学科 教授 大学コンソーシアム岡山「キャリア形成講座」講師 岡山理大・香川大 非常勤講師 県内高校 キャリア教育・就活指導アドバイザー	社会人基礎力養成 キャリア形成論 コミュニケーション、チームビルド アサーティブ、プレゼンテーション
桑田 朋美 (コーディネーター)	社会保険労務士(朋社会保険事務所 代表) 大学コンソーシアム岡山「キャリア形成講座」講師 岡山理大・香川大 非常勤講師 企業・団体の新入研修・管理職研修講師 県内高校 キャリア教育アドバイザー	社会人基礎力養成 セルフ・コントロール コミュニケーション ビジネスマインド、実践マナー
侍留 慶子	社会保険労務士(侍留社会保険事務所) 企業・団体の研修講師 県内高校 マナー教育講師	社会人基礎力養成 実践マナー コミュニケーションスキル
松田 周司	中小企業診断士 岡山県中小企業団体連合会 相談員 (株)アルマ経営研究所 経営コンサルタント・講師 企業・団体の新入研修・管理職研修講師	社会人基礎力養成 モチベーションアップ チームビルド 起業家養成

5) 講師勉強会 (9月～3月)

月に2～3回の「講師勉強会」を実施 (訪問研修 または 集合研修)

【勉強会の内容】

- (1)立案した企画の検討 ⇒ 計画・授業案の確認・作成
- (2)相互に講座見学 (講師同士で講座内容を確認)
- (3)講座の振り返り・検証・フィードバック (個々のスキルアップ+チーム力向上)

6) 新カリキュラムの実践テスト <兼 講義見学による講師勉強会> (9月～3月)

9月～3月の7ヶ月間に、次の講座・講演を実施し、新カリキュラムをテスト実施する
<この場を、講師チームの勉強会の場としても活用する>

- 大学 : 1大学で 2回
- 大学コンソーシアム : 1機関で 5回
- 大学生向け : 1団体で 1回
- 高校(生徒向け) : 4校で 6回
- 企業・団体 : 5社で 9回
- 高校(教員向け) : 1校で 1回

*受講生は、15名から320名まで様々。各種パターンの実践テストが出来た

【企業・団体】

*企業名・団体名は伏せました

1) 株式会社〇〇〇〇(赤磐市) 社員研修

実施日	時間	実施内容	講師
9/17(木)	6.5時間	ビジネスコミュニケーション向上研修(I)	侍留慶子
9/24(木)	6.5時間	モチベーション向上研修	桑田朋美
10/8(木)	6.5時間	ビジネスコミュニケーション向上研修(II)	侍留慶子
10/22(木)	6.5時間	研修まとめ・発想力養成研修	飯田哲司

2) 〇〇商工会(浅口市) 会員研修

実施日	時間	実施内容	講師
10/20(火)	3時間	ビジネスマナー研修(1)	桑田朋美
10/21(水)	3時間	ビジネスマナー研修(2)	桑田朋美

3) ○○興運株式会社(倉敷市) 社員研修

実施日	時間	実施内容	講師
11/14(土)	7時間	コミュニケーション力・発想力養成講座	飯田哲司

4) 香川県○○商工会 青年部・婦人部合同研修

実施日	時間	実施内容	講師
11/27(金)	2.5時間	ビジネスマナー研修	桑田朋美

5) ○○○○商工会(淡路) 研修

実施予定	時間	実施内容	講師
3/25(木)	6時間	できる社員の仕事術	桑田朋美

【大学関係】

1) 香川大学

実施日	時間	実施内容	講師
9/11(金)	6時間	キャリアデザイン実践C 短期集中講座	飯田哲司
9/12(土)	6時間	〃 〃	桑田朋美

2) 大学コンソーシアム岡山

実施日	時間	実施内容	講師
11,12月	計7.5時間	実践マナー&ビジネスマインド短期集中講座	桑田・飯田

3) NPO主催

実施日	時間	実施内容	講師
2/27(土)	3時間	頑張れ 女子セミナー	桑田朋美

【高校】

1) 後楽館高校 ゼミ体験

実施日	時間	実施内容	講師
10/6(火)	90分	模擬ゼミ「キャリア形成論」～行動経済学～	飯田哲司

2) 林野高校

実施日	時間	実施内容	講師
10/9(金)	100分	キャリア形成論 ～行動心理学入門～	飯田哲司

3) 高梁高校

実施日	時間	実施内容	講師
10/8(木)	50分×2回	知っておきたいビジネスマナー	侍留慶子
10/15(木)	50分×2回	知っておきたい保険と年金 ～社会保険制度～	侍留慶子
10/22(木)	50分×2回	コミュニケーション力向上のために	桑田朋美

4) 邑久高校

実施日	時間	実施内容	講師
1/29(金)	90分	生徒のコミュニケーション力強化	桑田・飯田

5) 林野高校

実施日	時間	実施内容	講師
2/23(火)	120分	教員勉強会 (『社会人基礎力実践トレーニング』)	飯田哲司

これら7ヶ月間の講演・講座の振り返りを、講師勉強会で行い、講座パッケージとテーマ毎のカリキュラムプランおよびアレンジプランを固める

7) 教材・資料の作成 (9月～3月)

各種の講演・講義を実践して、時間配分を踏まえ、以下のものを作成する
 ・「ワーク教材」 ・「パワーポイントスライド資料」 ・「ハンドアウト資料」
 ・「課題シート」 ・「受講レポート」

* 作成した資料類の使用権利保護については検討中

8) 研修・セミナー参加 (10月～3月)

10月から3月までの期間中に、次の研修・セミナーに参加

- 【目的】 1) 新カリキュラム・新プログラム策定のため (⇒ 研修内容は、講師勉強会等で共有)
 2) 最新情報の収集、プロ技術のチェック
 3) 新たな教材・資料類の使用権利確保
 4) 人脈拡大、講師候補者チェック

参加日	研修・セミナー内容	場所	参加者
10/2(金)	事務改善の具体策と事務コスト削減セミナー	岡山	桑田
10/9(金)	ポジティブアクション実践研修	岡山	桑田
10/23(金)	話し方・聞き方とビジネスマナー	岡山	桑田
10/28(月)	部下を持つ人のための報連相	岡山	桑田
11/17(火)	セクシャルハラスメント防止対策研修	岡山	桑田
12/10(木)	問題解決研修の進め方	大阪	桑田
10/25～1/24(日)	NLP(実践心理学) プラクティショナー <全10回>	岡山	飯田・桑田
1/19(金)	メンタルヘルス	大阪	飯田・桑田
3/8(月)	報連相	大阪	桑田
3/9(火)	自信のつくり方	岡山	飯田・桑田
3/11(木)	フォロアースhip	大阪	桑田

* 上記の研修・セミナー以外にも、各講師は自主的にセミナー参加をし勉強中
 関西エリアの大学・企業等で実績のある著名講師と、情報交換・打合せを重ね、双方の協力関係を築く

9) 合宿準備 (12月～2月)

(学生からの要望でもある「社会人基礎力」強化合宿)は、企画立案し、開講に向け準備を進めたが、2010年度は実施見送りとなる)

10) 民間事業者との共同実施講座企画 (12月～2月)

(岡山大学および株式会社岡山スポーツ会館と、相談・企画を始めた「健幸ライフ・マネジメント講座」も、2010年度は実施見送りとなる)

<次の動き>

第一次講師チームで開講可能な「社会人基礎力養成のための講座パターン」および「プログラム・カリキュラム」を、2010年度4月(5月)に発足予定の「委員会」で説明・公開し、各大学との検討・調整を開始したい

(* 各大学で実施の「キャリア系講座」および大学コンソーシアム岡山の「キャリア形成講座」と共存・両立し、学生にとって有益な「社会人基礎力養成講座」の開講に向け、協力をお願いいたします)

■計画：⑭ キャリア形成講座の発展的事業委託

1) 「キャリア形成講座」の次なる展開検討（9月）

大学コンソーシアム岡山で実施の「2講座」について、2010年度以降は次の方向で実施

I 「キャリア形成講座」 (前期)(後期)	⇒ 大学コンソーシアム岡山の産学官連携事業部で、継続実施
II 「実践マナー &ビジネスマインド講座」 (前期)(後期)	⇒ 岡山オルガノンに事業委託（*新たな講座を企画し実施）

2) 「実践マナー&ビジネスマインド講座」の発展的”新講座”を検討（10月～2月）

新講座の開講に向け、次のステップから、「企画5プラン」を作成

- ① 学生ヒヤリング（「キャリア形成講座」修了生と意見交換）
- ⇒ ② 企画ラフ案作成
- ⇒ ③ カリキュラム案作成
- ⇒ ④ 担当講師の分担案作成
- ⇒ ⑤ 講義会場および合宿地の検討・使用料金等の仮交渉（仮押さえ）
- ⇒ ⑥ 実施プランに基づく見積り・試算

3) 新講座の企画案・実行プラン案 作成（1月完成）

A案 「短期集中型“社会人基礎力”養成講座」	夏季休暇中 連続2日間 1回 岡山市デジタルミュージアム講義室
B案 「社会人基礎力”強化合宿」	夏季休暇中 1泊2日 1回 真庭市 または牛窓 または直島のキャンプ場
C案 「卒業直前速習セミナー“社会人基礎力”」	12月または1月 半日 1回 岡山市デジタルミュージアム講義室
D案 「女子学生のための “実践マナー&ビジネスマインド講座”」	秋季～冬季 1日×1回（または半日×2回） 岡山市デジタルミュージアム
E案 「健幸ライフ・マネジメント講座」 (株岡山スポーツ会館と共同)	秋季～冬季 4日 1回 岡山駅前の3会場

4) 新講座の実施計画（→2月決定）

本部との検討の結果、2010年度は、上記の「C案」および「D案」の2講座のみ」の開講となる

* 外部会場を使用する講座の予算化は不可とのことで、学生の要望が強い「合宿プラン」も断念

↓
 <<実施の「C案」「D案」についても、外部会場は不可につき、計画の変更を要する>>

5) 委託契約（2・3月） * 本部に依頼

⑮⑯ 関連資料

⑮ ボランティアプロフェッサおよびコーディネート科目内容の検討会議の開催、1
月以降に配信コンテンツの作成

⑯ セタエコナイトおよび地域活性化シンポジウム準備会議の開催

【資料】 岡山オルガノンにおける岡山商科大学オフィスの役割

【資料 1】 岡山商科大学オフィス活動の進捗と報告

【資料 2】 双方向コンテンツ委員会資料

【資料 3】 地域活性化委員会資料

【資料 4】 岡山オルガノン 履修手続きの流れ（案）資料

平成 22 年度ライブ型遠隔授業開始広報用ちらし

平成 22 年度ライブ型遠隔授業開始広報用ポスター

【資料 5】 2010 年度単位互換履修生募集要項募集要項

岡山オルガノンにおける岡山商科大学オフィスの役割

岡山オルガノン岡山商科大学オフィス 室長 大崎 紘一
コーディネーター 矢延 里織
事務補佐員 荒木 智子

1. 「岡山商科大学オフィス」設置と役割

本学では、平成21年9月15日に「岡山商科大学オフィス」を図書館棟6階に設置しました。本オフィスには、オフィス室長、コーディネーター、事務補佐員を配置しました。そして、「地域発信力」の活動を推進するために、2つの委員会を所掌しています。

1つ目の委員会は、「双方向コンテンツ委員会」です。企業の経営者等を大学に講師として派遣する「ボランティアプロフェッサー科目」（岡山商科大学の「経営学特殊講義」月曜日 14:40～16:10 4限）、および他大学が配信する科目を、ライブ方式の遠隔授業として連携校へ提供するための制度、運用方法、実施について検討します。（図1）また岡山経済同友会等の県内産業界等と協力して、専門的職業（例：弁護士、税理士、司法書士、社会保険労務士等）を持つ外部人材を活用したコーディネート科目の構築を進めます。

2つ目の委員会は、「地域活性化委員会」です。次年度以降の産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」事業や、県内に在学する学生間や地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」開催に向けた内容に関して、地域発信へつなげるための事業について検討します。

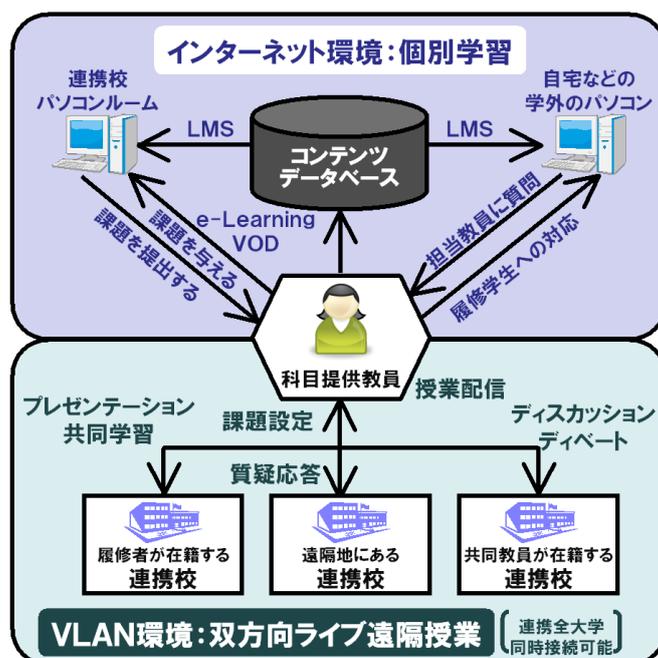


図1 双方向ライブ遠隔講義と e-Learning としての VOD 講義について

2. 1 双方向コンテンツ委員会

1) 活動内容

岡山オルガノンの重要な活動の一つが、大学間教育連携を推進する同時双方向テレビ会議システムを、15大学全てに導入し、各大学間で学部学生に対する講義を配信することです。そのため、岡山商科大学オフィスでは、配信する講義に関する準備をするために、15大学の委員で構成する「双方向コンテンツ委員会」を所掌し、大学教育連携センター、岡山大学オフィス、中国学園大学オフィスと協力しながら運営しています。

本委員会では、各大学でシステムの導入後の基本的な使用法等についての支援と、大学間で講義コンテンツの配信をスムーズに実施するために、特に15大学で異なる授業の開講時間と実施形態において、双方向ライブ方式配信をどう実現するかを協議しています。また同時双方向テレビ会議システムの導入、運用について大学のインターネット環境を構築し、ハイビジョン対応テレビ会議システムの送受信を実施して、講義の配信が可能となるよう整備の支援を行っています。

12月8日に、第1回の双方向コンテンツ委員会を開催しました。本学井尻昭夫学長、大学教育連携センター木村宏センター長にご挨拶いただきました。委員会の前の13時から14時まで、7号館772教室と763教室でテレビ会議システムの操作デモを行いました。

2) ライブ配信科目

平成22年4月より、岡山商科大学の「経営学特殊講義Ⅰ」（月曜日 14:40～16:10 4限）を、ライブ方式で単位互換科目として配信をします。本格運用にあたり、現在全大学が購入した同時双方向テレビ会議システムを使って、多拠点と接続した試験運用を行い、必要な機材の調整をし、接続可能な体制を整備して運用面における問題点の解決に取り組んでいます。

平成22年度前期は、5大学単位のグループ間でのライブ方式による遠隔教育の試験的運用を繰り返し実施し、後期には岡山理科大学に導入される多地点装置（MCU）を使用して、15大学が同時に接続可能となる予定です。学生が受講しやすい学習環境を整備し、幅広い学際的領域に及ぶ教育の提供が可能な単位互換制度を充実させることにより、岡山県内のより多くの学生が、他大学の特徴ある講義を自分の大学で受講できる体制をつくっていきます。

2. 2 地域活性化委員会

産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」事業や、地域住民や県内に在学する学生間との交流活動の推進を図る事業に取り組むことが、本委員会の目的です。3月下旬に「第1回地域活性化委員会」の開催にむけて、各大学で取り組んでいる岡山県内の特定地域に関する研究や実践活動、そして岡山理科大学を中心に行われていたエコナイトを、15大学で取り組む活動にするための検討を行います。

平成 21 年度 岡山オルガノン 岡山商科大学オフィス活動の進捗と報告

[商科大学オフィス所掌委員会・会議等]

本学は、双方向コンテンツ委員会を 2 回開催しました。来週、第 1 回目の地域活性化委員会を開催する予定です。

(1) 委員会

- ・ 12 月 08 日 第 1 回「双方向コンテンツ委員会」
導入機器の質疑応答、講義開講時間帯、学則、著作権の利用許諾書について
- ・ 03 月 04 日 第 2 回「双方向コンテンツ委員会」
岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義、平成 22 年度ライブ講義配信科目の実施と運用、講義配信におけるレポート回収と PC の利用、平成 22 年度「岡山オルガノン計画」について
- ・ 03 月 23 日 第 1 回「地域活性化委員会」(予定)
各大学の取組み、エコナイトについて

(2) 本学の活動

本学の主な活動は以下のとおりです。

- ◆ テレビ会議システムによる通信接続テスト
 - ◆ テレビ会議システムによる「経営学特殊講義Ⅱ」配信テスト
 - ◆ 合同フォーラム参加、他大学遠隔講義視察訪問
-
- ・ 09 月 15 日 岡山商科大学オフィス設置
 - ・ 09 月 18 日 理科大学様へご挨拶
岡山オルガノン計画と概要について
 - ・ 12 月 02 日 テレビ会議システム デモ機借用、操作デモと打合せ
学内関係者によるデモ
 - ・ 12 月 03 日 テレビ会議システム 操作デモ
ノートルダム清心女子大学様向けデモ
 - ・ 12 月 08 日 テレビ会議システム 操作デモ
全大学様向けデモ

- ・ 12月09日 **テレビ会議システム 操作デモ**
岡山学院大学・吉備国際大学様向けデモ
- ・ 01月07日 **「平成21年度大学教育改革プログラム合同フォーラム」参加**
ポスターセッション「平成21年度選定取組等の紹介」
基調講演「大学間連携の展開（戦略的大学連携支援プログラム）」
- ・ 01月14日 **テレビ会議システム 通信接続テスト**
本学発3拠点（岡山理科大学様、岡山県立大学様、岡山学院大学様）
受信による通信接続テスト
- ・ 01月18日 **テレビ会議システム 「経営学特殊講義Ⅱ」配信テスト**
本学発4拠点（岡山理科大学様、岡山県立大学様、岡山学院大学様、
就実大学様）受信による本学講義「経営学特殊講義Ⅱ」配信テスト
- ・ 01月27日 **立命館大学衣笠キャンパス視察訪問**
SONY PCS-XG80の運用、システム設置の3教室について
- ・ 02月01日 **コンソーシアム・福岡視察訪問**
Polycomの運用、システム設置の教室について
- ・ 02月10日 **テレビ会議システム カスケード接続テストに参加**
6拠点（岡山大学様、岡山理科大学様、山陽学園大学様、ノートルダム
清心女子大学様、本学、業者）10拠点接続方式（親→子、親→親）に
よる通信接続、画像・映像切替テスト
- ・ 02月18日 **テレビ会議システム 通信接続テストに参加**
6拠点（岡山大学様、岡山理科大学様、中国学園大学様、吉備国際大学
様、本学、業者）による通信接続、画像・映像切替、アノテーション
テスト
- ・ 02月23日 **テレビ会議システム 検証**
2月23日～3月1日間業者よりテレビ会議システムを借用、機器操作
の検証
- ・ 03月02日 **テレビ会議システム 通信接続テスト**
双方向コンテンツ委員会ライブ会議参加大学（就実大学様、川崎医科
大学様、くらしき作陽大学様）と通信接続、画像・映像切替、アノテ
ーションテスト
- ・ 03月03日 **テレビ会議システム 通信接続テスト**
双方向コンテンツ委員会ライブ会議参加大学（岡山大学様）と通信接
続、画像・映像切替、アノテーションテスト

- テレビ会議システム設置場所：7号館7階772教室
- VOD用コンピュータ設置場所：7号館7階772教室

(3) オフィス会議 (大崎、小松原、中村、矢延、荒木)

本学のオフィス担当者会議はこれまでに16回開催しました。導入機器に関する検討、ライブ提供科目の準備作業、委員会開催に関する検討等を行ってまいりました。

以 上



第 1 回 岡山オルガノン「双方向コンテンツ委員会」会議

1. 日 時 平成 21 年 12 月 8 日 (火) 14 : 15 ~ 16 : 00
2. 場 所 岡山商科大学 7 号館 6 階 763 教室
3. 参 加 者 委員会担当委員、取扱担当、事務担当、他関係者
4. 議 題 案
 - (1) 挨拶
 - ① 岡山商科大学 学長 井尻 昭夫 氏
 - ② 岡山理科大学 大学教育連携センター センター長 木村 宏 氏
 - ③ 岡山商科大学 岡山商科大学オフィス 室長 大崎 紘一 氏
 - (2) 委員紹介
 - (3) 導入機器について・質疑応答
 - (4) 双方向コンテンツについて
 - (5) 学則・規程等について
 - (6) 著作権の利用許諾書について
 - (7) その他・質疑応答

以 上



第2回 岡山オルガノン「双方向コンテンツ委員会」会議

1. 日 時 平成22年3月4日(木) 14:00~16:00
2. 場 所 岡山商科大学 7号館7階 772教室
3. 参 加 者 委員会担当委員、取扱担当、事務担当、他関係者
4. 議 題 案
 - (1) 岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義について
 - (2) 平成22年度ライブ講義配信科目の実施と運用について
 - ① 他大学の受講生となるための手続きについて
 - ② 各大学の担当者が行う業務について
 - ③ 受信する大学の担当者の業務について
 - ④ 配信する大学の担当者の業務について
 - (3) 講義配信におけるレポート回収とPCの利用について
 - ① 講義レポートの入力と回収方法について
 - ② 機器の運用について
 - (4) 平成22年度「岡山オルガノン計画」について
 - (5) その他・質疑応答

以 上

出席者

大学名	委員氏名	職名
岡山学院大学	竹中 一平	講師
岡山商科大学	大崎 紘一	副学長
	小松原 実	情報教育センター長
岡山理科大学	木村 宏	大学教育連携センター長
	佐藤 大介	センターコーディネーター
	大西 莊一	情報科学科 教授
川崎医科大学	大槻 剛巳	学長補佐 衛生学 教授
川崎医療福祉大学	安藤 正人	副学長
環太平洋大学	柿原 聖治	次世代教育学部 教授
吉備国際大学	今村 俊介	社会福祉学部子ども福祉学科 講師
	佐藤 匡	社会学部ビジネスコミュニケーション学科 教授
倉敷芸術科学大学	村山 公保	産業科学技術学部 教授
	忠政 慎也	教務部 課長
くらしき作陽大学	加藤 充美	音楽学部 教授
	木村 万里子	食文化学部 講師
山陽学園大学	片岡 武	総合人間学部生活心理学科 准教授
中国学園大学	福森 護	情報ビジネス学科 教授
	古谷 俊爾	講 師
	村松 敬生	教務課 課長補佐
ノートルダム清心女子大学	加藤 周一	情報機器教育支援センター

ライブ会議出席者

大学名	委員氏名	職名
岡山大学	天野 憲樹	教育開発センター 准教授
	長瀧 寛之	教育開発センター 助教
	遠山 和大	岡山大学オフィス コーディネータ
	簗島 素子	学務部 学務企画課企画室 専門職員
	小池 泰之	学務情報システム開発室 専門職員
川崎医科大学	虫明 基	自然科学 准教授
就実大学	片岡 洋行	薬学科 教授 教務部長
	福場 光代	教務課 課長

運営委員会名称

双方向コンテンツ委員会

大学名	委員氏名	ふりがな	職名
岡山大学	川本 平山	かわもと へいざん	教育開発センター 教授
岡山県立大学	子野日 俊夫	ねのひ としお	デザイン学部 教授
岡山県立大学	倉田 太吾	くらた たいご	事務局総務課 主幹
岡山学院大学	河崎 雅人	かわさき まさと	キャリア実践学科 教授
岡山商科大学	大崎 紘一	おおさき ひろかず	副学長
岡山商科大学	小松原 実	こまつばら みのる	情報教育センター長
岡山理科大学	大西 荘一	おおにし そういち	情報科学科 教授
岡山理科大学	竹内 渉	たけうち わたる	建築学科 教授
川崎医科大学	大槻 剛巳	おおつき たけみ	学長補佐 衛生学 教授
川崎医科大学	虫明 基	むしあき もとい	自然科学 准教授
川崎医療福祉大学	安藤 正人	あんどう まさと	副学長
環太平洋大学	柿原 聖治	かきはら せいじ	次世代教育学部 教授
吉備国際大学	今村 俊介	いまむら しゅんすけ	社会福祉学部子ども福祉学科 講師
倉敷芸術科学大学	村山 公保	むらやま ゆきお	産業科学技術学部 教授
倉敷芸術科学大学	忠政 慎也	ただまさ しんや	教務部 課長
くらしき作陽大学	加藤 充美	かとう みつみ	音楽学部 教授
くらしき作陽大学	木村 万里子	きむら まりこ	食文化学部 講師
山陽学園大学	片岡 武	かたおか たけし	総合人間学部生活心理学科 准教授
就実大学	片岡 洋行	かたおか ひろゆき	薬学科 教授 教務部長
就実大学	福場 光代	ふくば みつよ	教務課 課長
中国学園大学	福森 護	ふくもり まもる	情報ビジネス学科 教授
中国学園大学	村松 敬生	むらまつ たかお	教務課 課長補佐
ノートルダム清心女子大学	山根 道公	やまね みちひろ	キリスト教文化研究所 准教授

岡山オルガノンにおける双方向ライブ講義について

岡山商科大学オフィス

室長 大崎 紘一

1. 目的 (テレビ会議システムを中心として)

- (1) 学部学生に対して、双方向テレビ会議システムを介して、15 大学の講義をライブ配信するための、テレビ会議システムの運用方法、及び講義方法、出席方法、試験方法を開発することである。
- (2) 教職員や学生の交流の深化

2. 双方向テレビ会議システムの構成

学部学生の講義を中心にすることから、15 大学はテレビ会議システムの構成は、同一とする。

(立命館大学(1大学の複数キャンパス間)、コンソーシアム福岡(4大学:大学院講義))

- (1) 表示装置：2台
 - ① 液晶プロジェクター：1台
講義資料を表示するための表示装置とする。
 - ② 液晶ディスプレイ(50インチ)1台、又は液晶プロジェクター
講義室の状況を表示するための表示装置とする。
- (2) カメラ：2台
 - ① カメラ1： 講義をしている教員を撮影：部屋の後方に設置
講義の際に設置するか、天井に設置
 - ② カメラ2： 講義中の教室の風景を撮影：教卓の近くに設置
- (3) 講義室の設定
双方向テレビ会議システムを設置する部屋は、できるだけ固定とする。

3. ライブ配信講義の開発

本事業で、学部学生のためのライブ配信講義法の確立をする。

(1) 講義時間の違いへの対応

講義開始時間の違い：最初の30分の講義を、講義終了後に配信
講義時間の調整の可能性

(2) 講義の仕方の開発

講義の中間40から50分に講義を中断し、全大学からの質問を受ける。
講義の最後80から90分に全大学からの質問を受ける。

(3) 出席の採り方の開発

各大学に出席表を配布し、部屋の管理者の方に、学生に渡し、講義終業時に回収する。

双方向カメラで、確認をする。(時間がかかるのでは)

PCを使用して、出席管理システムを開発する。

(4) レポート、ライブ試験の開発

平成22年度前期は、3科目ともレポートによる評価

ライブ試験：15回目の講義中に、一斉に試験を行う方法

問題の出し方、答案用紙の回収

(5) PCの活用について

レポート提出システムを開発して、レポートの回収を行う。(商大小松原)

同じシステムを使用して出席管理をする。

平成 22 年度ライブ講義配信科目 の実施と方法について（案）

学生に他大学のライブ形式単位互換提供科目を受講していただくために、各大学の担当者が行う業務および学生の手続きは以下のとおりです。

1. 他大学の受講生となるための手続き

(1) 履修申込み

岡山オルガノンホームページから履修願をダウンロードして所属大学の教務窓口へ提出します。

ホームページアドレス：<http://okayama-organon.jp/>

開講科目や履修手続き等に関する情報は、『岡山オルガノン』参加大学単位互換 2010 年度 単位互換履修生募集要項を各大学の担当窓口から受け取って確認、または岡山オルガノンホームページへアクセスして閲覧します。

ホームページアドレス：<http://okayama-organon.jp/>

(2) 受講生としての許可

履修願の一覧をライブ講義で配信する大学に送付、または岡山オルガノンホームページからダウンロードして、各大学で許可を受けます。

- 岡山商科大学の場合
 - ① 受講希望者に岡山商科大学の学籍番号を発行します。
 - ② 岡山商科大学のホームページへログインするための ID とパスワードの登録手続きを行います。
 - ③ 講義に関する連絡事項は学生の携帯電話または PC にメールで送るシステムになっていますので、上記 ID とパスワードを利用して、受講生にも利用して頂きます。

2. 各大学の担当者が行う業務

(1) 講義資料について

「岡山オルガノン」ホームページから資料をダウンロードして印刷や配布をします。一時的にホームページが利用できない場合は、担当者の Email へ配布資料を添付して送ります。

(2) 出席について

配信する大学、または受信する大学が定める方法で行います。

- 岡山商科大学では、各大学の受講者には本学から学籍番号を発行します。各大学の受講者一覧及び出席表をお送りしますので、各大学で教室の管理者の方が出席表に出欠記入をして出席管理をして下さい。講義の 15 回終了後に本学にお送り下さい。

(3) 試験について

試験問題は、配信する大学が作成します。試験日は、所属する大学が定める日程で行います。

できれば、講義配信期間中に、「ライブ配信試験」を考えてはどうでしょうか。

- 岡山商科大学のライブ配信講義では、3 回のレポートの提出を課せます。本学で 3 回のレポート内容を成績評価しますので、本学から「まとめ用紙」を送付します。指定した提出日に提出されたレポート用紙は、お手数ですが岡山オルガノン商科大学オフィスに送付をお願いします。
- 川崎医科大学、倉敷芸術科学大学のライブ配信講義もレポート提出になっています。

(4) 教室管理について

授業が始まる前に、テレビ会議システムのセッティングをお願いします。

テレビ会議システムの運用について（案）

ライブ形式単位互換提供科目を受配信するために、必要な各大学の担当者が行う業務は以下のとおりです。

1. 受信する大学

- ① 受信側は、授業が始まる前に電源を入れておきます。
(テレビ会議システムは、常に自動受信(初期設定)の設定にしておきます。)
- ② 配信する大学からの接続を受け入れます。受信側から接続すると配信側は、分割画面を設定できなくなります。
- ③ 音声は双方向で聞こえるか確認します。
 - 授業中は、リモコンの「切断」ボタンを押さないように注意して下さい。受信側が1拠点のみの場合、切断すると配信側も自動的に切断されてしまいます。
 - 授業中、通信などのトラブルが発生する場合に備えて教室に電話機を設置、または担当者の携帯番号等すぐ連絡が取れる連絡先を通知しておきます。
 - 手書き入力ができるペンタブレットを接続している時は、アノテーション機能をOFFにしていることを確認して下さい。ONになっていると配信側のテレビ会議システムの機能を操作できなくなります。

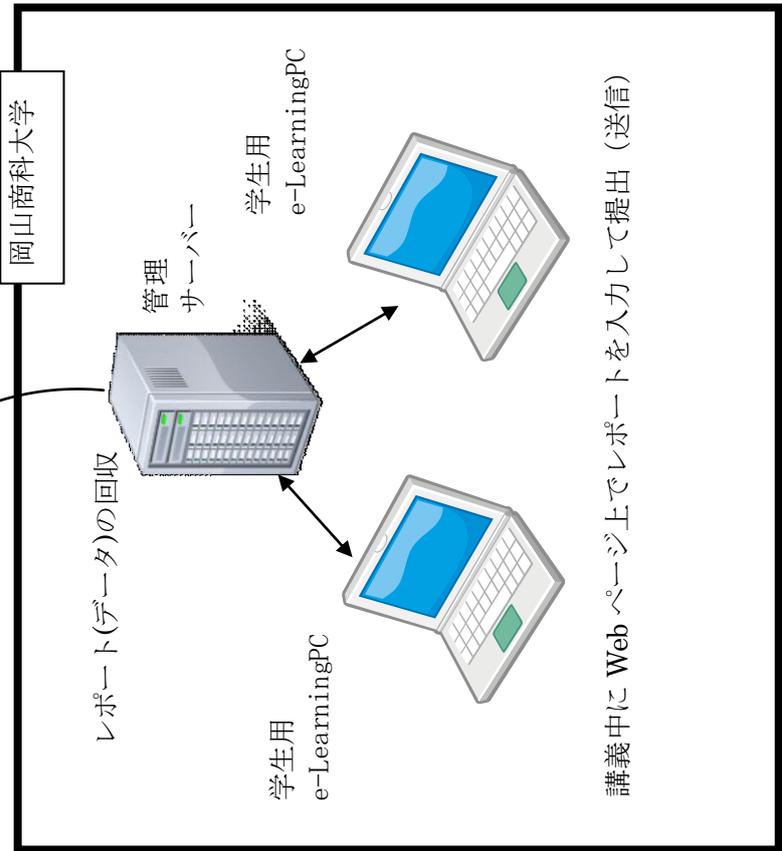
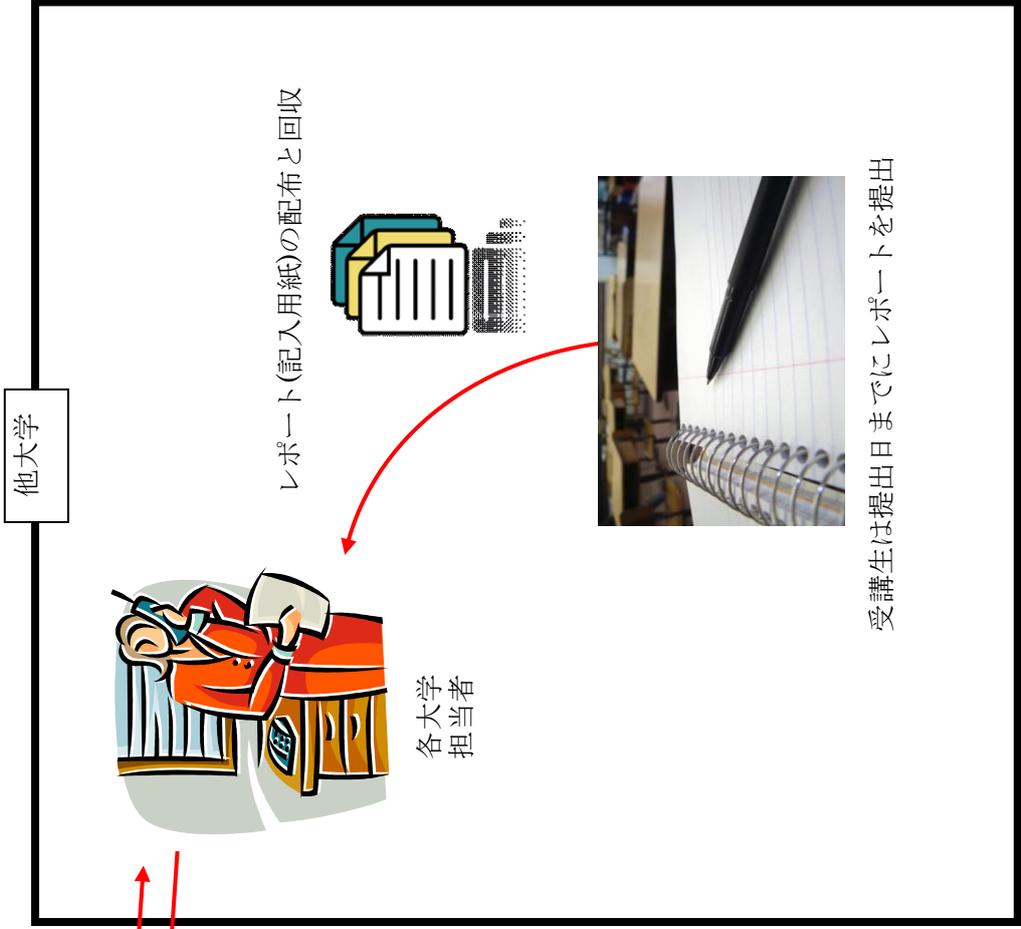
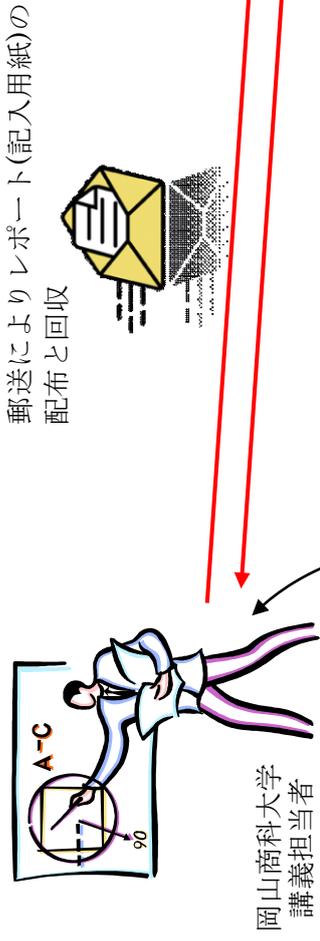
2. 配信する大学

- ① 配信側は、授業が始まる前に受信側へ接続します。
- ② 音声は双方向で聞こえるか確認します。
- ③ 授業が終わると切断します。

遅延配信について

岡山商科大学は、他大学の異なる授業時間帯において、授業の開始に遅れる他大学の学生に、講義終了後に遅延配信を行います。映像遅延装置（ハンディカメラ）内蔵のメモリに講義を録画しておき、講義終了後に、遅延の冒頭部分を再生して受講していただきます。

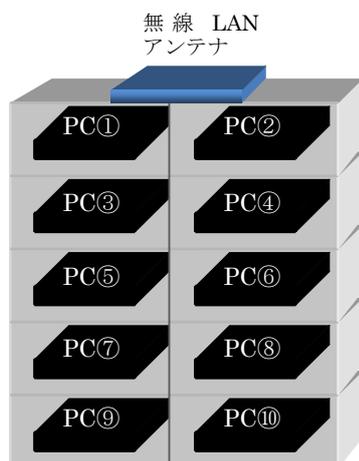
講義レポートの入力と回収方法について



岡山オルガノン PC について

1. 設置方法等

- ① ノート型 PC 20 台
- ② 左記様の収納ケースを 2 個（各 PC10 台ずつ収納）使用します。
- ③ 収納ケースは固定式とし、772 教室前方に配置します。



2. 学生の使用方法

- ① 収納ケースから PC を取り出し、自席で使用します。
- ② 無線 LAN と電源バッテリーを使用のため、ワイヤレスの状態ですぐに持ち運びます。

3. 導入予定 PC

※現在モデルチェンジの時期のため、下記の詳細なスペックは目安です。

外観	
インストールOS	Windows® 7 Home
CPU	インテル® Atom™ プロセッサ N280 (1.66GHz)(拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー搭載)
メインメモリ	2GB
表示機能	10.1型ワイド
質量	約1.33kg
ドライブ	約320GB(Serial ATA、5400回転/分)
ソフト	office2007、現状復帰ソフト
バッテリー駆動時間	約8.5時間(充電時間は約4.5時間)
その他	ワイヤレスLAN内蔵、WEBカメラ、スピーカー内蔵

平成22年2月22日

岡山オルガノン連携校
地域活性化委員会
ご担当者様

岡山オルガノン 岡山商科大学オフィス
室長 大崎 絃一

第1回 岡山オルガノン「地域活性化委員会」開催のお知らせ

拝啓 余寒の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、岡山オルガノン「地域活性化委員会」の第1回の会議を下記の日程で開催させて頂くことに決定しました。ご万障お繰り合わせの上、ご出席をお願い致します。

今後の岡山オルガノンにおける「地域活性化委員会」の活動内容を決定致しますので、ぜひご参加ください。

敬具

記

1. 日 時 平成22年3月23日（火）
13:30～15:30
2. 場 所 岡山商科大学7号館 772教室
3. 議 題 ①各大学の取組について
②エコナイトについて

以上

※お車でお越しの際は、正門を入れてすぐの空きスペースに駐車してください。

また、連絡票で頂いた委員の方以外でメール配信をご希望の方がいらっしゃいましたらお知らせください。よろしくお願ひ致します。

運営委員会名称

地域活性化委員会

大学名	委員氏名	ふりがな	職名
岡山大学	川本 平山	かわもと へいざん	教育開発センター 教授
岡山県立大学	岡崎 順子	おかざき じゅんこ	保健福祉学部 教授
岡山県立大学	倉田 太吾	くらた たいご	事務局総務課 主幹
岡山商科大学	大崎 紘一	おおさき ひろかず	副学長
岡山商科大学	多田 憲一郎	ただ けんいちろう	経済学部 教授 地域再生支援センター長
岡山理科大学	猪口 雅彦	いのぐち まさひこ	生物化学科 学生部次長
岡山理科大学	富岡 直人	とみおか なおと	学生部次長
川崎医科大学	大槻 剛巳	おおつき たけみ	学長補佐 衛生学 教授
川崎医科大学	松島 眞浩	まつしま まさひろ	公衆衛生学 講師
川崎医療福祉大学	西本 哲也	にしもと てつや	リハビリテーション学科 講師
環太平洋大学	佐藤 忠文	さとう ちゅうぶん	次世代教育学部 教授
倉敷芸術科学大学	小山 悦司	こやま えつじ	教育研究支援センター所長 教授
倉敷芸術科学大学	小田上 和男	おだかみ かずお	庶務部 次長
くらしき作陽大学	稲谷 靖子	いなたに やすこ	子ども教育学部 准教授
くらしき作陽大学	河村 敦	かわむら あつし	食文化学部 准教授
山陽学園大学	澁谷 俊彦	しぶや としひこ	総合人間学部生活心理学科 教授
就実大学	原田 龍宣	はらだ たつのり	生活科学科 講師
就実大学	桑原 和美	くわはら かずみ	人文科学部総合歴史学科 教授
中国学園大学	飯田 哲司	いいだ てつし	情報ビジネス学科 教授
中国学園大学	中田 周作	なかだ しゅうさく	子ども学部 講師

岡山県内の特定地域について取り組んでおられる研究テーマ

大学名	地域研究	担当者名	担当者職名
山陽学園大学	門田地域の研究	濱田 栄夫 (はまだ ひでお)	総合人間学部長
	安全安心マップ作り	澁谷 俊彦 (しぶや としひこ)	社会サービスセンター長
中国学園大学	ちゅうたん おもちゃ公演	原田 眞澄 (はらだ ますみ)	准教授
	おかやま連携大学祭	中田 周作 (なかだ しゅうさく)	講師
	放課後児童クラブ(学童保育) 指導員の養成	中田 周作 (なかだ しゅうさく)	講師
くらしき 作陽大学	各種音楽演奏会 CM ソング等オリジナル楽曲制作	渡邊 康雄 (わたなべ やすお) 新名 俊樹 (しんみょう としき)	教授 講師
	玉島地域との連携による食の 新商品開発および地域行事参加	木戸 啓二 (きど けいじ)	教授
	サマーキッズキャンパス	山下 静江 (やました しずえ)	教授
川崎医療 福祉大学	倉敷市庄地区における高齢者 サロンへの取り組み	古我 知成	教授 ボランティアセンター長
岡山商科大学	新庄村における地域研究	多田 憲一郎 (ただ けんいちろう)	経済学部 教授 地域再生支援センター長
	笠岡諸島における地域研究	大崎 紘一 (おおさき ひろかず)	副学長

岡山オルガノン 履修手続きの流れ (案)

(岡山商科大学が、受入大学の場合)

所属大学：履修学生が所属している大学のこと

1. 学生は、岡山商科大学の履修願を所属大学の担当窓口で受け取るか、岡山オルガノンホームページからダウンロードして、所属大学の担当窓口へ、履修願用写真1枚（願書に貼付）と学生証用写真1枚（※①）を履修願と一緒に提出します。
 2. 所属大学の担当者は、申込受付期間中に受け付けた履修願を岡山商科大学の教務担当者へ FAX で送信した後、原本と各写真を郵送します。所属大学は、履修願のコピーを保管します。
 3. 岡山商科大学の授業担任教員は履修者を決定して、岡山商科大学の教務担当者へ通知します（※②）。
 4. 岡山商科大学の教務担当者は、岡山商科大学の授業担任教員と所属大学の担当者へ Email 等で履修者名簿を送ります。
 5. 岡山商科大学の教務担当者は、各学生の履修許可通知と以下のものを所属大学の担当者へ郵送します。不許可の場合は、不許可通知を郵送します。
 - ① 時間割
 - ② 講義案内システム パスワード
 - ③ 学生証（単位互換履修生証）
 - ④ 図書館利用案内
- * 他大学の学生が岡山商科大学のライブ/VOD 講義を履修する場合、岡山商科大学在学の学生と同じ扱いとします。
6. 講義等に関する連絡事項は、上記 5. ②でアカウントを作成した学生と所属大学の担当者に原則として Email で連絡します。
 7. 所属大学の担当者は、15回の講義出席表を岡山商科大学の教務担当者へ提出します。（※③）
 8. 岡山商科大学の授業担任教員は、成績評価を岡山商科大学の教務担当者へ通知します。

9. 岡山商科大学の教務担当者は、所属大学の担当者に成績評価（履修願の写し）を郵送します。

* 履修者管理と成績入力（授業担当教員から通知された成績を転記）は、岡山商科大学の教務担当者が行います。

* 成績評価は、岡山商科大学の学生と同じ扱いとします。

10. 岡山商科大学の教務担当者は、履修者数を集計して大学教育連携センターへ報告します。

※① 上記2. で提出する写真と枚数については各大学によって異なります。

※② 超過履修申し込みの場合は、受入大学の授業担任教員が履修許可を決定します。

※③ 出席確認の担当者は、各大学によって異なるものと思われませんが、15回修了後、学生の所属大学担当者経由で、授業担当教員に提出するようにお願いします。



岡山オルガン ライフ配信講義

あなたの大学で 他大学の授業が受けられます。

- ✓ 移動の必要がないので、交通費も時間もかかりません！
- ✓ 遠方の他大学の授業も気兼ねなく受けることが可能です。
- ✓ もちろん、単位としても認定されます！

「テレビ会議システムを利用した新しい講義形式です。」

平成 22 年度 4月より開始

今年度の講義配信科目は、

岡山商科大学：「経営学特殊講義」、川崎医科大学：「基礎環境医学」、

倉敷芸術科学大学：「倉敷まちづくり論」です。

(詳細は裏面を見てください！)

平成22年度 前期 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	履修年次	単位数	開講期	曜日・時限
岡山商科大学	① 経営学特殊講義Ⅰ(岡山経営学)	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 担当：大崎 絃一	2～4年	2単位	前期	月・4限 (14:40-16:10)
川崎医科大学	② 基礎環境医学(リベラルアーツ選択Ⅱ)	大槻 剛巳	2～4年	1単位	1学期	金・1限 (9:00-10:30)

① (社)岡山経済同友会協力により産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてくださいます。本講座を通して経営理論や経営手法を習得できるような講義内容となっております。前期は、県内において長年経営をしておられる企業の「永続の経営」がテーマです。

② 今、環境というのは地球を救うという意味で、キーワードとなっております。本講座では、健康障害などの面から観てみたいと思います。環境について、特に健康とのかかわりを考えてみませんか。

平成22年度 後期 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	履修年次	単位数	開講期	曜日・時限
岡山商科大学	③ 経営学特殊講義Ⅱ(岡山経営学)	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 担当：大崎 絃一	2～4年	2単位	後期	月・4限 (14:40-16:10)
倉敷芸術科学大学	④ 倉敷まちづくり基礎論	五十嵐 英之 村山 公保	1～4年	2単位	後期(集中)	土・3～5限 (13:10-18:10)
	⑤ 倉敷まちづくり実践論	カスパー・シュワハ 小山 悦司	1～4年	2単位	後期(集中)	土・3～5限 (13:10-18:10)

③ 前期と同じく(社)岡山経済同友会協力により産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてくださいます。後期は、「多店舗展開企業の経営」がテーマです。

④ 「倉敷まちづくり基礎論」は対面授業が含まれます。双方向ライブ遠隔授業と共に、共同学習共同討議、プレゼンテーションなど学生参加型の講義です。

⑤ 「倉敷まちづくり実践論」は対面授業が含まれます。双方向ライブ遠隔授業と共に、実践的なグループワークと体験活動も行います。

※④・⑤はともに「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトとした地域の活性化を目的とした講座です。対面授業は倉敷駅前の倉敷芸術科学大学「まちなかきゃんぱす」で行われます。また、一般市民の方々にも開放された大学公開講座でもあります。(一般の方々と一緒に受講します！)

手続きは所属大学の教務課等へお問い合わせください。

あなたの大学で 他大学の授業が受けられます。

- ✓ 移動の必要がないので、交通費も時間もかかりません！
- ✓ 遠方のお大学の授業も気兼ねなく受けることが可能です。
- ✓ もちろん、単位としても認定されます！

テレビ会議システムを
利用した
新しい講義形式

手続きは在籍大学の教務課等で行ってください。

2010年度 前期 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	履修年次	単位数	開講期	曜日・時限
岡山商科大学	① 経営学特殊講義Ⅰ(岡山経営学)	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 担当:大崎 統一	2~4年	2単位	前期	月・4限(14:40-16:10)
川崎医科大学	② 基礎環境医学(リベラルアーツ選択Ⅱ)	大槻 剛巳	2~4年	1単位	1学期	金・1限(9:00-10:30)

- ① (社)岡山経済同友会協力により産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてくださいます。本講座を通して経営理論や経営手法を習得できるような講義内容となっています。前期は、県内において長年経営をしておられる企業の「永続の経営」がテーマです。
- ② 今、環境というのは地球を救うという意味で、キーワードとなっています。本講座では、健康障害などの面から観てみたいと思います。環境について、特に健康とのかかわりを考えてみませんか。

2010年度 後期 配信科目

講義配信大学	授業科目	担当教員	履修年次	単位数	開講期	曜日・時限
岡山商科大学	③ 経営学特殊講義Ⅱ(岡山経営学)	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー 担当:大崎 統一	2~4年	2単位	後期	月・4限(14:40-16:10)
倉敷芸術科学大学	④ 倉敷まちづくり基礎論	五十嵐 英之 村山 公保	1~4年	2単位	後期(集中)	土・3~5限 (13:10-18:10)
	⑤ 倉敷まちづくり実践論	カスパー・シュワーベ 小山 悦司	1~4年	2単位	後期(集中)	土・3~5限 (13:10-18:10)

- ③ 前期と同じく(社)岡山経済同友会協力により産業分野で活躍されている経営者が講師を務めてくださいます。後期は、「多店舗展開企業の経営」がテーマです。
- ④ 「倉敷まちづくり基礎論」は対面授業が含まれます。双方向ライブ遠隔授業と共に、共同学習共同討議、プレゼンテーションなど学生参加型の講義です。
- ⑤ 「倉敷まちづくり実践論」は対面授業が含まれます。双方向ライブ遠隔授業と共に、実践的なグループワークと体験活動も行います。
- ※④・⑤はともに「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトとした地域の活性化を目的とした講座です。対面授業は倉敷駅前の倉敷芸術科学大学「まちなかキャンパス」で行われます。また、一般市民の方々にも開放された大学公開講座でもあります。(一般の方々と一緒に受講します！)

『岡山オルガノン』参加大学単位互換

2010年度 単位互換履修生 募集要項

[ライブ配信講義]

サンプル

岡 山 大 学	吉 備 国 際 大 学
岡 山 県 立 大 学	倉 敷 芸 術 科 学 大 学
岡 山 学 院 大 学	く ら し き 作 陽 大 学
岡 山 商 科 大 学	山 陽 学 園 大 学
岡 山 理 科 大 学	就 実 大 学
川 崎 医 科 大 学	中 国 学 園 大 学
川 崎 医 療 福 祉 大 学	ノートルダム清心女子大学
環 太 平 洋 大 学	

目 次

1	『岡山オルガノン』参加大学単位互換制度について	1
2	出願方法・履修手続	2
3	各大学の開講期間・試験期間・授業時間について	4
4	開講科目一覧	7
5	開講科目（ライブ配信講義）のシラバス	9
	○大学提供科目 岡山商科大学……………	10
	川崎医科大学……………	13
	倉敷芸術科学大学……………	16
6	各大学の施設の利用について	19
7	単位互換履修生 履修願	23

『岡山オルガノン』参加大学単位互換制度について

1. 制度の概要

この単位互換制度は、岡山県内15大学間において互いに学生の受け入れを行い、それぞれの受入大学において修得した単位を、所属大学の正規の単位として組み入れる制度です。

この制度を利用して他大学で履修する学生は、「単位互換履修生」と呼びます。

2. ねらい

ことなる専門分野をもつ大学間において、制度的・恒常的な交流を行うことを通じて、視野が広く行動力のある人材を養成することを期待しています。

3. 協定大学

- | | |
|-------------|----------------------------|
| (1)岡山大学 | (9)吉備国際大学 |
| (2)岡山県立大学 | (10)倉敷芸術科学大学 |
| (3)岡山学院大学 | (11)くらしき作陽大学 |
| (4)岡山商科大学 | (12)山陽学園大学 |
| (5)岡山理科大学 | (13)就実大学 |
| (6)川崎医科大学 | (14)中国学園大学 |
| (7)川崎医療福祉大学 | (15)ノートルダム清心女子大学(女子のみ受け入れ) |
| (8)環太平洋大学 | |

4. 履修できる科目

「開講科目一覧表」に記載されている科目（本人の所属大学の科目を除く）。

ただし、科目によっては受入大学により履修制限する場合があります。

5. 履修できる単位数

所属大学の条件。

6. 単位認定

原則的に大学設置基準第25条および第28条により、所属大学の正規の単位に認定されます。ただし、各所属大学において規定される場合もあります。

7. 授業料について

授業料は無料。それぞれが所属大学に納付する授業料がこれに充てられます。

ただし、科目によっては、実習費等を徴収することがあります。

8. 出願資格

所属大学の条件。

9. 受講方法

他大学の講義を各大学の教室でライブ配信（生中継）で受講できます。

授業時間は、他大学が指定する時間に従って受講します。講義の内容により、ライブ配信以外の講義も組み合わせて実施することがあります。

10. その他

履修期間中は、各受入大学の定める範囲において、図書館等の施設を利用することができます。

岡山オルガノン

出願方法・履修手続

1. 申込受付期間および受付窓口（大学提供科目）

所属大学の担当窓口で、所定の期間内に出願書類を提出してください。

派遣大学名	担当窓口	申 込 受 付 期 間
岡山大学	各学部教務学生係	前期受付：2010年 4月 1日(木)～ 4月 7日(水) (※土日は除きます。) 後期受付：2010年 7月 1日(木)～ 7月 7日(水) (※土日は除きます。) 前期受付：2010年 4月 1日(木)～ 4月 7日(水) (※土日は除きます。) 後期受付：2010年 7月 1日(木)～ 7月 7日(水) (※土日は除きます。)
岡山県立大学	教学課教務班	
岡山学院大学	学務課教務係	
岡山商科大学	教務課	
岡山理科大学	教務課	
川崎医科大学	学務課教務係	
川崎医療福祉大学	事務部教務課	
環太平洋大学	教務課	
吉備国際大学	スチューデントサポートセンター 教務課	
倉敷芸術科学大学	教務課	
くらしき作陽大学	教育支援室	
山陽学園大学	教務課	
就実大学	教務課	
中国学園大学	教務課	
ノートルダム 清心女子大学	学務部教務係	

なお、所属大学で選考を行うことがあるので、担当窓口で指示を受けてください。

2. 出願書類

(1) 単位互換科目履修願（協定大学共通の書式による）

(2) 写真の提出枚数は、以下のとおりです。(カラー、4cm×3cm、裏面に大学名・氏名を記入のこと)

受入大学名	単位互換科目履修願用 (枚)	身分証明書用 (枚)	学生原簿用 (枚)	計
岡山大学	0	0	0	0
岡山県立大学	0	0	0	0
岡山学院大学	1	1	1	3
岡山商科大学	1	1	0	2
岡山理科大学	1	1	1	3
川崎医科大学	1	0	0	1
川崎医療福祉大学	1	1	0	2
環太平洋大学	1	1	0	2
吉備国際大学	1	1	1	3
倉敷芸術科学大学	1	1	1	3
くらしき作陽大学	1	1	1	3
山陽学園大学	1	0	0	1
就実大学	1	0	0	1

岡山オルガノン

受入大学名	単位互換科目履修願用 (枚)	身分証明書用 (枚)	学生原簿用 (枚)	計
中国学園大学	1	1	1	3
ノートルダム 清心女子大学	1	1	0	2

- (備考) 1. 単位互換科目履修願用写真は、出願時に単位互換科目履修願に貼付してください。
2. 身分証明書用写真及び学生原簿用写真は、所属大学へ直接提出してください。

3. 履修手続

- (1) 履修を許可された学生は、所属大学の担当窓口で履修手続き等の指示を受けてください。
(履修手続きが完了するまでは、仮履修期間として扱われます。)



(2) 受入大学の担当窓口

受入大学名	担当窓口	備考
岡山大学	学務部学務企画課	(1)の手続きについて、前期は4月1日から、後期は10月1日から学生証(単位互換履修生証明書)等を配付します。
岡山県立大学	教学課教務班	
岡山学院大学	学務課教務係	
岡山商科大学	教務課	
岡山理科大学	教務課	
川崎医科大学	学務課教務係	
川崎医療福祉大学	事務部教務課	
環太平洋大学	教務課	
吉備国際大学	スチューデントサポートセンター 教務課	
倉敷芸術科学大学	教務課	
くらしき作陽大学	教育支援室	
山陽学園大学	教務課	
就実大学	教務課	
中国学園大学	教務課	
ノートルダム 清心女子大学	学務部教務係	

岡山オルガノン

各大学の開講期間・試験期間・授業時間について

岡山大学	開講期間	前期	2010年 4月 9日 ~ 2010年 8月11日
		後期	2010年10月 1日 ~ 2011年 2月17日
	試験期間	前期	2010年7月16日, 2010年7月26日 ~ 2010年8月5日
		後期	2011年1月28日, 2011年2月2日 ~ 2011年2月15日
	授業時間	1限	8 : 40 ~ 10 : 10
		2限	10 : 25 ~ 11 : 55
		3限	12 : 45 ~ 14 : 15
		4限	14 : 30 ~ 16 : 00
		5限	16 : 15 ~ 17 : 45
		6限	18 : 00 ~ 19 : 30
7限		19 : 40 ~ 21 : 10	
医学部・歯学部 部の授業時間	1限	8 : 40 ~ 10 : 10	
	2限	10 : 20 ~ 11 : 50	
	3限	13 : 00 ~ 14 : 30	
	4限	14 : 40 ~ 16 : 10	
	5限	16 : 20 ~ 17 : 50	
岡山県立大学	開講期間	前期	2010年 4月 8日 ~ 2010年 7月30日
		後期	2010年10月 1日 ~ 2011年 2月16日
	試験期間	前期	2010年 7月16日 ~ 2010年 7月30日
		後期	2011年 2月 3日 ~ 2011年 2月16日
	授業時間	1限	8 : 40 ~ 10 : 10
		2限	10 : 20 ~ 11 : 50
		3限	12 : 40 ~ 14 : 10
4限		14 : 20 ~ 15 : 50	
5限		16 : 00 ~ 17 : 30	
6限		17 : 40 ~ 19 : 10	
岡山学院大学	開講期間	前期	2010年 4月 5日 ~ 2010年 7月24日
		後期	2010年 月 日 ~ 2011年 月 日
	試験期間	前期	2010年 7月26日 ~ 2010年 7月31日
		後期	2011年 月 日 ~ 2011年 月 日
	授業時間	1限	9 : 10 ~ 10 : 40
		2限	10 : 50 ~ 12 : 20
3限		13 : 00 ~ 14 : 30	
4限		14 : 40 ~ 16 : 10	
5限		16 : 20 ~ 17 : 50	
岡山商科大学	開講期間	前期	2010年 4月 7日 ~ 2010年 7月27日
		後期	2010年 9月16日 ~ 2011年 1月24日
	試験期間	前期	2010年 7月28日 ~ 2010年 8月 3日
		後期	2011年 1月25日 ~ 2011年 1月31日
	授業時間	1限	9 : 00 ~ 10 : 30
		2限	10 : 40 ~ 12 : 10
3限		13 : 00 ~ 14 : 30	
4限		14 : 40 ~ 16 : 10	
5限		16 : 20 ~ 17 : 50	
岡山理科大学	開講期間	前期	2010年 4月 7日 ~ 2010年 7月26日
		後期	2010年 9月15日 ~ 2011年 1月24日
	試験期間	前期	2010年 7月27日 ~ 2010年 8月 6日
		後期	2011年 1月25日 ~ 2011年 2月 7日
	授業時間	1限	9 : 10 ~ 10 : 40
		2限	10 : 55 ~ 12 : 25
3限		13 : 15 ~ 14 : 45	
4限		15 : 00 ~ 16 : 30	
5限		16 : 45 ~ 18 : 15	

岡山オルガノン

川崎医科大学	開講期間	1学期	2010年 4月 1日 ~ 2010年 7月 4日
		2学期	2010年 8月23日 ~ 2010年12月 3日
		3学期	2011年 1月 4日 ~ 2011年 2月11日
	試験期間	1学期	2010年 6月28日 ~ 2010年 7月 8日
		2学期	2010年11月24日 ~ 2010年12月 6日
		3学期	2011年 2月 5日 ~ 2011年 3月 1日
	授業時間	1限	9 : 0 0 ~ 1 0 : 3 0
2限		1 0 : 4 0 ~ 1 2 : 1 0	
3限		1 3 : 0 0 ~ 1 4 : 3 0	
4限		1 4 : 4 0 ~ 1 6 : 1 0	
川崎医療福祉大学	開講期間	前期	2010年 4月 8日 ~ 2010年 7月26日
		後期	2010年 9月27日 ~ 2011年 1月28日
	試験期間	前期	2010年 7月27日 ~ 2010年 8月 9日
		後期	2011年 2月 4日 ~ 2011年 2月18日
	授業時間	1限	8 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5
		2限	1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 5 5
		3限	1 2 : 4 5 ~ 1 4 : 1 5
4限		1 4 : 2 5 ~ 1 5 : 5 5	
5限		1 6 : 0 5 ~ 1 7 : 3 5	
環太平洋大学	開講期間	前期	2010年 4月 5日 ~ 2010年 7月24日
		後期	2010年 9月27日 ~ 2011年 2月 2日
	試験期間	前期	2010年 7月26日 ~ 2010年 7月31日
		後期	2011年 2月 3日 ~ 2011年 2月 9日
	授業時間	1限	8 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5
		2限	1 0 : 2 5 ~ 1 1 : 5 5
		3限	1 2 : 4 5 ~ 1 4 : 1 5
		4限	1 4 : 2 5 ~ 1 5 : 5 5
		5限	1 6 : 0 5 ~ 1 7 : 3 5
	水曜日の 授業時間	1限	8 : 4 5 ~ 1 0 : 1 5
2限		1 0 : 3 5 ~ 1 2 : 0 5	
3限		1 2 : 5 5 ~ 1 4 : 2 5	
4限		1 4 : 4 5 ~ 1 6 : 1 5	
5限		1 6 : 3 5 ~ 1 8 : 0 5	
吉備国際大学	開講期間	春学期	2010年 4月 1日 ~ 2010年 9月20日
		秋学期	2010年 9月21日 ~ 2011年 3月31日
	試験期間	春学期	授業時間内に随時行う
		秋学期	授業時間内に随時行う
	授業時間	1限	9 : 3 0 ~ 1 1 : 0 0
		2限	1 1 : 1 5 ~ 1 2 : 4 5
3限		1 3 : 2 5 ~ 1 4 : 5 5	
4限		1 5 : 1 0 ~ 1 6 : 4 0	
5限		1 6 : 5 0 ~ 1 8 : 2 0	
倉敷芸術科学大学	開講期間	前期	2010年 4月 5日 ~ 2010年 9月23日
		後期	2010年 9月24日 ~ 2011年 3月31日
	試験期間	前期	2010年 8月 2日 ~ 2010年 8月 6日
		後期	2011年 2月 7日 ~ 2011年 2月11日
	授業時間	1限	9 : 1 0 ~ 1 0 : 4 0
		2限	1 0 : 5 0 ~ 1 2 : 2 0
		3限	1 3 : 1 0 ~ 1 4 : 4 0
4限		1 4 : 5 5 ~ 1 6 : 2 5	
5限		1 6 : 4 0 ~ 1 8 : 1 0	

岡山オルガノン

くらしき作陽大学	開講期間	前期	2010年 4月 7日 ~ 2010年 7月28日
		後期	2010年 9月21日 ~ 2011年 1月26日
	試験期間	前期	2010年 7月29日 ~ 2010年 8月 1日
		後期	2011年 1月27日 ~ 2011年 1月31日
	授業時間	1限	9 : 30 ~ 11 : 00
		2限	11 : 10 ~ 12 : 40
3限		13 : 25 ~ 14 : 55	
4限		15 : 05 ~ 16 : 35	
5限		16 : 45 ~ 18 : 15	
山陽学園大学	開講期間	前期	2010年 4月 1日 ~ 2010年 9月20日
		後期	2010年 9月21日 ~ 2011年 3月31日
	試験期間	前期	2010年 7月23日 ~ 2010年 7月30日
		後期	2011年 1月27日 ~ 2011年 2月 4日
	授業時間	1限	9 : 00 ~ 10 : 30
		2限	10 : 45 ~ 12 : 15
3限		13 : 05 ~ 14 : 35	
4限		14 : 50 ~ 16 : 20	
5限		16 : 30 ~ 18 : 00	
就実大学	開講期間	前期	2010年 4月 9日 ~ 2010年 7月30日
		後期	2010年 9月27日 ~ 2011年 1月31日
	試験期間	前期	2010年 8月 2日 ~ 2010年 8月 6日
		後期	2011年 2月 3日 ~ 2011年 2月 9日
	授業時間	1限	9 : 10 ~ 10 : 40
		2限	10 : 50 ~ 12 : 20
3限		13 : 10 ~ 14 : 40	
4限		14 : 50 ~ 16 : 20	
5限		16 : 30 ~ 18 : 00	
中国学園大学	開講期間	前期	2010年 4月 9日 ~ 2010年 8月 3日
		後期	2010年 9月24日 ~ 2011年 1月31日
	試験期間	前期	2010年 8月 4日 ~ 2010年 8月10日
		後期	2011年 2月 2日 ~ 2011年 2月 8日
	授業時間	1限	9 : 20 ~ 10 : 50
		2限	11 : 00 ~ 12 : 30
3限		13 : 10 ~ 14 : 40	
4限		14 : 50 ~ 16 : 20	
5限		16 : 30 ~ 18 : 00	
ノートルダム 清心女子大学	開講期間	前期	2010年4月 8日 ~ 2010年8月 6日(補講日を含む)
		後期	2010年9月25日 ~ 2011年2月17日(補講日を含む)
	試験期間	前期	2010年 7月24日 ~ 2010年 8月 2日
		後期	2011年 2月 2日 ~ 2011年 2月10日
	授業時間	1限	9 : 00 ~ 10 : 30
		2限	10 : 45 ~ 12 : 15
3限		12 : 55 ~ 14 : 25	
4限		14 : 40 ~ 16 : 10	
5限		16 : 25 ~ 17 : 55	

開 講 科 目 一 覧

(大学提供科目)

岡山オルガノン

開講科目のシラバス

岡山オルガノン

岡山商科大学

(シラバス)

岡山オルガノン

岡山商科大学

04101

授業科目名 経営学特殊講義Ⅰ				担当教員氏名 大崎 紘一
2～4年次	2単位	前期	1コマ	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー制度により実施
【授業の目的】				
本講義は、(社)岡山経済同友会のご協力のもとに、日本の将来を担う学生に、「企業経営」をテーマにして、経営者の未来への想い、想いを実現させる経営活動について、経営者が講義をする形式である。学生は、本講義を受講することにより、経営理論、経営手法について習得することを目的とする。				
【授業内容】 ライブ講義・7号館 772教室				
平成22年度前期は、岡山県内において長年経営をしておられる企業の「永続の経営」をテーマとして、主として(社)岡山経済同友会の会員企業の経営者の方々に、連続2回講義をしていただきます。				
1	4月12日(月)		岡山商科大学 大崎紘一	
	4月19日(月)		開校式	
2、3	4月19日(月)・4月26日(月)		ナカシマホールディングス(株) 代表取締役社長 中島 基善 様	
4、5	5月10日(月)・5月17日(月)		(株)廣榮堂 代表取締役社長 武田 浩一 様	
6	5月24日(月)		岡山商科大学 大崎紘一	
7、8	5月31日(月)・6月 7日(月)		(株)フジワラテクノアート 代表取締役社長 藤原 恵子 様	
9、10	6月14日(月)・6月21日(月)		下津井電鉄(株) 代表取締役社長 永山 久人 様	
11、12	6月28日(月)・7月 5日(月)		小玉促成青果(株) 代表取締役社長 小玉 康仁 様	
13、14	7月12日(月)・7月26日(月)		尾崎商事(株) 代表取締役社長 尾崎 茂 様	
15	7月16日(金)		岡山商科大学 大崎紘一	
レポート提出日：第1回5月24日(月)、第2回6月28日(月)、第3回7月30日(金)				
【テキスト】 講義資料は、各講義の最初に配布します。				
【参考図書】 なし				
【成績評価の方法】				
講義資料に基づいて、講義内容を「指定したまとめ用紙」に2社ずつまとめ、レポートとして提出する。				

04102

授業科目名 経営学特殊講義Ⅱ				担当教員氏名 大崎 紘一
2～4 年次	2単位	後期	1コマ	(社)岡山経済同友会 ボランティアプロフェッサー制度により実施
【授業の目的】				
本講義は、(社)岡山経済同友会のご協力のもとに、日本の将来を担う学生に、「企業経営」をテーマにして、経営者の未来への想い、想いを実現させる経営活動について、経営者が講義をする形式である。学生は、本講義を受講することにより、経営理論、経営手法について習得することを目的としている。				
【授業内容】 ライブ講義・7号館 772教室				
平成22年度後期は、岡山県内において多店舗展開をしておられる企業の「多店舗展開企業の経営」をテーマとして、主として(社)岡山経済同友会の会員企業の経営者の方々に、連続2回講義をしていただきます。				
1、2	9月27日(月)・10月 4日(月)		(株)トマト銀行 代表取締役社長 中川 隆進 様	
3	10月 8日(金)		岡山商科大学 大崎紘一	
4、5	10月18日(月)・10月25日(月)		(株)エヌ・ティ・ティ・ドコモ 中国支社 岡山支店長 沖野 嘉明 様	
6、7	11月 8日(月)・11月15日(月)		(株)ザグザグ 代表取締役社長 藤井 孝洋 様	
8	11月22日(月)		岡山商科大学 大崎紘一	
9、10	11月29日(月)・12月 6日(月)		赤帽岡山県軽自動車運送協同組合 理事長 大西 英亘 様	
11、12	12月13日(月)・12月20日(月)			
13	1月13日(木)		岡山商科大学 大崎紘一	
14、15	1月17日(月)・1月24日(月)		はるやま商事(株) 代表取締役社長 治山 正史 様	
レポート提出日：第1回11月8日(月)、第2回12月13日(月)、第3回1月31日(月)				
【テキスト】 講義資料は、各講義の最初に配布します。				
【参考図書】 なし				
【成績評価の方法】				
講義資料に基づいて、講義内容を「指定したまとめ用紙」に2社ずつまとめ、レポートとして提出する。				

岡山オルガノン

川崎医科大学

(シラバス)

川崎医科大学 基礎環境医学(リベラルアーツ選択Ⅱ)

講義時間と他大学の授業時間の比較表(月曜日 1限:9:00~10:30)

大学名	授業時間	8:00	9:00	10:00	11:00
川崎医科大学	1限 9:00 10:30				
岡山大学	1限 8:40 10:10				
岡山大学(医学部・歯学部)	1限 8:40 10:10				
岡山県立大学	1限 8:40 10:10				
岡山学院大学	1限 9:10 10:40				
岡山商科大学	1限 9:00 10:30				
岡山理科大学	1・2限 9:10 10:40				
川崎医療福祉大学	1限 8:45 10:15				
環太平洋大学	1限 8:45 10:15				
吉備国際大学	1限 9:30 11:00				
倉敷芸術科学大学	1限 9:10 10:40				
くらしき作陽大学	1限 9:30 11:00				
山陽学園大学	1限 9:00 10:30				
就実大学	1限 9:10 10:40				
中国学園大学	1限 9:20 10:50				
ノートルダム清心女子大学	1限 9:00 10:30				

岡山オルガノン

川崎医科大学

06101

授業科目名 基礎環境医学(リベラルアーツ選択Ⅱ)				担当教員氏名 大槻剛巳, 勝山博信, 富田正文	
履修年次	単位数	開講期	コマ数	(留意事項がある場合は記入)	
2~4年	1	1学期	1	講義回数:10回	
【授業の目的】					
<p>現在, 環境という言葉は地球を救うという意味で, キーワードとなっている。このことについて, 健康障害などの面から考える。医学医療の現場に将来出て行く中で環境問題などをどのように捉え, それを医療現場に役立てるかについて考察し, 医学と環境の関わりについて, 多くの視点から学ぶ。</p>					
【授業内容】 ライブ講義・医大校舎棟8階M-801講義室 1限目(9:00-10:30)					
<p>1 2010/4/9(金) 環境と健康:序論 2 2010/4/16(金) 環境からの健康障害:アスベスト問題1 3 2010/4/23(金) 環境からの健康障害:アスベスト問題2 4 2010/5/7(金) 環境からの健康障害:アスベストのコアとなる珪酸 5 2010/5/14(金) 環境からの健康影響:シックハウス症候群 6 2010/5/21(金) 環境からの健康影響:電磁波過敏症など 7 2010/5/28(金) 環境中物質からの中毒の発症機序 8 2010/6/4(金) 健康増進住居環境へ1 9 2010/6/11(金) 健康増進住居環境へ2 10 2010/6/18(金) 医学と環境, そして医療の現場へ!</p>					
【テキスト】					
なし。					
【参考図書】					
特になし。 適宜, スライドなどを使用する。					
【成績評価の方法】					
レポートや出席状況などで評価。					

岡山オルガノン

倉敷芸術科学大学

(シラバス)

倉敷芸術科学大学 倉敷まちづくり基礎論・倉敷まちづくり実践論

講義時間と他大学の授業時間の比較表(土曜日 3限:13:10~14:40)

大学名	授業時間		12:00	13:00	14:00	15:00
倉敷芸術科学大学	3限	13:10 14:40				
岡山大学	3限	12:45 14:15				
岡山大学(医学部・歯学部)	3限	13:00 14:30				
岡山県立大学	3限	12:40 14:10				
岡山学院大学	3限	13:00 14:30				
岡山商科大学	3限	13:00 14:30				
岡山理科大学	5・6限	13:15 14:45				
川崎医科大学	3限	13:00 14:30				
川崎医療福祉大学	3限	12:45 14:15				
環太平洋大学	3限	12:45 14:15				
吉備国際大学	3限	13:25 14:55				
くらしき作陽大学	3限	13:25 14:55				
山陽学園大学	3限	13:05 14:35				
就実大学	3限	13:10 14:40				
中国学園大学	3限	13:10 14:40				
ノートルダム清心女子大学	3限	12:55 14:25				

倉敷芸術科学大学 倉敷まちづくり基礎論・倉敷まちづくり実践論

講義時間と他大学の授業時間の比較表(土曜日 4限:14:55~16:25)

大学名	授業時間		14:00	15:00	16:00	17:00
倉敷芸術科学大学	4限	14:55 16:25				
岡山大学	4限	14:30 16:00				
岡山大学(医学部・歯学部)	4限	14:40 16:10				
岡山県立大学	4限	14:20 15:50				
岡山学院大学	4限	14:40 16:10				
岡山商科大学	4限	14:40 16:10				
岡山理科大学	7・8限	15:00 16:30				
川崎医科大学	4限	14:40 16:10				
川崎医療福祉大学	4限	14:25 15:55				
環太平洋大学	4限	14:25 15:55				
吉備国際大学	4限	15:10 16:40				
くらしき作陽大学	4限	15:05 16:35				
山陽学園大学	4限	14:50 16:20				
就実大学	4限	14:50 16:20				
中国学園大学	4限	14:50 16:20				
ノートルダム清心女子大学	4限	14:40 16:10				

倉敷芸術科学大学 倉敷まちづくり基礎論・倉敷まちづくり実践論

講義時間と他大学の授業時間の比較表(土曜日 5限:16:40~18:10)

大学名	授業時間		16:00	17:00	18:00	19:00
倉敷芸術科学大学	5限	16:40 18:10				
岡山大学	5限	16:15 17:45				
岡山大学(医学部・歯学部)	5限	16:20 17:50				
岡山県立大学	5限	16:00 17:30				
岡山学院大学	5限	16:20 17:50				
岡山商科大学	5限	16:20 17:50				
岡山理科大学	9・10限	16:45 18:15				
川崎医科大学						
川崎医療福祉大学	5限	16:05 17:35				
環太平洋大学	5限	16:05 17:35				
吉備国際大学	5限	16:50 18:20				
くらしき作陽大学	5限	16:45 18:15				
山陽学園大学	5限	16:30 18:00				
就実大学	5限	16:30 18:00				
中国学園大学	5限	16:30 18:00				
ノートルダム清心女子大学	5限	16:25 17:55				

岡山オルガノン

倉敷芸術科学大学

10101

倉敷まちづくり基礎論				五十嵐 英之・村山 公保
1～4年次	2単位	後期	1コマ	「倉敷まちづくり実践論」とセットで履修することが望ましい。
【授業の目的】				
「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにして、大学生に求められるキャリア形成力や社会人基礎力を高めることを目的としている。共同学習、共同討議、プレゼンテーションなどの実施により、主体的に学ぶことのできる楽しく有益な授業をめざす。有意義な大学生活を送るための推奨科目でもある。【注意事項】全員対面授業の場合、受講生全員が倉敷駅前にある「まちなかきゃんぱす」(倉敷市阿知2丁目6-1)で受講しなければならない。また、やむを得ない事情で、日程・担当講師・実施場所などの授業計画を変更する場合がある。				
【授業内容】 ライブ講義・まちなかきゃんぱす、2階会議室				
1 オリエンテーション【10月2日 3限(13:10-14:40)】 全員対面授業				
2 まちづくりのめざすもの【10月2日 4限(14:55-16:25)】 全員対面授業				
3 倉敷のまちづくりと大学【10月23日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(10/2)提出				
4 倉敷のイベントと祭りー「倉敷あさいち三斎市」ー【10月23日 4限(14:55-16:25)】				
5 中心市街地活性化事業と伝統的建造物群保存地区【10月30日 3限(13:10-14:40)】※レポート(10/23)提出				
6 倉敷のブランディングとデザイン【10月30日 4限(14:55-16:25)】				
7 中間まとめとプレゼンテーションその1【11月13日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(10/30)提出				
8 中間まとめとプレゼンテーションその2【11月13日 4限(14:55-16:25)】				
9 まちづくりをどう展開するか【11月13日 5限(16:40-18:10)】 集団討論				
10 まちづくりの成功事例-全国各地の事例分析より-【11月27日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(11/13)提出				
11 まちづくりの国際的動向【11月27日 4限(14:55-16:25)】				
12 倉敷まちづくりフォーラム【11月27日 5限(16:40-18:10)】 意見交換会				
13 倉敷のまちづくり(プレゼンテーション1)【12月11日 3限(13:10-14:40)】全員対面授業 ※レポート(11/27)提出				
14 倉敷のまちづくり(プレゼンテーション2)【12月11日 4限(14:55-16:25)】全員対面授業				
15 まちづくりの情報発信(プレゼンテーション3)【12月11日 5限(16:40-18:10)】全員対面授業				
【テキスト】 特に使用しない。				
【参考図書】 適宜指示する。				
【成績評価の方法】 レポート(60%)と、プレゼンテーション・共同討議など授業に取り組む姿勢および参加状況(40%)に総合的に評価する。				

10102

倉敷まちづくり実践論				カスパー・シュワーベ・小山 悦司
1～4年次	2単位	後期	1コマ	「倉敷まちづくり基礎論」とセットで履修することが望ましい。
【授業の目的】				
「学生の元気がまちを元気にする」をコンセプトにして、大学生に求められるキャリア形成力や社会人基礎力を高めることを目的としている。地域でのグループ活動やまちづくり活動の実践を通じて、体験的に学ぶことのできる楽しく有益な授業をめざす。有意義な大学生活を送るための推奨科目でもある。【注意事項】全員対面授業の場合、受講生全員が倉敷駅前にある「まちなかきゃんぱす」(倉敷市阿知2丁目6-1)で受講しなければならない。また、やむを得ない事情で、日程・担当講師・実施場所などの授業計画を変更する場合がある。				
【授業内容】 ライブ講義・まちなかきゃんぱす、2階会議室				
1 オリエンテーション【10月16日 3限(13:10-14:40)】 全員対面授業				
2 専攻分野の異なるグループの編成【10月16日 4限(14:55-16:25)】 全員対面授業				
3 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【10月16日 5限(16:40-18:10)】 全員対面授業				
4 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【11月20日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(10/16)提出				
5 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【11月20日 4限(14:55-16:25)】				
6 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【11月20日 5限(16:40-18:10)】				
7 中間まとめとプレゼンテーションその1【12月4日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(11/20)提出				
8 中間まとめとプレゼンテーションその2【12月4日 4限(14:55-16:25)】				
9 まちづくりの実践をどう展開するか【12月4日 5限(16:40-18:10)】 集団討論				
10 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【12月18日 3限(13:10-14:40)】 ※レポート(12/4)提出				
11 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【12月18日 4限(14:55-16:25)】				
12 グループ活動ー学生によるまちづくりの実践ー【12月18日 5限(16:40-18:10)】				
13 まちづくりの実践報告(プレゼンテーション1)【1月15日 3限(13:10-14:40)】全員対面授業 ※レポート(12/18)提出				
14 まちづくりの実践報告(プレゼンテーション2)【1月15日 4限(14:55-16:25)】全員対面授業				
15 まちづくりの情報発信(プレゼンテーション3)【1月15日 5限(16:40-18:10)】全員対面授業				
【テキスト】 特に使用しない。				
【参考図書】 適宜指示する。				
【成績評価の方法】 レポート(60%)と、プレゼンテーション・集団討論など授業に取り組む姿勢および参加状況(40%)に総合的に評価する。				

各大学の施設の利用について

各大学の施設の利用について

受入大学	利 用 案 内
岡山大学	1. 岡山大学在学の学生と同じ扱いとします。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①キャンパスマップ (学務部学務企画課) ②学生証 (単位互換履修生証) (学務部学務企画課) (配付開始日：前期4月1日～ 後期10月1日～)
岡山県立大学	1. 岡山県立大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①履修案内 (教学課教務班) ②シラバス (該当科目) (教学課教務班) ③授業時間割表 (教学課教務班) ④学生便覧 (教学課学生班)
岡山学院大学	1. 岡山学院大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①シラバス (該当科目) (学務課)
岡山商科大学	1. 岡山商科大学在学の学生と同じ扱いとします。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①時間割 (教務課) ②講義案内システムPW (教務課) ③学生証 (単位互換履修生証) (学生課) ④図書館利用案内 (図書課)
岡山理科大学	1. 岡山理科大学在学の学生と同じ扱いとします。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①時間割 (教務課) ②シラバス (教務課) ③身分証明証 (学生課) ④図書館利用案内 (図書館)
川崎医科大学	1. 川崎医科大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①学習の手引 (学務課教務係) ②シラバス (学務課教務係) ③大学案内 (学務課庶務係) ④教育と研究 (学生課) ⑤学生証 (単位互換履修生証) (学生課)

受入大学	利 用 案 内
川崎医療福祉大学	<p>1. 川崎医療福祉大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧 (教務課) ②シラバス (該当科目) (教務課) ③名札・学生証 (学生課) ④図書館利用案内 (図書館)
環太平洋大学	<p>1. 環太平洋大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧 (教務課) ②授業時間割表 (教務課) ③シラバス (教務課) ④UNIVERSAL PASSPORTのID&PW (教務課) ⑤学生証 (単位互換履修生) (学生課)
吉備国際大学	<p>1. 吉備国際大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧 (教務課) ②キャンパスガイド (入試広報室) ③授業時間割 (教務課) ④シラバス (該当科目) (教務課) ⑤図書館案内 (図書館) ⑥身分証明書 (学生課)
倉敷芸術科学大学	<p>1. 倉敷芸術科学大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧 (教務課) ②シラバス (教務課) ③授業時間割表 (教務課) ④学生証 (単位互換履修生証) (教務課)
くらしき作陽大学	<p>1. くらしき作陽大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①学生便覧 (教育支援室) ②シラバス (教育支援室) ③授業時間割表 (教育支援室) ④図書館案内 (教育支援室) ⑤学生証 (単位互換履修生証) (教育支援室)
山陽学園大学	<p>1. 山陽学園大学在学の学生と同じ扱いとする。</p> <p>2. 以下の印刷物を配付します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①履修ガイド (教務部) ②学生生活ガイド (教務部) ③授業時間割表 (教務部) ④シラバス (該当科目) (教務部) ⑤単位互換履修生証 (教務部) ※図書館貸出証併用です。 ⑥駐車許可証 (教務部) ※車でのみ発行します。 また駐車料金は無料です。

受入大学	利 用 案 内
就実大学	1. 就実大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①履修要覧 (教務課) ②シラバス (教務課) ③時間割表 (教務課) ④単位互換履修生証 (教務課) ⑤キャンパスガイド (教務課)
中国学園大学	1. 中国学園大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①学生便覧 (教務課) ②授業時間割表 (教務課) ③シラバス (該当科目) (教務課) ④学生証 (単位互換履修生証) (学生課) ⑤図書館案内 (図書館)
ノートルダム 清心女子大学	1. ノートルダム清心女子大学在学の学生と同じ扱いとする。 2. 以下の印刷物を配付します。 ①大 学 案 内 (学務部教務係) ②学 生 便 覧 (学務部教務係) ③単位互換履修生・履修の手引き (学務部教務係) ④キャンパスガイド (学務部学生係) ⑤学 生 証 (学務部学生係) ⑥図書館利用のしおり (図書館) ⑦ライブラリーカード (図書館)

単位互換科目履修願

*各大学の「履修願」をコピーして、使用してください。

岡山オルガノン 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

岡山商科大学長 殿

提出日	年	月	日	写真貼付
ふりがな 氏名				

*学生は太枠内のみ記入

この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学					
学部・学科・学年	学部		学科		年
学生番号	性別 男・女	生年月日	西暦 年 月 日		
			昭和・平成 年 月 日		
現住所	〒 _____ Tel (_____) _____				

(右の履修希望欄に○印を記入してください。)

No	授業科目	担当教員	単位	開講期	配当学年	備考	評価	履修希望	曜日・時限
04101	経営学特殊講義Ⅰ	大崎 紘一	2	前期	2~4年				月4
04102	経営学特殊講義Ⅱ	大崎 紘一	2	後期	2~4年				月4
履修希望単位数計									

※ この履修願に記載された個人情報については、履修及び学籍関係業務のみに利用させていただきます。

岡山オルガノン 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

川崎医科大学長 殿

提出日	年	月	日	写真貼付
ふりがな 氏 名				

*学生は太枠内のみ記入

この度、貴学において単位互換履修生として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学					
学部・学科・学年	学部		学科		年
学生番号	性別 男・女	生年月日	西暦 年 月 日		
			昭和・平成 年 月 日		
現住所	〒 _____ Tel (_____) _____				

(右の履修希望欄に○印を記入してください。)

No	授 業 科 目	担当教員	単位	開講期	配当学年	備 考	評価	履修希望	曜日・時限
06101	基礎環境医学 (リベラルアーツ選択Ⅱ)	大槻 剛巳 勝山 博信 富田 正文	1	1 学期	2～4 学年	講義回数：10回			金曜日 1 時限
履 修 希 望 単 位 数 計									

※ この履修願に記載された個人情報については、履修及び学籍関係業務のみに利用させていただきます。

岡山オルガノン

岡山オルガノン 単位互換履修科目履修願

所属大学の 受付番号	
受入大学の 受付番号	

倉敷芸術科学大学長 殿

提出日	年	月	日	写真貼付
ふりがな 氏名				

*学生は太枠内のみ記入

この度、貴学において特別聴講学生（単位互換履修生）として下記の科目を履修したいので、許可をお願いいたします。

所属大学					
学部・学科・学年	学部		学科		年
学生番号	性別 男・女	生年月日	西暦 年 月 日		
			昭和・平成 年 月 日		
現住所	〒 _____ Tel (_____) _____				

(右の履修希望欄に○印を記入してください。)

No	授業科目	担当教員	単位	開講期	配当学年	備考	評価	履修希望	曜日・時限
10101	倉敷まちづくり基礎論	五十嵐 英之 村山 公保	2	後期 (集中)	1~4年	対面授業あり			土3~5
10102	倉敷まちづくり実践論	カスパー・シューベ 小山 悦司	2	後期 (集中)	1~4年	対面授業あり			土3~5
履修希望単位数計									

※ この履修願に記載された個人情報については、履修及び学籍関係業務のみに利用させていただきます。

平成22年度
大学改革推進等補助金
(大学改革推進事業)
調書

【資料】平成22年度大学改革推進等補助金(大学改革推進事業)調書

平成 22 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）調書

本調書は、平成 22 年度大学改革推進等補助金（大学改革推進事業）の交付（内定）を行うにあたり参考とするために提出していただくものであり、プログラムの申請書等における記載事項との整合性にも留意して記入して下さい。

<様式>

1. 大学等名／設置者名	岡山理科大学 / 学校法人加計学園
2. プログラム名	大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラム
3. 取組名称	「岡山オルガノン」の構築 —学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—
4. 選定年度	平成 21 年度
5. 取組代表者／ 取組担当者	（所属部局・職名・氏名） 取組代表者 学 長 波田 善夫 取組担当者 学外連携推進室 副室長 木村 宏
6. 事務担当者 主担当、副担当を必ず 2名記載して下さい。	主担当 （所属部局・職名・氏名） 学外連携推進室 次長 金子 典正 T E L 0 8 6 - 2 5 2 - 3 1 6 1（代表） 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 1（直通） F A X 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 2 E-mail organon@pub.ous.ac.jp 副担当 学外連携推進室 課長 御倉 賀恵 T E L 0 8 6 - 2 5 2 - 3 1 6 1（代表） 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 1（直通） F A X 0 8 6 - 2 5 6 - 9 7 3 2 E-mail organon@pub.ous.ac.jp
7. 選定取組の概要	<p>平成 21 年度大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムで選定された『岡山オルガノン』の構築—学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育—は、過去 3 年間の大学コンソーシアム岡山での連携を強化し、岡山県下の各大学が個別に実施している優れた取組を互いに連携することで各取組を発展・充実させ、地域活性化の担い手となる人材育成に資する総合的教育充実事業である。</p> <p>本事業の目標は、学士力、社会人基礎力、地域発信力の向上であり、これらを融合させることで地域創生型の人材を育成する。具体的には、e-Learning 方式による教育共有の実現、FD・SD 活動の共同実施、学生個々のコンピテンシー向上を目指すキャリア形成教育の共同実施と教育指導者の育成、地域創生・環境教育に関わる教養教育の創出、地域経済界との連携による人材育成教育などである。全大学が特色を生かしつつ、積極的に本事業に取り組み、新たな地域貢献を実現させる。</p>
8. 補助事業の目的・必要性 (1) 全体	<p>本補助事業の全体の目的は、連携校間における（A）教養教育の充実・共同 FD・SD 活動による「学士力」育成、（B）実践的キャリア指導・社会活動参画による「社会人基礎力」育成、（C）地域連携による人材育成・地域貢献活動による「地域発信力」育成、という核となる 3 つの力の育成であり、これらの取組が地域一体となった実践の実現により、「岡山オルガノン」が構築され、岡山県から発信される地域創生型の人材育成へとつなげることである。特に本事業では、ネットワーク網で結ばれたテレビ会議システムの活用により、遠隔授業などの教育支援だけでなく、教職員や学生の交流を深化させていくための重要なコミュニケーション支援としての役割も果たし、これにより大学間連携の充実化を図りたい。</p>

(2) 本年度

本補助事業の本年度の目的は、上記3つの力の育成を図るため、昨年度検討・整備を進めた事業計画に基づき取組を進め、その成果と課題を検証する。具体的な取組として、テレビ会議システムや VOD を活用した単位互換科目の授業配信、共同 FD 活動の検討・実施やシンポジウム開催、委託事業として SD 活動の実施、実践的キャリア指導プロフェッショナルチームによる連携校でのキャリア教育、地域活性化シンポジウムやエコナイトのイベント開催である。また開講方法の検討や単位互換科目の追加、多地点接続装置の導入を行い、今後の事業展開の充実化を目指す。

9. 本年度の補助事業実施計画

本年度の補助事業の目的を達成するため、

■共通計画

- ① 4月～ 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 5月&11月「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③ 10月 中間報告書の作成
- ④ 11月 大学連携シンポジウムの開催
- ⑤ 1月 平成22年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥ 3月 「連携評価委員会」の開催、評価報告書の作成

■インフラ整備計画

- ⑦ 5月～ 多地点接続装置の設置調整、9月より運用開始
- ⑧ 7月～ 追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬に ICT 活用教材作成講習会の実施

■学士力育成のための計画

- ⑨ 4月～ 単位互換制度を活用した配信科目の内容の検討・協議・決定
- ⑩ 4月～ 共同 FD 活動の取組内容の検討・協議・決定、1月に共同 FD・SD シンポジウムの開催
- ⑪ 8月 共同 SD 活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑫ 9月 FD 研修事業「i*See 2010」の共催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 4月～ 実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育の検討・協議・試行実施
- ⑭ 4月～ 「社会人基礎力養成」に関する共同 SD ワークショップの開催
- ⑮ 9月&12月大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

■地域発信力育成のための計画

- ⑯ 4月～ ライブ型方式による遠隔授業の配信
- ⑰ 7月 エコナイトの開催
- ⑱ 10月 地域活性化シンポジウムの開催

10. 補助事業の内容(上記9. の実施計画と対応)

本補助事業は、選定された大学教育充実のための戦略的大学連携支援プログラムにおける『岡山オルガノン』の構築— 学士力・社会人基礎力・地域発信力の融合を目指した教育— について、3つの力の育成に大学が連携して取り組むことで、地域創生型人材の育成だけでなく、高大連携や産学官民連携により地方大学の活性化と再生にもつなげられ、県内全体の総合的な高等教育の一層の充実・発展を目指す補助事業であり、内容は以下の通りである。

■共通計画

- ① 大学教育連携センター(岡山理科大学)および各オフィス(岡山大学、岡山商科大学、中国学園大学)に継続して人員配置を行い、それぞれの力の育成のために運営委員会の開催や連携校間での連絡調整、全体の現状把握をしながら、大学連携の推進を図る。
- ② 連携校の取組担当者およびコーディネーターで組織される「岡山オルガノン代表者委員会」を開催する。取組全体の進捗状況の検証を行い、必要に応じて審議事項の決定を行う。
- ③ 本取組のこれまでの事業内容を整理し今後の取組に反映させるため、大学教育連携センターおよび各オフィスが中心となって中間報告書を作成する。
- ④ 学生や大学教職員、地域一般が共同で参画できる事業実施を目指して大学連携シンポジウムを開催し、本取組を広く認知してもらう。
- ⑤ 文部科学省主催の平成22年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ積極的に参加し、本取組に関する情報提供及び他大学の取組から情報収集に努め、今後の戦略的大学連携支援に活用する。
- ⑥ 有識者(産学官の外部委員)や連携校代表者(学長等)で組織される「連携評価委員会」を開催する。また外部評価組織として本取組の内容や成果に関する評価報告書を作成し、必要に応じて改善要求や助言指導等を実施する。

■インフラ整備計画

- ⑦ 昨年度導入したテレビ会議システム(PCS-XG80)を活用して連携校に同時に接続させるための装置である多地点接続装置(PCS-VCS20)を導入し、後期の単位互換科目をライブ型遠隔授業で配信する。

⑧ e-Learning コンテンツとして VOD 授業科目をさらに拡充させるために、新しいコンテンツを作成・編集し、学習管理システムを活用して単位互換科目を提供できるよう体制を整える。また、教職員に対して e-Learning 活用法や VOD 教材作成法の講習会を開き、その手法や取組における必要性について学習する講習会を設ける。

■学士力育成のための計画（岡山大学）

⑨ 連携校の教職員で組織される「学士課程教育連携委員会」を開催し、次年度以降単位互換科目としてライブ方式や VOD で配信提供する科目について検討・協議を行い、決定する。単位互換科目については各大学の特色を出しながら教養教育科目を 1～2 科目提供してもらい、本年度はそのうち全体で 6 科目程度の作成を行い、次年度の公開に備える。

⑩ 連携校の教職員で組織される「共同 FD・SD 委員会」を開催し、学生参画型教育改善、教員同士が相互に公開授業参観・授業評価の導入等の共同 FD 活動、次年度以降の独自の共同 SD 研修会の企画・立案にあたる。また本取組における共同 FD・SD の活動内容についてのシンポジウムを開催し、連携校全体の教育手法の改善に役立てる。

⑪ 共同 SD 活動に関する業務委託をした「吉備創生カレッジ」（山陽新聞社、大学コンソーシアム岡山共催開講）の特別科目（SD に特化した科目）として「大学職員のための実践メンタルヘルズ講座」を開講する。

⑫ FD 研修事業として岡山大学主催の FD 活動である教育改善学生交流「i*See 2010」を共催する。

■社会人基礎力育成のための計画（中国学園大学）

⑬ 連携校の教職員で組織される「社会人基礎力養成連携委員会」を開催し、来年度以降の実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア教育実施に向けた指導内容や講師登録などについて検討・協議を行い、決定する。本年度中には実践的キャリア指導チームによる学生を対象にした「社会人基礎力養成講座」も数回実施する。

⑭ 連携校の職員を対象にした SD 研修会として、「社会人基礎力養成」をテーマにしたワークショップを開催する。

⑮ 実践的体験型プログラムに関する業務委託を大学コンソーシアム岡山にし、「社会人基礎力速習講演会」や「実践マナー & ビジネスマインド講座」を開催する。

■地域発信力育成のための計画（岡山商科大学）

⑯ テレビ会議システムを用いて、「経営学特殊講義Ⅰ・Ⅱ（前期・後期）」（岡山商科大学）、「基礎環境医学（前期）」（川崎医科大学）、「倉敷まちづくり基礎論・実践論（後期）」（倉敷芸術科学大学）の各科目を単位互換科目のライブ型遠隔授業として配信する。連携校の教職員で組織される「双方向コンテンツ委員会」を開催し、本年度のライブ型遠隔授業の方法や学生の反応を確認しながら、次年度の科目配信に向けた検討を行う。

⑰ 産学官連携のエコ啓発のための環境教育実践活動である「エコナイト」を実施する。

⑱ 地域住民との交流活動の推進を図る「地域活性化シンポジウム」を開催する。連携校の教職員で組織される「地域活性化委員会」を開催し、次年度の開催に向けた検討も実施後行う。

本年度は上記の諸事業を通じて、選定取組を更に充実・発展させ、本取組の目的である大学教育の基礎・原動力となる「岡山オルガノン」の構築を図ることが本補助事業の内容である。

11. 補助事業から得られる具体的な成果（上記10.の補助事業の内容と対応）

上記の本年度の補助事業実施計画を実施することにより、本補助事業から得られる具体的な成果は、以下の通りである。

■共通計画

① 大学教育連携センターおよび各オフィスは本事業を進める上で中核的役割を果たし実施状況の把握や情報整理などにも努める。これらの組織を有機的に活用することにより、円滑な事業展開・拡充へとつながり、更には岡山県内全体の教育力向上につなげられる。

② 「岡山オルガノン代表者委員会」は定期的な進捗状況の検証、全体の方針策定を行い、事業取組評価と地域貢献評価の 2 点を確実に実施するために重要な機関である。これにより本取組の事業推進の円滑な実施を図ることができる。

③ 中間報告書の作成により、岡山オルガノンの取組を広く広報するとともに、またこれまでの取り組みを連携校や地域で共有することにより、今後のさらなる発展的な取組へとつなげることができる。

④ 本取組の趣旨及び事業概要を広く一般（学生、地域住民、大学教職員も含む）に説明する場として活用され、連携校だけでなく地域一体となった取組の必要性について提案し、地域や学生に対して協力要請を行うことができる。

⑤ 本取組について全国の関係機関の先進的事例について知る機会となり、本取組の改善や課題解決に活用することができる。

⑥ 「連携評価委員会」は本取組の成果が当初の目標に適ったものであるか等を客観的・継続的に評価し、必要に応じて大学教職員やコーディネーター、学生からヒアリング調査も行いながら確認作業を進めて、本取組の事業内容についての改善要求や助言指導を行い、継続的評価を図ることができる。

■インフラ整備計画

⑦ 多地点接続装置を導入することにより、連携校全大学が同時にライブ型遠隔授業を実施することが可能となり、遠方にいる学生でも他大学の授業を所属大学で受講でき、教育環境の向上につながる。

⑧ 地域を題材とした VOD 教材の追加コンテンツを作成することで、学生の地域に対する複合的学際色を高めることができる。また、ICT 活用教材作成講習会を継続して実施することにより、ICT 技術を用いた教育の拡充を図り、多様な形態による教育の提供が行える。

■学士力育成のための計画（岡山大学）

- ⑨ e-Learning を活用した単位互換科目の提供科目数をさらに充実させることにより、一大学では開講できない多彩な科目提供が可能となり、教養教育科目の非常勤講師の不足に対応することができる。
- ⑩ 連携校間で共同 FD 活動を実施することにより、連携校全体の教育手法の改善に役立ち、教員の指導力向上は学生の教育力向上へとつながる。またシンポジウム開催により共同 FD・SD 活動に対する意識を高め、継続した円滑な実施を図ることができる。
- ⑪ 「吉備創生カレッジ」に SD 研修会に関して業務委託を行うことで円滑な実施を図ることができ、連携校の学生サービス向上と教職員同士が交流する機会を増やすことができる。
- ⑫ 岡山大学の先進的な FD 活動を基盤として、県内の教職員が更に学生共同参画型の FD 活動についての見識を深め、本取組が実施する共同 FD 活動への積極的参加へとつながる。学生が本取組に参画することで自ら受ける教育への意識や意欲の向上が図られる。

■社会人基礎力育成のための計画（中国学園大学）

- ⑬ 地域のキャリア指導のプロフェッショナルチームにより、キャリア形成教育担当教員の確保につながり、各連携校が抱えているキャリア指導上の課題に対して解決の一助となる。また様々なキャリア指導を可能とするチームの活用により、各大学や学生の要望に応じたキャリア指導へとつなげられる。
- ⑭ 就職活動を支援してきたこれまでの考え方とは異なり、生涯を見通したキャリア形成について連携校職員の理解を図り、実際のワークショップを体験することにより、連携校全体の社会人基礎力の養成力向上につながる。
- ⑮ 実践マナー、ビジネスマインドに関する講座や社会人基礎力に関する講演を行うことにより、大学卒業後の社会で活かせる自己実現能力を醸成することができる。

■地域発信力育成のための計画（岡山商科大学）

- ⑯ 地域を題材にした科目を提供することにより、地域企業の経営者や地域住民から直接の講義を通じて交流することで、地場産業への学生の理解の深化と産学連携の強化がなされ、地域が求める人材育成に大きく貢献できる。
- ⑰ エコナイトは環境教育の実践的活動であり、連携校の学生が一丸となって環境啓発への意識を高めることができる。
- ⑱ 地域活性化シンポジウムは地域住民との交流を行うための企画であり、県内に在学する学生間の交流活動のきっかけとなり、それを推進することができる。

12. 補助対象経費の明細

補助事業経費の総額		補助金の金額（申請予定額）	自己収入その他の金額
①=②+③	(千円)	②	③ (千円)
	71,000	71,000	0
補助金額			
経費区分	金額（千円）	積算内訳	
補助対象経費	【全体】	71,000	
	<設備備品費>	26,530	
	<旅費>	3,071	
	<人件費>	22,599	
	<事業推進費>	18,800	
	【うち岡山理科大学】	28,313	
	<設備備品費>	11,000	多地点接続装置一式 11,000千円 【⑦⑩関係】
			多地点接続装置1台（PCS-VCS20） 6,510千円
			設置調整経費 3,360千円
			保守管理料 1,130千円
	<旅費>	620	国内旅費 620千円
			大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費（4人） 240千円 【⑤関係】
			実地調査・視察・外部イベント旅費（1人×7回） 280千円 【①関係】
			外部講師旅費（2人×1回） 100千円 【④関係】
	<人件費>	7,504	謝金 146千円
		外部講師謝金（2人×1回） 46千円 【④関係】	
		外部委員出席謝金（5名×1回） 100千円 【⑥関係】	
		雇用等経費 7,358千円	
		コーディネーター（337千円×12ヶ月×1人） 4,044千円 【①関係】	
		e-Learning 専門スタッフ（280千円×11ヶ月×1人） 3,080千円 【⑧⑨⑩関係】	
		連携事業推進補助（10回×30時間） 234千円 【④⑧⑩関係】	
		（4月～3月：780円/1h）	
<事業推進費>	9,189	消耗品費 350千円	
		文房具等一式 150千円 【①関係】	
		連携事業推進等消耗品費 200千円 【②④⑥関係】	
		借料・損料 600千円	
		センター用コピー機借料 600千円 【①関係】	
		印刷製本費 394千円	
		中間報告書（500円×500部） 250千円 【③関係】	
		シンポジウム用ちらし・ポスター（20円×2000枚） 40千円 【④関係】	
		シンポジウム用資料（130円×800部） 104千円 【④関係】	
		通信運搬費 171千円	
		資料等郵送料 150千円 【①②③④⑥関係】	
		電話料（12ヶ月） 21千円 【①関係】	
		雑役務費 5,280千円	
		事務補佐派遣料（240千円×12ヶ月×1人） 2,880千円 【①関係】	
		事務補佐派遣料（240千円×10ヶ月×1人） 2,400千円 【①関係】	
		委託費 2,394千円	
		サーバー保守管理料 2,016千円 【⑦⑧⑩関係】	

		共同 SD 活動に関する業務委託費	145 千円	【⑪関係】
		実践の体験型プログラムに関する業務委託費	233 千円	【⑭関係】
【うち岡山大学】	8, 695			
<旅費>	585	国内旅費	585 千円	
		外部講師旅費 (3 人)	165 千円	【⑫関係】
		実地調査・視察旅費 (3 回×2 人)	180 千円	【①関係】
		大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費 (4 人)	240 千円	【⑤関係】
<人件費>	6, 875	謝金	299 千円	
		連携事業推進補助 (4 回×30 時間)	99 千円	【⑧⑯関係】
		(4 月～3 月: 830 円/1h)		
		外部講師謝金 (3 人)	200 千円	【⑩⑫関係】
		雇用等経費	6,576 千円	
		コーディネーター (323 千円×12 ヶ月×1 人)	3,876 千円	【①関係】
		事務補佐員 (225 千円×12 ヶ月×1 人)	2,700 千円	【①関係】
<事業推進費>	1, 235	消耗品費	630 千円	
		文房具等一式	300 千円	【①関係】
		連携事業推進等消耗品費	330 千円	【⑩⑪⑫関係】
		印刷製本費	605 千円	
		FD 研修事業用ちらし・資料 (200 円×1000 部)	200 千円	【⑫関係】
		シンポジウム用資料 (700 円×150 部)	105 千円	【⑩関係】
		単位互換ちらし・ポスター (30 円×10000 枚)	300 千円	【⑨関係】
【うち岡山県立大学】	895			
<設備備品費>	735	設備備品費	735 千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	735 千円	【⑨⑯関係】
<人件費>	160	雇用等経費	160 千円	
		連携事業推進補助 (7 回×30 時間)	160 千円	【⑧⑯関係】
		(4 月～3 月: 765 円/1h)		
【うち岡山学院大学】	1, 428			
<設備備品費>	1, 260	設備備品費	1,260 千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	1,260 千円	【⑨⑯関係】
<人件費>	168	雇用等経費	168 千円	
		連携事業推進補助 (7 回×30 時間)	168 千円	【⑧⑯関係】
		(4 月～3 月: 800 円/1h)		
【うち岡山商科大学】	9, 691			
<設備備品費>	1, 475	設備備品費	1,475 千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	735 千円	【⑨⑯関係】
		e-Learning 用撮影カメラ一式	740 千円	【⑧⑨⑯関係】
<旅費>	460	国内旅費	460 千円	
		先進取組大学視察旅費 (4 回×2 人)	140 千円	【①関係】
		大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費 (4 人)	240 千円	【⑤関係】
		外部講師旅費 (1 回×1 人)	80 千円	【⑯関係】
<人件費>	290	謝金	50 千円	
		外部講師謝金 (1 回×1 人)	50 千円	【⑯関係】

		雇用等経費	240千円	
		連携事業推進補助（10回×30時間） （4月～3月：800円/1h）	240千円	【⑧⑬関係】
<事業推進費>	7, 4 6 6	消耗品費	450千円	
		文房具等一式	150千円	【①関係】
		連携事業推進等消耗品費	300千円	【⑬⑰⑱関係】
		借料・損料	816千円	
		サテライトオフィス用パソコン借料	216千円	【①関係】
		サテライトオフィス用コピー機借料	600千円	【①関係】
		印刷製本費	600千円	
		連携事業用ちらし・資料（2回）	600千円	【⑰⑱関係】
		通信運搬費	200千円	
		資料等郵送料	200千円	【①⑰⑱関係】
		雑役務費	5,400千円	
		コーディネーター派遣料（225千円×12ヶ月×1人）	2,700千円	【①関係】
		事務補佐員派遣料（225千円×12ヶ月×1人）	2,700千円	【①関係】
【うち川崎医科大学】 <設備備品費>	9 3 1 8 2 1	設備備品費	821千円	
		e-Learning用撮影カメラ一式	821千円	【⑧⑨⑬関係】
<旅費>	5 0	国内旅費	50千円	
		大学教育改革GP合同フォーラム参加旅費（1人）	50千円	【⑤関係】
<事業推進費>	6 0	消耗品費	60千円	
		連携事業推進等消耗品費	60千円	【⑬関係】
【うち川崎医療福祉大学】 <設備備品費>	1, 3 2 6 1, 3 2 6	設備備品費	1,326千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	735千円	【⑨⑬関係】
		e-Learning用撮影カメラ一式	591千円	【⑧⑨⑬関係】
【うち環太平洋大学】 <設備備品費>	9 0 3 7 3 5	設備備品費	735千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	735千円	【⑨⑬関係】
<人件費>	1 6 8	雇用等経費	168千円	
		連携事業推進補助（7回×30時間） （4月～3月：800円/1h）	168千円	【⑧⑬関係】
【うち吉備国際大学】 <人件費>	1 5 3 1 5 3	雇用等経費	153千円	
		連携事業推進補助（7回×30時間） （4月～3月：730円/1h）	153千円	【⑧⑬関係】
【うち倉敷芸術科学大学】 <設備備品費>	3, 1 5 7 1, 6 6 3	大学サテライト用テレビ会議システム一式	1,663千円	【⑨⑬関係】
		テレビ会議システム一式1台（PCS-XG80）	1,042千円	
		HDデータソリューションソフトウェア	141千円	
		据付料（設置工事費）	450千円	
		接続回線導入費	30千円	

<旅費>	640	国内旅費	640千円	
		大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費 (3人)	240千円	【⑤関係】
		外部講師旅費	200千円	【⑯関係】
		連携活動参加旅費	200千円	【⑯関係】
<人件費>	454	謝金	220千円	
		外部講師謝金 (14人)	220千円	【⑯関係】
		雇用等経費	234千円	
		連携事業推進補助 (10回×30時間) (4月～3月:780円/1h)	234千円	【⑧⑯関係】
<事業推進費>	400	消耗品費	400千円	
		連携事業推進等消耗品費	400千円	【⑯関係】
【うちらしき作陽大学】 <設備備品費>	6,498 6,130	設備備品費	6,130千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	630千円	【⑨⑯関係】
		e-Learning 用パソコン一式 (110千円×50台)	5,500千円	【⑧⑨関係】
<旅費>	200	国内旅費	200千円	
		外部研修会参加旅費	200千円	【⑩⑪関係】
<人件費>	168	雇用等経費	168千円	
		連携事業推進補助 (7回×30時間) (4月～3月:800円/1h)	168千円	【⑧⑯関係】
【うち山陽学園大学】 <設備備品費>	718 550	設備備品費	550千円	
		e-Learning 用パソコン一式 (110千円×5台)	550千円	【⑧⑨関係】
<人件費>	168	雇用等経費	168千円	
		連携事業推進補助 (7回×30時間) (4月～3月:800円/1h)	168千円	【⑧⑯関係】
【うち就実大学】 <人件費>	155 155	雇用等経費	155千円	
		連携事業推進補助 (7回×30時間) (4月～3月:740円/1h)	155千円	【⑧⑯関係】
【うち中国学園大学】 <設備備品費>	7,234 100	設備備品費	100千円	
		ポータブル OHC (1台)	100千円	【⑬⑭⑮関係】
<旅費>	516	国内旅費	516千円	
		研修会参加旅費 (4回×2人)	136千円	【⑬関係】
		大学教育改革 GP 合同フォーラム参加旅費 (4人)	200千円	【⑤関係】
		実地調査・視察旅費 (24回×2人)	180千円	【⑬⑭⑮関係】
<人件費>	6,168	雇用等経費	6,168千円	
		コーディネーター (300千円×12ヶ月×1人)	3,600千円	【①関係】
		事務補佐員 (200千円×12ヶ月×1人)	2,400千円	【①関係】
		連携事業推進補助 (7回×30時間) (4月～3月:800円/1h)	168千円	【⑯関係】

＜事業推進費＞	450	消耗品費	400千円	
		文房具等一式	100千円	【①関係】
		連携事業推進等消耗品費	300千円	【⑬⑭⑮関係】
		印刷製本費	50千円	
		社会人基礎力関連行事用ポスター（500円×100枚）	50千円	【⑬⑭⑮関係】
【うちノートルダム清心女子大学】	903			
＜設備備品費＞	735	設備備品費	735千円	
		ライブ型遠隔授業表示装置一式	735千円	【⑨⑯関係】
＜人件費＞	168	雇用等経費	168千円	
		連携事業推進補助（7回×30時間） （4月～3月：800円/1h）	168千円	【⑧⑰関係】
合 計	71,000			

各年度の補助事業経費（①）の合計額				
	年度	平成22年度	平成23年度	合 計
	予定額（千円）	71,000	70,339	141,339

13. 設備備品費補足表

品名	数量	金額	納入予定時期	目的・使途・利用頻度
多地点接続装置一式	1台	11,000千円	平成22年9月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業、教職員や学生同士のコミュニケーションツールとして活用するものである。昨年度全連携校に導入したテレビ会議システム（SONY PCS-XG80）では、最大で5拠点までしか配信ができないが、本設備備品を導入することで15大学同時の接続が可能となり、今年度から開始するライブ型遠隔授業を全連携校に配信可能な体制が整えられる。機能として、HD画質の品質、15大学同時表示可能な画面分割、会議予約システム、H.239(Presentation)のデュアルストリームが必要であり、連携校に代替できる設備備品はない。本品は補助事業終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
大学サテライト用テレビ会議システム一式	1台	1,663千円	平成22年9月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業のうち、本年度後期に開講する「倉敷まちづくり基礎論」、「倉敷まちづくり実践論」で活用するものである。この科目は連携校の学生に加え、まちづくりに関心のある一般受講生にも開放しており、世代の違う受講者同士によるグループワークを通して実社会で生かせる学びを実現する。授業の形態として双方向によるライブ型遠隔授業と同時に街中でのフィールドワークを交えて行われることから、中心市街地から離れた倉敷芸術科学大学のメインキャンパスではなく、観光都市倉敷の中心市街地にあるサテライト（まちなかきゃんぱす）を拠点に授業を行う。昨年度導入したテレビ会議システムは、メインキャンパス内で使用教室が固定となり、また他大学から配信されるライブ型遠隔授業の受講で使用するため移動することはできず、また本品は昨年度導入した機能と同等のものが必要であるため、連携校に代替できる設備備品はない。このサテライトは倉敷市との連携事業の一環として活用しているものであり、本品は補助事業終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
e-Learning用パソコン	55台	6,050千円	平成22年5月	本設備備品は、選定事業におけるVOD方式のe-Learningによる遠隔授業を実施するために学生の学習環境を強化・支援するものであり、これにより本年度後期から開始されるVOD方式のe-Learning授業を学生が受講できる体制を整える。
ライブ型遠隔授業表示装置一式		5,565千円	平成22年5月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型遠隔授業、教職員や学生同士のコミュニケーションツールとして活用するものであり、配信される映像を表示するためのものである。本年度購入する7大学は、教室の学生収容規模や表示装置の未設置により、代替品がなく授業配信映像表示に対応するため購入する予定である。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。
e-Learning用撮影カメラ一式		2,152千円	平成22年5月	本設備備品は、選定事業におけるライブ型およびVOD方式のe-Learningによる遠隔授業を実施するために、コンテンツの作成に活用するものである。ライブ型遠隔授業では時間割の差を解消するための録画配信を行い、また配信コンテンツとしてVODを作成することが可能となる。本備品は選定事業の専用備品として活用するため代替品がなく、購入する予定である。本品は補助事業期間終了後も継続して使用するため、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。

ポータブル OHC	1 台	100 千円	平成 22 年 5 月	<p>本設備備品は、選定事業における社会人基礎力養成のための講座や講演会を実施する際により効果的な教材提示を行うためのものである。選定事業で組織化された実践的キャリア指導チームは県内の様々な会場でのキャリア指導が求められるため、資料や教材の提示機器として本備品は必要不可欠である。また本備品は連携校共通して供するものであり、代替品がなく購入する予定である。本品は補助期間終了後も継続して使用し、レンタルより安価な購入とし設備備品費とした。</p>
-----------	-----	--------	-------------	---

14. 大学改革推進等補助金の配分状況

(単位：千円)

	申請額	補助金額		自己負担額
			うち共通分	
岡山理科大学	28,313	28,313	17,114	0
岡山大学	8,695	8,695	1,100	0
岡山県立大学	895	895	0	0
岡山学院大学	1,428	1,428	0	0
岡山商科大学	9,691	9,691	600	0
川崎医科大学	931	931	0	0
川崎医療福祉大学	1,326	1,326	0	0
環太平洋大学	903	903	0	0
吉備国際大学	153	153	0	0
倉敷芸術科学大学	3,157	3,157	520	0
くらしき作陽大学	6,498	6,498	0	0
山陽学園大学	718	718	0	0
就実大学	155	155	0	0
中国学園大学	7,234	7,234	50	0
ノートルダム清心女子大学	903	903	0	0
計	71,000	71,000	19,384	0

15. 参考資料

【補助事業3年目：平成23年度】

■共通計画

- ① 4月～ 大学教育連携センターおよび各オフィスの運営
- ② 5月&11月 「岡山オルガノン代表者委員会」の開催
- ③ 6月 「将来構想委員会」の設置
- ④ 11月 大学連携シンポジウムの開催
- ⑤ 1月 平成23年度「大学教育改革プログラム合同フォーラム」へ参加
- ⑥ 3月 「連携評価委員会」の開催、最終報告書の作成
- ⑦ 3月 「岡山オルガノン事業報告会（仮称）」の開催

■インフラ整備計画

- ⑧ 7月～ 追加教材コンテンツの作成、8月～9月上旬にICT活用教材作成講習会の実施

■学士力育成のための計画

- ⑨ 4月 単位互換制度を活用した配信科目の追加検討・協議・決定
- ⑩ 8月 共同SD活動を「吉備創生カレッジ」との業務委託により実施
- ⑪ 9月 FD研修事業「i*See 2011」の共催
- ⑫ 1月 共同FD・SD実施報告会の開催

■社会人基礎力育成のための計画

- ⑬ 4月～ 実践的キャリア指導チームによる連携校でのキャリア支援の実施
- ⑭ 9月&12月大学コンソーシアム岡山と連携した実践的体験型プログラムの実施

■地域発信力育成のための計画

- ⑮ 4月 ライブ型方式による遠隔授業の継続配信
- ⑯ 7月 エコナイトの開催
- ⑰ 10月 地域活性化シンポジウムの開催

